「ほらみろ!」ダナ・ホワイト、ヒョードル敗北に高笑い!!

enterbrain MOOK

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

kamipro Special

6.20 SRC13
6.26 Strikeforce
7. 3 UFC116
徹底詳報

2010 AUGUST
880yen

いま最強はこの怪物か!?
1年ぶりの復帰戦に大勝利!
ブロック・レスナー

おそるべし柔術マスター!
"ヒョードル陥落"のすべてを語る!!
ファブリシオ・ヴェウドゥム

シウバ戦消滅、まさかの敗北!!
オクタゴンでむき出しになった魔王……!
秋山成勲

緊急収録!! いまこそ皇帝を語ろう!
玉ちゃんのヒョードル変態座談会

60億分の1、ついに陥落!
いったい何が起きたんだ!?

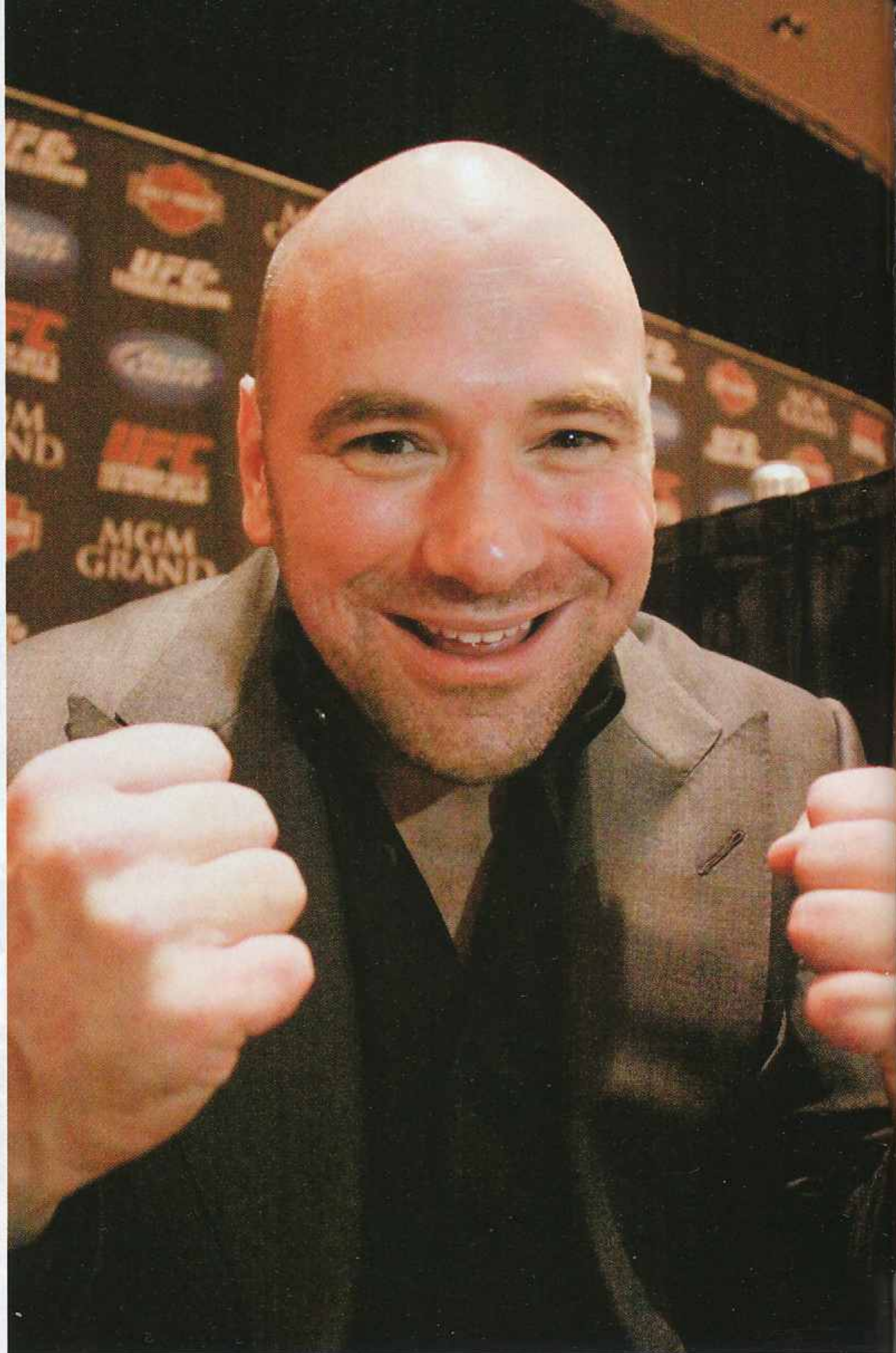
ヒョードルよウソだろ……!?

10th ANNIVERSARY thanks! eb!

kamipro Special 2010 AUGUST ヒョードルよウソだろ……!?
2010年7月27日
発行所/株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
発売元/株式会社角川グループパブリッシング 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
enterbrain

CONTENTS

原辰徳も顔負け!?『UFC116』大爆発に
ジャイアン、ガッツポーズ!

MMA

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
表紙写真/Esthe Lin(STRIKEFORCE)
2010 AUGUST

PRO-WRESTLING

Presents

幻想交代

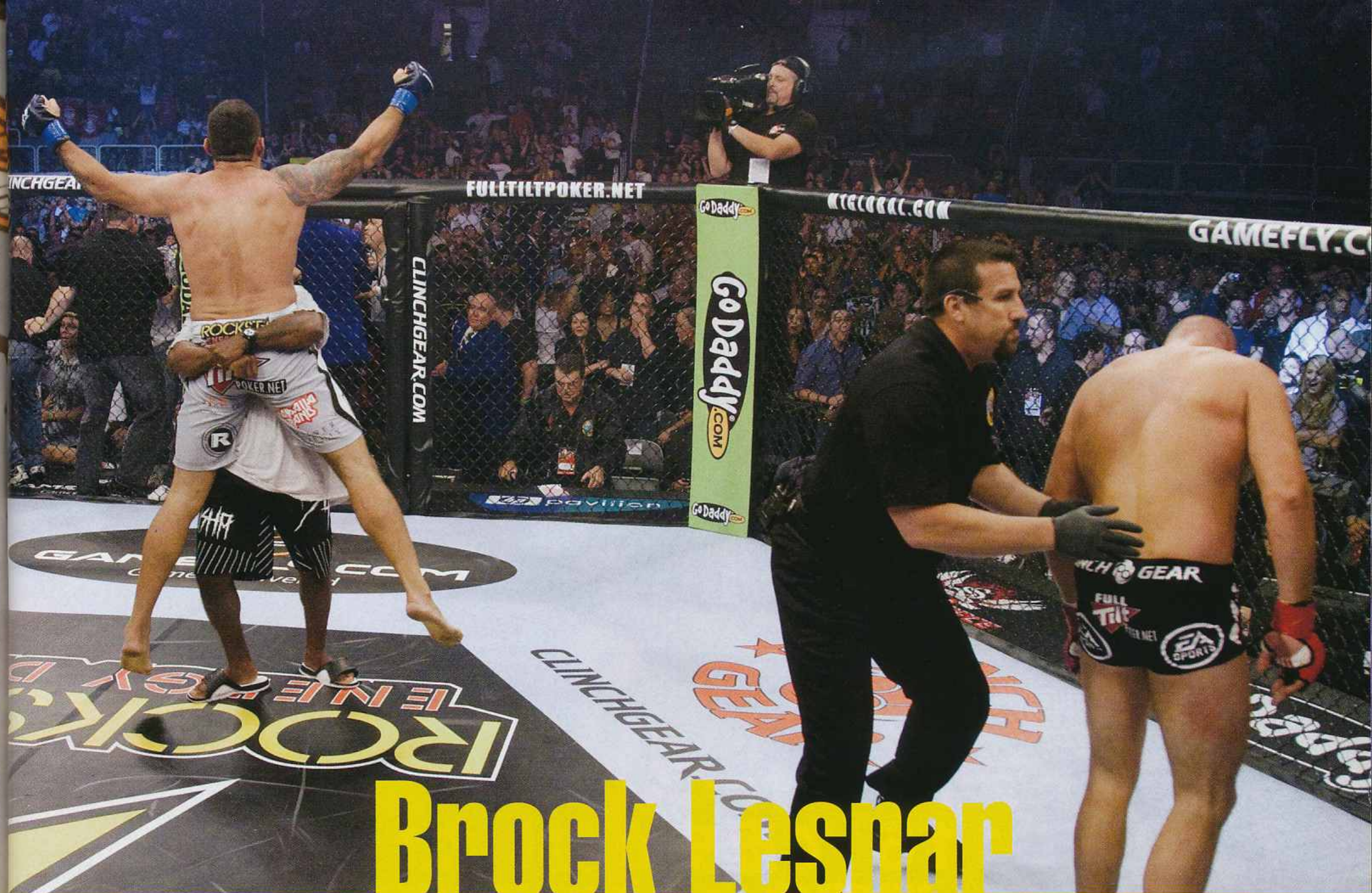
ヘビー級戦国時代が始まった!

皇帝ヒョードル陥落！
MMA界は〝大魔王〟
レスナーが支配する!!

6.26ストライクフォースと
7.3『UFC116』で歴史が動いた!
皇帝陥落の一週間後に大魔王政権誕生!!

ブロック・レスナー
最強幻想強奪!!

世界中のMMAファンを驚かせた「ヒョードル一本負け」の大ニュース。10年間無敗だった皇帝が敗れたことで、ヘビー級世界最強争いは混沌としてきたが、そのわずか一週間後にまんまと“最強幻想”を強奪した男がいる。シェーン・カーウィンとのUFCヘビー級王座統一戦で、大逆転勝利をもぎとったブロック・レスナーだ。皇帝陥落と大魔王政権誕生。歴史が動いた一週間に迫る。

文／橋本宗洋　試合写真／Josh Hedges(UFC)、Esthe Lin(STRIKEFORCE)　構成／堀江ガンツ

Brock Lesnar

初の一本負けを喫し、がっくりと肩を落とすヒョードル。まさかこんなシーンが観られるとは、戦前には予想できなかった。

〝幻想を奪い合う戦場〟は完全にオクタゴンへと移行したのだ

6月26日にカリフォルニア州サンノゼで開催されたストライクフォースと7月3日にネバダ州ラスベガスで行なわれた『UFC116』、この立て続けの2大会で、MMAの歴史は完全に塗り替えられた。

最初の衝撃は、エメリヤーエンコ・ヒョードルの敗戦だった。対戦相手はファブリシオ・ヴェウドゥム。はっきり書いてしまうが、ノーマークの選手だった。強いことはわかっているが、感情がついてこないとでも言えばいいのか。

しかし、そんな試合で我々が観たのは、全盛期のアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラやミルコ・クロコップの挑戦さえ退けた〝皇帝〟がタップする姿だった。

三角絞めに捕えられ、続けて左腕も極められて身動きのとれないヒョードル。それだけでも衝撃的な光景なのに、さらにタップアウトという決定的な瞬間。呆然とするしかなかった。

感覚としては、ほとんど〝暗殺〟である。信じられないこと、あってはいけないことが起こってしまったとしか思えなかった。PRIDE時代のノゲイラ戦やミルコ戦は〝最強決定戦〟だった。勝ったほうがMMAヘビー級の頂点に立つ。ヘビー級の頂点とは、すなわち最強の象徴である。

だがヒョードルvsヴェウドゥム戦は、そんな〝幻想の奪い合い〟ではなかった。そこにあったのは、ただただ〝事実の重み〟である。勝負に絶対はない。どんな選手でも、負けることはある。その事実が、観る者に重くのしかかったのだ。考えてみればあたりまえのことなのだが、そのあたりまえにあてはまらないのがヒョードルだと思われていただけに、事実は重かった。

その一方で、ヴェウドゥムがヒョードルの〝最強幻想〟を奪ったわけではなかった。「ヒョードルに勝ったんだからヴェウドゥムが最強」となったわけではないのだ。アンドレイ・アルロフスキーやジュニオール・ドス・サントスに負け、その後は連勝してヒョードル戦にたどりついた彼は、「実力者同士が闘えば、勝つこともあれば負けることもある」という現実の中で生きてきた選手。青木真也の表現を借りれば「幻想はないが味がある」というタイプだ。

そんなヴェウドゥムがヒョードルに勝ったところで、幻想の担い手になるわけではなかった。つまりこの試合では幻想が破壊され、しかし新たな幻想は生まれなかったということになる。

新たな幻想が生まれたのは、その一週間後だった。『UFC116』のメインイベント、ヘビー級王座統一戦である。

UFC初戦でフランク・ミアに一本負けを喫した以外、すべての試合において破格のパワーで対戦相手を粉砕してきた正王者ブロック・レスナー。対する暫定王者シェーン・カーウィンは、過去12戦して全勝、しかもそのすべてが1ラウンド決着という凄まじいレコードを残している。両者とも〝次なる幻想の担い手〟としての資格を充分に持っている選手だ。

そんな二人の激突は、この世のものとは思えないほどの迫力と意外性に満ちたも

［10.7.3 UFC116 LESNER vs CARWIN］
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナ

○ブロック・レスナーvsシェーン・カーウィン×

（2R 2分19秒 肩固め）

開始早々、レスナーはタックルにいくが、これはカーウィンに切られ、逆にカウンターのアッパーをモロに食らい、打撃のラッシュでそのまま倒れ込んでしまう。そこからパウンドの雨を降らされたがなんとか持ちこたえると、2Rにタックル成功。そのままマウント、肩固めに移行し、大逆転勝利を挙げた。

のだった。

先手を取ったのはカーウィンだった。弾丸、というより大砲のようなレスナーのタックルをこらえると、フランク・ミアとの暫定王者決定戦でも決め手となったアッパーを決め、一気に攻勢をかける。レスナーはアゴをかち上げられて後ずさりし、マットに崩れ落ちた。追撃のパウンドを浴びるレスナーを見て、誰もが「ああ、ここまでか」と思ったことだろう。

常識では考えられないほどの攻撃力を誇るレスナーだが、いざ劣勢になると脆いもんだな……。カーウィンのラッシュは凄まじいものだったが、それ以上に攻め込まれているレスナーに目がクギづけになった。この瞬間、レスナーの〝ボブ・サップ化〟が進んでいたと言えばわかりやすいだろうか。

しかし、試合は終わらなかった。パウンドを浴びながら、レスナーは少しずつ、レフェリーにぎりぎりストップされない程度には動いていたのである。そして立ち上がり、1ラウンドが終わったときにはカーウィンを金網に押し込んでいた。信じられないリカバリーである。

2ラウンド開始時、レスナーはダメージで、カーウィンは攻め疲れでフラフラの状態だった。どれだけ打たれ強く、スタミナがある選手でも、1ラウンドにあれだけの攻防をしたら疲れないわけがない。

それでも、二人は不敵な笑みを浮かべて試合を続けたのだった。人生初の2ラウンドを迎えたカーウィンに、レスナーはタックル。上半身を固めつつマウントを奪い、さらに横に回ったとき、肩固めが完成していた。疲労とダメージの極地の中で、レスナーは冷静にベストな作戦を遂行したのだ。

なんて底力だ。これはタダモノじゃないにもほどがある――。

そう思わされる、レスナーの勝利だった。ヒョードルの幻想が破壊された一週間後、新たな幻想が生まれたのである。

もちろん、幻想が破壊されたと言っても、ファイターとしてのヒョードルが終わったというわけではない。レスナーも完璧な選手ではなかった（だからこそ、底力が光ったのだ）。ヒョードルとレスナーが闘ったら、レスナーが勝つとは言いきれないだろう。

ただ、6月26日にヒョードルが負け、7月3日にレスナーが信じられない激勝をしてみせたという、この短期間のコントラストはあまりにも鮮やかだった。分析や評価ではなく、まさに幻想として、2010年7月現在、レスナーはヒョードルを超えたということだ。ましてや、UFCには次なる挑戦者として、これまた幻想の担い手たる資格充分のケイン・ヴェラスケスが控えている。かつてのPRIDEがそうであったような〝幻想を奪い合う戦場〟は、オクタゴンへと完全に移行した。

ヒョードルの敗北と幻想の終焉に切なさを感じないわけはない。MMAの多様性や夢のカードの実現という意味で、UFC一極集中に賛成というわけでもない。

しかし確実に言えるのは、6・26『ストライクフォース』と7・3『UFC116』を観て、時代が転換するダイナミズムを存分に味わったということだ。そこには間違いなく、震えるような興奮があったのである。

わかっただろう？　これが現実だ！

イト、高笑い！

レスナー激勝、ヒョードル陥落に笑いが止まらず!
恒例! ダナ・ホワイト公式ヘビー級ランキングも発表

Dana White
UFC PRESIDENT

ダナ・ホワイ

「ヒョードル一本負け」のニュースに一番ほくそ笑んでいるであろうと思われる男、それがダナ・ホワイトだ! これまで目の上のたんこぶだったヒョードルが敗れ、『UFC116』は好勝負連発の大成功。笑いが止まらない“ジャイアン”は、『UFC116』終了後、今回も本誌の独占インタビューに答えてくれた。

聞き手&撮影/石井史彦　構成/堀江ガンツ

――今回もダナ・ホワイト様のインタビューのためにラスベガスまで来てしまいましたよ(笑)。

ダナ　何を言ってるんだ。俺のためじゃなくて、『UFC116』のためだろう。今回のイベントはMMAに関わるすべての人間が観たがるものだからな。

――確かに凄いイベントでした。

ダナ　そうだろう? 今夜は俺のUFCキャリアのなかでも最高の夜になった。みんなメインのブロック・レスナーvsシェーン・カーウィン戦を楽しみにしていただろうけど、結果としてすべてのカードが最高のショーになったんだ。今夜のカードに参戦したファイターたち全員に感謝するとともに、誇りを持っているよ。

――今夜、ブロック・レスナーがカーウィンに勝利しましたが、一週間前にヒョードルが敗れたことで、名実共にヘビー級ナンバーワンになったと思いますか?

ダナ　おまえは何を言ってるんだ⁉ 先週末の結果がどうであったとしても、今夜の試合がヘビー級世界ナンバーワンを決める試合なんだよ! いいか、ここにいるファイターたちは年間3試合、ベストのファイターたちと試合をしてきたんだ! 自分が世界でベストであることを証明したければ、ベストのところで試合をするべきなんだよ。

――では、現時点でヒョードルとの契約に興味はありますか?

ダナ　先週負けたばかりのヤツに興味があるかだって? あるわけないだろ! いままで俺たちがほかのプロモーションで負けたファイターと契約したことがあるかい? 「ヒョードルが負けたので、契約をしろ」なんて、そんなバカな話はないだろ(笑)。ヒョードルというのは、メディアであるおまえたちが持ち上げてきただけだろう。「ヒョードルだって? そいつはどんなフ○○キング・マンなんだ? ここ5年間、何も証明していないじゃないか!」。それが何万回も言っているとおり、俺の答えだ。

――ヒョードルはこれまで過大評価されていたと思いますか?

ダナ　俺は一度もあいつのことを信じていなかったんだ。さっきも言ったように本物のベストファイターは、トップ選手相手に年間3試合こなしているんだ。ベストのファイターと闘わず、しかも一年に一度しか試合をしないヤツをどうやって評価できるんだ? 俺は「ヒョードルがベストだ」と言っているヤツの気が知れない。

――では、PRIDEヘビー級王者として君臨し、10年間無敗だった彼の実績も評価していませんか?

ダナ　ヒョードルがPRIDEに参戦していた頃の実績は評価している。あの頃までは、ちゃんとベストのファイターと闘い結果を出していた。これは事実だ。でも、それは過去のことだよ。2005年までの彼は真の戦士だったが、ミルコ・クロコップ戦を最後にそれをしなくなった。今回の敗戦は、世界中のMMAファンをガッカリさせ続けた結果だよ。

――ヒョードルに勝利したファブリシオ・ヴェウドゥムを獲得するつもりはありますか?

ダナ　ファブリシオかい? 〝ノー〟だね。〝出ていった女〟を追いかける趣味はないんだ(笑)。

――アリスター・オーフレイムには興味はありますか?

ダナ　その前に言いたいのは、「ストライクフォースはジョークだ!」ということ

だ。どうやって格闘技のビジネスをマネージメントしたらいいのか、まったくわかっていないんだ。ちょうど知能の低いレベルのボクシングと同じなんだよ。本当に組むべきカードを組まずに、どうでもいいマッチメイクをしているだろう？　彼らが先週末組まなければいけなかったカードはヒョードルvsファブリシオであり、ヒョードルvsアリスターではないんだ。

——確かにファンが望んでいたのは、ヒョードルvsアリスターのほうでしたね。

ダナ　そうだろう？　ファブリシオではなく、アリスターがヒョードルに勝っていれば、アリスターはMMA界のニュースターとなっていただろう。でも、ファブリシオは勝ってもそうはなってないだろう？　マッチメイクとはそこまで考えて行なわれるべきものなんだ。考えてみろよ、ストライクフォースは自分たちで運営している会社じゃないからな。フ○○キンなテレビ局や、金を出している連中がゴチャゴチャと口を出してくるのがストライクフォースだ。だからファンが観たいマッチメイクもできないだろう？　俺は口は悪いけど、自分でビジネスをマネージメントしているし、ちゃんと運営している。その違いはあまりにも大きすぎるんだよ！

——UFCとストライクフォースはビジネス構造が違うんですね。

ダナ　ストライクフォースは、あの〝クレイジー・ロシアン〟どもとの共同開催なんかを飲んで、いろいろと面倒くさいことになってるんだろう。それに嫌気がさして、ヒョードルを追い出そうとしているんだ。そして、次に追い出されるのはアリスターじゃないのかい？　あのへんのオランダ人も面倒だって聞いてるからな（笑）。アリスターは2003年にライトヘビー級でチャック・リデルにKOされているけど、正直に言えば興味はあるよ。ただし、3つも違ったプロモーションへ同時に参戦するなんてことは許さない。ここに来て、我々のためにファイトするべきなんだ。

——では、ここであらためてダナ・ホワイト公式ヘビー級ランキングを発表してください。

ダナ　俺はランキングというものを信用してないんだ。選手の序列なんて、実際に試合をしてみないとわからないからな。でも、今夜結果を出したブロックが世界ナンバーワンであることはわかった。カーウィンはナンバー2といえるだろうが、ケイン・ヴェラスケスとブロックの試合を観てみないと、本当にナンバー2かどうかはわからない。そのほかにもジュニオール・ドス・サントスがいるしね。ただ、間違いなく言えるのは、この4人は全員が世界のベスト5に入っているということだ。

——ヒョードルはヘビー級何位にランクされますか？

ダナ　間違いなくトップ10には入るだろうな。

——それは〝特別サービス〟して、ですか？（笑）。

ダナ　いや、これは本心からそう思ってるよ（笑）。だが、本当のところはよくわからない。ちゃんとUFCに来て、証明してくれないとね。

——ところでミルコ・クロコップとの再契約の話は進んでいますか？

ダナ　ミルコかい？　俺は最新の状況を知らないし、直接彼と話もしていないんだ。ミルコのほうに話す準備ができれば、いつでも話をするよ。

——ミルコの再契約には興味があるのですね？

Dana White

ストライクフォースはヒョードルvsアリスターを組むべきだったんだよ

ダナ　もちろんだよ。彼は素晴らしい実績を残してきた偉大なファイターだからね。今後については彼自身が決めることだろう。だから、いまはミルコからの電話待ちなんだ。

——アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの復帰戦はいつ頃になりそうですか？

ダナ　いまちょうどスケジュールを見ているところなんだ。まだいつになるかは確定してないが、秋頃になるんじゃないか？　とにかく、いまヘビー級がたいへんなことになっている。次はレスナーvsヴェラスケスが実現するし、そのあとはドス・サントスがいる。ノゲイラも乗り遅れないように必死になっていることだろう。これからヘビー級のスーパーカードが次々実現するので、楽しみにしていてくれ。

——では、秋山成勲vsクリス・リーベンについてもうかがいたいのですが。

ダナ　素晴らしい試合を見せてくれたよ。とくに2週間前に試合をしたばかりのリーベンがこの試合を受けてくれて、なおかつこんなに素晴らしい試合をしてくれてたのは、興奮したよ。アキヤマも敗れたものの、いいファイトを見せてくれた。感謝しているよ。

——リーベンのタフさには驚きました。

ダナ　そうだろう。リーベンは数回パンチが効かされる場面があり、普通だったら倒れているのに、絶対に倒れなかった。リーベンの試合を観るのは本当に楽しいんだ。タフだし、エキサイティングなファイトを見せてくれるからね。そのスタイルは『TUF』のときから変わっていないんだよ。

——今回中止になったヴァンダレイvs秋山成勲戦をあらためて組む気持ちはありますか？

ダナ　アキヤマがリーベンに勝てば次はあらためてヴァンダレイと組ませようと思っていたんだ。でも、負けてしまったから、もしかしたらヴァンダレイvsリーベンになるかもしれないな。

——ヴァンダレイは試合復帰までに6カ月はかかると聞きましたが？

ダナ　ノー。肋骨にヒビが入っただけだぜ。数週間で戻ってくるさ。ヒザのケガだってそれほど深刻じゃないだろう。

——彼のコーチであるハファエル・コルデイロによると、来週にはヒザの手術をすると言ってましたが……。

ダナ　それは本当なのかい？　知らなかったよ。もしそれが本当だとしたらプロブレムだ。至急確認することにしよう。

——当初、秋山選手はリーベンとの試合に難色を示していたようですが、どのようにしてこの対戦は決定しましたか？

ダナ　とくにアキヤマを納得させたこともないよ。ただ、「これはビッグなチャンスだからもう一度考えてくれないか」って話したんだ。

——噂ではUFCが秋山選手を納得させるために特別なアレンジをしたんじゃないかって言われてますが？

ダナ　そうなのかい？　それはウソだね。ファイターは試合をするのが仕事なんだ。

じゃあ、アキヤマは試合を受けなかったらどうしたんだい？　また何カ月もヴァンダレイとの試合が組まれるまで待つのかい？　そんな選択肢は存在しないんだよ。

——今後のアジア戦略はどういったことを考えていますか？

ダナ　日本の前にまずは中国に進出する。これはジョークじゃない。まず中国で『TUF』をやり、そのあとライブショーをプロモートするための準備を進めている。来年には実現したいと思っているんだ。日本はそのあとに考えている。

——6月30日にUFC日本語サイトが閉鎖された理由はなんですか？

ダナ　えっ、そんなことがあったのかい？　それは聞き流せない質問だな。俺もそのことを知りたいから、事実を確認してみよう。いま電話で確認するからちょっと待っててくれ。閉鎖する理由なんて考えられないし理解できないよ。

※UFC本社へ電話をかけ始める。

「（本社のオペレーターに対して）ジェイミー・ポラックにつないでくれ。ハロー、ジェイミー。UFCの日本語サイトはどうなっているんだい？　閉鎖するって本当なのかい？（ジェイミーが説明）なるほど。それを発表しちゃっていいのかい？　オッケー、バァイ」

——どうでした？

ダナ　UFC日本語サイトは閉鎖したのではなく、『Yahoo！JAPAN』が引き継ぐことになったんだ。運営も『Yahoo！JAPAN』がやることになるから、前より充実したサイトになることは間違いないだろう。しばらくしたらアップするらしいから楽しみにしていてくれ！

——なるほど、安心しました。8月1日の『UFC・オン・バーサス2』で行なわれる五味隆典vsタイソン・グリフィン戦の見どころは？　五味選手にとってUFC生き残りをかけた闘いになりますか？

ダナ　ジョー・スティーブンソンがケガをしたため対戦相手が変更になってしまったが、ゴミにとってはグッドファイトのマッチアップだよ。タイソンはライト級のトップクラスだ。勝てばゴミもその実力を証明できるチャンスだよ。ただ、ご指摘どおり、同時に厳しい闘いになることは間違いないだろうね。

次のオカミとゴミの試合は前回と同じテレビ局で放映する予定だよ

ダナ・ホワイトも高く評価している秋山成勲。しかし、今回クリス・リーベンに敗れたことで、マッチメイクがいろいろと難しくなってきそう。ヴァンダレイ戦はあらためて実現するか？

——8月1日の『UFC・オン・バーサス2』は、五味選手と岡見勇信選手のカードが組まれていますが、再び日本で地上派放映する予定はありますか？

ダナ　前回のゴミの試合のときと同じディールで、同じテレビ局が放送する予定になっているよ。

——地上波のテレビ東京ですね？

ダナ　そう、それだ。

——岡見選手が近い将来、タイトル戦線に絡む可能性は？

ダナ　オカミに関しては100万回は同じことを言っているが、185ポンドで世界でベストのファイターの一人なんだよ。当然、タイトルコンテンダーの一人なんだし、次の試合に勝てばタイトル挑戦という話も出てくるだろう。

——では、次に勝てば、タイトルへ挑戦できると？

ダナ　具体的に次かどうかはわからないが、間違いなく次期挑戦者候補の一人と言っていいだろう。

——ミドル級といえばジェイク・シールズ獲得について、その後進展はありましたか？

ダナ　いまジェイクと話しているところなんだ。とくに時間がかかることもないだろうから、すぐに契約の話もまとまるはずだよ。

——ジェイクはこのままミドル級ですか、それともウェルター級への転向も考えられますか？

ダナ　俺としてはウェルター級でやるべきだと思う。ミドル級はハードな階級だよ。アンデウソンはいるし、体重だってライトヘビー級クラスからみんなカットしてくるんだ。しかし、ほかの視点から見ると、ジェイクはミドル級とライトヘビー級両方で試合をしていたダン・ヘンダーソンを倒しているという事実もある。だから俺は彼をリスペクトしているし、ジェイク自身がミドル級でやりたいのであれば、反対はしないよ。

——ジェイクと同門のニック・ディアスは「GSPに間違いなく勝てる」と発言しています。彼を獲得する可能性は？

ダナ　ニック・ディアスについても100万回は同じことを言ってるけど、彼のことは素晴らしいと思うし、大好きなファイターの一人なんだ。尊敬もしているし、人間としても好きなタイプだよ。ただし、問題は協力的な態度をもって対応してくれないところがあるだろう？　少しでもいいからそこを直してくれれば、ぜひ契約したい選手の一人なんだよ、昔からね。

——直してほしいというのは、どんなところですか？

ダナ　プロフェッショナルのファイターとして最低限のことだよ。たとえばアスレチック・コミッショナーとうまく対応するとかね。少なくともUFCではそうしないとダメなんだ。

——さすが"暴力柔術"。そんな問題があるんですね（笑）。

ダナ　とにかく今夜はUFC史に残る素晴らしいファイトで素晴らしい夜になったことがうれしいんだ。キミも取材はそれくらいにして、楽しい夜をすごしてくれ（笑）。今日はここまでだ！

【10年7月3日／米国ネバダ州ラスベガス、

浅草キッドの玉ちゃんと語る!

まだ終わってねぇ! 復活してくれ!!

俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会

マット界激震!　かつてPRIDEのリングで“60億分の1世界最強”の名をほしいままにした
“俺たちの皇帝”エメリヤーエンコ・ヒョードルが、ファブリシオ・ヴェウドゥムの三角絞めでタップアウト。
ついに敗戦を喫してしまった。この結果にショックを受けた変態メンバーが緊急集合。ヒョードル敗戦を語りまくった!

構成／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也、Esther Lin（STRIKEFORCE）

ガンツ 毎度おなじみ変態座談会ですが、大変なことが起きました!

玉袋 いや、驚いたね。ついにこの日が来ちまったよ。

椎名 来てしまいましたね。

玉袋 皇帝がまさかタップアウト負けとはね。あんな衝撃映像、昼間っから見せられてよ。午後1時頃もう「飲みに行くぞ!」って言ったもんな。

椎名 玉ちゃんは家で観たんですか?

玉袋 いや、俺はインターネットライブ中継のコメンテーターだったんだよ。

椎名 そうなの?

玉袋 実況が矢野アナウンサーで、俺とフジメグ(藤井惠)がゲストコメンテーター。

ガンツ このありえない組み合わせがいいですね(笑)。

椎名 そんなのあったんだ。じゃあ、俺がネットPPVで観たのは何?

ガンツ それはおそらくアメリカのSHOWTIMEでやってたやつですね。実況は英語ですよね?

椎名 そう。現地の中継そのまんま。

玉袋 でも、今回はそれとは別に日本語の実況でハイビジョン放送っていうのがあったんだよ。

椎名 じゃあ、俺もそれが観れたってこと!? ガンツ、教えてくれよ～～! 事前にネットPPVのアドレス教えるとか言ってたじゃん!

ガンツ すいません。直前に連絡したんですけど、電話がつながりませんでした(笑)。

玉袋 でも、いまからでも観れるみてえだよ。

椎名 オンタイムがいいんですよ!『ビートたけしのオールナイトニッポン』をちゃんと深夜に聴いてるみたいで。なんだよ～～! 俺なんてパソコンが古くて、ネットPPVを申し込んだのになかなか観れなくてさ、しょうがないから、もう一台のパソコン持ってきて、やっと観れたんだよ。でも、もう試合は始まってたから10分後ぐらいに追っかけでね。

ガンツ オンデマンド放送だから、10分後からでも最初から観られるんですね。

椎名 でも、そのネットPPVってチャットが表示されててさ。試合映像の下に、常にツイッターのチャットが表示されててさ。俺、10分後に追っかけで観てるから、ちょうどヒョードル vs ヴェウドゥムが始まる頃に、チャットに「ヒョードル負けた!」「嘘だろ!」「三角絞めでタップ!」とか、じゃんじゃん出てるんだよ!

ガンツ ダハハハ! 試合は10分遅れで観てるのに、チャットはリアルタイムだから結果がわかっちゃった、と(笑)。

椎名 だからリアルタイムじゃなきゃダメなんだよ! ちゃんとやってくれよって!

玉袋 いや、だからちゃんとやってたんだよ(笑)。

椎名 でも、アナウンスが行き届いてないじゃん。俺、知らなかったもん。ガンツはメールくれないし。

玉袋 確かに宣伝は足りなかった。もっと多くの人に観てもらいたかったよな。

椎名 こっちはヒョードルが負けたこともショックだったけど、その結果を試合観る直前に知っちゃったのが一番ショックだよ!

ガンツ すいません(笑)。

玉袋 でもよ、あれはホントに衝撃映像だったよな。一緒に実況やってたフジメグなんて、ヒョードルがタップした瞬間、すげえ顔してたからね。もう口あんぐりで目え見開いちゃって、そのまま固まってんだよ。で、俺が「惠ちゃん!」って声かけたら、固まったまんまの表情でこっち向いたからね。初対面の俺に女の子が見せる顔じゃねえんだよ!

一同 ダハハハハ!

玉袋 それぐらい驚いてた!

椎名 も～う、フジメグと一緒に観戦ってうらやましいですよ。こっちは自宅で一人パソコンに向かって観てて、しかも先に結果知っちゃったんだから!

玉袋 まあまあ、それはともかく。フジメグは「ヒョードルがタップするときの気持ちはどんなものだったんだろう」って言ってたね。あれだけの男がタップするってどんな思いなんだって。

椎名 タップっていうのは自分で決めることですからね。

ガンツ だから極まってるのになかなかタップしませんでしたよね。

椎名 髙田 vs ヒクソン戦とはえらい違い(笑)。

玉袋 それは言いっこなし!

ガンツ でも、完全に三角絞めが極まってるのを観ながら「これは逃げられないな。ということは……この数秒後にヒョードルがタップするシーンが観られるのか?」って、なんだか現実じゃないみたいな、不思議な気持ちになりましたよ。

玉袋 まさか、ここで負けるのかっ

玉袋筋太郎

1967年6月22日、東京都出身の43歳。子どもの頃から蔵前に通った変態プロレスエリート。今回は日本語版ネットライブ中継のコメンテーターを務めた。なお、水道橋博士は病欠だった。

椎名基樹

1968年4月11日、静岡県出身の42歳。本誌長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみ。毎日、WOWOWやスカパー!で格闘技を観るインドア派の変態。今回は痛恨のミステイクを犯す。

堀江ガンツ

1973年9月14日、栃木県出身の36歳。変態座談会主宰者。(たぶん)日本で初めてヒョードルのインタビューをしたことが小さな自慢。今回は自宅のパソコンでのネットPPVで観戦した。

ファイター&関係者が語る ヒョードル敗戦

聞き手/石井史彦

スコット・コーカー
[ストライクフォースCEO]

ヒョードルは一刻も早く試合を終わらせようとしすぎたんだと思う。それによって、ファブリシオにつかまる状況を自ら作ってしまったんだろう。

ただ、この敗北でヒョードルが過小評価されているなんて言うのは、おかしなことだよ。ヒョードルは世界中でベストのファイターと対戦し、10年間無敗という記録を打ち立てているんだよ。ブロック・レスナーは5戦しかしていないのに、すでに負けている。ヒョードルのような記録をほかの誰が持っているというんだい? また、かつてのPRIDEはいまのUFCなど比べ物にならないほど、ヘビー級に世界の強豪が揃っていた。プライムタイムのミルコやノゲイラに完勝した実力は誰もが認めるものであり、いまだ誰にも打ち破れないものだよ。

キング・モー
[ストライクフォース世界ライトヘビー級王者]

ヒョードルのことを話す前に、ファブリシオがクラウンドゲームにおいて、真のワールドクラスであることを忘れちゃいないかい? ことグラウンドゲームにかぎっていえば、ファブリシオはノゲイラより全然上なんだよ。ヒョードルのゲームは昔から変わってないというのが敗因の一つかもしれないな。

ただ、ヒョードルはいまでも偉大なファイターだ。ファブリシオに負けたばかりで"ベスト"と呼ぶのはおかしいかもしれないけど、そう呼ばれるだけの実力者であることは間違いない。それぐらい、誰にだってわかることさ。

フジマール・フェデリコ
[シュートボクセ・アカデミー代表]

ヒョードルの敗因は、早く試合を終わらせようと熱望しすぎたのと、自分の力を過信しすぎたんじゃないかな。もっと時間をかけて、ファブリシオのグラウンドゲームに付き合わず、スタンドで攻めるべきだったね。

ヒョードルが過大評価されているという意見には反対だ。私はPRIDE時代から彼の試合をずっと観ているけど、世界最強と呼ばれるにふさわしい選手だと思うよ。

ていうのはあったよな。

椎名　相手がファブリシオだもんね。

玉袋　ここんところさ、皇帝もさすがに翳りが見えてきたんじゃないかって気はしてたじゃない。試合をやるたびに「もしかしたら負けちゃうんじゃないか」っていうのはあったんだけど、やっぱりビックリだよ。

椎名　しかも、みんなが「アリスター戦を観たい」と思ってたときにね。そういうときにかぎって、負けちゃうんだよね。

ガンツ　ここ数年多いですよね。「ここでノゲイラが勝てばブロック・レスナー戦が観られる」ってときに、負けちゃったりして。

玉袋　俺もホント、ヒョードル vs アリスターが観たかったんだよ。だからよ、ヒョードルが負けたときのあのアリスターの顔！

ガンツ　「そりゃねえぜ」って顔ですよね（笑）。

玉袋　エサを取られてしょんぼりした犬みてえな顔してたもんな。普段から犬顔なのによ。しょんぼりしちゃってんだもん。エサを前にして「ハウス！」って状況だからさ。

椎名　俺もここ数試合は、ヒョードルが試合をやるたびに「今度こそ負けるんじゃないか」って思ってたんだけど、入場するとバッチリ仕上がってるんだよね。で、今回だってテッカテカだったじゃん。ギタギタに脂ぎってて。

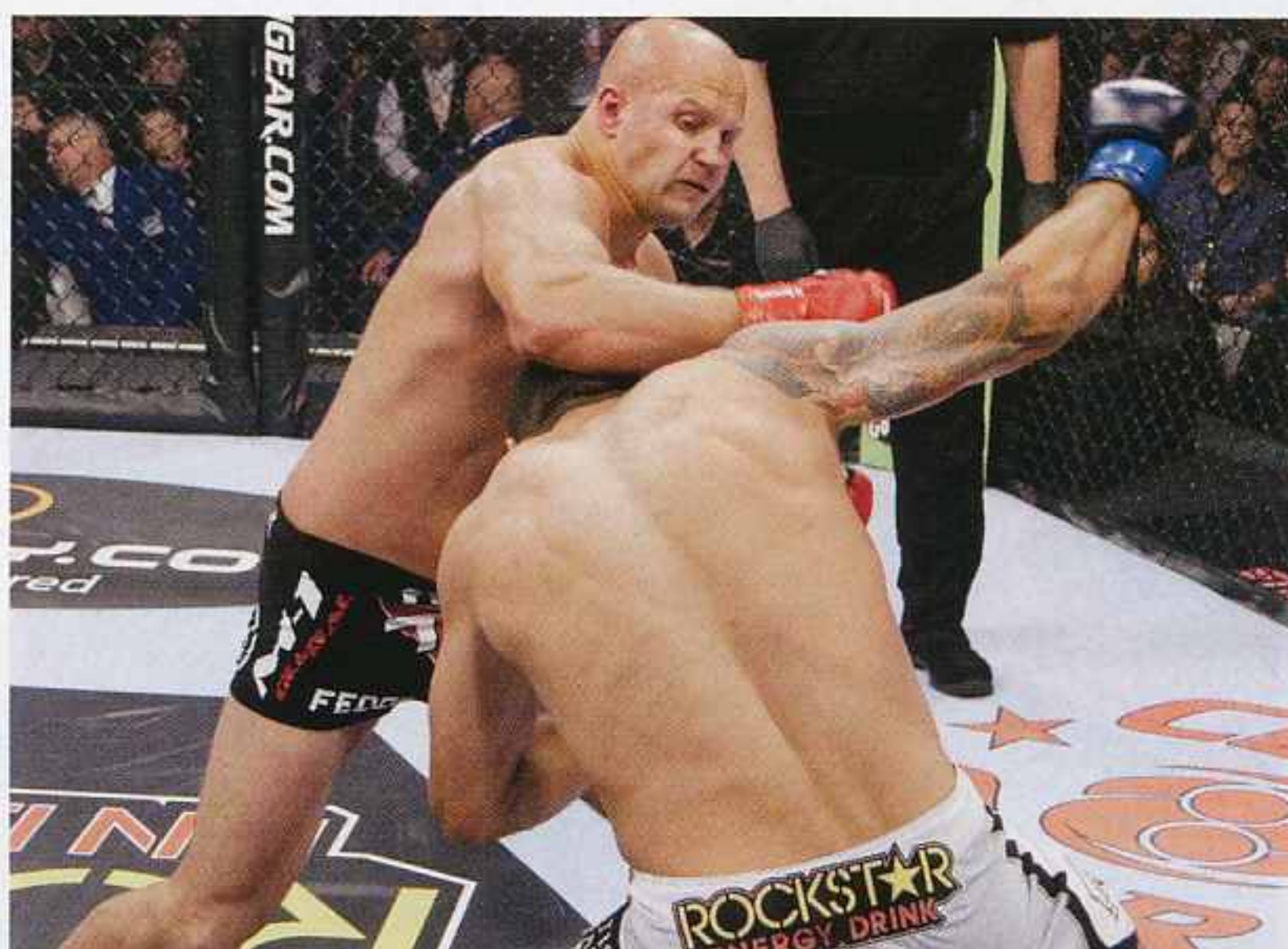
玉袋　「せんとくん」みたいだったもんな。

一同　ダハハハ！

玉袋　角のないせんとくん。戦闘くんだよ。

椎名　でも、負け方がちょっと過信してたかなって感じだよね。ヒョードルがもし負けるなら、それこそ「一つの時代が終わった」って感じで、キッチリ負けてほしかったけど、一本負けとはいえ、なんか油断して足をすくわれた感じだからさ。

ガンツ　ポカした感じですよね。

椎名　だって、あんな序盤に殴りにいくかって。

“せんとくん”ばりに頭を剃り上げ、肌ツヤもよくコンディションは万全に見えたヒョードル。しかし試合開始早々にダウンを奪えたことで勝負を焦ってしまったか。

玉袋　そうなんだよな！

ガンツ　試合後、いろんな選手に話を聞いたんですけど、みんな敗因は「ヒョードルが自信を持ちすぎた」って言ってましたね。

玉袋　パンチでダウンさせたあと、一気にいきすぎちゃったんだよな。

ガンツ　「どうせファブリシオはグラウンドでしか勝てないんだから、パウンド入れたあと、立たせるか、猪木

ヒョードルのタップを見たフジメグが目え見開いて口開けて固まってたよ

—アリ状態から蹴りまくればよかった」って言う人もいましたね。

玉袋　三角絞めを一発でスパッと極めたファブリシオも、すげえんだけどね。

椎名　とりあえず一発目の三角は逃れたでしょ？　でも、二回目って右からスイープですくわれてるじゃん？　で、コントロールされてるんだよね。だからヒョードルはああいうスイープとか頭に入ってない感じがした。

玉袋　なるほどね。

椎名　だから、凄く高いレベルの柔術家と練習をやってるわけじゃないなって感じた。

ガンツ　ヒョードルらしからぬベーシックなテクニックでの敗北でしたよね。

玉袋　でも、ノゲイラだって柔術の強豪だろ？　そのノゲイラが全然極められなかったのに、あんなに簡単に極まるのが不思議なんだよ。

ガンツ　とくに当時のノゲイラの三角って、それこそ誰も破れないような必殺技でしたもんね。それをヒョードルが初めて極めさせずに勝ったっていうのは、あの試合前、サンボの達人であるニコライ・ズーエフさんがつきっきりで指導したらしいですよね。サンボに下からの三角はないと思いますけど、原理として「こうすれば極められることはない」っていう感じで。だからノゲイラ戦でのヒョードルって、頭を下に向けずに胸を張って、三角にいけない体勢から飛び込んでのパウンドを打ってたんですよね。

椎名　ヒザつけて姿勢よくしてたよね。深入りしてなかった。

ガンツ　あのときは、とにかく「ノゲイラに極めさせなければ判定で勝てる」って作戦だったと思うんですよ。でも、今回は勝ちを急いで「三角を極めさせない」っていうのがおろそかになってた。どうしてそうなってしまったかといえば、いまのヒョードルにはズーエフさんのような存在がいないんじゃないかって思うんですよ。

椎名　それは凄く思う！

玉袋　今回の負けには“ズーエフ”がいなかった。なるほどね！

椎名　大物が負けるときって、そういう全幅の信頼を置く師匠やトレーナーがいなくなったときだよね。マッハが修斗で無敗時代に負けたときもそうだったし。

玉袋　マイク・タイソンだってそうだよな。ケビン・ルーニーがいなくなったみたいなさ。

椎名　だからヒョードルは「下からなんて極められない」っていう思いしかなかったと思うよね。

玉袋　やっぱり過信か〜。

ガンツ　でも、考えてみればドラマ

レナート・ババル
［ファブリシオの盟友］

ファブリシオのトライアングル＆アームバーが綺麗に極まったね！　あのパンチで倒れ込んでグラウンドに誘ったのは、ゲームプランの一つだったんだよ。その練習もずいぶんやったしね。ヒョードルがファブリシオの柔術を甘く見たのと同時に、ファブリシオは自分の柔術を信じていたということだろう。ヒョードルは世界のベストファイターだからね、“ザ・ベスト”に勝つためには、ベストの仲間たちとトレーニングを積んで、ベストのファイトをしなくてはならない。この勝利はファブリシオの勝利であると同時に、我々のチームの勝利でもあるんだ。ただ、ヒョードルはいまでも間違いなく世界ベストのファイターだよ。でも、その“ザ・ベスト”を倒したファブリシオもベストファイターの一人であることを証明できたんじゃないかい？

ジョー・シルバ
［UFCマッチメイカー］

ファイターは練習を積むだけでなく、コンスタントに試合をしないと、ケージに入ったときの感覚が鈍ってしまうんだよ。ヒョードルはここ数年、試合数も少ないばかりでなくトップレベルのファイターと試合をしていないだろう？　その状態にありながら自分の力を過信していたからだろうけど、急いで試合を終わらせようとしてサブミッションに捕まってしまった。とにかくファイターがトップレベルを維持するためには、トップレベルのファイターとコンスタントに試合をしなければいけないってことさ。これが今回のヒョードルの敗因だと思う。

正直言って、ヒョードルは過大評価されていたと言われても仕方がないと思う。トップレベルのファイターと試合をせずに、なぜ世界最強だと言われるんだい？　世界最強であるなら、その実力をコンスタントに試合で証明しなければいけないんだ。GSPやアンデウソン・シウバは、そうやって証明しているから最強だと言えるんだ。

確かにヒョードルはPRIDE時代、トップのヘビー級すべてを倒してそれを証明していたけど、最近倒したのはブレット・ロジャースだろう？ それでどう評価しろって言うんだい？　いまもしGSPがUFCを離れてほかのプロモーションへ行き、年に1試合程度、しかも名前もないような選手に勝ったとしても、誰もベストのウェルター級ファイターとは認めないだろう？　それと同じことだよ。

ブロック・レスナー
［UFC世界ヘビー級王者］

サック！（最低だ）。とにかく負けるなんて最低なことだ。かつて俺も同じ過ちをしたがね。

俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会

チックですよね。ノゲイラを二度にわたり破って柔術幻想をなくした男が、自分の幻想を柔術家に破られるっていうのも。

玉袋 そうなんだよな！ またファブリシオはルミナコの師範代だし、シュートボクセ所属だったりとかさ、なんか俺たちが見てたブラジル、ロシア、シュートボクセとか、キーワードがつながってるんだよな。

ガンツ ファブリシオがいま一緒に練習してるのが、レナート・ババルとかヴァンダレイで、ヘッドコーチは元シュートボクセのコーチだったハファエル・コルデイロですからね。この人が〝段平〟ですよ。

椎名 独立して、段平が橋の下じゃないほうの丹下拳闘クラブ作ったみたいな（笑）。

玉袋 クリチバはあの橋の下の丹下ジムか（笑）。

椎名 水洗便所は川ですよ（笑）。

ガンツ でも、柔術とロシアの闘いっていうのは、リングスから観てる人間からするとたまらないですよね。

玉袋 たまんねえよ！ たまんねえ！

ガンツ まずノゲイラがヴォルク・ハンに勝って、ハンの「いつか自分の弟子がおまえを倒す」っていう言葉があって、ヒョードルがノゲイラを倒す。その7年後に今度はまたヒョードルが柔術家に負ける。長いドラマですよね。

玉袋 だからたまんねえんだよ。いろんな思い出があるからね。俺なんてヒョードルにパウンド食らったことあるからね。

椎名 あるの？

玉袋 フジテレビの夏のイベントであるんだよ。

ガンツ 寝転がってミット持ったんでしたっけ？

玉袋 座布団だよ。

ガンツ それは危ない（笑）。

玉袋 俺もたけし軍団だからよ、『ザ・ガンバルマン』とかでいろんなプロレスラー、格闘家でからんできたけど、あれがナンバーワンの恐怖！

椎名 座布団が少しでもずれたら死んでた（笑）。

今回、ヒョードルが極められたのは〝ズーエフ〟がいなかったからだよ！

右はヒョードル自身「尊敬するサンビスト」と口にするニコライ・ズーエス（リングス・エカテリンブルグ代表）。いまのヒョードルに必要なのは〝師匠〟的存在か。

玉袋 死んでるよ。でも、ヒョードルについては嫌な思い出なんかないね。

ガンツ じゃあ、このへんで思い出ついでに、個人的なヒョードルのベストバウトを挙げていきましょうか。

玉袋 おお、いいよ。俺はオーちゃんとの試合だな。

椎名 小川直也戦か。

玉袋 俺はあんとき小川に乗っかったから。オーちゃんならやってくれるだろってな。

ガンツ でも結果は64秒で完敗したね（笑）。

玉袋 あっという間。「なんだよ、それ」って話だよな。

ガンツ でも今回ヒョードルのタップっていうのは初めて見る光景で、まさに〝衝撃映像〟でしたけど、あの頃の小川直也のタップっていうのも、同じく見たことない衝撃映像でしたよね。

玉袋 そうなんだよ。そのあとオーちゃんは吉田秀彦戦でもタップしてるけど、それまでは幻想の塊だったわけだからな。

ガンツ ヒョードル幻想と小川幻想がぶつかり合ったからこそ、PRIDE史上最高の観客動員になったんですよね。

玉袋 1・4の橋本（真也）戦があったりしてさ、どこまでつええんだって思ってたもんだ。あと新宿にあるスポーツ会館幻想っていうのがあったよな。

ガンツ いまのグラバカ勢とかが練習してるところにブラッと現われて、レベルが違う強さだったっていうやつですよね。

椎名 そんな伝説あったよね！

玉袋 そのオーちゃんをアッサリ極めちゃって、こっちもショックではあったけど、あれだけ完敗だと気持ちよかったよ。オーちゃん自身も「あっぱれ！」「まいった」って感じだったもんな。だからヒョードルがらみはもっといい試合はあるんだろうけど、一番燃えたのはあの試合だよな。

ガンツ ボク、あの試合翌日にインタビューしたんですけど、そのときの発言がいいんですよ。「もうプロレスラーが総合に挑戦するっていうのはこれで終わりだ。だって俺がこれなんだもん」って（笑）。

玉袋 「プロレスラーのなかでぶっちぎりで一番強い俺がこれなんだもん」か。いちいちいいね！

椎名 そりゃそうだよね。小川が勝てないのに、ほかのプロレスラーは勝てないよね。

玉袋 椎名のベストバウトは？

椎名 ベストバウトっていったらミルコ戦ですけど、一番印象に残ってるのは藤田和之戦ですね。

玉袋 フックでヒョードルがフラフラにされるヤツな。

椎名 あのとき勝った直後のヒョードルがすっごい顔したんだよ。

ガンツ ヒョードルが本性出しましたよね！ 藤田をタップさせたあと、殺し屋みたいな顔してちっちゃくガッツポーズするんですよね。

玉袋 見てるね～！ ヒョードルもちょっと焦ったんだろうな。

椎名 「おまえ、俺にちょっと恥かか

シェーン・カーウィン

まず、ヒョードルには「ウェルカム・トゥ・MMA」って言いたいね。ファブリシオはヘビー級で世界トップ10にランクされるファイターだからね。トップ10同士が試合をすれば、ヒョードルだって例外なくどんなことだって起こりえるんだ。結果として、ヒョードルがミスを犯したって言えるけど、彼自身もグラウンドゲームに自信があったんだと思うよ。自信過剰だったかって言われると、そうかもしれないけど、ときどき誰でも捕まってしまうことはあるさ。いずれにしてもヒョードルのあの謙遜する態度は、我々すべてのファイターが見習うべきものだと思う。ヒョードルは偉大なファイターであり、これまでもずっと偉大なファイターであり続けていた。決して過大評価ではないし、ランキングは別のものだと思っているよ。

ケイン・ヴェラスケス

ヒョードルがミスを犯してしまった、の一言だね。早く試合を終わらせようと望みすぎ、アグレッシブになりすぎたんだと思う。ファブリシオは、そのワンチャスを活かし得意なグラウンドで捕まえたことも評価したい。ただ、この敗戦を受けて、ヒョードルはいままで以上に強くなってケージに戻ってくるはずだよ。
俺はヒョードルが過大評価されているなんて思わないね。間違いなくベストフィイターだと思うし、俺自身、彼をファイターとして尊敬しているんだ。俺とヒョードルが闘ったらどうなるかって？ 同じケージに入ったときにその答えは出るよ（笑）。

ジュニオール・ドス・サントス

ヒョードル vs ヴェウドゥムはグレートファイトだったな！ 世界でベストのファイターをサブミッションで極めるなんて、ファブリシオはお見事だった。
同じブラジル人としてとてもうれしい勝利だよ。ヒョードルが偉大なるヘビー級ファイターであることに疑いの余地はないけど、世界で〝ザ・ベスト〟と呼ばれるには、証明することがまだあるだろう。

ラシャド・エバンス
［元UFCライトヘビー級王者］

ファブリシオが自分のゲームプランを実戦できたのと、同時にヒョードルはリラックスしすぎだったんじゃないのか？ ファブリシオのグラウンドゲームは自分より優れているっていうのを忘れてしまったんじゃないかな？
ヒョードルはいままでの世界でトップのヘビー級ファイターだよ。一回負けただけで「過大評価されていた」なんて意見がちょくちょく出るのが、このスポーツのおかしなところだし、まだ未成熟だっていうんだよ。

俺たちの皇帝ヒョードル変態座談会

せやかって一みたいな感じなんだよね。あれが凄く好き！

ガンツ　最後のチョークなんて、タップさせるための技じゃなくて、〝人殺しチョーク〟ですよね（笑）。

玉袋　あれはまずいよ！ あれはダメダメ！

椎名　ヒョードルは勝ったあと、こめかみから血を流しながら凄い冷めた目をしてるんだよね。あとヒョードルの怒りのスイッチ入ったあとの左ミドルがまた凄い！

玉袋　藤田が本気にさせちまったんだよな。

椎名　だってあれだけ頑丈な藤田がミドルキック一発でうずくまって、事実上、あの蹴りで勝負は決まってたんだよね。

玉袋　藤田がバリバリの頃だもんな。ドラム缶みてえな身体してよ。

ガンツ　藤田はあの一試合だけで「あっぱれ！」ですよね。誰もあんなことできなかったわけですから。

玉袋　藤田はすげえよ。でもよ、やっぱりヒョードルといえば、ミルコ戦のあの〝待ってました感〟がたまんなかったよな。

ガンツ　まさに〝時は来た！〟ですよね（笑）。

玉袋　時は来ただよ、破壊王だよ。

椎名　試合前のドキドキは史上最高ですよね。どうなっちゃうんだろうっていう。

ガンツ　1ラウンドが異常な緊張感と興奮なんですよね。

玉袋　あれ最高だよ！ あんなもん、もう観れねえよな。

ガンツ　人間同士というより、『ドラゴンボール』の世界ですよ。映画『ドラゴンボール・エボリューション』なんかより、よっぽど『ドラゴンボール』級の闘い。

玉袋　比べもんになんねえよ！

椎名　ミルコの左ハイが空を切ったあと、ヒョードルがその脚をすくって、ぶん投げるところが最高！

玉袋　あれは名シーン！

ガンツ　ミルコの〝見えない左ストレート〟でヒョードルがふらふらになったところに左ハイを放つんですけど、空を切っちゃうんですよね。

藤田のパンチで本気になったように〝怒れる皇帝〟で戻ってきてほしい！

藤田和之のゴリラフックで覚醒した“キラー・ヒョードル”。今度、復帰戦を行なうときには、タップアウト負けの悔しさを胸にさらなる“キラー”に期待したい。

玉袋　ヒョードルvsミルコはPRIDEの最高傑作であり、リングで行なわれる試合の最高峰だよな。金網じゃあ、ああはならなかったかもしれないからな。

ガンツ　あの試合のスケールを考えると、いまのUFCがそんなにスケール大きいように感じないんですよね。

玉袋　そうなんだよ！ でも、そこに俺たちあぐらかいちゃったんだよなあ。UFCなんて、どうってことねえだろってな。しかも、ヒョードルがケージで負けちまったわけだから。

椎名　しかも、オクタゴンじゃなくて、ヘキサゴンで。

玉袋　格闘技界のヘキサゴンファミリーだからねえ。でもヒョードルはこれで「お疲れさん」じゃねえもんな。「まだ始まってもいねえよ」って言うかもしんねえ。

ガンツ　だから、ヒョードルが今回負けたことで、藤田にフラフラにされた直後の〝怒れるヒョードル〟になって、戻ってきてくれるんじゃないかって期待してるんですよ。

玉袋　ホントそうだよな。とんでもなく怖いヒョードルが見てえよ。

椎名　ヒョードルって、なんか得体が知れなくて怖いよね。ファブリシオに負けたあとも、なんか木でできた十字架のペンダントを首からぶら下げてて、「何？ それ、ブードゥー？」って思った（笑）。

ガンツ　ロシア正教ですよ！（笑）。

椎名　でも、なんで途中で宗教にハマっちゃうのか、本心はどんなこと考えてるのか、わかんないんだよ。

玉袋　だからよ、俺たちはヒョードルのことまだなんにもわかってねえんだよ。

ガンツ　10年間トップで闘い続けて、いまだに謎があって、ミステリアスなんですよね。

玉袋　そこがたまんねえんだよ。謎があるっていいよ。そういう女にハマっちゃうんだよ。

ガンツ　負けてますます興味が出てきましたよ。

椎名　ここまできたら、対レスナー戦とか対カーウィン戦が観たいよね。

玉袋　観えてんだよ。俺たちはなんでも合わせちゃうから。だって俺たちがちっちゃい頃、ウルトラマンの怪獣と仮面ライダーの人形同士闘わせたりしてたからな。それを自分の頭のなかでストーリー作ってやってたわけだからな。

ガンツ　夢の対決を妄想するのは年季が入ってますからね（笑）。

玉袋　入ってんだよ。で、俺たち変態の妄想を現実にしてくれてたのがPRIDEだったわけだからさ。いまはもうPRIDEはねえけどよ、UFCでぜひ！ ヒョードルvsレスナーっていう夢の対決は実現させてほしい！

ガンツ　というわけで、今回はお開きにしましょう。ありがとうございました！

【10年6月30日／都内・『加賀屋』中野坂上店にて収録】

ハビア・メンデス
【AKA代表】

ヒョードルのグラウンドでの注意不足と、ファブリシオのスマートなゲーム運びが勝敗を分けたと思う。ファブリシオがヒョードルのパンチでうしろに倒れたのは、グラウンドゲームに誘い込む作戦だったんだろう。あのパンチ、ホントは効いてないようだったけど、倒れ方があたかも効いているようだったのでヒョードルが「いける！」って判断してしまったのだろうね。

自分の評価では、いまでもヒョードルは世界ベストのファイターであることは間違いないね。今回のサブミッションで試合を落としたことを踏まえてもあのシャープさ、ナンバーワンであることに変わりはないよ。ウチの選手であるケイン・ヴェラスケスが今度UFCヘビー級王座に挑戦し、この試合は勝てると思っているが、それでもまだヒョードルのほうが上。彼こそが世界でベストだね。

タイソン・グリフィン
【8・1『UFC・オン・バーサス2』で五味隆典と対戦】

〝MMA〟のファイターになるには、必要とされるすべての要素を常にトレーニングしてないといけないということを、ファブリシオの見事なトライアングルが示してくれた試合だった。同時に〝MMA〟で無敗でい続けることができるファイターは存在しないということを暗示してくれたんじゃないかな。

ヒョードルはいまでもベストのファイターだし、いつでも世界ナンバーワンを証明できるポジションにいると思う。

マルセロ・アロンソ
【『TATAME』マガジン記者】

これはMMAというタフなスポーツなんだ。誰しも「常に勝つ」ていうことはありえないんだよ。試合を繰り返すことによって、いつかは間違いを犯し負けることだってあるんだよ。トレーニング中にだっていえることだろう？ グラウンドで10回連続で相手からタップアウトを取り続けるってことがいかに困難か。

ヒョードルはアニメや映画のスーパーヒーローではないんだよ。それをアメリカで〝スーパーヒーロー〟としてプロモーションしているだけなんだ。彼だって〝パーフェクト・ファイター〟ではないっていうことなんだ。ときには間違いを犯すことだってあるんだよ。

それともう一つ言いたいのは、ヒョードルのスタンドアップは危険で世界のトップだけど、グラウンドは違うんだ。ミノタウロ（ノゲイラ）も早いラウンドでスイープできていれば、汗の影響を受けずにヒョードルを極めることはできたと思う。もし、ヒョードルが『アブダビ』に参戦してホジャー・グレイシーと対戦したら2分ともたずに極められてしまうと思うよ。

「ファブリシオとのリマッチをぜひ実現させてほしいです」

エメリヤーエンコ・ヒョードル
衝撃の敗戦を語る

ああ……、ついに“60億分の1”陥落の日が来てしまった。なぜヒョードルは負けてしまったのか、
いったい敗因はなんなのか、今後ヒョードルはどうなるのか、リベンジは実現するのか、などなど、
気になってしょうがない皇帝のアレコレを、試合直後の本人の言葉から読み取りたい。それにしても、リマッチは興味ありすぎる!

構成／松下ミワ　翻訳&撮影／石井史彦

〝60億分の1〟に、ついに敗戦のときが訪れた——。

6月26日（現地時間）に行なわれたストライクフォースにて、ファブリシオ・ヴェウドゥムと対戦し、ヒョードルはわずか1ラウンド1分9秒で一本負けを喫した。開始後、激しい打ち合いのなかで右アッパー、そして右フックでダウンを奪ったヒョードルはそのままパウンドを打ち込もうとしたが、ファブリシオに腕を捕らえられ、ジリジリと三角絞めの餌食となった。

ポンッと一度だけファブリシオの太ももを叩き、控えめなタップで敗北を認めたヒョードル。00年に右まぶたのカットというアクシデントでTKO負けを喫した高阪剛戦をのぞいて無敗を誇ってきた男が、この瞬間に感じたこととはなんだったのか。

試合後に行なわれたプレスカンファレンスから、その思いやヴェウドゥム戦の敗因、そして今後について、敗戦直後の皇帝の言葉を拾った。……おお、ヒョードル陣営は早くも再戦要求だ！

［会見に先立って、スコット・コーカーがマイクを握る］

スコット　ヒョードルはMMAヘビー級で常にトップの座を走り続けてきているが、今後も素晴らしい試合を見せてくれると信じている。今夜はファブリシオに捕まってしまったけど、それはまたMMAの素晴らしさでもあるということだと思う。先ほど現役引退を表明したフランク・シャムロックの「1ラウンドをすぎれば、ほかの方向へ進むときなんだ」という言葉どおりだと思う。

［ここでヒョードルとワジムが会見場に入場。会場からは拍手が。その後、記者との質疑応答が行なわれた］

右フックでファブリシオをダウンさせたヒョードルは、そのままパウンドラッシュを狙ったが、これが命取りに。はたしてこの敗戦は"皇帝も筆の誤り"だったのか、それとも!? それにしても、試合直後の会見で左写真のような笑顔を見せている皇帝を見るとなんだかこっちもホッとする。

エメリヤーエンコ・ヒョードル
衝撃の敗戦を語る

私はあなたたちと同じ人間であって 決して特別な人間ではありません

——マイク・タイソンやモハメド・アリのような偉大なファイターでも敗戦を経験しています。あなたにもそのときが来ただけだと思っているのですが……。

ヒョードル　……ありがたいコメントです。私もまさにそのとおりだと思っています。どんなに皆のアイドルになったとしても、負けるときは来てしまうものです。私はあなたたちと同じ人間であって、決して特別な人間ではありません。次の試合では神様が勝利を導いてくれると信じています。

——今回のファブリシオ・ヴェウドゥム戦はどのような試合展開だったのか、あらためて説明していただけますか？

ヒョードル　1ラウンド開始早々にファブリシオにパンチが入って倒れたので、できるだけすぐに試合を終わらせたくて積極的に攻めにいきました。その瞬間に、大きな間違いを起こしてしまったんです。

——すべてのファイターがリベンジを願っていますが、あなた自身もファブリシオにリベンジをしたいと思いますか？

ヒョードル　もし、ファブリシオがリマッチを受けてくれるのであれば、ぜひ実現させてほしいと思います。

——ファブリシオに下からの攻めでトライアングルのポジションに入られたとき、何度か逃げようとしていましたが、どのような心境でしたか？

ヒョードル　当初はトライアングルから逃げられるチャンスもあったと思っていました。ただ、自分を信じすぎたために大きな代償を払うことになってしまったということだと思います。

——あなたは普段から自分の感情をまったくと言っていいくらい見せませんが、いまはいったいどのような心境なのでしょうか？

ヒョードル　…………………（微笑）。まず私の勝利を信じてたファンの人たちに「アイ・アム・ソーリー」とお詫びをしたいと思います。ただ、すべては神様が決めることなので、今日の結果も今後の私のためになることだと信じています。サンクス・フォー・ゴッド・フォー・エブリシング。

——試合に関してプレッシャーはありましたか？

ヒョードル　プレッシャーはまったくありませんでした。明日、家に帰れるので楽しみです。

［会場爆笑］

——先ほど「自分を信じすぎた」というコメントがありましたが、どういう意味なのかあらためて教えていただけますか？

ヒョードル　あのトライアングルからエスケープするという意味では、動きを止めて対応することも可能だったと思います。でも、今日の私はそれをしなかったということです。そのためにファブリシオの極めが深くなってしまったんだと思います。

——今週末のUFC、ブロック・レスナーvsシェーン・カーウィンの試合は観に行きますか？

司会者　（さえぎって）ノー！　さきほどヒョードルは「明日、家に帰るのが楽しみだ」と答えたばかりです。

――今回の敗戦は、今後のあなたのキャリアにとって勝利を収めたことより有意義なものになると思いますか？　たとえばモチベーションを高めたりだとか。

ヒョードル　今回の試合のためにも充分なトレーニングをしてきたつもりでいましたが、今夜の結果から、いまだにテクニックも含めて自分自身が不充分だということが証明されたんだと思っています。今後はもっと必要とされるすべての面でのトレーニングをしていくつもりです。

――極まった技はトライアングルですか？　それともアームバーですか？

ヒョードル　トライアングルです。

――この試合はKOを狙ってたのでしょうか？　または、ファブリシオの得意とするグラウンドのゲームも想定していましたかか？

ヒョードル　すべての場面を想定していましたが、ファブリシオがキャンバスに倒れたときにパウンドで試合をできるだけ早く終わらせようという願望が強くなってしまいました。

――先週インタビューをしたときに引退について語っていましたが、今夜の結果でこの先の方向性が変わりましたか？　現役を続けようとモチベーションが上がったのか、それとも総合格闘技から距離を置こうと考えるようになったのか。

ヒョードル　体調はとてもいい状態ですし、ストライクフォースとはあと一試合契約が残っていますので、契約をまっとうするまで続けるのは間違いありません。

――過去10年間、28連勝という記録を残していたわけですが、ほかのファイターが敗戦を経験しているなかで、それらの勝利はあなたにとってスペシャルなものだったのでしょうか？

ヒョードル　神はそのことに対して、誇り高きことじゃないと言っています。

――今回の敗戦で今後の契約交渉に影響を与えると思いますか？

ヒョードル　それは私に対してのものではなくて、マネージャーであるワジム氏への質問ですね（微笑）。

［会場爆笑］

ワジム　どうなるのか、契約交渉のときにわかるでしょう。ファブリシオはヒョードルを極めた最初のファイターですが、ぜひヒョードルがいまだ世界でベストだということを証明するためにも、私はリマッチを提案したいと思っています。

――今夜の試合に向けた準備で、これまでと何か異なったことなどはあったのでしょうか？　たとえば最後の一週間はここアメリカで調整をしていましたが。

ヒョードル　試合に対しての準備はいままでのものとまったく同じもので何も変わったことはありませんでした。

――そう答えると思ってました（笑）。

ワジム　…………（微笑）。

司会者　では、以上でヒョードル選手のインタビューを終えたいと思います。

ヒョードル&ワジム　サンキュー。

というように、〝60億分の1〟の敗戦に沈むファンが多いなか、ヒョードルの口からは謙虚かつ冷静かつ前向きな発言連発。はたしてヒョードル陣営が望むとおり、ヴェウドゥムへのリベンジは達成されるのか？　そして敗戦以降のヒョードルがどう試練を乗り越えていくのか、皇帝からますます目が離せなくなってきた！

皇帝を陥落させた柔術クリエイター
“魔性の三角絞め”を語る

ファブリシオ・ヴェウドゥム
Fabricio Werdum

“世界最強”の称号は いまでもヒョードルのものだ

“60億分の1世界最強の男”と呼ばれ、10年間無敗を誇ったヒョードルがついに敗れた。しかも、衝撃のタップアウト負け。この“偉業”を成し遂げた柔術のスペシャリスト、ファブリシオに“魔性の三角絞め”の秘密と、今後の展開について独占直撃した。打撃全盛のなか、一夜にして柔術復権を成し遂げた男の言葉を聞け!

聞き手／石井史彦　試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）
構成／堀江ガンツ

復 権

柔　術

――見事な一本勝ちおめでとうございます！

ファブリシオ　ありがとう！

――〝60億分の1世界最強の男〟ヒョードルを倒したいまの気持ちを言葉にしてください。

ファブリシオ　いままでの人生で最高の気分を味わっているところだよ！　ただ、「本当に自分が勝ったのか？」って、いまでも信じられない。今回の試合のために、6カ月間という長くハードなトレーニングを行なってきたので、いまは家族や子どもたち、それにブラジルから応援に来てくれた友人たちとみんなでこの最高の瞬間をエンジョイしているところなんだ。

――今回はどんな作戦でしたか？

ファブリシオ　試合を見てのとおりだよ。とにかく得意のグラウンドゲームに持ち込むことがすべてだったんだ。

――あの序盤でのダウンは、グラウンドへ誘う意味もあったんですか？

ファブリシオ　もちろん、ヒョードルのパンチは一撃で試合を終わらせることのできる恐ろしい武器だし、本来ならパンチを出させずにテイクダウンできれば一番よかった。でも、そんなチャンスはなかなか訪れないからね。自分としては意識さえあれば、たとえ倒されたとしても、グラウンドは〝自分のポジション〟だという認識はあったよ。

――今回のポイントはテイクダウンだったと思いますが、ヒョードルをどうやってテイクダウンするつもりでしたか？

ファブリシオ　自分からパンチやキックで攻めて、チャンスがあればクリンチからのテイクダウンを狙うというものだった。そのためにもレスリング全米王者であるキング・モーに、テイクダウンのテクニックを一から教わったんだ。

――キング・モーに話を聞いたら「自分と練習をし始めた頃のファブリシオのテイクダウンはひどいものだったけど、いまではかなりのレベルに達している」と言ってましたよ（笑）。

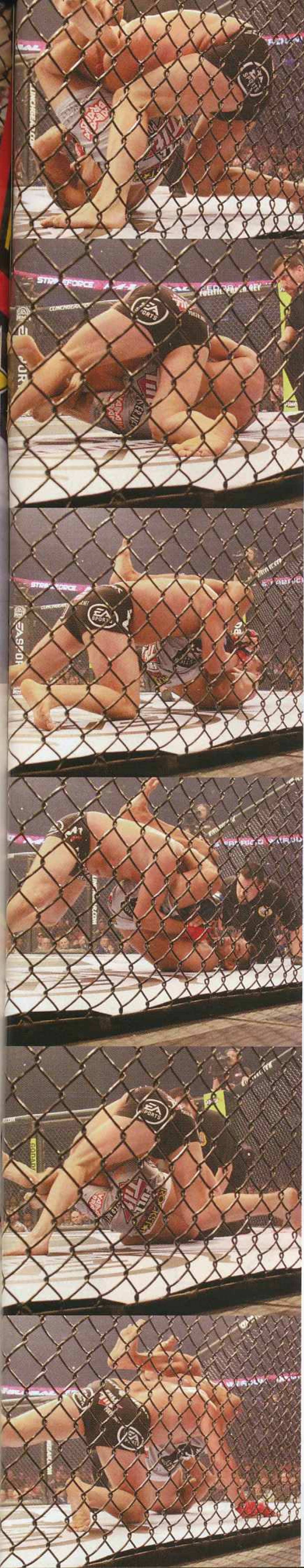
ファブリシオ　〝鬼コーチ〟のスパルタ特訓のおかげだね（笑）。ただ、ヒョードルをテイクダウンするというのは、並大抵のことではないから、今回の試合のように、ヒョードルのパンチで倒れてからグランドゲームに誘い込むというパターンも想定した練習もしていたんだ。ヒョードルのいままでの試合を観ると、相手が倒れたら絶対にパウンドで攻めてきていたからね。そのときこそ、自分にとって最大のピンチであると同時に最大のチャンスであることはわかっていた。その作戦どおり、トライアングル（三角絞め）を極めることができて、本当にうれしいよ。

――実際に闘ってみて、あらためてエメリヤーエンコ・ヒョードルというファイターの印象を聞かせてください。

ファブリシオ　ヒョードルと対戦することは自分のキャリアのなかで最大の目標でもあったんだ。おそらくMMAヘビー級で闘っているほとんどのファイターがそうだろう。そのヒョードルと対戦できたことを感謝しているし、いまでも最も偉大なチャンピオンとして尊敬しているんだ。

――これまで誰も勝てなかったヒョードルにあなたが勝てた最大の理由はなんだと思いますか？

ファブリシオ　この試合のために、6カ月にもおよぶハードなトレーニングに耐えてきて、精神的にも、肉体的にも100パーセントの状態で試合に臨めたことだね。そこには世界でベストのコーチであるハファエル・コルデイロの指導があったことはもちろんだし、レナート・ババルやキング・モーといった最強のトレーニングパートナーたちの存在が大きな要因になって

ファブリシオのファイター人生最大の大一番とあって、ブラジルから友人も多数訪れた。ファブリシオはそんな友人家族らと歓喜の夜をすごした翌々日、空港で独占取材に応じてくれた。

［10.6.26 STRIKEFORCE AND M-1 GLOBAL］
米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオン
○ファブリシオ・ヴェウドゥム vs
エメリヤーエンコ・ヒョードル×
（1R 1分9秒 三角絞め）

ヒョードルは開始早々、右アッパーと右フックをヒットさせダウンを奪う。そこからパウンド、鉄槌の連打で一気に勝負を決めようとするが、ファブリシオはガードに戻すと三角絞めへ。ヒョードルはなんとか逃げようとするが、深く入った三角は抜けずタップアウトした。

ヒョードルのパウンドをしのいだファブリシオは、まず三角と腕十字両方が狙えるポジションを取り、最初は腕十字を仕掛け、三角へ移行。ヒョードルは潰そうとするが、ガッチリと入っているため抜けず、ファブリシオはさらに腕を固定。ついにヒョードルが歴史的なタップアウト負けを喫した。

一つの大きな勝因は、汗をかいてない試合開始直後に三角絞めに入れたこと

Fabricio Werdum

いるんだよ。

――かつてヒョードルと対戦しているババルからは、さまざまなアドバイスをもらったらしいですね？

ファブリシオ　そうなんだ。ヒョードルと対戦経験のあるババルの存在は、今回のトレーニングで大きな役割をはたしてくれたよ。

――やはり、ここ最近のあなたの充実ぶりは、ヘッドコーチであるハファエル・コルデイロを中心に、ババル、モー、ヴァンダレイ、メイヘム・ミラーといったトレーニングパートナーにも恵まれているからなんでしょうか。

ファブリシオ　もちろんそうだね。とくにハファエルがコーチに来てくれてからみんなが一体となって、充実したトレーニングができている。やはり、ただトップファイターが集まって練習するのではなく、それをまとめてくれて、方向性を示してくれるコーチの存在が必要不可欠なんだ。ボクは彼の生徒であることを誇りに思っているよ。

――いま多くのブラジル人トップファイターはアメリカに来て、みんなで合同練習をしていますよね？　逆にヒョードルははロシアの自分のチームだけで練習しています。彼もアメリカで練習すべきだと思いますか？

ファブリシオ　ヒョードルのロシアでの練習環境は素晴らしいものだと聞いている。だから「アメリカで練習すべき」とは言えないけど、アメリカにはMMAに必要とされるいろんなバックグラウンドを持った選手がたくさんいることも事実なんだ。そういった異なった特技を持ったトレーニングパートナーは、MMAでトップに君臨し続けるのに必要不可欠な存在になると思う。

――サンボをベースにしたヒョードルのグラウンド技術を柔術世界王者のあなたは、どう評価していますか？

ファブリシオ　サンボも柔術も同じ部類のマーシャルアーツだけど、しいて違いを挙げるとすれば、サンボは足を狙ったフットロックやレッグロックが、柔術は腕を狙ったアームロックやアームバーがメインになってくる。柔術のほうが効率を重視しているテクニックが多いという観点から、間違いなくMMA向きだと思う。それはサンボのスペシャリストにボクが勝利できたという事実が証明しているんじゃないかな。

――それにしても、あのノゲイラが何度仕掛けてもヒョードルには極まらなかったトライアングルも、あれほど見事に極まったのには、何か特別なコツがあるのでしょうか？

ファブリシオ　一つの大きな要因は、1ラウンド開始してすぐにトライアングルのポジションに入れたことが挙げられるんだ。お互いにまだ汗をかいていなかった状態だったので、汗ですべることがなく、ヒョードルは逃げることが困難な状態になったんだよ。

――では、あれが1ラウンドではなく2ラウンドだったら、極まらなかった可能性もあるわけですか？

ファブリシオ　2ラウンドどころか、1ラウンドの後半でも難しかったかもしれない。じつは試合が長引けば長引くほど、ヒョードルにとって有利だったんだよ。

――勝ちを急いでしまったことも、ヒョードルの敗因だったわけですね。

ファブリシオ　テクニック的な面からは、タップしたのはトライアングルだったけ

Fabricio Werdum

ど、同時にアームバーのポジショニングでもあったんだよ。ヒョードルは何度か逃げようとしたけど、トライアングル→アームバー→トライアングルと、数回トランジションを繰り返しながら、同時にガッチリと腕を取り、トライアングルの脚も深いポジションに持っていったんだ。

——なるほど。では、10年間無敗の王者を破ったいま、あなたが〝世界最強の男〟になったと思いますか？

ファブリシオ　いや、いまでもヒョードルが「ベスト・イン・ザ・ワールド」さ！　先週末の夜は自分が勝つことができたけど、「世界最強の男」の称号はいまでもヒョードルのものだよ。これまでミルコやノゲイラといった真のトップファイターが挑みながら、ヒョードルには勝てなかった。それはやはりヒョードルが別格である証拠だと思うんだ。そのヒョードルに一度勝てただけで、彼の10年間の実績は揺るがないし、ボク自身もいまだにヒョードルこそが世界最強の男だと思っているよ。

——ただ、UFCでジュニオール・ドス・サントスに敗れたあなたがヒョードルに勝ったことで、UFCヘビー級のほうがストライクフォースヘビー級よりも上だという人もいます。そういう意見についてはどう思いますか？

ファブリシオ　ボクがヒョードルに一度勝てただけで、彼より強いとは言いきれないことと同様に、ジュニオールがボクより強いという証明にはならないんじゃないかい？　まあ、UFCが宣伝文句に使うんだろうけどね（笑）。

——もう一度、UFCヘビー級にチャレンジしたい気持ちはありますか？

ファブリシオ　いまはこの最高の瞬間をみんなとエンジョイして、今後の試合に関することは何も考えたくないんだ。それにストライクフォースとはこの試合前に4試合の契約を新たに締結しているから、UFCに関してはまったく頭にないんだよ。

——とはいえ、やはりどうしても比較されると思いますが、ブロック・レスナーやシェーン・カーウィンをどう評価しますか？

ファブリシオ　ブロックもシェーンもその実績からわかるとおり素晴らしいトップのファイターだよ。今週末の試合（7・3『UFC116』）ではシェーンが勝つと予想しているんだけどね。

——その二人にあなたは勝つ自身はありますか？

ファブリシオ　もちろんだよ。彼らを極めることは難しいけれど、サンボのスペシャリストであり、MMA世界最強の男であるヒョードルを極めることよりは簡単だろう（笑）。もちろん、〝勝つ〟という絶対的な自信があるよ。

FABRICIO WERDUM■1977年8月24日、ブラジル出身。03年、04年柔術世界選手権連覇。07年と09年には『アブダビ』でも優勝。MMAは02年にデビュー。PRIDE、UFC等で活躍し、09年からストライクフォースに参戦。193cm、110kg。隣は同じシュートボクセのクリス・サイボーグ。

アリスターに興味はない。ロシアでヒョードルとリマッチがしたいね

——ストライクフォースのヘビー級チャンピオンであるアリスター・オーフレイムはどう評価していますか？

ファブリシオ　K—1に挑戦したり、ストライクフォースヘビー級のチャンピオンであることが証明しているとおり、オールラウンドの素晴らしいコンプリートファイターの一人だね。

——アリスターとのタイトルマッチはいつ頃やりたいですか？

ファブリシオ　いや、彼との対戦はいま現在まったく興味がないんだ。

——チャンピオンとの対戦に興味がない？

ファブリシオ　アリスターとは2006年にPRIDEで対戦してキムラロックで勝っているし、ヘビー級のチャンピオンといっても2年間も防衛戦を行なっていないベルトだからね。ただ、もちろんヘビー級のチャンピオンにはなりたいので、まずはヒョードルとのリマッチで、あらためて自分が「世界最強」であることを証明してから考えたいね。

——ヒョードルとの再戦が最優先だ、と。今回、世界最強のヒョードルに勝ったことで、あなたはヘビー級ランキングの何位になったと思いますか？

ファブリシオ　さっきも言ったとおり、世界最強でヘビー級ランキング1位はいまでもヒョードルのままだよ。自分も4位か5位に評価されてもいいと思っているけど、それはファンが決めることだからね。

——世界最強のヒョードルに勝ったことで、今度はあなたも「最強」の一人として責任ができたと思います、今度の目標、プランを聞かせてください。

ファブリシオ　まだ、自分のホームグラウンドであるカリフォルニアの試合で一度ヒョードルに勝てただけで、ヒョードルが背負ってきたような責任はまだ自分にはないと思っている。ただ、自分が本当に「世界最強」の称号を得るためにも、今度はヒョードルのホームであるロシアに乗り込んでリマッチを実現させたいという目標があるよ。具体的なプランとしては、ストライクフォースのスコット（・コーカーCEO）やマネージャーと相談して決めることになるけどね。

——リマッチはロシアといわず、日本でも観たいですけどね（笑）。

ファブリシオ　それはいいアイデアだね！　日本のファンにはいつも感謝しているし、チャンスがあればみんなの前で試合をしたいといつも思っている。ヒョードルも日本を愛しているから、そんなプランも実現できたらいいね。

——では、今後のさらなる活躍に期待しています！

【10年6月29日／米国カリフォルニア州サンノゼの空港にて収録】

――歴史的勝利おめでとうございます!

コルデイロ　ありがとう!　まだ興奮しているよ。

――今回はどんな作戦でしたか?

コルデイロ　作戦というか注意点としては、まずケージの中で自分の距離をとりながら動き回ること。また常に両手のガードを下げずに高い位置にキープし、すべてのアクションはヒョードルの動きを待たずにファブリシオから仕掛けるようにすること、という3点だったんだ。勝敗のカギはどうやってグラウンドゲームに持ち込めるかで、グラウンドゲームになればファブリシオが勝つと信じていたからね。

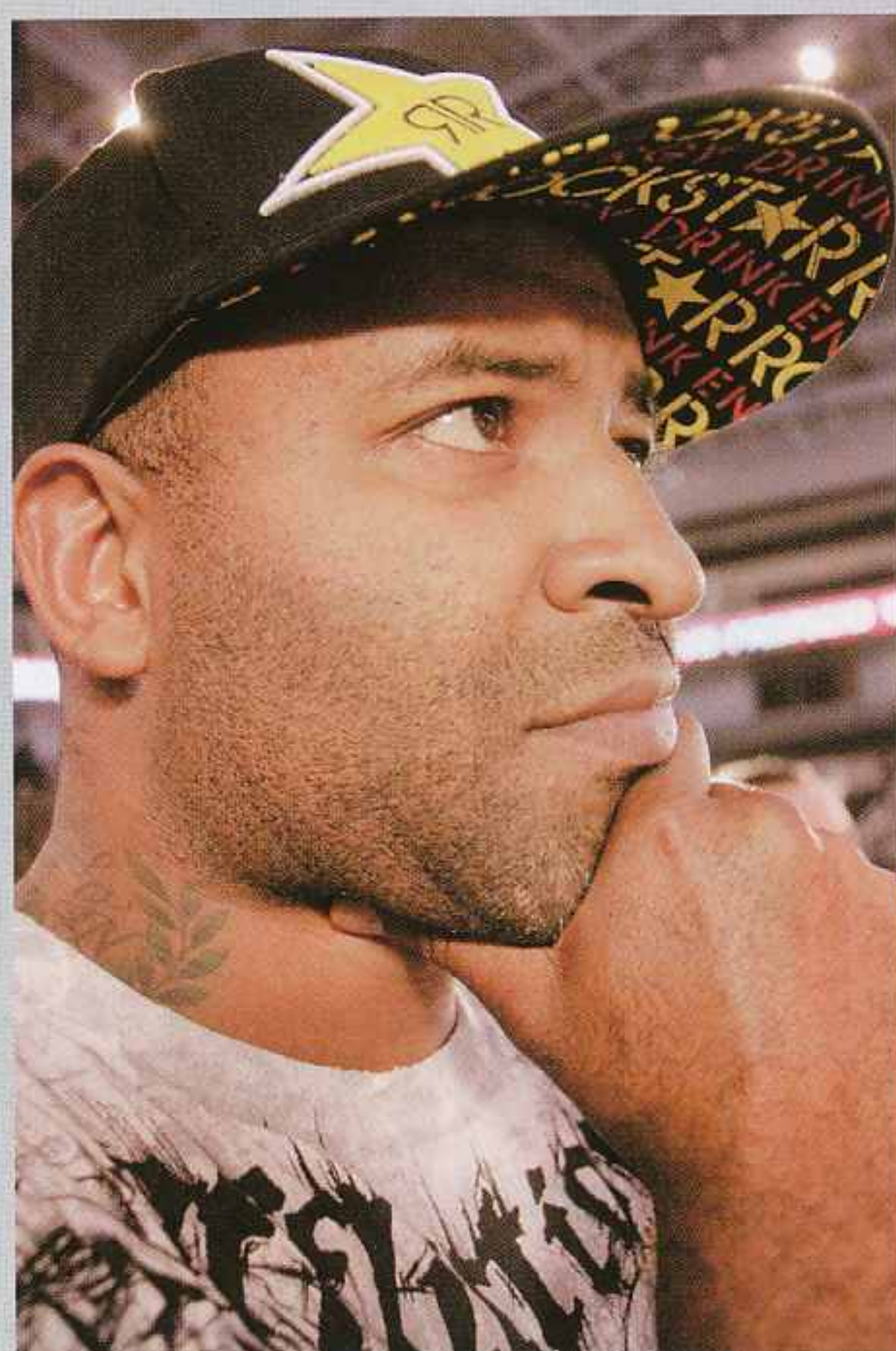
――試合前、あなたはヒョードルの弱点をどこだと思いましたか?

コルデイロ　ヒョードルの弱点を見つけるなんてとても難しいことだし、事実、弱点を見つけることができなかったんだ。ただ、弱点ではないがファブリシオのほうが上回っている部分はある。それがグラウンドゲームだから、とにかくいかにしてヒョードルに主導権を握らせずにグラウンドに持ち込めるかが重要だった。

――打倒ヒョードルのために、どんな特別なトレーニングをしましたか?

コルデイロ　グラウンド状態で、体重の重いトレーニングパートナーにファブリシオの上になってもらい、パウンドの防御、エスケープからスタンディング、スイープ、また下からの攻めなど、グラウンドゲームで考えられることをすべて練習させたんだ。

――まさにその練習が役に立った感じですね。

コルデイロ　そうだろ?（ニッコリ）。

皇帝打倒の陰に名伯楽あり!
ファブリシオ陣営ヘッドコーチを直撃!!

ハファエル・コルデイロ

（キングスMMA代表／プロMMA&ムエタイコーチ）

Rafael Cordeiro

「世界最強の男をタップアウトさせた、これほどコーチ冥利につきることはない」

ファブリシオ歴史的勝利の陰には一人の名伯楽の姿があった。元シュートボクセのヘッドコーチとして、ヴァンダレイ、ショーグンを育てあげ、現在、自身のジム「キングスMMA」を主宰するハファエル・コルデイロその人だ。ファブリシオのコーチ、作戦参謀、セコンドを務めたコルデイロに試合後、話をうかがった。

聞き手／石井史彦　構成／堀江ガンツ

――それでも、序盤いきなりダウンを奪われましたが、ヒョードルの打撃はどこが特別なのでしょうか?

コルデイロ　ヒョードルのパンチは威力があり、また正確に狙ったところに打ち込めるということは言えると思う。ただ、あの序盤のパンチはじつはそれほどダメージがあったわけじゃないんだ。ファブリシオはグラウンゲームに持ち込みサブミッションで極める絶好のチャンスとしてとらえたんだよ。

――自分がダウンすることで、必然的にグラウンドになった、と。

コルデイロ　もちろんテイクダウンして上になることが理想だけど、あのヒョードルが相手だからね。とにかくどんな体勢であっても、寝技に持ち込みたかったんだ。それがうまくいって、いまは本当に幸せだよ。

――やはり世界最強の男を倒すということは、プロのコーチであるあなたにとって最大のモチベーションになりましたか?

コルデイロ　もちろんだよ!　いつの日かコーチとしてのキャリアを終えるとき、このような経験ができたということは特別な思いとして残るものだよ。それまでにも自分が手がけたヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ショーグンという二人の偉大なチャンピオンが生まれている。そしていま、〝世界最強の男〟を見事にタップアウトさせた、3人目の世界チャンピオンと言っていいファブリシオがいる。これほどコーチ冥利につきることはないよ。

――試合後の会見でも、レナート・ババルが「ハファエルが手がけたファイターはみんなチャンピオンになるんだ」と言ってましたよね?

コルデイロ　ファイターたちに信頼されて、とても光栄だよ。次はババルをチャンピオンにしないとね（笑）。

――今回ヒョードルを破ったファブリシオとノゲイラの一番の違いはなんだと思いますか?

コルデイロ　その比較は避けたい。ノゲイラは誰もが疑いのない最強のヘビー級の一人であるし、ファブリシオはADCCおよび柔術の世界王者である実績からもわかるとおり、非常に精度の高いテクニックを持っているんだ。

――次回、ファブリシオvsアリスターが濃厚ですが、この試合はどこがポイントになりますか?

コルデイロ　それは秘密さ。試合後に話してあげるよ（笑）。

――では、日本のファンはファブリシオ勝利の祝福とともに、ヒョードル敗戦にはショックも受けています。その陰にはシュートボクセ時代にいつもPRIDEで顔を見せていたあなたがいるというのを知っているファンもいます。ぜひ日本のファンへメッセージをお願いします。

コルデイロ　まず、日本のみんなには感謝したいんだ。ありがとう。日本は自分の第二の故郷であり、コーチとして「マスターはどう生徒に接して教えるべきか」ということを学ぶことができたんだよ。いまの自分があるのは第一に神様の、その次に日本のおかげだと思っている。今回、ファブリシオが素晴らしい結果を出した。また自分の生徒が日本で試合をすることがあると思うので、これからも応援してくれることを祈ってます。

【10年6月26日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

皇帝陥落でMMA界に地殻変動!?

ヒョードル敗戦はM-1グローバルとSF(ストライクフォース)の関係に変化をもたらすのか?

独占インタビュー

スコット・コーカー

ストライクフォースCEO

今後のMMA界に大きな影響を与えることは必死である“皇帝陥落”。なかでも、当事者であるストライクフォースへの影響は甚大であろう。看板スターであるヒョードルの敗戦は、少なからずビジネスに影響を与えるだろうが、これまでM-1グローバルの強気すぎる交渉に手を焼いてきた団体にとっては、その力関係が変化するチャンスともいえる。DREAMを含めた今後の展開についてコーカーCEOに聞いてみた。

聞き手／石井史彦　試合写真／Esther Lin（STRIKEFORCE）　構成／堀江ガンツ

――いまイベントが終わったばかりですが、凄い大会でしたね！

コーカー　〝グレート〟の一言だよ！　今回使用した会場HPパビリオンはストライクフォースの原点であり生まれたところ（旗揚げ戦の会場）だから、常に満席になることを期待しているし、特別な感情があるのは事実なんだ。これまで多くのビッグファイトがここで行なわれてきたけど、そのなかでも今日のカード、とくにメインの4試合は凄かったと思わないかい？　こんなにグレートでファンタスティックなファイトはここしばらく観てなかったよ。4月のCBSで放映されたナッシュビル大会も素晴らしかったけど、それ以上のものになったね。

――確かにメインの4試合はすべてエキサイティングな試合でしたね。

コーカー　そうだろう？　まず地元のスター、ジョシュ・トムソンの残り時間30秒でのリアネイキドチョークによる劇的な逆転勝利。女子の世界タイトルマッチでは、クリス・サイボーグが絶対的な強さを証明したけど、同時に挑戦者のジャン・フィニーは折れない心で最後までそのサイボーグに立ち向かっていき、多くの人たちを感動させた。

――あの試合はもう1ラウンドから「止めてくれ！」と思うほど一方的な展開でしたけど、フィニーはあきらめませんでしたよね。

コーカー　私自身、1ラウンドが終了した時点で試合を止めてもよかったと思う。あれはレフェリーというより、コーナーが判断するべきものだったと思うよ。

――セミファイナルでは地元の英雄カン・リーは見事リベンジに成功しましたね。

コーカー　それもスピニングバックキックでね。負けられない大一番において、あんな大技で勝てるファイターがどこにいるんだい？　だからこそカン・リーは英雄であり、地元のファンも大喜びだったよ。そしてメイン、ファブリシオ・ヴェウドゥムがついに〝キング〟を破った記念すべき夜になった。10年間無敗という空前絶後の記録を築き、「世界最強の男」の名をほしいままにしていたヒョードルがタップアウトで敗れた場所が、ここストライクフォース、しかも地元サンノゼの大会だったことは、主催者として感慨深いものがあるよ。

――あれは本当に歴史的一戦、歴史的一瞬だったと思います。

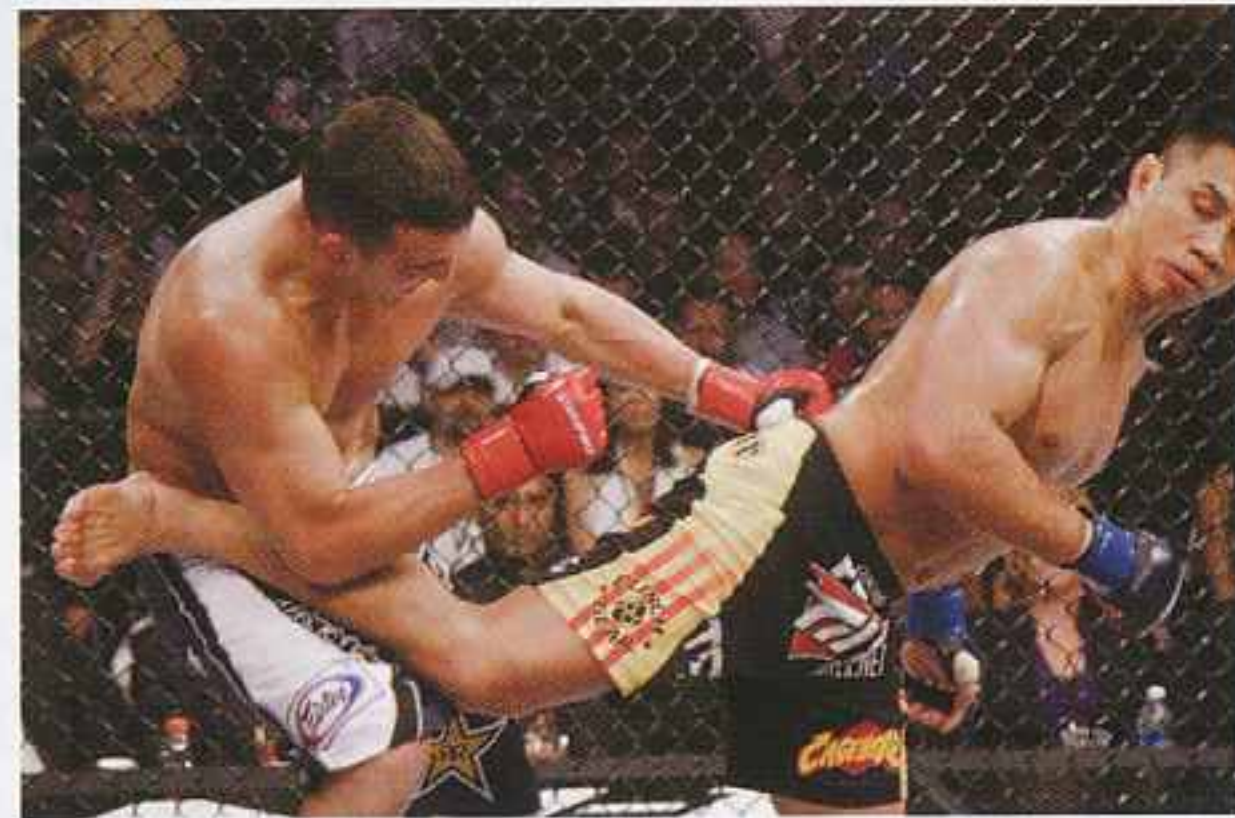
コーカー　みんな信じられなかったんじゃないかい？　試合前に友人たちとヒョードルvsファブリシオの試合がどうなるかって予想していたんだけど、みんな「絶対にヒョードルだ」と言ってたんだよ。ファブリシオ勝利を予想していたのは、私と『kamipro』だけだったね（笑）。

――そうでしたね（笑）。でも、ヒョードルはこの敗戦にも取り乱すこともなく、表情を変えることがありませんでした。気持ちが強いですね。

コーカー　それがヒョードルなんだ。ただ、内面では今回の敗戦で怒りが煮えたぎっているはずだよ。次の試合では間違いなく、その怒りをぶつけるべく〝キラー〟となってケージに戻ってくるだろうから、壮絶な試合になるだろう。自分がファイターだったら、絶対に避けたい試合だね（笑）。

6.26 STRIKEFORCE AND M-1 GLOBAL

○ジョシュ・トムソンvsパット・ヒーリー×
（3R 4分27秒 裸絞め）
地元サンノゼ在住のライト級前王者トムソンの復帰戦。レスリング能力で上回るヒーリーに苦戦を強いられるが、3ラウンド終了間際にチョークを極めて逆転勝ち！

○クリス・サイボーグvsジャン・フィニー×
（2R 2分56秒 TKO）
昨年8月に“スーパーヒロイン”ジーナ・カラーノを破った“鬼嫁”サイボーグ。今回もまさに鬼のような強さで強烈な打撃を次々叩き込み、フィニーをボコボコにした。

○カン・リーvsスコット・スミス×
（2R 1分46秒 TKO）
“生きるブルース・リー”ことカン・リーが昨年12月にMMA初敗北を喫したスミスと再戦。積極的に打撃を繰り出し、得意のバックキックで、見事TKOでリベンジ成功。

今後もM―1と一緒にやっていくかどうかは契約内容次第になるだろう

――ファブリシオの次の試合は、ヒョードルとのリマッチになりますか？　それともアリスター・オーフレイムとのタイトルマッチになりますか？

コーカー　いまの状況では、どうなるのかまだわからないね。M―1グローバルの意向も聞かなくてはならないし、ヘビー級はいろんなパターンのマッチメイキングが考えられる。それを考えること自体、とてもエキサイティングだね。ただ、ヒョードルvsファブリシオの再戦は、かならず実現しなくてはならないメガファイトだとは思っているよ。

――ヒョードルとの契約は残り1試合と聞いていますが、すでに再契約を考えていますか？

コーカー　もしヒョードルが引き続きストライクフォースで試合をしたいのであれば再契約をすると思うんだ。ただし、いまストライクフォースにはファブリシオという世界最強の男に勝ったファイターがいるからね、これまでのように絶対的な

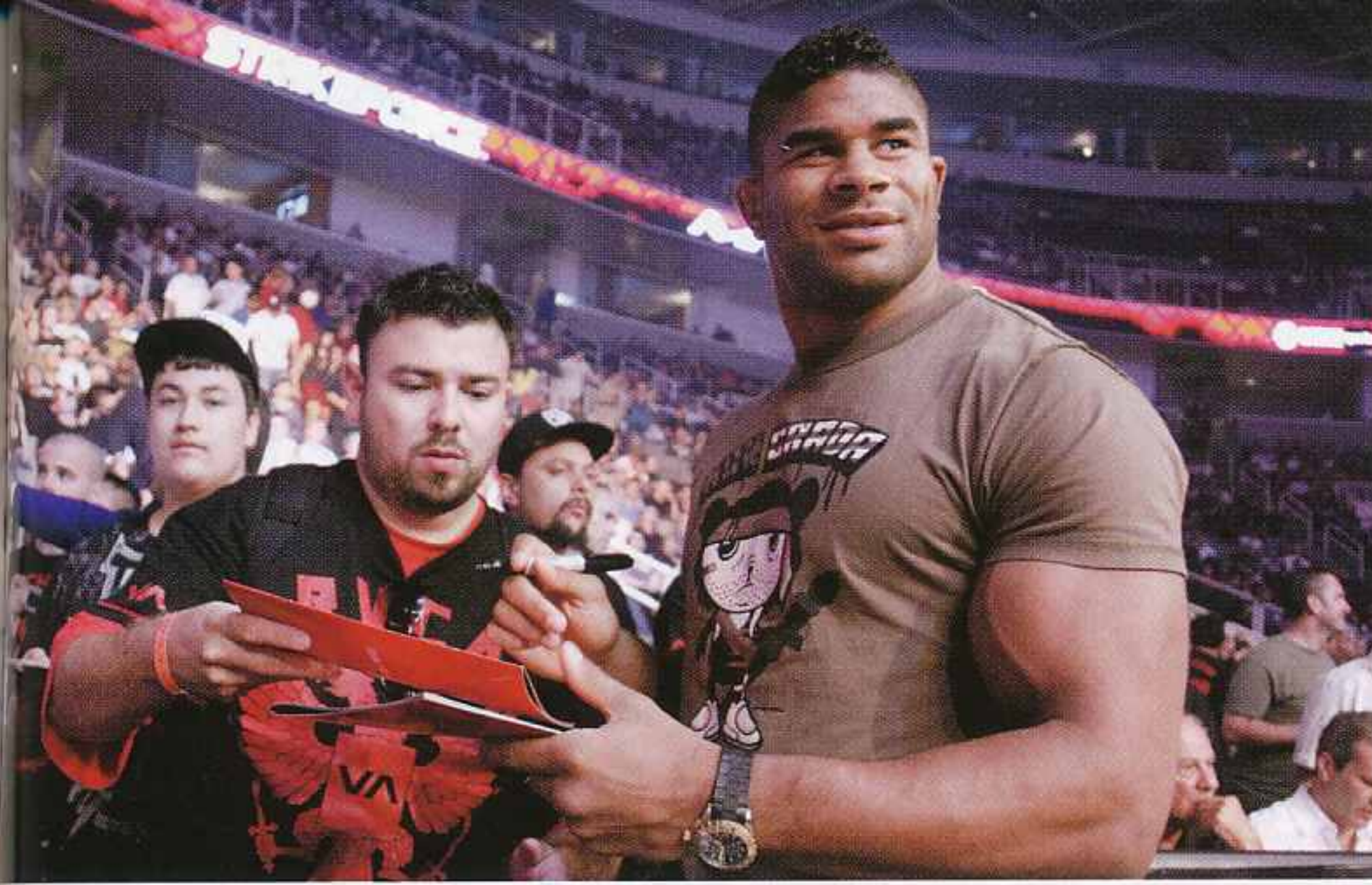
ヒョードル敗戦直後、ケージの中に入ったコーカーCEOにカメラを向けると、この表情でサムアップポーズ。M―1グローバルとのタフな交渉が続いたため、ヒョードル敗戦を望んでいたのか!?

存在ではなくなった。だから、あくまでも契約内容次第になるだろうね。まあ、ヒョードルに関しては、次の試合が終わったら、今後も一緒にやっていくのか決めることになると思う。

——今回、ヒョードルの試合が米4大ネットワークのCBSではなく、大手ケーブルネットワークSHOWTIMEで放映されることになった理由は？

コーカー　もともとヒョードルとの契約では、まずSHOWTIMEで放映し、その後CBS、そしてPPVという流れで話をしていたんだ。それが昨年11月のシカゴ大会では、運よくCBSで放映できることになったので、「それならまずはCBS」ということになったんだよ。だから今夜の大会は、もともとヒョードル戦を放映する予定であったSHOWTIMEになったということなんだ。

——ヒョードルと同じヘビー級でいうと、セルゲイ・ハリトーノフ、ヴァレンタイン・オーフレイムと契約した理由は？

コーカー　私はすべての階級でロースター（※出場登録選手、一軍選手のような意味）を充実させたいんだ。そして、なかでもヘビー級というのは一番重要な階級だからね。いまストライクフォースにはファブリシオ、ヒョードル、アリスターがトップ3として君臨して、そのすぐ下に、ビッグフット（アントニオ・シウバ）、アンドレイ・アルロフスキー、ブレット・ロジャースがいる。ここにハリトーノフやオーフレイム兄が加わるんだ。これで実績、世界的知名度ともにUFC以上のベストのヘビー級が集まった団体になったのは間違いないと思うよ。これからヘビー級のスーパーファイトが次々と実現するだろうね。

ストライクフォース世界ヘビー級王者のアリスターも来場したが、ヒョードル敗戦に唖然。ヒョードルとの待望の一戦は白紙に戻ってしまったか。

これまでヒョードルを盾に強気な交渉を続けてきたM-1グローバルのワジム代表。今回のヒョードル敗戦により、今後は違った舵取りが必要となるか。

ストライクフォースのヘビー級は実績、知名度ともにUFCより上だ

——では、ヒョードルについてはそれくらいにして、ナッシュビル大会でのメレンデスvs青木戦の感想をあらためて聞かせてください。

コーカー　ギルバートが"スマート・ファイト"を見せてくれたという一言につきるね。

——7月10日に青木vs川尻戦が行なわれますが、この勝者とメレンデスの一戦は実現しそうですか？

コーカー　カワジリが勝者だったら、12月のサンノゼ大会でぜひ実現させたいね。日本のファンはやはり「日本で」と願っているのかい？

——やはり、できればそうしてもらいたいですけどね（笑）。

コーカー　まあ、アメリカでも日本でも、メレンデスがOKならばどちらでもいいと思っているんだ。私自身、日本に行けば「ジョジョエン（叙々苑）」で食事ができるから、いつも楽しみなんだ（笑）。

——叙々苑が楽しみで日本に行ってますか（笑）。

コーカー　大ファンなんだよ（笑）。いずれにしても、DREAMとも相談して、ベストのタイミングで実現させたいね。

——ジョシュ・トムソンも川尻戦を希望していましたが、実現する可能性は？

コーカー　そのカードもアオキvsカワジリの結果、およびDREAM次第だろうね。今夜ジョシュは素晴らしい試合を見せてくれただろう？　ジョシュにその気があればぜひ検討したいカードの一つだね。

——青木真也に続いて、DREAMの所属選手でストライクフォースに上げたい選手はいますか？

コーカー　先ほど言ったカワジリ、それからサクライ（桜井"マッハ"速人）にはぜひ上がってもらいたいと思っているんだ。あと強い空手ファイターがいるだろ？

——菊野克紀選手ですか？

コーカー　彼にも興味を持っているよ。

——青木真也のストライクフォース再登場はありえますか？

コーカー　もちろんだよ。

——ほかには山本KID選手が5月のストライクフォースに出場する予定でしたが流れてしまいました。今年中にKIDをアメリカで試合させたい気持ちはありますか？

コーカー　KIDにはいつでも参戦してもらいたいと思っている。ストライクフォースは155ポンド（ライト級）以上のクラスしか大々的にプロモートしてないけど、KIDヤマモトのためであれば、135ポンドクラスでベストの選手を準備するよ。個人的に大好きだし、素晴らしいアスリートだからね。

——ニック・ディアスがいま日本で人気急上昇中なのですが、今年またDREAMに派遣する予定はありますか？

コーカー　いつでもOKさ。ニック本人は日本が好きで、困ったことにストライク

フォースのケージより、日本のリングで闘いたいと思っているくらいだからね（笑）。DREAMとの折り合いがつけばぜひ派遣したいと思ってるんだ。

――そのニックがミドル級に転向するというのは本当ですか？

コーカー　ニックはミドル級転向というより、ウェルター級と2階級で試合をしていきたいらしいんだよ。なので、当面はウェルター級のチャンピオンのままミドル級で試合をすることになるだろうね。

――ストライクフォースとしては、それはOKなんでしょうか？

コーカー　もちろんだよ。ニックはどちらの階級でも素晴らしい内容の試合を見せてくれるからね。

――ミドル級で試合をするとなると、ニックとメイヘム・ミラーの因縁の対決は実現する可能性はありますか？

コーカー　ニックvsメイヘムは、ナッシュビルでの乱闘事件があったこともあり、ファンに喜んでもらえる最高のマッチアップになるだろうね。ぜひ実現させたいカードの一つだし、個人的にもプロモートしたいね。

――あのナッシュビルでの乱闘事件のペナルティはどうなっていますか？

コーカー　数週間前にアスレチック・コミッショナーが裁定を下し、90日間のサスペンションということになったんだ。対象はニック・ディアス、ギルバート・メレンデス、ミドル級チャンピオンのジェイク・シールズ、もちろん乱闘の原因を作ったメイヘム・ミラーもね。

――ストライクフォースミドル級王座はジェイク・シールズが返上し、トーナメントを行なうと聞いていますが、どうなりそうですか？

コーカー　まだ具体的には決まっていないけど、正式に王座返上となったら、4人か8人のトーナメントを秋頃には実現させたいと思っている。

――そのトーナメント出場候補選手として、三崎和雄選手との交渉は進んでいますか？

コーカー　ミサキの代理人から「8月に日本でジョルジ・サンチアゴとのタイトル戦があるのでそのあと話をしたい」という連絡をもらっているんだ。ストライクフォースもミドル級のロースターが充実してきているんで、ミサキの意向も踏まえて、お互いにベストの時期に参戦してもらおうと思っているよ。

『DREAM・15』に合わせて訪日して提携をより深める話し合いをする予定だ

新婚である夫人の第一子出産があったため、トレーニングから離れていたメレンデスもHPパビリオンに来場。DREAM王者との頂上対決は年内に再び実現するか？

ヒョードル敗戦はM-1グローバルとSFの関係に変化をもたらすのか？

――ダン・ヘンダーソンは今後、どういったマッチアップを考えていますか？

コーカー　10月頃に試合を組もうということで話を始めたところなんだ。対戦相手としては、ゲガール・ムサシ、またはレナート・ババルあたりで、と思っているんだけどね。

――では、ダンヘンはライトヘビー級転向ということですか？

コーカー　いや、ダンもミドル級とライトヘビー級両方で闘いたい意向があるようだから、魅力的なマッチメイクが組めるかどうかで決まると思う。

――元WWEのプロレスラー、バティスタとの交渉がまとまらなかったと聞きましたが、実際のところどうですか？

コーカー　誰がそんなことを言っているんだい？　ご存知のとおりバティスタは先日（6月16日）行われたロサンゼルス大会の会場に来ていただろう？　バティスタがMMAに興味があるということで話をするようになったんだ。交渉がまとまらなかったのではなく、まだ交渉中というところだよ。

――バティスタはハーシェル・ウォーカー同様、やはりテレビ視聴率要員ですか？

コーカー　ハーシェルがこのMMAというスポーツにどれだけ新しいファンを連れてきただろう？　彼を通じて多くの人が、新たにMMAに興味を持ったんだ。それに彼がどれだけ真剣に厳しいトレーニング耐えて試合に備えたか、キミはAKAでちゃんと見ているだろう？

――はい、アスリートとして非常にシリアスかつハードなトレーニングでした。

コーカー　もちろん、これはビジネスだからテレビ視聴率を考えなければならないし、そうじゃないとMMA業界全体がさらに大きなものにならないんだよ。ただ、視聴率のために誰でもケージに入れようというわけじゃない。バティスタもハーシェル同様、ハードなトレーニングを積んで試合に備えてくれると信じているんだ。

――超人気女子ファイター、ジーナ・カラーノの復帰はありますか？

コーカー　いまはタイで練習を積んでいると聞いている。ぜひ、いますぐにケージに戻ってほしいと思っているんだけど、ここしばらくは話をしていないんだ。おそらく復帰の際には、135ポンドの階級に落とすことになるだろうね。

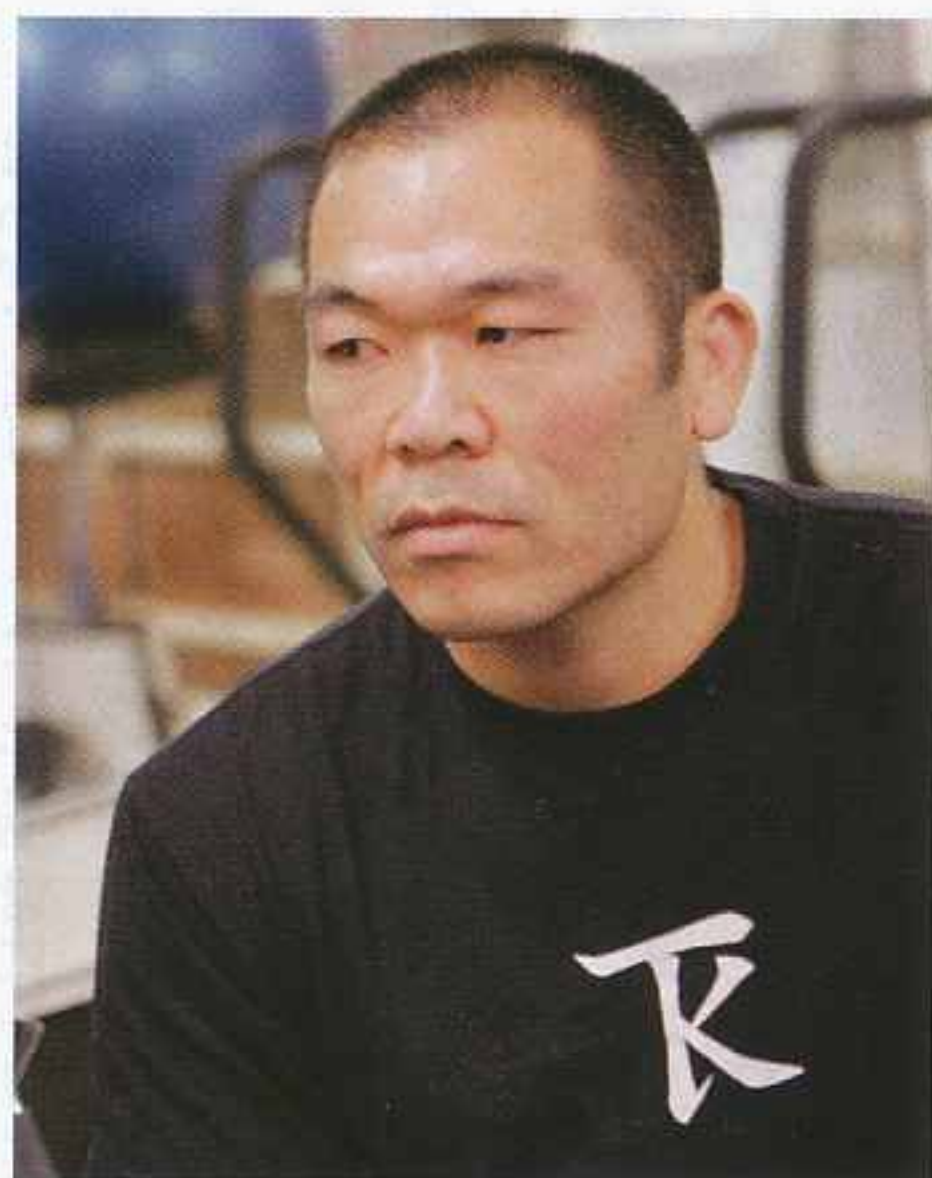
――最後に7月10日の『DREAM・15』に来場すると聞いていますが、目的は？

コーカー　もちろんジョジョエン（叙々苑）のためだよ！（笑）。ジョジョエンで焼肉を食べたあとは、アオキvsカワジリを筆頭に興味深いカードが並んだ『DREAM・15』を観戦して、同時にDREAMとの提携をより深いものにするために、今後についての話し合いを持つ予定なんだ。これからもDREAMと協力して、日本のファンに喜んでもらえるカードをどんどん組んでいくから、ぜひ楽しみにしていてほしいね。

――では、また日本でお会いしましょう！

【10年6月26日／米国カリフォルニア州サンノゼ、HPパビリオンにて収録】

"60億分の1"と二度闘った男が
世紀の敗戦を徹底分析!

ファブリシオが攻略した
"ヒョードルの穴"
とは何か?

マット界のご意見番

髙阪剛

ついに60億分の1の男がまさかまさかの陥落!
この歴史的敗戦を"世界のTK"はいったいどう見たのか?
かつて唯一ヒョードルに土をつけたことのある男が、
今回もわかりやすくプロフェッショナル解説!

聞き手／鈴木佑　試合写真／石井史彦、乾晋也

もしかしたらヒョードルのパンチに以前のような破壊力がなくなってるのかも

——髙阪さん！　なんとヒョードルが敗北を喫してしまいました！

髙阪　うん、とうとう負けちゃいましたねえ。

——まず率直な試合の感想をお聞きしたいんですが？

髙阪　まぁ、一本負けという結果に関しては、これまでにヒョードルのああいう姿を観たことがないという意味で「すげえな」とは感じました。だけど試合をよく観てみると、たとえばあれをヒョードルじゃない選手に置き換えれば、ごくごくあたりまえの試合展開なんですよね。

——ほ〜、それはどういった部分で？

髙阪　まず、ファブリシオがスタンドの攻防でうしろに倒れますよね？　確かに一瞬パンチが効いたのかもしれないですけど、すぐに仰向けでガードポジションを取った時点で、もう寝技に持っていくつもりで倒れたと思うんですよ。

——一応、ファブリシオは試合後に「パンチで一瞬記憶が飛んだ」とは言ってるんですよね。

髙阪　いや、でもグラウンドでヒョードルが突っ込んできたときには意識があったと思いますよ。だから、三角を狙って脚を開いた状態で迎え撃った、と。そこでヒョードルがミステイクだったのが、かつぎのパスガードにいったことですね。

——かつぎのパスガード、ですか？

髙阪　要は足をかついでやるパスガードですね。でも、それは三角を狙ってる相手に対してはやっちゃダメなんですよ。

——ヒョードルは攻め急いだ部分もあるんですかね？

髙阪　それもあるでしょうけど、単純なミスですよね。パウンドを落とすにしろ、無理な体勢からじゃなく両腕とも相手の脚の内側に入れないといけなかった。まぁ、ファブリシオもガードの中に入れないよう身体を左右にひねってディフェンスしてますけど、そこでヒョードルは内側に入ろうとするか、一旦立ち上がるとか、そういう処理をするべきだった。肩にファブリシオの脚がかかってる時点で無理に殴りにいったのはまずかったですね。

——なるほど。

髙阪　あと、なんでヒョードルの試合だとパンチで倒された相手がグラウンドで攻められなくなるかっていうと、半分以上はその破壊力に「なんだコレは!?」ってビビっちゃうからだと思うんですよ。でも、それが今回のファブリシオには見られなかった。ということは、ヒョードルがミスをしたっていうよりも、もしかしたらヒョードルのパンチに以前のような破壊力がなくなってきてるのかもしれないですね。

——でも、ここ最近のヒョードルの試合を観てるぶんにはそんなこともないような気もしますが……？

髙阪　う〜ん、そうなんですよね。だから、今回は当たり方が弱かったのかもしれないし。通常、ヒョードルの試合っていうのは相手に「なんだ、この拳の硬さは？」って思わせるところから始まるので（笑）。

——ヒョードルと二回拳を交えた髙阪さんが言うと説得力がありますね（笑）。

髙阪　だから相手はその意識を試合中に拭いきれずに負けるっていうのが、いままでのヒョードルの闘いではよく見られた展開だと思うんです。でも、ファブリシオは今回ヒョードルが襲いかかってきても、冷静に寝技にいく準備をしてましたから。

——それは柔術家としての条件反射なんですかね？

髙阪　それもあるかもしれないですね。まぁ、ヒョードルのミスもあるし、パンチのヒットポイントがズレてたのかもしれないし、ファブリシオの身体に染みついた動きが自然に出たのかも知れないし、いろんな要素があの1分のなかに組み合わさったんだと思います。

——たとえばアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラはヒョードルに三角を極められなかったわけですが、ファブリシオが極めた一番の要因というと？

髙阪　やっぱりまずはパンチの破壊力だと思いますよ。いくら三角を仕掛けても、パンチを効かされたら手足がしびれて力が出なくなっちゃいますから。

——ヒョードルのパンチはほかの選手と何がそんなに違うんでしょう？

髙阪　自分が闘ったときは石を通り越して鉄で殴られてるみたいな感覚でしたね。試合中は「なんでこんなに硬いんだろ？」ってずっと考えてましたから（笑）。

——試合中に自問自答するくらい（笑）。

髙阪　あと、今回は早いタイムだったからファブリシオも勝てたっていうのはあると思いますよ。これがもしラウンドが深くなって、ダメージが蓄積してたら三角を極めるのはきつかったでしょうね。

——ファブリシオも「1Rで汗をかかなかったから極まった」ってコメントしてます。

髙阪　滑らなかったってことですよね。あのね、自分はファブリシオとはアブダビの1回戦で当たってるんですよ。

——03年のアブダビコンバットですね。

髙阪　そのときも今回のヒョードル戦みたいに、ファブリシオが下から三角を取りにくる展開があったんですけど、とにかく身体の力が凄く強いなって思いましたね。だいたい、長身の選手は絞る力が分散されるもんなんですけど、ファブリシオに関してはまったくそんなことはなかった。そういえば、そのときのアブダビでもファブリシオはほとんど三角で勝ってましたよ。

——もう十八番なんですね〜。

髙阪　そうそう。しかも、三角を警戒してる相手からも一本取る技術を持ってる選

かつて00年にTKはヒョードルとリングスで対戦し、フックでのカットによりわずか17秒でドクターストップ勝ち。しかし、05年のPRIDEでの再戦ではその圧力の前にTKO負け、リベンジを許している。

手ですから。だから今回の勝利もけっしてフロックではないと思います。

――しかし、これまで唯一ヒョードルに土をつけてた髙阪さんとしては複雑な気持ちもあるんじゃないですか?（笑）。

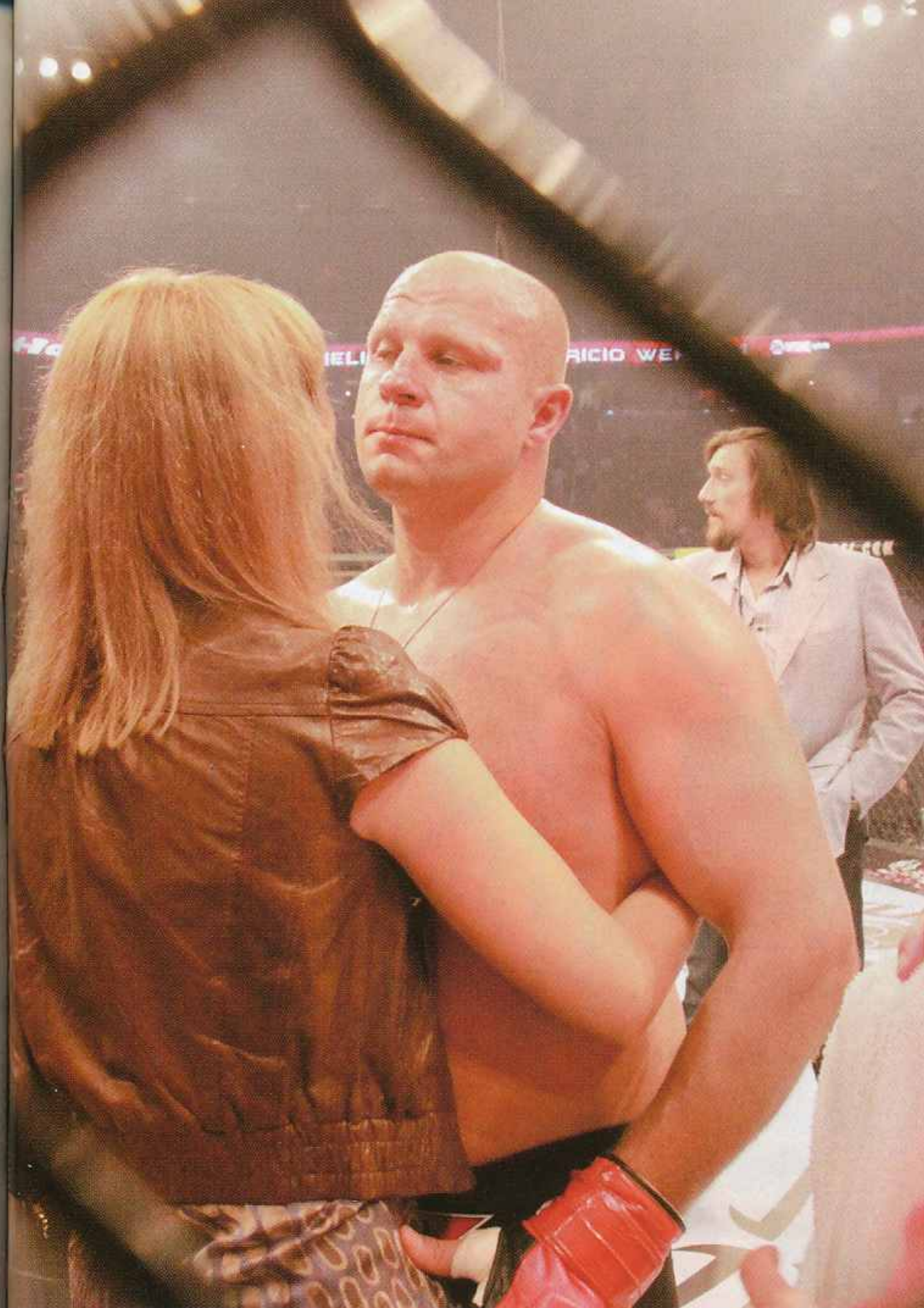
髙阪　いやまぁ、ずいぶん遠い昔のことですしね（笑）。でも、ファブリシオはこれで一躍名を挙げましたよね。正直、柔術やグラップリングの世界では名声を築いてましたけど、PRIDEやUFCではその寝技の技術を出す場面になかなかならなったと思うんですよ。でも、総合の試合を重ねてきて、その闘い方の感覚をつかめてきたんじゃないですかね。パウンドを落とされながらも三角を取りにいくとか。

――要はMMAの闘い方を身につけてきた、と。

髙阪　そうですね、今回も迷いがなかったと思いますし。実戦慣れしてない選手だと顔面を殴られるのを避けようとして、さっき言ったようにグラウンドで脚を開けないもんなんですよ。脚を開けばそれだけ顔面のガードができなくなるんで。でもファブリシオはその恐怖を経験値ではねのけたというか。

――髙阪さんはヒョードルと05年に再戦した際、その戦前に「ヒョードルには穴がある」と言ってましたけど、それはここ最近のヒョードルにも感じてましたか?

髙阪　う〜ん……いや、あのね、じつを言

ヒョードルはパンチを打つときに全身を使う。そこが〝穴〟なんです

最強神話の崩壊……なんとも寂しげな表情を浮かべるヒョードルの傍らには愛する妻の姿が。試合後、ヒョードルは「ここでの言葉は意味はない。打撃に集中していたから、これから敗因を探る」と物静かに語った。

"ヒョードルの穴"とは何か?

うと自分もそのときにこれをやりたかったんですよ。ヴェウドゥムと同じことを（苦笑）。

――あ、そうだったんですか⁉

髙阪　ヒョードルって、スタンドでもグラウンドでもパンチを打つときに全身を使ってくるんで、威力こそ絶大なんですけど一発が大きいぶん、その戻りが遅いんですよ。もちろん、それも普通の選手に比べれば全然早いんですけど。

――唯一そこがヒョードルの穴だ、と。

髙阪　そうですね。ヒョードルは自分のバランスを崩しながらでも、相手の顔面に当てようとする打ち方をしてくるんです。で、自分が試合したときは腕十字で捕らえようと思ったんですね。でも、実際は一発パンチをもらって「なんだコレは⁉」と（笑）。目にパンチをもらって見えなくなっちゃって、「これはもうどうしようもねえな」って感じでしたね。

――今回、ファブリシオはうまくその穴を突いたわけですね。

髙阪　だからもし本人がちゃんとそのタイミングを狙って極めたのならたいしたもんですよ。

――しかし今回、ヒョードルが負けたことでヘビー級戦線も相当混沌としてきたといいますか。

髙阪　そうですね。ファブリシオも今回ヒョードルに勝ったことでここまで脚光を浴びてますけど、これからどんな相手に対しても狙ったとおりの試合展開を作れるのかどうか、正直今回の試合だけじゃわからないですよ。そういう意味では次の試合こそ勝負になるでしょうね。今回の試合で「ファブリシオの三角は強い」って認識されたわけですから、ファブリシオが仰向けになった時点で相手は警戒して攻めてこないかもしれないし。まぁ、ホントにヒョードルが負けたことでパワーバランスは一気に崩れましたよね。

――これからのヒョードルについてはどう思いますか?

髙阪　どうなんですかね?　ヒョードルって目先の技術にはとらわれないというか、自分の身体から自然に出てくる動きを大事にしてると思うんですよ。だから今回の敗戦でヒョードルも多少は戦術というものを考えるでしょうけど、そこまで様変わりはしないと思いますけどね。

――一部では政治家転身の噂や、試合へのモチベーションが低下してるんじゃないかって話もありますけど。

髙阪　でも、今回の入場や試合開始時のたたずまいを見ても、いつもと同じように感じましたけどね（笑）。まぁ、根本的な部分は変わらないと思うんで、たとえばファブリシオと再戦してもまた同じことが起きるかもしれないし、逆に打撃戦で終わらせるかもしれないし。なんにしろ、ヒョードルの次の試合もいろんな意味で楽しみですよ。

――いろんな意味で（笑）。

髙阪　もしかしたらヒョードルがもの凄く対策を練って、青木（真也）とやったギルバート・メレンデスみたいに慎重になったりね。

――それは想像つきにくいですね〜。

髙阪　でしょ?（笑）。でも、ヒョードルがそういう戦術家になったらそれはそれで驚きだし、いろんな角度から考えても次の試合に注目したいですね。

【10年7月1日／電話取材にて収録】

こうさか・つよし■1970年3月6日、滋賀県出身。94年にリングスでデビュー。98年からUFCに参戦、"世界のTK"と呼ばれる。その後、パンクラスやPRIDEなどで活躍し、06年に引退。「A-SQUARE」ジムを主宰。

UWF、UFCに続く衝撃!?

時代は U STREAM が動かす!!

話題のネット・ストリーミングとは何か?

双方向性動画サービスがマット界に革命をもたらす!
FEGや新日本プロレスが記者会見を中継し、19時女子プロレスが試合中継を試み、
レスラーやマスコミが雑談や討論をぶちまける——。
"テレビ格闘技"が崩壊寸前のいま、はたしてUSTREAMは救世主になれるのか!?

USTREAMとマット界、その可能性

文／buggy

ある6月の休日。用事を早めに切り上げ時計を気にしながら急いで帰宅。PCの前に座り19時からその名のとおり『19時女子プロレス』生中継を観る。観客を入れないネット・ストリーミング放送USTREAM中継専門プロレス大会だ。観客不在といえば、猪木の巌流島を思い出さずにいられない昭和ファンもいるかと思うが、過去のそれと違う点はリアルタイムで全世界にネット配信されていることと、ツイッターを通して応援のコメントを入れられることだ。

こう書くとネット特有の冷たさを感じる人もいるかもしれないが、実際に「観戦」してみるとその一体感にビックリするだろう。その放送は試合後のインタビューも含め全1試合約30分の放送で終了。

次はこれまたUSTREAM中継のSMASHに参戦する華名の会見を挟み、音楽&トーク番組で日本USTREAM界を代表するコンテンツ『DOMMUNE』を聴く。さらに20時からは『kamipro』の座談会「俺たちのミルコ・クロコップ」を約2時間たっぷり堪能。気がつけば22時。つまり休日の19時から3時間といういわゆる「ゴールデンタイム」をUSTREAMだけですごしたことになる。

そのあいだは既存テレビのように一方的に情報を受け取るだけでなく、USTREAM上にツイッターを通して出演者にメッセージを送って番組で取り上げてもらうことも嬉しい。よくUSTREAMを表現するときに「誰でもメディアを持てる」という文句を見るが、これまでもブログや動画で誰でも持てるメディアというのは存在した。そのうえで最近USTREAMが盛り上がっている理由は「ライブ」「双方向性」の2点が強化された部分なのだろう。

たとえば先に書いた音楽イベントの『DOMMUNE』（この番組はとくに音質が最高）は金、土曜日を除く日曜から木曜までさまざまなトークショーやDJタイムが日々行なわれており、まるで自分がクラブにいるような気分になれるうえに楽曲の感想などをリアルタイムで他人と共有できる。ちなみに金、土曜日に放送がないのは「実際のクラブに足を運んでほしい」という主催者の願いだそうで、このリアル重視感にニヤリとさせられてしまう。同番組でデトロイト・テクノの重鎮であるデリック・メイが出演したときは1万4000人という、会場で言えば武道館満員クラスの視聴者数を記録しているから、まさに「ファイナル・メディア」という称号はダテじゃない。

そもそも2007年にアメリカ人3人によって立ち上げられたUSTREAMはツイッター同様2008年の大統領選時にオバマ現大統領の演説を中継したことで知名度を伸ばしたという。勝手な認識だが、インターネットをはじめITテクノロジーが発展するのは「戦争における情報戦」と「エロ」がきっかけだと勝手に認識していたのだが、もはやそんな時代ではないのだと少し平和な「なう」にニッコリ。

さらに2009年5月にはツイッターとの連携でその勢いは加速。そして、そのテクノロジーは2010年6月1日、ツイッターを立ち上げたアメリカ人3人の予

想もしなかったであろう埼玉県蕨市の「アイスリボン」へメッセージ・ボトルか、はたまた風船爆弾なみに届いたワケだ。

その存在を知ったアイスリボンを率いるさくらえみはUSTREAM中心の団体を企画。それに手を挙げて代表に就任したのがアイスリボンの所属であった北海道・札幌出身の「帯広さやか」であり、19時女子プロレスの現在は彼女の成長物語という側面も持っている。そしてこの「団体」こそ現在マット界におけるUSTREAMの可能性を持ち合わせている最先端の団体と言いたい。それは先ほど書いたUSTREAMの特徴である「ライブ」「双方向性」に加え「成長物語」を共有できる存在だから。いわば「人間」という生き物が大好きな、漫画『ドラゴンボール』に代表される「成長物語」が頻繁にライブで体感できると同時に、これまでは不可能だった自分の意見を本人にリアルタイムに届けられるということを無料で届けているからだ。

最近ではファスト・フード店の「無料コーヒー」のように「フリー（無料）」で客を呼び、そこで同時に食べ物も注文してもらうビジネス・モデルが世界中で注目されている。たとえば音楽の世界だといまや海外では大物アーティストでも期間限定ながら無料でアルバム1枚聴けるというものも珍しくないが、その目的はライブの収益だ。そのビジネス・モデルはまだ歴史が浅いのではっきりと実券の売上につながった例は見当たらないが、流れとしては世界的にあたりまえの状況なのだ。現在アメリカで市民権を得た総合格闘技団体UFCも起爆剤となったのは若手選手の成長物語を中心に放送した『THE ULTIMATE FIGHTER（通称『TUF』）』ということはMMAファンならご存知のとおり。そこには選手の技術や強弱を超えた「思想」「姿勢」などの背景、バックボーンがあるからこそ視聴者は選手に感情移入する。日本のAKB48の総選挙やアメリカで定番のリアリティ・ショーも言ってみれば外見や技術云々よりアーティストの「背景」が評価につながっているのだ。

そう、現在のデジタルな世界だからこそ、その反動で浮き彫りになるのはその人間の「背景」。現在はCDが売れない時代だと言われるが、朝の情報番組『とくダネ!』で小倉さんが紹介したCDは驚異的な売れ行きを記録している（以前より破壊力が低くなっているのは否めないが）。なぜか。小倉さんは「声が綺麗」や「曲がいい」という表面上な技術ではなく「なぜこのアーティストがこの曲を歌うか」などの「背景」や「思想」をわかりやすく一般層に紹介するからだ。そしてその言葉がテレビを通じてファン以外にも伝わるからこそ幅広い購買層が生まれるのであり、これこそが「すそ野を広げる」ということなのだろう。

織田信長と鉄砲、ビル・ゲイツとコンピュータではないが、野望のある若者とテクノロジーが合体したときに革命が起こるのは周知の事実。それが「帯広さやか」と「USTREAM」だった、と功績を独占させないためにも日本マット界はいまこそUSTREAMをはじめとするリアルタイム・ネット配信に動き始める時期なのだろう。

音楽プロレス日記→http://blog.livedoor.jp/buggy/
ツイッターアカウント→http://twitter.com/buggymasa

“メガゲリラ” 新日本プロレス USTREAM 戦略

ツイッターで調子に乗ってる新日本プロレスがまた図に乗っていろいろ始めやがった!
USTREAMやYouTubeなど、動画配信サービスにも力を入れているのだ。
いったいどんな狙いがあるのか。いまや新日本プロレスの顔ともいえる“ガオ”に話を聞いたガオ!

聞き手／ジャン斉藤

――今日は、USTREAMの可能性について話を聞きに来ました！

1号 なんでも聞いてください。

――あ、今日の1号は最初から語尾に「ガオ」がついてない。そして敬語駆使。

2号 （無視して）自慢じゃないですけど、プロレス界で最初に始めたのは我々ガオよ。エッヘンガオ。

――いきなり自慢ですか。

1号 申し訳ないけど、草分け的な存在なんですよ。

――パイオニアってこと？

2号 そう！ パイオニア精神に満ちあふれてるガオよ〜！

――え？ パイオニア戦志がなんだって？

2号 パイオニア精神ガオよっ!!（怒）。

――ああ、パイオニア精神。そんな剛竜馬なガオたちはどうしてUSTREAMなんてものを始めたんですか？

1号 それはですね、サムライTVさんが出てきてから、その日のうちに記者会見の映像が観られるようになったけど、新日本としては〝現場の熱〟っていうものを少しでも早く届けられる術はないのかなあって考えていたんですよ。

2号 そうガオよ。

1号 で、ツイッターを始めてからUSTREAMというものがあることを知って。ほら、DJが皿を回してるのをただ映してるだけの番組があるじゃないですか。

2号 『DOMMUNE』ガオよ〜♪

1号 ああいう配信に凄く可能性を感じて「新日本プロレスでもうまく使えないかな」とは思ってたんですよね。

2号 で、ウチが始めた同時期くらいにK−1も記者会見をUSTREAMで流し始めたガオ。

会見の様子がリアルタイムで観られる時代。記事を通してでしか知ることができなかった選手の個性も直に触れることができる。

1号 ……あれ？ K−1さんのほうが先だったかな。

2号 むむ？ こっちがちょっと先のような気もするガオ……？

――パイオニア戦志疑惑がある、と。まあそのへんは誰も調べはしないでしょうから新日本が剛竜馬ってことにして。このUSTREAMを導入することは会社内であまり問題にならなかったってことですね？

1号 問題なかったですね。というか、USTREAM自体、社内でも誰一人、どういうものなのかを理解してなかったですし（笑）。それにべつに会社にとってデメリットはないじゃないですか。

2号 新たな情報発信ガオ!!

1号 ニュースを即座に配信するということは、会社にとっては絶対にプラスになることだと思ってました。で、新日本はテレビ朝日さんと映像の契約を結んでますけど、記者会見に関しては触れてない部分になるので。

――USTREAMを配信するにあたって、機材等の費用はどれくらいかかったんですか？

2号 もともと機材は全部揃ってるガオよ！

1号 カメラも編集機材もあるし、ネット環境もある。もともとオフィシャルホームページで動画を流してたんですけど、アクセス数がかなりあったんでサーバーに負荷がかかっちゃって、なかなか軽快な動画というのは配信できてなかったんですよね。

2号 難しかったガオね……。

1号 もっと言うとケータイサイトを始めた2005年のときには、じつは動画サービスを売りにしてたんですよ。そこから始まってましたよね、動画のノウハウというのは。

――そのときのかかった経費というのは？

1号 えっと、いやぁ、どれくらいだろう……。軽く1500万かな（苦笑）。

2号 ！！！！！！！

1号 カメラもそうだし、あと編集機材もそうだし。それがいま非常に役に立っている。2005年に1500万をかけて5年経ったいま、ようやく……（笑）。

2号 やっとやっと花が開いたガオよ〜。

1号 まあ、でも、当時は危惧する声がやっぱりありましたよね。「そんなものにカネをかけていいのか？」って。ただ、ボクたちは菅林（直樹）社長の兵隊なんで（笑）。あの人が「やれ！」って言ったら、ボクらは「やる！」みたいな。

2号 「刺しにいけ！」と言われたら刺し

2005年に1500万円をかけて5年経ったいま、ようやく……

ガオとは何か？

ガオとは、新日本プロレスのツイッターで活躍する名物キャラクターである。語尾に「ガオ」をつけるのが特徴。1号と2号が常時つぶやいているが、何号まで存在するのかは不明。その正体は佐山サトルから永源遙説まで流れている（列伝調）。

[ツイッター]
http://twitter.com/njpw1972

[YouTube]
http://www.youtube.com/NJPW

にいくガオよ〜！

——ガオ木真也になる、と。いまはスポーツ紙がなかなか誌面を割けない状況もあって団体から発信していく必要に迫られてるところもあるわけじゃないですか。そういった危機感はどの時期から生まれたんですか？「もうマスコミに頼れないぞ」と。マスコミの自分が聞くのもへんな話なんですけども（笑）。

1号 やっぱり『ファイト』さんと『ゴング』さんがなくなったあたりからじゃないですかね。06〜07年あたりくらいからは観客動員にもやっぱり直結してましたからね。

——そんなに影響がありました？

1号 いまの後楽園ホールの賑わいと比べたら、だいぶ違ってましたねぇ。「おもしろいものが提供できてなかったからだ」と言われればそれまでなんですけども（笑）。やっぱり露出度が格段に減りましたからね。

2号 専門誌2誌が減ったからしょうがないガオよ……。

1号 だから『YouTube』やUSTREAMを使って団体発信しなきゃダメだと思える時代になってきましたよね。いままではちょっと遠慮してたところがありましたけど、待ってたら何もニュースを発信できないですからね。

2号 恥ずかしがってる場合じゃないガオよ！

——あんたはもうちょっと恥ずかしがったほうがいい。

1号 で、それにいまはプロレスラーがテレビ番組に出る機会も減ってるじゃないですか？……まあ藤波（辰爾）さんはこないだ出ましたけど。

——『めちゃイケ』の『歌ヘタ選手権』ですね（笑）。ウフフ〜♪

1号 夢の中に行っちゃいましたけど（笑）。でも、ただでさえ露出が少ないなかで、団体自らがそうやってレスラーの情報を発信していかないと生き残れないと思うんです。正直言って「新日本プロレスって誰がいるの？」って一般人に聞いたら、まだ蝶野（正洋）さんとか（アントニオ）猪木さんの名前を出す人が多いと思うんですよね。だけどボクらがいま売りにしてるのって、やっぱり棚橋（弘至）とか真壁（刀義）とか、中邑真輔じゃないですか。

——まずは知ってもらうことが大事なんですね。

1号 そうです、そうです。だから19時女子プロレスという試みは凄いと思いますよ。ホントにお世辞抜きで。

2号 スゲエことをやり始めたなって。

2号 いつかは新日本もやりたいガオ！

——ほんなら、やれや！（アントン調）。

1号 ちょっと待ってください（笑）。やっぱりボクらはCS局やテレビ朝日との兼ね合いや権利上の問題があるんですよねぇ……。ホントだったらやりたいですもん、やっぱり。

——19時女子プロレスはビジネスになってないから、できたんじゃないかって。

1号 あ〜、そうそうそう。しがらみがいい意味でないっていうか。で、これからビジネスになるかもしれないじゃないですか。凄く可能性を秘めてると思う。

“メガゲリラ”新日本プロレスUSTREAM戦略

2号 そこは2号も同感だガオ！ USTREAMが始まったときに友人がおもしろいことを言ってたガオよ。USTREAMの有名番組って『DOMMUNE』とかも基本的に録画をしないんガオよ。

——ほほう。

2号 ほら、テレビっていまみんな録画できる。だからライフスタイルがテレビに束縛されないけど、『DOMMUNE』が配信するときには「早く帰らなきゃ！」っていうふうになる。まあ、いまはiPhoneでも観られるけど、USTREAMによって「ライフスタイルが変わった」っていうことを言っている人がいたんですよ。

——語りだしたと思ったら「ガオ」をつけなくなった。

2号 （無視して）だからホントにオンタイムでしか観られない、いましか観られないメディアっていうのが強いと思うんですね。ま、新日本もUSTREAMの記者会見映像を『YouTube』に上げてますけど（笑）。

1号 会見は情報として残しておかないとね、逆に（笑）。

2号 何が言いたいかというと、プロレスもUSTREAMの使用方法によっては今後のスタイルが変わるってことガオよ〜!!

——あ、もとに戻った。

1号 まあ、そんなにボクらも会見のUSTREAMに重きをおいてないんで。結局は生でやってるっていう、そのスケール感を出したいなっていう。

——いまのスポーツ紙とか、まあウチもそうですけど、既存のマスコミの切り取り方だとホントに伝えたいことが伝わらないっていう懸念はありましたか？

1号 あんまりそこは心配してなかったですね。

——たとえばスポーツ新聞的な価値観で計られることもあるじゃないですか。編集記者の価値観で団体が伝えたいことを切り取ってしまう。それが正しいか間違っているかは別として。

1号 大衆的な価値観を編集サイドが勝手に判断するってことですね。

——先ほど、新日本は蝶野だ猪木だっていうイメージをいまだに引きずっているということをおっしゃっていましたけど、たとえば蝶野さんと真壁さんの試合を発表したとすると、スポーツ紙的な価値観で言えば、蝶野さんを大きくするような気がするんですね。

1号 うんうん。

——そこを自分たちで発信することによ

プロレスと聞けばいまだに「馬場と猪木、どっちの団体?」と尋ねてくるのが世間様。業界的には“脱・猪木”に大成功している新日本プロレスだが、新生ぶりはまだまだ世間に届いてるとは言い難いのである。ガオよりダー。

『G1』の開幕戦をUSTREAMだけは生でやりますなんてことになったら……

って、本当にファンに伝えたいことを伝えられますよね。

1号　それはもちろんありましたけど、それ以上に何もしなかったら、たぶん何も報道されてないと思うんですよね。いまって、いくら新日本が会見をやっても何も書かれないおそれがあったわけなんですよ。

2号　そういう時代ガオよ……。

1号　ボクも新幹線に乗って出張に行くときとか、スポーツ紙を買うんですけど、プロレスの記事を探しちゃいますもんね。昔はプロレスコーナーがドーンってありましたけど、いまはどこにあるんだろう？って。

——ちょっと寂しいことになってますね。だから新日本ファンが情報を得るために既存のマスコミを経由することはなくなっていくでしょうね。

2号　そうなるガオか？

——普通にね、新日本の『YouTube』、USTREAM、ツイッターにアクセスにすればいいやって……ことになりますもん。

1号　でも、そこでもうちょっとダイナミズムがないと……。

——ああ、いまアクセスしてるのはマニアだけでしょうね。

1号　そこでダイナミズムを生むためには、IWGPのチャンピオンシップをUSTREAMで流せたらサイコーじゃないですか。

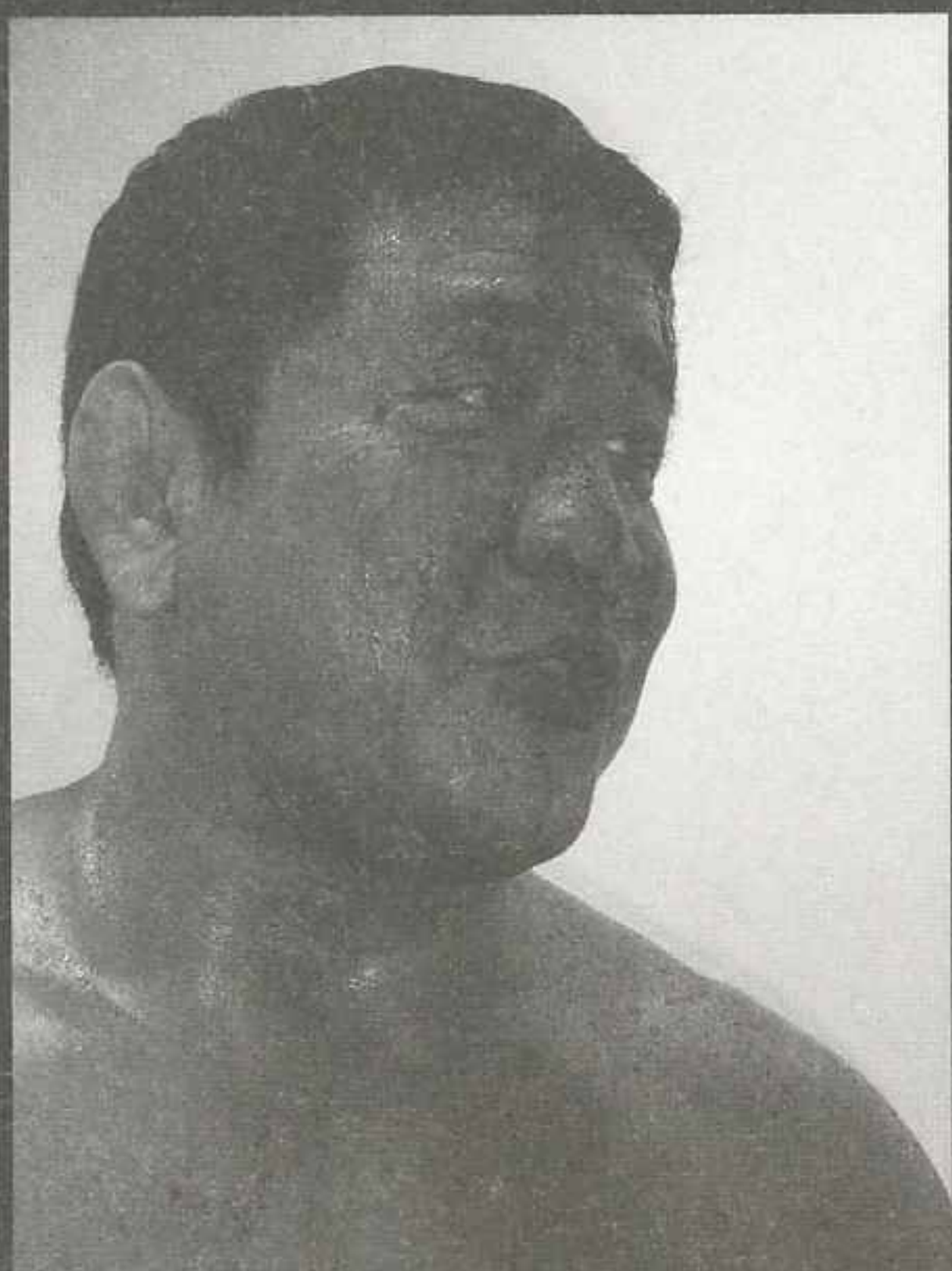
——革命でしょう！　もし実現すれば、マット界におけるUSTREAMの存在感が爆発するわけですから。

1号　どうやってビジネスにつなげることができるかですよね。もう『G1』の開幕戦をUSTREAMだけは生でやりますなんてことをやったら、もの凄いパブリシティになる。

——そうすると、ますますマスコミが緩やかな死に向かっていく感じが……。

1号　そんなことないですよ！（笑）。

2号　だから、やっぱりそこで情報がツイストしてないと意味がないガオ。いい意味でマスコミが加工していくものも絶対にニーズはあると思うガオよ。編集長、安心するガオ。

——全然うれしくない。やっぱりね、これはマスコミだけに限った話じゃなくて、「ゲリラ」ってゲリラ的なことができるからゲリラなのに、メジャーにゲリラ的なことをやられたらゲリラの存在意義がなくなると思うんですよね。まあ、いまはどのジャンルにもメガゲリラとも言える存在は多いんですけど。

毒霧まみれの永田さんがカラーでお届けできないなんて!!……という心配もご無用でござる。"生・永田さん"が普通に配信される日がそのうちに来るのだから。白目をして待て!

2号　そういえば、大社長（高木三四郎）も似たようなことを言ってたガオよ～。「こんなことをメジャーにやられたら打つ手がない」って。だって、ツイッター展開もUSTREAMも本来ならDDTのオハコっていう感じガオ。でも！　後塵を拝したガオね～。ククク。

——だから、ホントにそこでUSTREAM定着の起爆剤になるのは、今年の『G1』を流してくれるのがいいんじゃないかな、と。

1号　それは斉藤さんのツイッターでも書いてましたね。

——PPVはPRIDEの髙田（延彦）vsヒクソン（・グレイシー）があったからこそ拡散していったし。

2号　そういえば、ニコ動で青木vsメレンデスの試合が生で流れたじゃないですか、あのときの高揚感というのは、ホントにレボリューションで……。

——あ、また素になった。あれも事件でしたよね。

1号　よくオンエアできましたよね。

——CBSが絡んでて、ショウタイムが絡んでて、ストライクフォースが絡んでて。TBS、FEG、ドワンゴじゃないですか。これをクリアするって凄いですよね（笑）。青木vsメレンデスだから実現できたんでしょうけど。地道にコツコツやるのも必要ですけど、ああいった打ち上げ花火もほしいですよね。

1号　でも、まあ夢というか理想は、たとえばですけど、新木場1stリングでUSTREAM限定の試合をやってもいいんじゃないかなって思ってますね。

2号　一度はやりたいガオね～。

1号　そのときはお客さんが来ようが来まいがいいんですけど。

2号　来ると思うガオよ。

1号　ホント？

2号　間違いないです！　じつはボク、『DOMMUNE』にお金を払って行ったんですよ。それでも全然おもしろかったですよ、現場にいても。

——どうやら2号はプライベートを話すときは「ガオ」をつけないのね。1号としてはビジネスとしての設計が成り立ってから配信したいですが、それともノリでやっちゃうか。

1号　ボクは後者ですけどね。一回やりたいですよ、ノリで。

2号　ノリだガオ！　それで爆発すれば定着するかもガオ！

——たぶんビジネス的な設計を考えていたら遅いですよね、きっと。

1号　時間もかかるし、USTREAMなんて、ここ数年のものですけど、次にどんなデバイスが出てくるかわかんないじゃないですか。いまでこそUSTREAMって言ってますけど。そこについていかなきゃいけないので。待ってたら何も生まれないし、だからやれることはいろいろと試したいな、っていうものの一つがUSTREAMですよね。ツイッターに変わるものが出てくるかもしれないじゃないですか。mixiがあれだけ騒がれていたのに、いまはもうツイッターじゃないですか。

——まあ、ガオに成り代わるヤツも出てきてもおかしくない。

2号　おかしくないガオね。……って、その前に『kamipro』はもっと新日本を取り上げるガオ！

【10年6月某日／都内・新日本プロレスにて収録】

マット界で話題の19時女子プロレスの裏側を徹底レポート!!

USTREAM中継の創り方

USTREAM発の女子プロレスとして、今年6月1日に旗揚げした19時女子プロレス。試合観戦をUST中継のみにすることで開催試合数を増やし、全国にネット配信で女子プロを届けるのを目的とした新団体の舞台裏に密着！

文／高崎計三　撮影／平工幸雄　構成／鈴木佑

埼玉県・蕨のイサミレッスル武闘館。普段はアイスリボンの道場マッチも開催されているこの場所が、『19時女子プロレス（以下、19時）』の収録スタジオになる。今回、ここにお邪魔し、番組が中継される様子を最初から最後まで見学させてもらった。

まず、19時について説明しておこう。19時は史上初、インターネットでのUSTREAM（以下、UST）中継でしか試合を行なわない新団体である。その名のとおり、試合中継は19時から約30分間。基本的には週3回の生放送で、あとから観ることはできない。所属選手は、代表でもある帯広さやか、ただ一人。しかも彼女は今年デビューした〝ド新人〟だ。この団体を発案して立ち上げたのはアイスリボン代表のさくらえみだが、さくらはこの団体では「お手伝い」でしかない。

一回の番組のなかで放送されるのは、帯広さやかの試合一試合のみという場合がほとんど。観客はUSTで観戦しながら、ツイッターで反応していく。解説、実況、対戦相手は原則ボランティアでの参加となる。

中継の準備が始まったのは午後6時。2階の事務所にあるパソコンなどの機材を、番組の主役である帯広さやか、真琴、都宮ちいが1階に運んでいく。取材したのは6月18日だったが、同月1日の旗揚げからすでに半月以上が経ち、中継も8回目を数え、セッティングも手慣れた様子で進んでいく。

指揮を執るのは、アイスリボンを運営するネオプラスの佐藤肇代表。佐藤氏は「舞台監督」といった役割で、真琴が実況席に座ると進行確認。

そのあとは男性スタッフとともに機材チェック、35分に実況役のGENTAROが会場入りすると全体について打ち合わせと、大忙しだ。とくにGENTAROとは、「前回はここでこう言ってたから、今回は～」と過去の内容も踏まえて、細かいチェックを入れる。

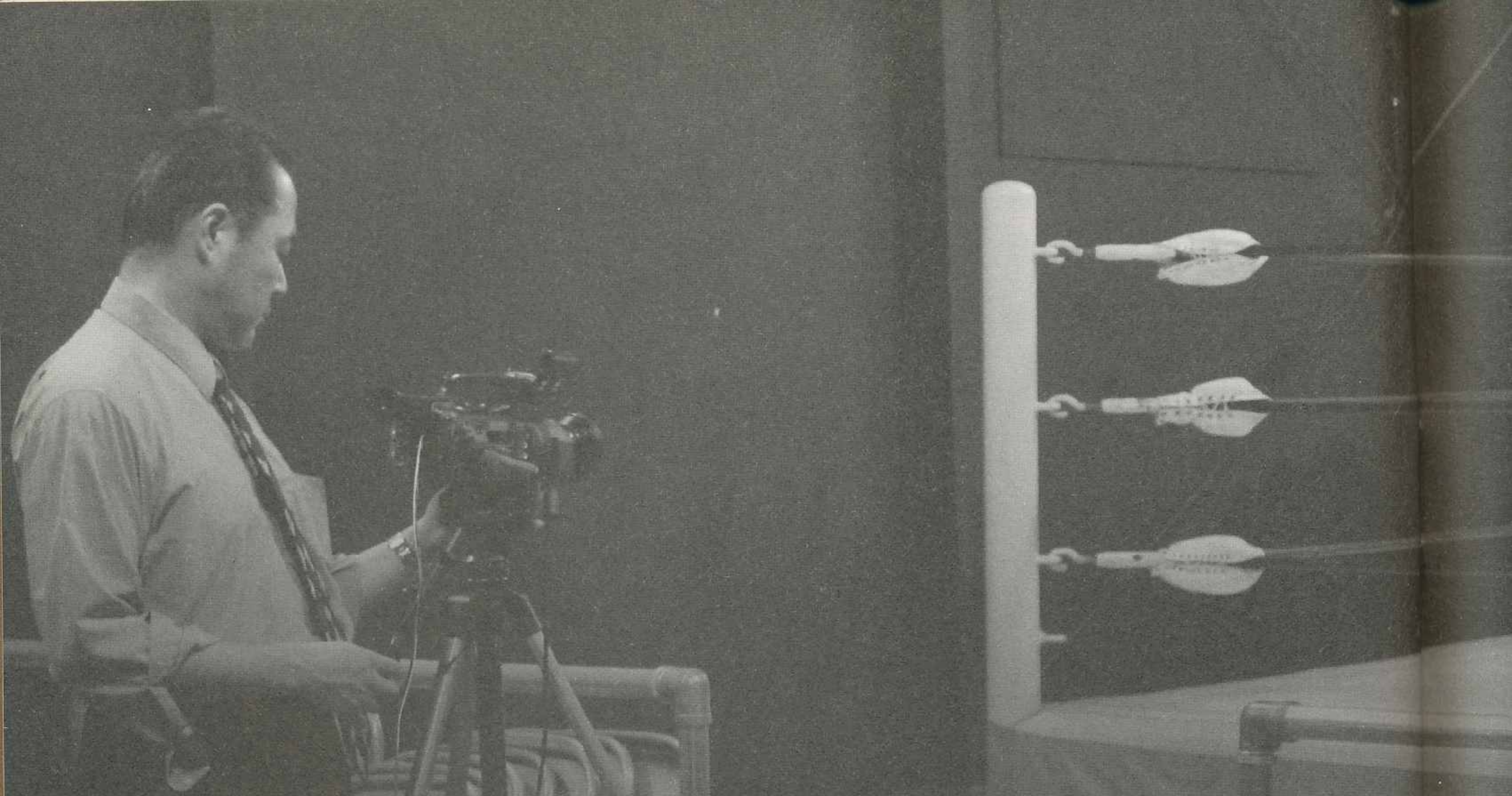
45分には各人が配置につき、55分には佐藤氏が「5分前」コール。

ここまで見て、意外に感じた点が二つある。まず、現場はもっとピリピリしているのかと思っていた。とくに本番開始の迫ったこの時間、それこそ「5分前！」という声とともに、出演者もスタッフもピシッと背筋を伸ばす、みたいな。でも、そんなムードはない。この日は本誌の取材が入ったこともあり、GENTAROは本番2分前になってもまだ、インタビューを受けてしゃべりまくっていた。

もう一つは、逆に細部へのこだわりが感じられたこと。GENTAROは弁が立つしアドリブもうまい。だから内容面には、「その場のノリでお任せ」なムードなのかと勝手に想像していた。だが前述のとおり、そのチェックは意外と（失礼）細かい部分にまでおよんでいた。

この2点は一見、矛盾するようにとられるかもしれない。だが、ここが19時のよさなのだろう。放送番組としての基礎はしっかりと押さえているが、自由なムードを決して忘れないという点だ。これがカッチリしたTV中継にはない、USTならではのムードと言えるのではないだろうか？

番組開始後、前回までの流れを振り返ったり、アイスリボンの大会を告知したりしたあと、ゴングが鳴ったのは19時14分。この日の対戦カードは、「さくらえみvs帯広さやか」だ。ここからは、画面に映るのはリング上の2選手とセコンド、レフェリーのみ。観客は一人も入っていない。我々のような「部外者」がいるのは異例のことなのだ。

ここで、あることに気づく。ここでは従来のプロレスと違って観客がいないだけでなく、カメラも1台のみ。つまり選手たちは、カメラを通した一方向からの視線のなかで闘っているのだ。これは四方から観られるのとは大きな違いだ。「いつもとは全然違いますね。私たちはレンズを通した先にお客さんがいて、そのもっと先に世界を見て試合をしているんです。視線が一点に集約される新しいプロ

レスを学んでいるところなんです」と、さくらは言う。

帯広が粘った（というのは、さくらの計算どおりだった模様）末にさくらが試合を決めたのは、開始から14分13秒。19時28分のことだ。終了時刻が迫っているが、ここで簡単に延長できるのがUSTのいいところ。さくらの勝者インタビュー、帯広のインタビューに続き、帯広が最後の決めゼリフを言う段になったのは19時37分のことだった。

「自分が〝いくぞ！〟と言いましたら、〝オー！〟とおっしゃってください！」という言葉のあと、帯広が「いくぞー！」と叫ぶと、ツイッターのタイムラインには視聴者からの「おー」「おー！」「オー！」というツイートが無数に並ぶ。帯広が締めて、番組が終了したのは38分だった。

さくらは、この団体のアイデアが出たきっかけをこう話す。

「一つは、サムライTVでたまたま、90年の全日本女子プロレスの『ジャパングランプリ』決勝トーナメントを観たこと。豊田真奈美さんと北斗晶さんの準決勝で、北斗さんのケガで不本意に終わってしまった。その後の決勝で、豊田さんは北斗さんが失敗した技を初めて使って、お客さんの気持ちをつかんで優勝したんです。考える時間もないなかで、なんでそんなことができるんだろう、と。私たちはその頃の選手と違って『選ばれし者』ではないかもしれないけど、そこに向かう努力はしていいと思うんです。だから、もっと試合を増やしたいと思ったのが一つ。

もう一つ、私たちはお客さんに守られてるんです。地方で、好きでもない、嫌いでもないっていうお客さんの前で試合をしてないんですよね。だから地方に行きたい。でもそれは現実的に無理ですから、その代わりに19時をやろう、と」

だったら、アイスリボンの大会をUST中継すればよさそうなものだ。そこでなぜ、「新団体」なのだろうか？

「アイスリボンの中継だったら、まったく話題にならないと思うんですよ。これからみんながやることですから。だったら〝USTのみの新団体〟のほうがいいじゃないですか。だけど、私は以前に、我闘姑娘を抜けて団体がなくなっちゃったってことがあって。だから所属選手ゼロの団体を作ろう、と」

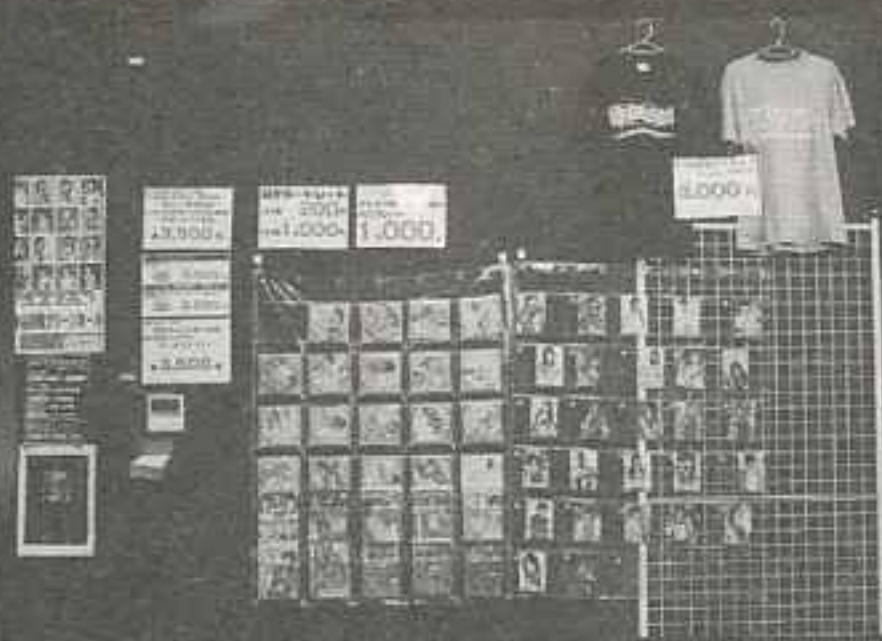
ここで出てきたのが、帯広さやかだ。さくらが最初、アイスリボンのメンバーにこの案を話したとき、返ってきた反応は意外に冷めたものだったらしい。内心しょんぼりするさくらに、「やらせてください！」と志願したのが帯広だった。詳しいことを質問するよりも前に、志願してきた姿に「この団体をまかせられるのは彼女しかいない」と思ったのだという。

旗揚げ戦は１８００人の視聴者を得たが、取材日は「初めて平均視聴が４００を切っちゃったんです」と肩を落とした。でも、この先の目標は1万人の来訪者数を獲得すること。夢はつきない。

「これを独占する気はないんです。いいとこも悪いとこもみんなさらけ出すので、みんなやって競争しましょう。私も去年、アイスリボンがこのままじゃやばいなって思ったときが一瞬あって、自分でライバルを作りたくなったんです。そして、もう脅かされてる（笑）。でも怖いと思いつつ、もっと怖い存在になってほしい。だからみんなで競争しましょう」

帯広さやかは番組の最後に、「世界に届け女子プロレス！」と叫ぶ。USTを使った戦略には、確かに「世界に届くかもしれない」という空気が漂う。その空気をどこよりも早く、一番に吸ったという点で『19時女子プロレス』は、他を見事に引き離している。それがわかった現場取材だった。

USTには映らない！　ビハインド・ザ・19時

毎回、試合後には実況席で選手インタビューが行なわれる。勝者がインタビューを受けてるあいだ、敗者はその横で顔を突っ伏して待ちぼうけ。あぁ、黄昏の帯広ちゃん……。

会場にはアイスリボンのTシャツやDVDはもちろん、ポートレートなどの物販コーナーが常設。会場のイサミレッスル武道館は同団体の聖地であり、週に2回程度の割合で定期戦が行なわれている。

この日、GENTAROのアシスタントを務めたのは、いまやアイスリボンの看板レスラーである真琴。台本を見ながら佐藤代表と念入りな打ち合わせ。“無気力レスラー”と言われてた面影は皆無だ！

テキパキと放送の準備をするスタッフたち。この日はさくらえみ、真琴、都宮ちい、帯広以外に2名の男性スタッフを加えてセッティング。選手たちは試合意外にレフェリーやリングアナも行なう。

19時女子プロレスの"主役"がインタビュー初登場!

『USTREAM 新人女子レスラー』はいかにして生まれたのか?

19時女子プロレス代表 帯広さやか

前ページで紹介した19時女子プロレスの主役・帯広ちゃんが堂々登場!
今年4月下旬にようやくデビューした帯広ちゃんが、
いかにして最先端のプロレスともいえる"USTプロレス"の主役になったのか。
そして週に3回行なわれている19時女子プロレスの舞台裏とは!?

聞き手／松下ミワ　撮影／平工幸雄

USTの企画が発表されたとき一番に手を挙げさせていただきました

――今日は『19時女子プロレス（以下、19時）』の代表・帯広さやか選手にお話をうかがいにまいりました。

帯広　よ、よろしくお願いします。あの、インタビュー取材は初めてなので凄く緊張しているんですけど、ガッと上げて頑張りますんで！（恐縮しきって）。

――ハハハハ。じつは我々、たったいま生で19時女子プロレスの試合を観戦させていただいたんですが、今日のさくらえみ戦は一段とおもしろかったですね！

帯広　あ、ありがとうございます！　そう言っていただけると一番ホントうれしいです！（満面の笑みで）。

――それで19時も、はや9回目ということですが、帯広選手といえば4月29日にプロデビューされたばかりですけど、そこからどういう流れで19時の代表に就任することになったんですか？

帯広　えぇっと、29日にデビューさせていただいて、後楽園（ホール）だなんだって試合数こなしていくうちに、あるとき『サムライTV』さんで「全女クラシック」という昔の全女さんの試合が流れてたんですね。それをさくらさんたちと一緒に観ていたんですけども「なぜ当時の全女の選手はこんなに凄かったんだろう」という話になりまして。

――あの熱はなんだったのか、と。

帯広　それで観てたら、やっぱり普段自分たちがやっているプロレスとは本当に動きが違うんです。で、どこが違うんだろうと考えたときに、昔の全女さんというのは年間300試合以上とか試合してるんですよ。そういうなかで磨かれてきたものってあるので、だったら自分も試合をもっとしたいっていうことをお話しさせていただいたんです。

――帯広さんが団体側にお願いしたわけですね。

帯広　そうですね。やっぱりもっともっと試合をしたい、あとはもっともっと女子プロレスを全国に届けたいというのがあったんで、それでこのUSTの企画をさくらさんが発表されたときに、自分が一番先に手を挙げさせていただきました。

――おお、でもほかに候補の方とかいらっしゃらなかったんですか？

帯広　そこは自分は何も聞いてないんですけども、自分が真っ先に手を挙げさせていただいたっていうことで。

――じゃあもう帯広さんの立候補で決定した、と。

帯広　たぶんそうだと思います。自分は北海道出身なので、女子プロレスを観られる環境があまりなかったんです。高校のときに北斗晶さんの引退試合を観て女子プロレスが好きになったんですけども、そのときに観られる媒体がDVDですとか、夜中のテレビ放送ですとか、ケーブルテレビとかそのくらいしかなくてホンットに観れないんですよ。なので、もっと気軽に観たいという気持ちがあったので、自分の思いとちょうど一緒だったといいますか。

――では19時の決まり文句である「全国に届け女子プロレス！」というのは、ホントに帯広さんは心の叫びだ、と。

帯広　そうです！

――ちなみに、北斗晶の引退試合以降、女子プロにハマったという感じですか？

帯広　そのあとはずっとGAEAさんを観てたんですけど、途中でなくなっちゃったじゃないですか。でもそれと同時くらいにさくらさんが『我闘姑娘（がとうくーにゃん）』を始めるって聞いて、それで『我闘姑娘』に憧れるようになったんですね。その『我闘姑娘』が始まる前にさくらさんが雑誌でグラビアをされてたんですけど、こんなに女性らしい身体なのに、しっかりした身体をしてて、「こんなプロレスラーいるんだ。かわいい！」と思って『我闘姑娘』を観るようになって。

――じゃあ、いま憧れのさくらさんと一緒にプロレスをしているというのは夢のような空間なんですね。

帯広　ホントにそうなんです。それに、自分がデビューさせていただいたのが4月29日なんですけども、その北斗晶さんの引退試合も4月29日なんですね。だからなんか凄いなあって。

――運命的ですねえ。しかし、デビューして1ヵ月で団体の代表になるとは前代未聞です。

帯広　最初はアイスリボンの所属でやっていこうかという話もあったんです。でも、よくよく考えたときに、やっぱり誰かが先頭切って突っ走らなければいけないって。自分はまとめる力はないんですけども、19時を突っ走ってやっていくという、その役目を担えたらいいというふうに思いまして。もちろん、ファンだったり選手だったり、皆さんがいてこその19時だというのは忘れないようにと思ってますけども。

――そういう意味では、収録前の現場では帯広さんの

週に3回、アイスリボン道場で行なわれているUST中継。毎回「帯広さやかvs○○」という図式になっている。ちなみに、この原稿を書いている6月下旬現在、帯広ちゃんの白星はいまだナシだ。ガンバレ、帯広ちゃん！

先輩方が19時の配信の準備をされてましたね。

帯広　いえ、ほんっっっと申し訳ないなって（恐縮して）。その気持ちはやっぱり19時で返したいと思ってます。

――で、旗揚げ戦が5月29日でしたが、実際に試合をしてみていかがでしたか? お客さんが一人もいないという状況も含めて。

帯広　うーん、でも自分はホント経験が浅いので、普段の状況がまだあまりわかってない状態なんですよ。

――ああ、なるほど。逆にすべて新しい環境というか。

帯広　なので、こんなこと言ったらアレなんですけど、とくにお客さんがいなくても、テレビ画面越しでお客さんがいらっしゃるという感じでやっているので。

――それは新しい感覚ですね。

帯広　お客さんという意味では、皆さんからいただきましたコメントは、だいたい2～3時間くらいかかって毎晩読んでます。なんか皆さんホントに温かいコメントをくださってうれしいんですよね。たまに辛口なコメントになるときもあるんですけど。「まだ受け身がちゃんとしてない」とか……（苦笑）。

――素人から技術的なツッコミが（笑）。

帯広　でも、自分はそういうコメントこそブックマークしてます! 自分もわかってるんですけど、できないこと、躊躇したりしてる部分を指摘していただけると、ホントにそれは生の声なのでありがたいんです。

――勉強熱心なんですね。そうこうしているうちに、19時も今日で9回目ですが、ここにきて必殺技が誕生しつつありますよね。

帯広　あ、スタルヒンチョップ……（遠慮ぎみに）。でもあれ、たまたまなんですよ。それがファンの方のあいだで何か盛り上げていただいてる感じです。

――そういえば実況のGENTAROさんに「あの必殺技はスタルヒンチョップということでいいのか?」って聞かれてたときに、返事に困ってましたね。あれはなんで戸惑ってたんですか?

帯広　いえ……、スタルヒンさんの名前を使わせていただいていいのかなって思ったんですよ。あの、スタルヒンさんって北海道出身の巨人の選手なんですけど。

――帯広さんと同郷なんですね。

帯広　もう、北海道では凄い有名人で、ほんとに「スタルヒン球場」っていうのがあるくらいの大投手なんですね!（興奮ぎみに）。

――なるほど、野球に熱いですね（笑）。

帯広　自分、プロレスをやる前に社会人野球をやってたことがあるんですけど、野球人としてはホントに素晴らしい選手の名前を自分の技につけさせていただけるというのは、もうなんというか……ファンの方のおかげです!（感きわまって）。

――ワハハハハ! そういえば、今日の試合が始まる前にバットの素振りのようなモーションがありましたけど、もしかしてあれが……。

帯広　あ、それはスタルヒンチョップの練習をしてたところです。あれはこう、グッと溜めてバッと打つチョップなんですけど、それが野球のフォームに似ているからっていうことなんですよ。もともと私は左打ちなんですけど、試合では右で打つのでやっぱり練習しないとダメなんです。

――はあ、それを練習してた、と。でもあの素振りを見たときに「なんで野球の練習

スタルヒンさんの名前を使わせていただいていいのかなって思って

をしてるんだろう?」って不思議だったんですよ。ちょっとおかしい人なのかって。

帯広　あ、それは違うと思います（真顔で）。

――あ、違いましたか（笑）。あと、帯広さんといえば、あの競泳水着のようなコスチュームも定番になってますが、今後成長していくとともに、グレードアップしたりもするんですか?

帯広　……でも、じつはけっこうあのコスチュームは気に入ってまして、動きやすいのもありますけども、ヒラヒラとかつけなくても自分のなかであれが一番しっくりくるんですよ。

――確かにいまの帯広さんのイメージにはピッタリですよね。

帯広　これでも最初はちょっとかわいいのも選んで出てたんですけど、でも（星）ハム子選手といろいろコスチュームを探しに行って「あんたは水着のほうがいいよ」って言われまして。だからいま、あれ一着しか持ってないんですよ。

――えっ、でも試合は毎日のようにあるわけですよね。

帯広　だから毎日洗濯するので、ほんとに丁寧に丁寧に扱わないと破れちゃうから心配なんですよ。そんな安いものでもないので大事に大事に扱わないと。いまはホントそれが怖いですね。

――いつか一張羅じゃない日がくることを祈ってます（笑）。そんななか、19時女子プロレスは今後も続いていくと思うんですけども、はたしてどこにたどり着いたら19時女子プロレスは完成版になるんでしょう?

帯広　いや、たぶんずっとやってても完成版はないと思います。完成してしまったらそれはもうそこで終わりになってしまうので、いまは自分の成長過程を観ていただいているんですけども、ホントにスタッフもギリギリの状態で皆さんに手伝っていただいている状態なんですけど、そこから始まった19時が全国に届いて、そして世

試合後は対戦相手の次に帯広ちゃんが解説席に呼ばれ、実況のGENTAROに試合の感想を聞かれるのが恒例になっている。この日、さくらえみに敗れた帯広ちゃんは、悔しさがにじみ出たこの表情。ああガンバレ、帯広ちゃん!

親はけっこうプロレスに対して理解を示してくれてないというか

界に届いていうのを広げたいんですよ。いまでもメキシコとかアメリカとかでも観てくださっている方とかいらっしゃって。

―凄い！ そんなところにまでファンがいるんですね。

帯広 もっともっと19時を広げたいというのもあるんですけど、そこからやっぱりアイスリボンももっともっと発信したい。やっぱり成長成長成長でいきたいです。だからたぶん満足することはないですね。

―じゃあいま24歳の帯広さんですが、30歳になり、40歳になっても？

帯広 いつまでできるかはいま考えてないです。辞めようと思ったこともあったんですけど……。

―ほう、それはいつですか？

帯広 自分は去年の12月に入門させていただいたんですけども、半年すぎたくらいのときに、もう実家に帰ろうって。まだデビューもしてない練習生のときだったんですけど、ちょっとこの環境にはついていけないって思って、体調崩したりですとかも多かったんですよ。だから、本当ならいま自分は北海道に帰ってるはずなんです。

―それぐらい辞めようと思ってたんですね。

帯広 5月3日の後楽園終わったら帰ろうかって感じでしたね。もしくはデビューしないで、スタッフで残ってお手伝いができたらとも思ったんですけども。なんというか、身体がついてこなかったっていうのが一番で。もうごはんが食べれなくて、入門したときは57～58キロあったのが一番落ちたときに50キロ切るくらいになったんですよ。

―そんなことに……。

帯広 いまは54キロくらいあるんですけど。でもそんな自分を、もう申し訳ないって思うぐらい皆さんはホントに気を使ってくださって。なんとか体調が戻ってエキシビションマッチを組んでいただいて……。でも辞めなくてよかったです。寮の同じ部屋にいるハム子さんには、毎日のように「帰りたい」と言ってたんですけど、でも「いま辞めてどうなるんだよ」って言われて「そうだよな……」って何回も何回も思い直して。だからハム子さんがいなかったら帰ってましたね。

おびひろ・さやか■1986年9月2日、北海道出身。09年冬にアイスリボンに入門し、4月29日にデビュー。その後、19時女子プロレスに移籍し、代表に就任。5月29日のプレ旗揚げ以降、週に3回USTを通じて女子プロレスを配信。合言葉は「19時は女子プロレス」！ 158cm、55kg。

帯広さやか

―優しい先輩ですね。

帯広 そうなんです。自分が想像してた女子プロレスの世界とはちょっと違ってるんですよね。でも、厳しいところは厳しくて、ちゃんと練習ですとかメリハリつけるときはピシッとしてるんですけども、ちょっとした優しさがあったりですとか、みんなでワーッとやるときは一致団結してやる。そのなかに自分が飛び込んで、その場所にいられるというのがホントにありがたいことだと思ってます。

―しかし、この活躍を観ると、地元のご家族の方も喜んでるんじゃないですか？

帯広 そう……ですねえ。じつは親はけっこうプロレスに対しては理解を示してくれてないというか。

―ということは、反対されて出てきたと？

帯広 自分ですね、一番初めにプロレスラーになりたいと言ったのが高校生のときで、就職活動しながら「でも、ホントはプロレスいきたいなあ」っていう気持ちもあったんです。それで一度『我闘姑娘』に相談させていただいたことがあったんですよ。でも、やっぱりボクサーみたいに、忙しいときもアルバイトしながら食べていかなければいけないし、東京に出ても住むところもない。それだったら就職して、お金をまとめなければいけないかなという気持ちもあって。そのときに野球と出会ってしまって、ズルズルと遠ざかっていたんですよね。だからさすがに両親ももうプロレスラーになりたいとは言わないだろうと思ってたと思うんですけど。

―でも、突然出てきた、と。

帯広 はい（苦笑）。だから上京するって言ったときに「ありえない！」と言われて。でも、自分は飛行機（のチケット）を取るとこまできていたので、飛び立つ日付だけ伝えて出てきたんです。だから最近ですね「デビューした」って言ったのは。

―19時は観てるんですか？

帯広 いえ、19時も代表になったことは言ってないですし、たぶん観てないです。6月にNEO（女子プロレス）さんで北海道に行かせていただくんですけど、誘ってはみたんですけども来ない、と……。

―でもいつか観てほしいですよね。

帯広 そうなんです。10月にまた札幌帰れるんで、そこで絶対呼ぼうかなと思ってます。

―じゃあ、「親にも届け、女子プロレス！」というわけですね。

帯広 そうですね！ で、やっぱりいま本当に夢がかなって凄いへんな感じなんですよ。デビューしてから19時の代表になって、ホントにトントンと来てしまってて。でも、人生はいいこと悪いこと半々であると思うんで、どこでこれが崩れちゃうのか怖いというか。

―帯広さんがケガとかしたら19時は休業になりますし。

帯広 それはホントに心配です。でも、やっぱり19時が成り立っているのは全部皆さんのおかげですので、どんどん自分も成長していきたいと思います。

―いや、ぜひ頑張ってください。これからも、全国に届け！ ということで。

帯広 はい、これからも19時女子プロレスをよろしくお願いします！

【10年6月18日／埼玉県・イサミレッスル武闘館で収録】

インディー界の
熱血ティーチャーが
闘いの哲学を激語り!

「19時女子プロレスにはプロレスの真髄がある!!」

19時女子プロレス実況

GENTARO

19時女子プロレスを語るうえで外せないものといえば、GENTAROの見事な実況。その巧みなしゃべりを駆使して、観るものを試合に引き込む大きな役割をはたしている。ここではそんなマット界きっての見巧者に、独自のプロレス哲学について語ってもらった。

聞き手/鈴木佑　撮影/平工幸雄

――GENTAROさん、今日も〝神実況〟お疲れさまです!

GEN　いえいえ、そんなたいしたものじゃないですから(笑)。

――今日は会場に来たと同時に放送の打ち合わせをしてましたけど、いつもこんな感じなんですか?

GEN　そうですね。だいたい18時半頃に来てすぐに準備する感じですね。

――そもそも『19時女子プロレス(以下、19時』)の実況をやるようになったきっかけは?

GEN　最初に元川(さくらえみの本名)が19時を始めるって聞いたときに、「これは絶対に実況いるよな、新たなビジネスチャンスだ!」って思ったんですよ。で、プレ旗揚げのときは元川が自分で実況をやったんですけど、「全然ダメでした。どうしましょう?」って相談されたんで、「時間があったら俺がやってやるよ」と。

――自分から手を挙げたんですね。

GEN　はい。まぁ、新たなビジネスチャンスと思ったわりには、「ギャラがまったく出ないんです」って言われたんで驚いたんですけど(笑)。

――いまはボランティアだとか?

GEN　そうですね。でも、僕のなかで19時は、いつか大きなことにつながる可能性を秘めたものだと思ってるので、「ノーギャラなら出ない」って出遅れるよりも最初から参加しといたほうがおいしいかな、と。

――どうですか、何回かやられて実況席の雰囲気は?

GEN　いつもアシスタントとしてアイスリボンの真琴とか都宮ちいがつくんですけど、いまはいい感じなんじゃないですかね。たとえミスがあっても、その放送事故も含めて楽しめるっていうか。まぁ、これからもっと視聴者が増えてくればそうも言ってられないんでしょうけどね。

――周りの反応はどうですか?

GEN　業界内ではけっこう知られてると思いますよ。反応としては「これは可能性がある」っていうのもあれば、「いつまでもつんだ?」っていうのと半々ですね。まぁ、だいたいこの業界は新しいことを始めると期待半分やっかみ半分ですから(笑)。

――GENTAROさんの実況は非常に流暢ですけど、もともとおしゃべりは得意だったんですか? なんでも学プロ時代の経験が活きてるって聞いたんですが。

GEN　学プロってレスラー以外にも実況や解説も持ち回りでやるんですよ。僕も最初は実況が下手だったんですけど、目の前のことを臨機応変にしゃべってくなかで、技術が徐々に身についていったって感じですかね。

――解説をやるうえで意識してる人はいます?

GEN　いや、それはないです。あのね、誰かを参考にしてたら逆にしゃべれないんですよ。「あの人はこうしゃべってたなあ」とか意識してたら言葉なんか出てこないです。あ、でもツイッターで「GENTAROの実況は志生野温夫さんに似てる」ってつぶやきは見かけたことありますね。

――あ～、落ち着いた口調は確かに似てますね。まぁ、GENTAROさんの場合は志生野さんのように「豊田

がいった～！」みたいな解説とは違って、技名もちゃんと正確ですけど(笑)。
GEN ハハハハ！　いや、でも若い選手と一緒に実況してるとおもいっきり世代のギャップを感じますよ。たとえば僕が19時を帯広ちゃんの成長ストーリーとして、『エースをねらえ！』とか『アタックNo・1』とか昔のスポ根モノにたとえるわけですよ。だけど、やっぱり真琴なんかは名前ぐらいしか知らなくて。でも、その会話の噛み合わないギクシャクした感じもプロレス的なイレギュラーというか、ネタになっていいのかなって(笑)。
——試合後の選手インタビューではアドバイスもされてますけど、実際にGENTAROさんはインディー界では指導者としても有名ですよね。最近だとDDTで「GENTAROプロレス研究会」と題してネタにもなって(笑)。
GEN なんか説教キャラみたいになってますよね。まぁ、それは学プロの頃からなんで。同期のやつはいまだに「ホントにGENの後輩じゃなくてよかった」って言いますから(笑)。
——でも女の子相手ということもあるんでしょうけど、19時だと優しいお兄さんって感じですよ。
GEN まぁ、男のレスリングと女のレスリングで違う部分もありますし、男相手みたいに「なんだテメー、このヤロー！」ってわけにもいかないじゃないですか？　でも、最近アイスリボンと関わるようになってわかったんですけど、女の場合は最初から闘いがあるんですよね。
——闘いがあるというのは？
GEN もともと、アイスリボンは「身体のできてない女の子たちがプロレスごっこしてる」ってイメージが少なからずあったんですね。確かに間近で観ると技術はまったくないんです。だけど、感情の部分がとにかく凄い！(キッパリ)。「こいつだけは上に行かせてなるものか」っていうドロドロした感情は、女のほうが男よりも数倍高いんです。で、もともとプロレスは闘いを観るものじゃないですか？　だけど、最近のインディーの若いヤツらなんかは「いい試合しようね」って前提で闘ってる場合が多いんで、リング上は動いているように見えても、結果的に何も伝わってこない試合がしょっちゅうなんですよ。
——なるほど～。
GEN その点、19時では帯広ちゃんに対する先輩たちのジェラシーが凄いですから。ちいなんか旗揚げ第2戦で何もいいところを出させずに5分で潰しましたからね(笑)。
——ダハハハ！
GEN そのときはちいに「おまえ、なんてことすんだ」って言ったんですけど、あとから思い返してみれば「あっ、これもまた帯広の成長ストーリーの一つだな」と。要はイジワルな先輩に画鋲を上履きに入れられたっていうか(笑)。だから技術的にはつたないけど、そこに闘いがあるから19時はそのへんの男子プロレスよりもよっぽど気持ちが伝わってきますよ。
——ジェラシーが原動力だ、と。
GEN あと、いまは帯広ちゃんがド新人で何もできない状態じゃないですか？　相手の先輩選手も難しいことはしてこないから、凄くシンプルな闘いをやってるんですよね。それが逆にわかりやすくて受けてるんじゃないかな。ヘタにキャリアがある人間同士がわけわかんない闘いをするよりも、よっぽどおもしろい。だから視聴者数も1回目から2回目は落ちましたけど、それ以降は少しずつ上がってきてますし。
——ちょっとGENTAROさんのプロレス観を掘り下げたいんですが、プロレスの真髄ってズバリなんだと思います？
GEN う～ん……(熟考)。いや、それもデビューしてからいろいろ変わったんですよね。最初は「プロレスは〝受け〟だな」って思ったんです。デビューしたての頃はホントにショーン・マイケルズ信者だったんで、ショーンの持ってるバンプの技術、それこそがプロレスの真髄だな、と。で、しばらくその考え方を変えずにキャリアを重ねていったんですが、そうしたら攻撃が苦手になっちゃったんですよ。攻撃するよりも受けに回ったほうが楽だって感じで。
——そうするとインサイドワークはうまくなりそうですね。
GEN 確かにそうなんです。でも、長州力さんにあるとき言われたんですね、「おまえは試合運びがうまい。でも、闘ってないな」って。
——試合に闘いがない、と？
GEN はい。それは新日本プロレスでスーパージュニアに出場したときに言われたんですけど。ほら、金本浩二さんなんかはバンバンやってくるじゃないですか？　そこでボコボコやられたときに「なんだこの世界は？」って感じたんですけど、よくよく考えたらこっちが攻撃しなけりゃ話にならないなって気づいたんですよ。単純に「やられるばっかりじゃ、やられ損じゃないか」って思うようになってきて。それから自分のファイ

19時はそのへんの男子プロレスよりも気持ちが伝わってくる

帯広ちゃんの奇想天外なムーブに驚きの表情を見せる実況中のGENTAROと真琴。「僕が実況で心がけてるのはとにかく腹から声出すことですね。もともと早口で声もこもってて、さらに頭の打ちすぎでロレツもあやしいので(笑)」。

帯広ちゃんは成長が遅いと思う。そもそも生き方が不器用だし（笑）

トスタイルも受けだけじゃなくなってきましたね。

――長州さんにかけられた言葉が大きかったわけですね。

GEN それはホントに大きいです。さっきも言ったようにプロレスの根本は闘いのドラマですから。

――ちなみにGENTAROさんはアイスリボンでもプロレスを教えてるんですか？

GEN いや、技術は教えないですね。技術は教えたってしょうがないんで。

――ほ～、といいますと？

GEN あのですね、それはアイスリボンの子たちがやるプロレスと、僕がやりたいと思うプロレスがたぶん根本的に違うんですよ。もともと僕にとってのプロレスというのはキャッチレスリングが発祥で、相手の関節を極めにいくことがまず基本としてあるわけです。だからロックアップするにもただ組むだけじゃないし、相手のどこかが触れたらそこからリストを極めにいったりもするし。

――理にかなった動きというか。

GEN そうです。僕は相手と関節を取り合って、そのはてにいろんな攻防があるというスタイルなんですけど、女子の場合は押さえ込みが基本で、相手の身体をコントロールすることはあるけど、やっぱり関節の極め方はよく知らないんですよ。ただ、試合運びという部分は男女問わず共通してるので、たとえば「何か一点集中したら、それは絶対に離すな」とか、「足をずっと攻めてたのにいきなりボディスラムにいくのはありえない」ってことは教えますけどね。

――試合後に反省会はするんですか？

GEN 女の子たちが「反省お願いします」って来たときは、間の取り方なんかを教えたりはします。ただ、いまのところ技術的なことは「教えてくれ」と言われなければ出る幕ではないかな、と。それは僕じゃなく高橋奈苗選手とか、日高郁人選手が教えてるみたいですし。何よりアイスリボンには独裁者である元川がいますしね（笑）。

――よく実況でもGENTAROさんはさくらさんのことを独裁者って言ってますけど、実際はどういう方なんですか？

GEN 僕ね、学生のときにリング屋のバイトでIWAジャパンとかLPWに行ってたんですけど、そのときに毎回元川が出場してたんですよ。で、僕は意外と元川ファンだったんですよね、へんに存在感があったので（笑）。

――若手時代から目立ってましたね。

GEN なんか、最初からキ○○イじみてたじゃないですか？（笑）。そういうところはまったく変わってないですね。アイスリボンも今回の19時もそうですけど、何かひらめいたらすぐに実行に移すっていうバイタリティは凄いと思う。いや、はたから見てると何を考えてるかホントわかんないですから。たぶん、本人も頭のなかで自分が何を考えてるかわからなくて、自分のカオスなところをそのまま提供してると思うんですけど。もう、存在そのものがプロレスですよね。

――それはある意味、凄い賛辞だと思います（笑）。

げんたろう■1974年10月28日、東京都生まれ。99年、レッスル夢ファクトリーでプロデビュー。その後、DDT、アパッチプロレスなどインディー団体を中心に活躍。06年には新日本プロレスのベスト・オブ・ザ・スーパージュニアにも参戦。現在はFREEDOMSに所属、長州力もうならせた試合運びで活躍する。178cm、90Kg。

GENTARO

GEN やっぱりレスラーとしてもうまいですから。もともとIジャという男のなかで育ったレスラーだから、ちょっと感性が違うんでしょうね。身体も大きいわけじゃないし、ファイトスタイルもノラリクラリで、ひょっとしたら女ショーン・マイケルズ、女リック・フレアーなのかもしれない……本人に自覚はないでしょうけど（笑）。

――帯広さんはどうですか？

GEN いまはまっすぐ育ってますね。ホントに純な田舎娘そのもので。この19時が「帯広さやか物語」全30巻だとしたら、まだ1巻の途中ぐらいだと思うんですよ。このなかでドンドン帯広ちゃんが技術を得たり挫折を味わったり、ホントの意味で成長していかなきゃいけないわけですけど、このまま横ばいだったら3巻ぐらいで打ち切られますよ。生存競争も厳しい世界ですし、たぶん、元川も飽きればすぐやめるだろうし。

――それをGENTAROさんは温かく見守っている、と？

GEN そうですね……あの～、さっき僕が技術は教えてないって言ったじゃないですか？　正直、ホントは帯広ちゃんだけでも教えたいんですよ。いまは手探りの状態でこの技をやればいいのか、あの技をやればいいのかっていう感じで、今日も何度かセオリーを間違えてるんですよね。そういうときは実況でなんとかカバーするんですけど。

――素材としてはどうですか？

GEN 運動神経は悪くないですけど、瞬発力はそんなにないかな。たとえば瞬発力があれば、やられてから反撃に転じたときの爆発力が凄かったりするんですけど、まだ試合運びが同じペースで緩急がない。まぁ、そういう部分を身につけるのもそれこそ全30巻のうちの10～15巻ぐらいまではいかないと難しいと思いますよ。というか帯広ちゃんって、かなり成長は遅いと思うんですよ。そもそも生き方が不器用だし（笑）。

――ダハハハ！

GEN 詳しくは知らないですけど、なんかちょっと聞いただけでもまな板を溶かしただとか、八百屋のおじさんに包丁突きつけられただとか（笑）。もともとスムーズに人生がいかない子というか、いまだってもう24歳なわけですからね。

――ほかのアイスリボンの選手に比べて年上ですよね。

GEN 『ウサギとカメ』で言ったらカメタイプですけど、いつかは逆にウサギになんなきゃいけないし。まぁ、僕が教えて逆に〝らしさ〟がなくなっちゃうって心配もあるんですけどね。それにいまはまだ、純粋培養のままやってたほうが好感度もアップする気もしますし。（さくらのほうを指さして）まぁ、ああいうズル賢いタイプが主役だったら19時は誰も観ないでしょう（笑）。

――ダハハ！　帯広ちゃんにこれからどういう色がついていくかが19時のポイントなわけですね。

GEN そうですね。ついつい自分も放送席で楽しんじゃってますから。あとはこれにビジネスがついてきて、僕のギャラも出るようになればいいんですけどね（笑）。

［10年6月18日／埼玉県・イサミレッスル武闘館にて収録］

ファイティング・ガールたちの
強すぎる個性に注目!

女子格
ヨリドリミドリ

©Matthew Kaplowitz (The Fight Nerd)

私、
身体を張って
やってます

ド迫力の筋肉美と
独創的なファッションに迫る！

21世紀の

ダッダーン！
ボヨヨン！ボヨヨン！

修斗道場四国

中井りん

格闘技版レジー・ベネットが女子格イベント・ヴァルキリーで大暴れしている！　その女子格ファイターとは、驚くべき筋肉美と、そしてさらに驚くべき刺激的なファッションでファンを魅了している中井りん。彼女はいったいどんなツヨカワガールなのか。さっそくダッターン！　なビジュアルとともにお読みください！

聞き手　松下ミワ　撮影　吉場正和

――お疲れのところ、わざわざ編集部までお越しいただいて恐縮です！

中井　いえいえ、それは大丈夫です。

――神楽坂の駅に素晴らしい服装の中井さんがいらっしゃったので、ちょっと感動しました。

中井　感動？　えへへ、うれしいです。

――でも、そのおっとりした雰囲気からは、とても昨日の試合の様子は想像できないですよね。藪下めぐみ戦はホントに圧勝でした。

中井　あっ、そうですか？　でも、私は必ず今回はKOか一本で勝ちたいと凄く思って挑んだんですけど……。判定までなってしまったことが、もう凄く悔しくて！　だから、今日にでも明日にでも、私は練習を始めたいと思ってるんです！

――えっ、もう始めますか！

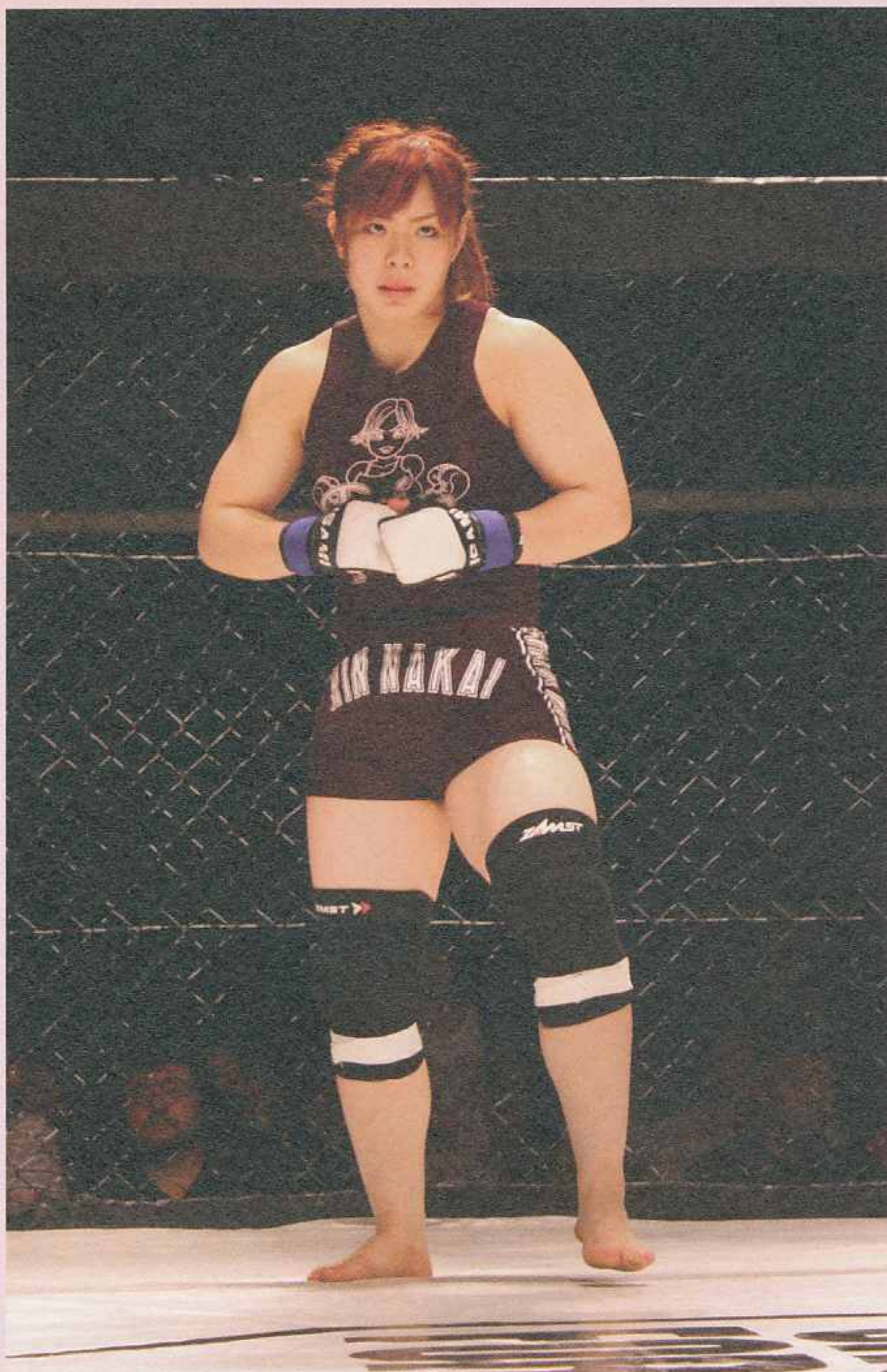
中井　昨日ヴァルキリーのあとにケージフォースがあったじゃないですか。最初はそれを観ようと思ってたんですけど、もうそれどころじゃなくて、ずっと館長（修斗道場四国館長・WILD宇佐美）と反省会をしてたんですよ。もう悔しいです！

――観た感じだと、ホントに圧勝としかいようがない試合だった気がしますけど。

館長　あのー、いや彼女はホントはもっと強いものを持っているんですよ。でも自分の実力をなかなか試合で出しきれないというか、判断がまだできていないという部分があるんですよね。

――ああ、だから館長がセコンドにピッタリついて逐一指示を飛ばしてたというわけですね。

中井　はい。館長の指示は大事なんです。

――やはり、こんな司令塔がいると心強いでしょうねえ。

戦闘態勢のこの表情を見よ！　右の写真とはまったく違い、まさにヴァンダレイ・シウバのような獰猛な顔になっている。腕と脚の筋肉が野性味をさらに増長させているぞ。

前は普通に細かったんですよ。だから3年ぐらいで10キロ、筋肉で増やしました

中井　もう凄い知的で、館長は。なんて言うんですかね。凄い考えてるんですよ。なので、私は館長の言うことを聞いてれば勝てるし、だから言うこと聞いて動いているだけなんです。

館長　まあ、脱却することも大事なんですけど、なかなか自立しないんでねえ。僕の言うとおりにしてればいいやという感じで（困った表情で）。

中井　そう！　私、考えないです。エヘヘ。

――素晴らしい信頼関係なんですね。しかし、お話しててもホントにおっとりした感じなのに、試合になると表情がまるで変わるんですね。なんか、試合中はある意味ヴァンダレイ・シウバみたいだなって思ったんですけど。

中井　ヴァ、ヴァンダレイ・シウバぁ！　初めて言われた～（笑）。

――いや、そのくらい迫力があるなと思いまして。

中井　でも、ずっと試合みたいな感じにしてるのはしんどいじゃないですか。ずーっと、いまにも襲いかかりそうな気迫に満ちた感じでいたら、ちょっと危ないですし。なんで、普段はボケっとしてるんですよ。

――ちなみにどれくらいボケっとしてるんですか？

中井　自分ではわからないですけど、相当ゆるいと思います。私、ジムでキッズクラスを見てるんですけど、もう凄いナメられてます。厳しく怒る係は館長なので、私怒らないし。だから普通にボールとか投げつけられてます。

――ヒドいことされてるじゃないですか（笑）。

中井　そう。ナメられてますけど、同じ目線じゃないんだけど、そんな感じかなあ。

――ところで、中井りんといえばやっぱりその素晴らしい筋肉美ですが、ズバリ言って、どう鍛えたらそうなるんですか？　昔から体操と柔道をやっていらっしゃったというのは有名な話だと思うんですけど。

中井　でも、そのときは普通に細かったんですよ。

――そうなんですか？

中井　だから全然、自分がこんなんになるとも思ってないというか。普通に細くって、普通だったんです。

――どうやったらそのように？

中井　だいたい3年ぐらいのあいだに、10キロ、筋肉で増やしました。練習して、補強トレーニングして。あとは食事です。栄養の摂り方、練習後にすぐ肉とか栄養を摂って補うという感じで。練習で使ったらそのぶん食べて補ってってやってるだけでこんなことになりました。だから館長に言われたことをしてるだけなんですよ、私は。

――でも、やっぱり凄くハードですよね？

中井　ウェートトレーニングも一応練習メニューには入っています。

――たとえば普通の女子選手が館長がご用意された同じメニューをこなすと、中井選手みたいになりますか？

中井　絶対になると思いますよぉ！　というか、松下さんもうちのジムに来たらな

この衣装ですか？　やっぱりプロなんで普通にする……って感じかな？

りますよ！（キッパリ）。

――えーっ！　わ、私も……⁉

館長　僕もそう思いますね（真顔で）。誰でも同じトレーニングをして、同じものを食べて、同じ生活をしたら、同じになると思うんです。でも、彼女の場合は文句ばっかり言うからなあ。

中井　アハハハ、そんなことをバラさないでくださいよお（笑）。

――ほう。ちなみに、どんな文句を言うんですか？

中井　違うんですよお。館長のレベルの高さに私がまだ追いついてないだけなんです。

館長　「今度の試合ではこの技は使わないのに、なんでこんなトレーニングしないといけないんですか⁉（怒）」とか言いますね。

――わりと理屈っぽく攻めるわけですね。

館長　イヤな練習をなんとか逃れようとすることがあるんです。だから僕もどうしてその練習が必要か、なんとか説明してやらせてますね。

中井　でも、基本的にはとても素直でいい子なんですよ（笑）。

――そしてやっぱり食事も充分に気にされてるわけですよね？

中井　凄い食べるんです、私。強さの秘訣は食べること。秘訣はまあ……館長なんですけど、食べることもそうですね。

――ちなみに、一食の量を教えてもらっていいですか？

中井　どう言ったらいいんですかね。一日4食なんですよ。朝、昼、練習後、夜って。でも、練習後の食事は本当にたくさん食べるんです。

――そのときはお茶碗、何杯食べるんですか？

館長　3～4杯ぐらい。

――ええーっ！　おかずはどのくらい食べるんですか？

中井　肉をジャンボパックで……500（グラム）は食べないかな？　でも、400ぐらいは食べますかね。毎日タッパーに入れて持っていくんです。練習後に、即食べるために。

――練習後によく食べられますね。

中井　でもすぐ補わないと、もったいないから！　すぐ食べたらいい筋肉になるし、痩せないし。いいこといっぱいです。あ、でもお肉500と、魚も一切れとか食べて、ミカンをたくさん食べるかな。

――愛媛出身ですからね。

中井　で、そのあとにまた補強トレーニングをして。また夜ごはんなんですよ。

――じゃあ、ホントにその肉体は努力の成果ですね。食べたくないときってないんですか？

中井　ありますよ。でも、もったいないじゃないですか。いま食べたらいい筋肉になって強くなるんですよ。強くなりたいからこういう生活してるんです。

――もう24時間、格闘技のことを考えてるんですね。

館長　でも彼女、ショッピングなんかはしょっちゅう行ってますよ。一年中行ってるもんな。

中井　いつも試着したりしてます。でも、入らないんです……。

――そんな悩みが……。

中井　なんかうぬぼれじゃないんですけど、なんかかわいい服を見ると「入る！」と思っちゃうんですよ。ちょっと大きそうなショートパンツとか「あっ、これ入るかな」と思って着てみるんですけど、もう全然。太ももで止まるんです。なんで、わからないんだろうって、自分の脚の太さが。

――着てみたい願望のほうが大きくなっちゃうんですかね。

中井　もうだいたい自分の脚の回りを見たら入るかどうかわかると思うんですけど、もうピチピチのパンツになって。かわいいのは、やっぱりないんですよね。だから、自分ブランドを作るしかないなって思うくらい。

――おお、それはいいじゃないですか。中井選手のファッションは非常に興味深いですし。

中井　えー、あんまり私のセンスよくないんですけど。だからまあ痩せるのかとかいろいろ考えるんですけどね。買い物に行ったら（笑）。

――でも、その身体は財産ですもんね。

中井　はい。そう思うときもあるんですけど、でも本音では痩せるつもりはないんです。だから悩みはありますね、常にそういう。

――でも中井選手のファッションはいつも刺激的ですよね。

中井　えへへへ。

館長　まあ、彼女も今日はこの衣装ですからね。でも彼女自身も楽しんでますよ。

中井　そうですね。プロなんで、やっぱり

6月19日のヴァルキリーではベテラン藪下めぐみと対戦。勝敗予想が難しかったこの対戦だが、藪下にまったく何もさせず圧勝。いったいどんだけ強いんだ!?　ダッダーン！

Rin Nakai

取材は10件ぐらい断ってます。一般のテレビとかはわかってもらえないというか

意識するというか、普通にする……って感じかな？

――いや、普通以上のファンサービスだと思いますよ！

中井　やっぱり、ちょっとはキレイにするというか、普通にするのは当然だとは思うんですけど……。「自分がヴァルキリーとか、女子格闘技を盛り上げていきたい。自分が先頭に立って引っぱっていく」と。そのくらいの勢いでやっていきたいので、何か自分にできることがあったら露出を頑張るとか、ね。身体を張ってやってます（笑）。

館長　そう。身体を張って、派手な……派手でもないか。

――いや、充分に派手です！

館長　でも昨日ケージフォースから、「ラウンドガールやってくれ」って言われたしね。

――はー、引っぱりだこなんですね。やはり格闘技同様、その私服を含めた〝ファンサービス〟の仕方なんかも館長の指示があったりするんですか？

中井　もちろん。少しはありますね。アドバイスはもらったりします。でも基本は自分で考えてみて、提案してみますけど。

館長　それも試合と一緒で徐々に徐々に段階を踏まないといけないんですね。

中井　そうです。小出しにしないと。だから、だんだんできることを、少しずつ。

――しかし、これ以上のレベルになると、ファンは目が離せませんね。

中井　そうですよね。まあ、もちろんうれしいし、私を支持してくれる人がいないと、私一人じゃ何もできないんで。

――と、いいますと？

中井　ファンは大事にしてますし、たくさんファンになってもらって私をどんどん押し上げていってもらいたいという気持ちは凄くあって。チャンピオンまで押し上げてほしいし、応援してほしいし、支持してほしいです。それと、けっこう女子選手から人気があるんですよね。一緒（の大会）に出た選手とか、3人くらい写真撮りたいって言われたし、そういうのもうれしいんです。

館長　ラウンドガールの人も撮ってほしいって言ってたよね？

中井　そうそう。ラウンドガールにも私のファンがいて。細い人は憧れるんですかね、こんなゴツイ身体に。その人たちは男を見る目線で見てるのかもしれないです。守られたい、みたいな（笑）。

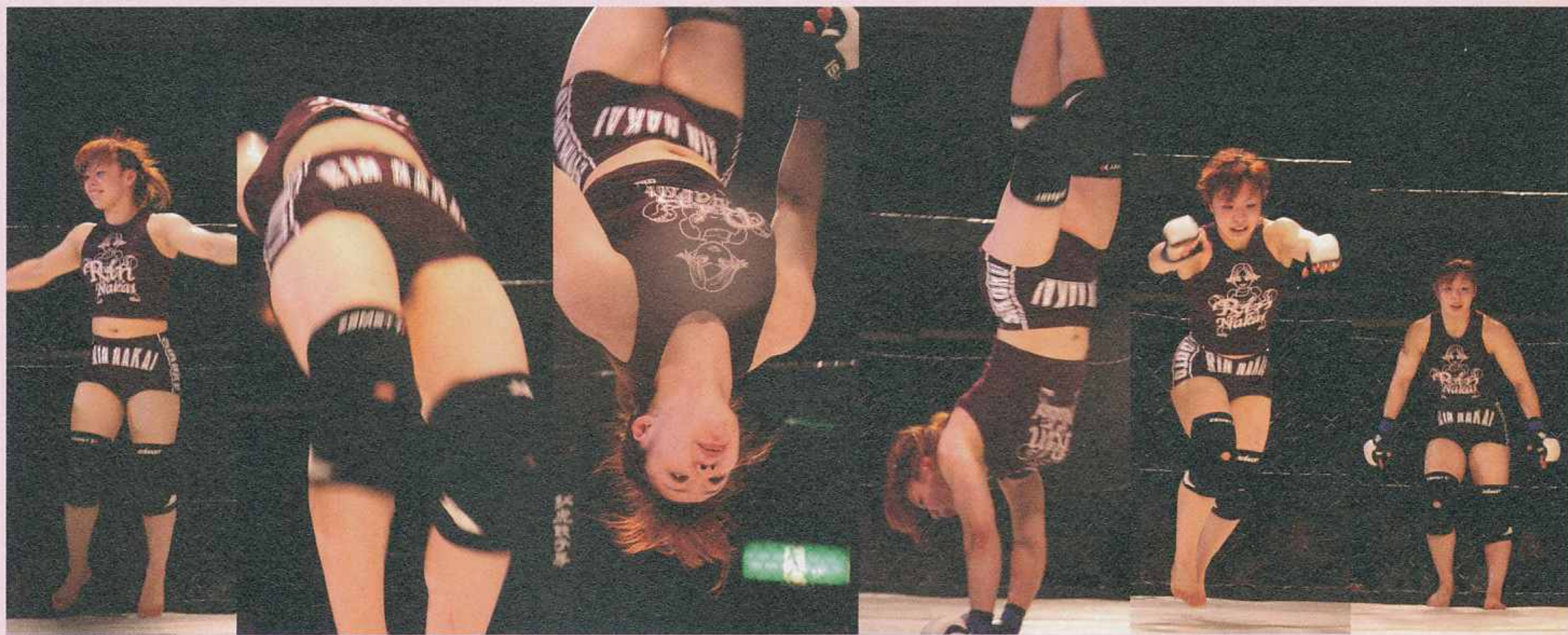
――ストライクフォースのジーナ（・カラーノ）選手とか、ハリウッド映画進出を目指したりしてますけど、そっち方面の興味はどうですか？

館長　ああ、ありますよ、いつか。とくに、番組はなんでもいいと思うんですけど、いつかね。着ぐるみ着て、珍獣ハンターとかね（笑）。

中井　もー、いっつも言われるんですよ。「珍獣ハンターの珍獣側をおまえはやれ」みたいなことをお。

――ヒドイですね。

中井　いつも遊ばれてるんです。

――ただ、調べたかぎり、NHKとかテレビ朝日とかから取材が来てましたよね。

勝利後はリングやケージ内でバック転を披露するのが中井りんのお決まりのスタイルになっている。館長がアドバイスしているというファッション同様、サービス精神旺盛だ。

館長　でも、最近はずっと断ってるんですよ（困った表情で）。

――えっ、なんでですか？

館長　いや、格闘技誌は僕らも好きなんです。いままでどの雑誌も凄くいいように扱っていただいて。でも一般のテレビとかは、僕らのことをちょっとわかっていただけなくて。難しいんですかね、日本語の取り方が。話しても悪いように取られることが多くて。けっこう、ここ最近では10件ぐらい断ってるんですよ。

――えーっ、そうなんですか？

中井　とにかく、わかってもらえないというか、誤解されて伝わってたりとか。逆に、もう向こうが思うようなことを考えてきて、言ってないことを勝手に言ったりとか。

――それは困りましたね。

館長　あとは、彼女自身もあまり取材に慣れてなくて、うまく対応ができないと思うんです。いまも、本来は彼女の取材なんだから、僕があんまりしゃべりすぎるといけないんですけど。このぐらいしゃべらないと、うまくパッと返事が出てこなかったり、普段思ってることと全然違うことを言ってしまったりとかして。

中井　だから、館長にはいてもらわないと困るんです。いつも。

館長　だからなかなか自立しないんですよねえ（困り顔で）。

――じゃあ、メディア進出は選んでいかないと難しいんですね。

館長　あのー、凄い本気のトークに入ってしまったんですけど、それも段階を凄く考えてまして。で、やはり彼女のファッションや露出も含めて、チャンピオンという肩書きがないと凄く説得力がないというか、こちらとしても何かアピールするものがないんですよ。

Rin Nakai

なかい・りん■1986年10月22日、愛媛県出身。06年10月にパンクラスでプロデビュー。その後スマックガール→ヴァルキリーに参戦、WINDY智美や薮下めぐみを下し現在7連勝中。このページで衝撃を受けた読者の方は、ぜひホームページ（http://rinnakai.sakura.ne.jp/）もご確認ください。156cm、61.2kg。

……だから寂しいです。私はただ強くなりたい、練習したいだけなんですけど

—個人的にはその素晴らしいビジュアルでも充分アピールできると思っちゃいますけど。

館長　まあ、若手ですからいいんですけどね。でもヴァルキリーのベルトを獲れたら、どんどん大きく出たいと思ってるんです。

中井　そうそう。わかりやすいじゃないですか。チャンピオンベルト持ってたら。わかりやすいし、何言っても説得力があるんで。

—じゃあ、ベルトを手に入れたらもっともっといろんな活動をしていきたい、と。

中井　そうなんです。早く獲りたいんです。だから、昨日の話に戻っちゃいますけど、KOか一本取れたらマイクを持たせてもらって言うつもりだったんです。でもとても持てるような内容じゃなかったから……。だから、また練習してもっと強くならないと、納得させられないです。

—ちなみに、中井選手は都内に来て練習する計画はないんですか？

中井　うーん、べつに出てくる必要があまりないんじゃないか？　って。もちろん、地元を愛してるというか好きなんで、愛媛にいたってチャンピオンにもなれるということを証明したいという思いは、ずっと最初からあるんです。

—しかし、ブログで拝見したんですけど、練習をする相手がいないことで悩んでらっしゃることもあるみたいですね。

中井　まあ、いるんですけど……なんて言ったらいいんですか（館長のほうを見て）。

館長　まあ、避けられていないこともないですよね。女性だけじゃなくても。普通の男性より力も強いですからねえ。

—はー、やっぱりそうですか。

館長　練習でもそうですから。それで、嫌がるんですよね。だから相手がいないことも多々あるんですけど。

中井　自分ではわからないんですけど……だから寂しいです。私はただ強くなりたい、練習したいだけなんですけど、いろいろみんなは思うことはあるんでしょうから。でも、館長に教わってたら、べつにいいかなって。

—満たされてますか。

中井　都内とか、別の場所に出ていく必要があんまりないんじゃないかと私は思うんですけどね。逆に、「こっちに来たら」みたいな。

—ああ、そっちが来い、と。

中井　だって私、館長に教わっててこんなに強くなって、逆に「みんな教わりたくないのかな？」って。

—なるほど、なるほど。

中井　と思うんですけど、へんなんですか？

館長　まあ、そういうのも、まずはベルトを獲らないと説得力がね。

—では館長と二人三脚でぜひベルトを。

館長　ええ、彼女の能力はまだまだこんなもんじゃないですから。中井の自立を目指しつつ、そうすればもっと強くなるでしょうから。

—私たちも、ぜひ中井選手のいろんな才能が見られたらと期待してますので。

中井　はい♥。頑張りまーす。

【10年6月19日／都内・kamipro編集部にて収録】

日本在住のアメリカン・ファイティング・ガール本誌初登場！

ドラゴンボール、UFOキャッチャー、そして格闘技がダイスキです!

7.23ストライクフォースでタイトルマッチが決定!!

ロクサン・モダフェリ

ジョシカク界にまたもやおもしろファイター発見！　ここでインタビューしているロクサン・モダフェリは日本在住、日本語ペラペラな親日家。日本語も格闘技も始めたきっかけは『ドラゴンボール』だという変わり者だ。そんなロクサンがストライクフォースでベルトを懸けた大一番を迎えるというのだが、『kamipro』初登場のロクサンとはいったいどんな人物なのか。日本に渡ったきっかけや奇妙な日常などを聞いてみた。

聞き手／松下ミワ　写真／Matthew Kaplowitz (The Fight Nerd)

——今日は通訳ナシで大丈夫だと聞いて、ホントに一人でやってきたんですけども。

ロクサン　たぶんダイジョウブです!

——おお! やっぱり日本語はペラペラなんですか?

ロクサン　勉強しましたので。漢字も習って覚えていますけど、最近パソコンを使っていますから漢字の書き方を忘れてしまいますね。

——確かに、最近ブログはほとんど日本語でアップしてますよね?

ロクサン　オー! 見ましたか?

——見ました、見ました。

ロクサン　もし、わからない言葉があったら……………コレで!(鞄の中から電子辞書を取り出して)。

——あ、辞書ですね。勉強熱心ですねえ。

ロクサン　よく、そう言われます(笑)。5年前から日本に住んで勉強しています。

——おお、5年前から。

ロクサン　そして、最初はアメリカの大学で日本語を専攻しました。3年間アメリカで勉強して、1年間は日本で留学しまして、卒業してから5年間日本に住んでます。本当に通訳者になりたいです。

——ということは9年間勉強しているわけですか。どうしてそんなに日本語に興味があるんですか?

ロクサン　アニメがキッカケです。先週、あそこ(ゴールドジムサウス東京アネックス)のランニングを使っていました。で、テレビを観て『ドラゴンボールZ』が映ってました。凄く99パーセントわかりました。最初に観たときは、たぶん13歳だった。15歳かな? その頃ですね。まさかいま日本で同じ日本語で聞いてわかって、凄いと思いました。それは私の夢でした。字幕なしで大好きなアニメを観て。凄く、なんか……(感極まって)。

——ランニングマシーンを走りながら泣いたんですね(笑)。

ロクサン　そうです(照)。『ドラゴンボール』大好き! でもやっぱり、大学4年間の勉強ではそんなにうまくないので、日本語を習うように、日本で生活をしたいと思っていましたから、『ベルリッツ』という英会話の仕事を見つけて、ヤトサレました。……ヤトサレ?

——雇われたんですね。

ロクサン　そう、雇われて、勉強の時間はやっぱりないですけど、その英語の教師として仕事とても楽しい思いますから。もうホントに頑張っています。

——それと同時に、日本に来る前から格闘技をやっていたんですよね。

ロクサン　そうです。大学4年の頃ね。そんな有名じゃないジムですけど、大学に近いジムで。いいところです。

『ドラゴンボール』をはじめ、日本のアニメが大好きだというロクサン。マンガ特集号の『kamipro』を持っていくと、「表紙はジョーですね」と満面の笑み。もしかして、本文も全部読めるのか!?

——アメリカではけっこう女子の練習生っているんですか?

ロクサン　いないです(笑)。そして普通は誰も女性と練習しなかったです。だから、もし女性が来て見学とかに来ても、自分が一番になりたい。

——ロクサン選手は、なんで格闘技をやろうと思ったんですか?

ロクサン　そうですね、子どもの頃からずっとスポーツが好きなんで、コンペティションが好きなんで、テコンドーをやりました。スーパー戦隊シリーズ『ゴレンジャー』とか観て。それから『ドラゴンボール』を観て、みんな凄く頑張って強くなるから凄いと思って。だからアニメが好きになって、ずっと『ドラゴンボール』を観て興奮して頑張った!

——そこもやっぱり『ドラゴンボール』の影響ですか(笑)。

ロクサン　そういうことです(ニッコリ)。

——でも、そういう話を友だちにしたら、「ロクサンってヘンだね」って言われませんか?

ロクサン　よく言われます(笑)。確かにちょっと変わっています。で、テコンドーから剣道、空手、柔道、柔術。日本でも「ロクサンはアメリカ人だから」って言われてたけど、じつは最近「アメリカ人は、ロクサンほど変わってないから」って言われます(笑)。

——ワハハハハ! その後、日本に来て和術慧舟會に所属していたんですよね?

ロクサン　前はそうですね。スパーリングはけっこうハードで、あの女性もけっこういるんだから、すぐに気に入った。でもいまはフリーランスですね。でも、慧舟會が大好き。みんな大好き。いま練習しているAACCとか、大沢塾とか、K太郎道場とか、みんな手伝ってくれますので、すべてを習いたいです。

『ドラゴンボールZ』が映ってました。凄く99パーセント日本語がわかりました

——元気玉みたいに吸収しようとしているわけですか。

ロクサン　そうそうそう! コォー!(と言いながら、元気玉を集めて)。

——でも、凄いバイタリティですね。いきなり一人でやってきて日本に住むなんて。

ロクサン　最初は、留学したときにホストファミリーと一緒に住んで、1週間くらいホストマザーと住んで、生活は慣れてきましたから、仕事のためにアパートを探して、それからずっと一人です。

——留学したときのホストファミリーが手伝ってくれたんですね。じゃあ『ベルリッツ』の仕事も、一緒に探してもらったんですか?

ロクサン　違います。アメリカで大学4年生のときに就職活動をしていて、いろいろなテストを受けて、インタビューもして、決まってから卒業してすぐに来ました。そして、日本へ来る前に先生になるトレーニングをやりました。ちょっと……日本語の勉強もしましたけど、教育のコースも勉強しました。

——ズバリ、日本に住んでみてどうでしょうか?

ロクサン　大好きです。楽しい! たくさん友だちを作って、すぐに道場に入っ

て、みんな優しくしてくれて。とってもホームになった感じです。
——でも、さすがにカルチャーショックはあったんじゃないですか？
ロクサン　それはなかった。
——え、ないんですか？
ロクサン　よく「んっ⁉」って、これムカツクなぁって考えることもあるけど。日本だからしようがない。
——たとえば、どんなことにムカつきました？
ロクサン　イシャです！　よくあるんですけど、バイキンとかカビとか皮膚の病気がある医者……。
——皮膚科ですね。
ロクサン　皮膚科！　皮膚科に行って「先生コレなんですけど……」「じゃあこの薬を使ってください」って。でもぜんぜん効かない感じがして、違う先生のところに行って、「先生、コレなんですけど」って言ったら、またぜんぜん違う薬を出して。で、前の病院でもらった薬を先生に見せたら、「これはダメです。こっちの薬が絶対にイイ」って違うことを言われたり。それから、長く待つ、病院で。アメリカはちょっと違います。ちゃんと予約をして行きます。
——待ち時間は長いですもんねぇ。
ロクサン　あと、いまでも登録のときとかは難しい。たとえばインターネットとかケータイ電話しなきゃいけないでしょ。自分の名前とか住所を言ってプランを選ぶでしょ。ちょっと言ってることがわからなくて。昨日、サービスが変わるからもう一度登録しなきゃならないっていう電話がきて、ぜんぜんわからなくて、日本人の友だちに電話をお願いして。ちょっとわからないから……って。そういうことがある。
——これだけ日本語を話すことができても、電話とか難しい契約になるとたいへんなんですね。
ロクサン　なんとなくできるけど、凄くストレスになっちゃって、よく泣いちゃう。
——泣いちゃうんですか？
ロクサン　ときどき。やっぱり悔しい。コミュニケーションとか、そうですね……。でも、UFOキャッチャーは日本のほうがいいです。
——あ、そうなんですか（笑）。
ロクサン　うん、好き。上手です。キャラが好き、家には5個あります。
——そんなに取ったんですか。それは練習したらできるようになったんですか？
ロクサン　練習じゃないです。気づいたのは、アメリカのUFOキャッチャーはムリ。日本の場合はちょっと倒れそうだったら、できそうだなと思います。ま、ヒミツですから。教えない。
——秘密なんですか？　そこをなんとか教えてくださいよ。
ロクサン　ヤダ。
——むむっ、固いですねぇ。でも、取れるということは取りやすいポイントがあるということですよね？
ロクサン　……じゃ、ちょっとだけ。
——お願いします！
ロクサン　クレーンは開けるでしょ？　閉めるのは大事じゃない。大切なのは開けるとき。だから横にポンと当たって落ちる。
——ほうほう。なるほど。
ロクサン　閉めるのは力が入らないだけど、開けるのはウォ～ッって落ちる。だから狙っているオモチャの横に狙って開けるんです。頑張ってください（笑）。
——凄い！　それは誰かに教えてもらったんですか？
ロクサン　自分で気づきました。あと、『ダンス・ダンス・レボリューション』もやるし、そして『太鼓の達人』です。
——ワハハハハ！　めっちゃゲーセン好きじゃないですか。休日はだいたいゲームをしに行くんですか？
ロクサン　そう。美術館とか博物館も大好きです。あと、散歩……おもしろいところに散歩する。たとえば、新宿。けっこうキレイな建物とかがあって、忙しいし、にぎやかなところが好きだから。アメリカの大きい街はちょっと……。建物は同じ色。つまらないでしょ？
——そういえば日本のほうがカラフルですよね。でも、私たちからすると海外の建物のほうがオシャレな感じがするんですけど。日本はゴチャゴチャしていて……。
ロクサン　……ゴチャゴチャ？　……ヤリスギですか？
——いやいや、雑多というかなんというか……。
ロクサン　あ～、なんとなくわかる。だから渋谷好きです。あと御茶ノ水が好きです。
——あら、いろんなところに散歩に行ってますね。
ロクサン　あと、日本の人はみんな頑張ってる。私のペースはけっこう早くて、トーキョーも早いペースだから私に合うと思う。私、じっと座ってられないですね。
——せっかちなんですね。
ロクサン　そうそう……。stimulationってわかるかな？　シゲキ？　お母さんにも言われたんだけど、子どものときもじっと座ってられないで、ずっと何かをやっていたみたい。どこに行っても新しいことがあるから大好きです。たぶん、日本に来て生活するのは自分に合っているんですね。
——ちなみに、ロクサン選手から見て日本人の男性はどうですか？
ロクサン　う～ん……（照）。付き合ったことがないですけど。もし、機会があったら。フフフ。
——「頑張ってる人や、精神的に強い人が好きだ」ってブログに書いてありましたよね。たとえば誰みたいな感じですか？

UFOキャッチャーは閉めるのは大事じゃない。大事なのはクレーンを開けるとき

第9戦目で闘ったタラ・ラローサ戦ではパウンドでボコボコにされたというロクサン。これがターニングポイントとなり、それ以降は意識を変えてポジティブに闘うようになったという。10年5月には同じくタラと対戦。こちらは判定勝利しているから、素晴らしい成長ぶりだ。

人生は楽しいでしょ？ 細かいことはほっといて、笑ったらなんとかなるから

ロクサン　テレビを観ないんですけども。たとえば「そんなの関係ねぇ～」の人とかは、道場の皆さんにバカにされてるからそれはわかるけど……。

――あ、小島よしおはバカにされてるんですか（笑）。じゃあ、ファイターでは？

ロクサン　ん～、まあカッコイイ選手がいますね。自分はその人たちに習いたい。凄いな～と思って。私も頑張ったらそのレベルを超えるかなって。みんな違うところがうまいと思っていますから。

――選手として習いたい、と。たとえば誰に？

ロクサン　たとえば、ヒデオ・トコロ選手は足関節とか、そういう流れは凄く上手だと思う。やっぱりシンヤ・アオキさんは潰しがうまいし、慧舟會のケンジ・オオサワ選手は凄く打撃がうまい。いろんなコンビネーションがうまいから、いま大沢塾という学校でやってるから、教えてもらっています。けっこう、慧舟會の選手を尊敬しています。

――大沢選手も、こないだDREAMで勝ちましたしね。

ロクサン　勝ちましたね！（中村）K太郎さんも勝ちましたよね。でも、仕事で観に行けませんでした……（涙）。

――あらら、土日は仕事なんですか？

ロクサン　仕事と練習がありました……。だからあまり行けないですよ。英会話、いつも土日で仕事しています。仕事のお休みの日は、月曜日と木曜日。その日にちは朝も練習して、夜も練習する。一日の休みはないです。

――だとしたら、大会の多い土日は潰れちゃいますね。

ロクサン　今週の土曜日は『ヴァルキリー』があって、ボスに頼んで休みを取りましたけど。それは普通じゃない。ホントはちょっと難しいけど、親友が出ましたからみんなで応援に行きます。

――じゃあ、ロクサン選手が試合するときはどうするんですか？

ロクサン　ペイド・バケーションというのがあります。1年に12回とることができます。だから次の試合は、チューズデー、ウェンズデー、フライデー、サタデー、サンデー、5日間とって使います。

――となると、本職の合間を縫って、次はストライクフォースのタイトルマッチ（7月23日、サラ・カフマン戦）を闘うわけですね（笑）。

ロクサン　そうですね。ワクワクしています。

――緊張するより、ワクワクするタイプですか？

ロクサン　そう。はじめた頃は凄い「やるぜぇ～」みたいな感じですけど、最初のタラ・ラローサの試合で負けて、9戦目だったかな？ 凄くマウントされてやられました。けど、次に闘うときは「なんで、どうして闘うのか？」を考えました。「殺す」じゃなくて、どうしてと思って。

――こ、殺す？（笑）。

ロクサン　その日から楽しくなければやらないって決めた。じゃあもっと楽しく頑張りたい、楽しく練習したい、楽しく試合したいから次の試合で、入場曲はロックじゃなくて、元気な音楽を流しました。それから、笑いながら、笑顔しながら入場しました。

――そこがロクサン選手のターニングポイントだったわけですね。

ロクサン　そうかな……。でも、人生は楽しいでしょ？ だから細かいことはほっといて、笑ったらなんとかなるから。知ってますか？ 落ち込んだときはクチビルだけでも笑ったらなんとなく元気になる。

――そういう姿勢が大事だ、と。

ロクサン　そう、気持ちがなくても、元気になる。だからときどき練習でこれを感じたら、なんとなく。これは本のウケウリで読みました（笑）。

――受け売り！ 凄い日本語を知ってますね（笑）。では、タイトルマッチも同じ気持ちで臨もうというわけですね。

ロクサン　彼女はけっこう強いと思います。強いからワクワクしています。楽しみにしています。自分はいつも強い相手と闘いたいので。ただ、ラローサと凄く強いと思ってやって、勝って、そこに何があるのかって考える時間もなくすぐにタイトルマッチが決まったので、また強い相手と闘うために、自分の集中をグッとしなければならないから。それがいいと思います。

――目標があるから楽しめるって感じですね。

ロクサン　目標は自分を強くすること、試合は自分の強さを確かめる。いろいろとわかってきました。今回、もっと自分のことをもっと知りたい。

――ストライクフォースのベルトといったら、女子格闘技でもかなり上級レベルですよね。

ロクサン　そう思います。ベルト3本目獲ります！ そして写真も撮ります！

――ワハハハハ！ ぜひ撮ってください。IFCとFFFのベルトも持って、ぜひ。

ロクサン　でも、やっぱり彼女のボクシングのテクニックが強いから……どうするかな～、ちょっとヒミツ。いろいろと考えています。みんなを楽しませる、驚かせる闘いをします。

――いいですね。

ロクサン　悟空のように闘います！

――ワハハハハ！ じゃあ、ぜひ地球上の元気を集めて闘ってください！

ロクサン　皆さん、オラに元気を分けてクダサイ（笑）。

【10年6月21日／都内・ゴールドジムサウス東京アネックスにて収録】

Roxanne Modafferi

ROXANNE MODAFFERI■1982年9月24日、アメリカ出身。大学では日本語を専攻し、卒業と同時に日本へ。総合格闘技は03年にスマックガールでプロデビュー。その後、05年にはIFCミドル級の、07年にはFFFライト級のベルトを奪取。そして10年7月23日のストライクフォースではサラ・カウフマンとタイトルマッチが決定。ドラゴンボールが大好きな日本語ペラペラ女子格ファイター。172cm、61kg。

取材協力／ゴールドジムサウス東京アネックス

主婦が格闘技を始めたち

二人の娘を持つ38歳

北村ヒロコ

最近の女子格闘技といえば、ジュエルスのビジュアル路線のイメージが強いと思われるが、
じつはセカンドライフとして格闘技を楽しんでいる選手たちも多い。
今回ご紹介するのは、二人の娘を持つママさんファイターだ!

聞き手/鈴木佑

——今日は北村選手に〝ママさんファイター〟としてのお話をうかがいにきました！

北村　よろしくお願いします（笑）。

——さっそくですが、総合格闘技を始められたきっかけから聞かせてください。

北村　もともと女子格をやろうというつもりは全然なくて、ウチの近所に禅道会小金井道場ができたので子どもを通わせようかな、と。そのとき上の娘が小４か小５ぐらいだったんですけど。

——北村さんには娘さんが二人いるんですよね。

北村　そう。で、基本ウチのダンナが格闘技が大好きで。相当マニアで「禅道会イコール総合格闘技」ということを知ってたんです。だから禅道会だったら通わせてもいい、と。じゃあ私も身体を動かしたかったし、見学したら「お母さんもできます」って言うのでせっかくだから家族全員で入ったんです。それが2007年かな。

——北村さんは過去に何か運動はされていたんですか？

北村　バレーボールを昔やってたくらいですね。

——失礼ですけど、身体がけっこうしっかり……。

北村　大きいですからね（笑）。でも、結婚して子どもを産んでからはPTAでママさんバレーくらいしか身体を動かすことがなかったので。それも結局、ママさんバレーとかって、お母さん同士の関係がいろいろと面倒くさいんですよ（笑）。

——ああ、いろいろと派閥があるわけですね（笑）。

家族で入会、プロデビュー、そして主婦がまさかのアメリカ遠征、金網マッチへ！　信じられない展開である。試合では娘さんも応援に来ているぞ！

朝は子どもを学校に送り出して、家の用事をいろいろと済ませてから仕事に出かけます

北村　そうそう。そういった人間関係もあるし、普段から練習に行かないと「試合に出さないわよ！」って。でも、「試合に出てほしいから、普段から練習に来てね」とも言われて。

——たいへんですね（笑）。

北村　そうは言っても下の娘も小さいし、「毎日は行けないんだよ！」と思いながら（笑）。でも、空手なら個人競技だし、自分が練習できるときに行けばいいじゃないですか。

——そもそも格闘技自体に北村さんは興味があったんですか？

北村　ほとんどなかったです。当時はPRIDEとK−1の区別もつかないくらいで。あとダンナが「俺の桜庭！」とか騒いでるのをバカじゃんとか思ってた（笑）。

——それは熱すぎて引いちゃうみたいな？

北村　そうそう。もう「俺の桜庭って、向こうはおまえのこと知らんわ！」みたいな。フフフ（笑）。そういうちょっと冷めた目で見てましたね。

——でも、やり始めたら格闘技に引き込まれていった、と？

北村　そうですねぇ。まあ、道場長がけっこうざっくばらんで怖い人じゃなかったので。飲みに行ったりもしつつ仲良くなって。

——サークル的な和気あいあいとした感じですか？

北村　最初はそうですねぇ。それから道場に通ってるうちにやっぱりジャブ一つにしても、できなかったことがちょっとずつできるようになっていくんですよ。で、最初は禅道会で打撃だけの試合をやったんです。そこからちょっとずつステップアップしていって、いつのまにかホントに主婦の道楽じゃなくなって。趣味程度で週２日通っていたのが、いまは週５です（笑）。

——週５！　そんなに通ってると一番興味深いのが生活のサイクルなんですよね。

北村　まずですね、朝は子どもを学校に送り出して、家の用事をいろいろと済ませてから、自分も仕事に出かけます。

——あ、お仕事をされてるんですね。

北村　訪問介護をやってるんですよ。そこの会社がけっこう格闘技に理解があって、このあいだも「試合でアメリカに行く」と言ったら驚きつつも１週間ぐらい休めました。まあ登録だからこそできるんでしょうけど。

——派遣社員に近いスタイルなんですね。

北村　みたいなもんですね。それでいつもは夕方に帰ってきて、とりあえず家族のごはんを作って。それから夜７時半からだいたい10時ぐらいまで道場で練習。そこから帰ってきて泥のように寝て、朝７時に起きます。毎日がその繰り返し（笑）。

——その繰り返しだと、身体は疲れそうですねぇ。

北村　まあ、いまはそれがあたりまえになっちゃって。たとえば練習しないで家にいたとしても、結局寝る時間ってそんなに変わんないじゃないですか。

——まあ、そうなんすけども（笑）。

北村　子どもが「今日は道場に行かないで！」ってせがむ日もありましたけど、子どもたちもそのサイクルに慣れていきま

主婦が格闘技を

したし。

——あれ？　お子さんも道場に通ってるんじゃないんですか？

北村　そうなんですけど、どっちにしても子どもとは練習の時間帯もやることも違うので。だから私が練習してるあいだは子どもは事務所でテレビを観たり、宿題して待ってる感じで。

——ご家族の理解もあるんですね。でも、よくプロとして試合に出ることを決めましたね。

北村　……どうしてやることになったんだっけ？

——あ、それほど重い決意はなかったですか（笑）。

北村　たしか……禅道会の全国大会があって、そこで一昨年ぐらいにグランプリを獲ったんです。そのときぐらいから禅道会の子が何人かプロのリングに上がってたんですけど。出していいかは別として、実力不足の子がけっこうリングに上がったりしてたんですよ。それで「アイツ、なんで出んの？」「若かったら出ていいのか」って思っちゃって（笑）。

——アハハハハハ！　その思いがプロへのきっかけですか！

北村　そうかもしれない（笑）。プロとしてやりたいとは思ってなくても、「アイツが出るなら！」くらいの気持ちはありましたね。

——しかし、こういうとアレですが、北村さんは見た目はおしとやかな感じですけど、話を聞いてるとけっこうイケイケですね（笑）。

6月にアメリカで試合をしましたけど話をもらった時は笑い話の感じでした

北村　イケイケドンドンみたいな、フフフ（笑）。でも、けっこう下積みじゃないですけど、コツコツやってからプロデビューしたんですよ。

——そのプロデビュー戦はジュエルスの新木場1stリングですよね。

北村　新木場のときに初めてプロの試合に出ました。石岡（沙織）がフジメグさんとやったときに、HARUMIさんと試合をして。

——それは「ママさん対決」が看板だったんですよね。

北村　そうなんです。私が54キロでHARUMIさんは60キロで体重差があったんですけど、そういうネタもあったので。

——いま道場で同世代の方々や同じような境遇の方っていらっしゃるんですか？

北村　うん。ほとんど同世代。ほぼ72年生まれなんです、みんな。たぶん第二次ベビーブームだからかなあ（笑）。

——なるほど（笑）。そのなかでプロとして活躍されてるのは北村さんだけですか？

北村　そうですね。さすがにみんなプロの試合まではやってないです（笑）。だって練習もそんなに時間が取れないし、家族がいながらそこまではできないという。

——北村さんは環境には恵まれてるということなんですかね？

北村　そうですね。恵まれているというか、私がけっこううまく回していると言いますか！

——失礼しました（笑）。

北村　まあ、100点は取れてないと思いますけど（笑）。

——では、自己採点すると何点ですか？

北村　う〜ん、点は向こうが、家族がつけるべきなんでしょうけど、ダンナはたぶんいろいろと言いたいことはあると思いますよ。「もっとちゃんとしたメシを作れ！」とか（笑）。でも、私は何か言われたら黙ってるタイプじゃないので！

——向かっていきますか（笑）。

北村　そうです！

——けっこう尻に敷いてるんですか？

北村　いやっ、そうでもないです。だけど、子どもには「お母さんは練習ばっかり！」とか凄く言われます。でも「うるせー」って（笑）。

——娘さんだから家事のお手伝いをしてくれたりするんですか？

北村　いや、ちょっと前の『ファイト&ライフ』でも出たんですけど、上の子は中2のときに不登校になっちゃって、一時期。いまは学校に行き始めたんですけど、行けなかったときにやっぱりいろいろあって、石岡にも世話になったりして。

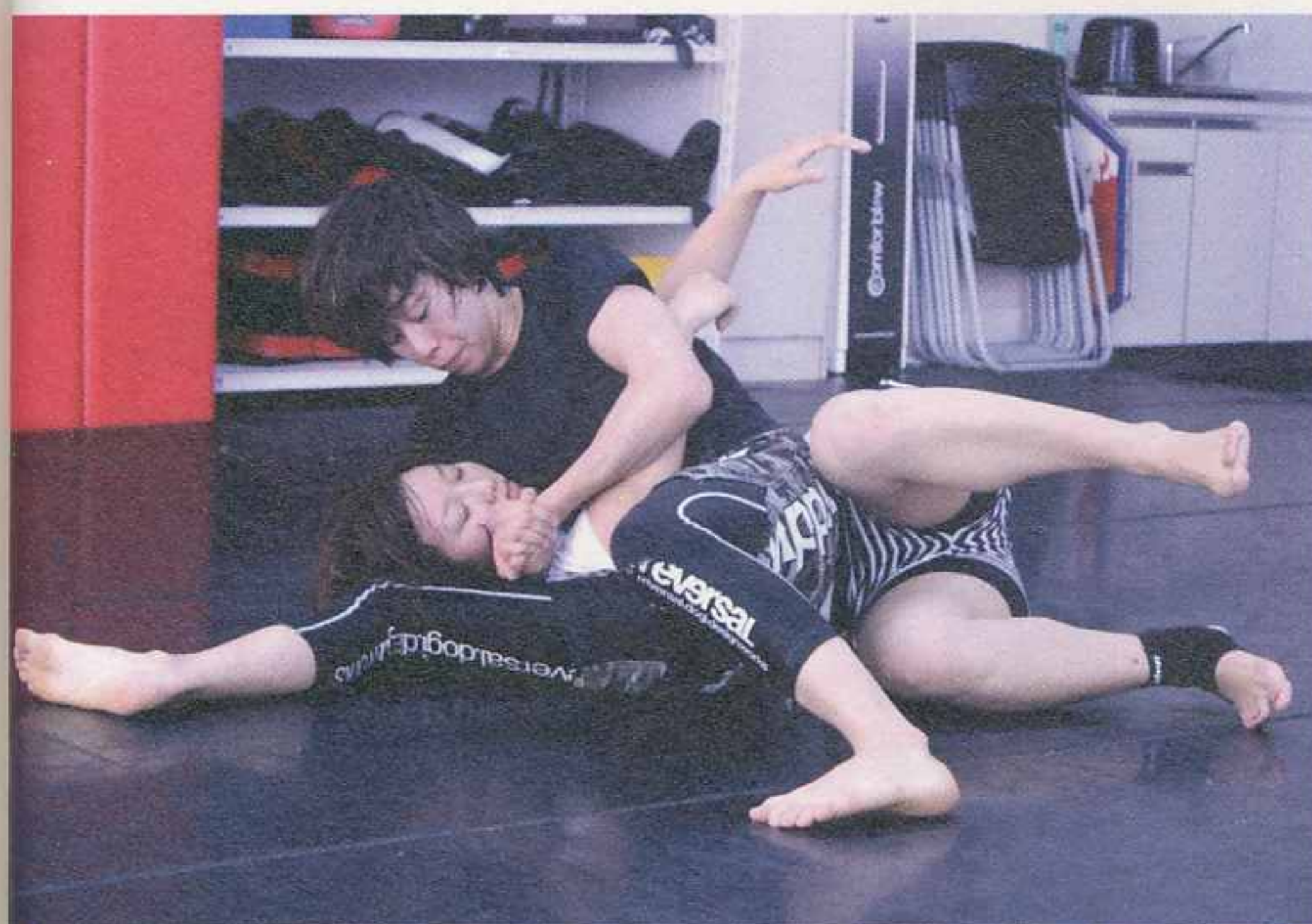
——娘さんは石岡さんの家に居候してたんでしたっけ？

北村　そうそうそう。学校に行けなかったりしたときに道場にいろいろお世話になったんですよ。だからいまでも石岡を応援に会場に行ったりしてますし。

——ご主人はどうなんですか？　まさか自分の奥さんがプロとして試合に出るとは思わなかったでしょうし。

北村　う〜ん、うれしい気持ちと、やっぱり格闘技オタクなだけにいろいろと質問してきますね（笑）。

——それは技術的なことですか？

北村　そうそう。でも、あの人に技術をいろいろと言われる筋合いもないんですけど（笑）。

DEEPジムの女子練風景。若手の女子に混じって北村さんも頑張る！

――アハハハ！　素人は黙ってろ、と(笑)。
北村　そういうことです(笑)。
――6月にはアメリカで試合しましたけど、主婦がアメリカで試合というのも凄い話ですよね。
北村　最初に話をもらったときは「えっ？　マジ？」って、ちょっと笑い話ぐらいの感じだったんですよ。ジュエルス広報の勝井さんからお話をいただいて、道場長から話を聞いて「サリーちゃんと金網？　UFCルール？　えーっ？」って。
――どうして北村さんだったんですかね？
北村　最初は54キロの階級で誰かいないかという話が来たんだと思うんです。そのときはほかに選手がいなくて私が空いてて、たまたまだったと思うんですね。話を聞いたときはもちろん怖いという気持ちもあったけど、こんな話もいただけることはそうそうない、と。
――なかなか経験できることじゃないですよね。プロになる前と比べて試合への意識って変わりました？
北村　1戦目とかは自分がプロという自覚もないですし、まだプロなんて言えませんでしたね。それがだんだんだんだん、ここやっとですかね、最近。ツイッターとかでも「頑張って！」とか言われたりして、フォローもちょっとずつ上がってきたということは、認められてるってことなのかなって。
――有名願望はあるほうですか？
北村　もうこういう身分ですし、そういうのはあんまりないですけど。でも、アメリカで入場したときは凄く気持ちよかったです(笑)。
――プロ冥利につきるでしょうね。何かプロとしてのこだわりとかってありますか？
北村　私、入場曲にこだわりがあるんですよね。私が高校とかからずっと好きだったバンドにニューエスト・モデルというのがあって、メンバーは一緒なんですけど、いまはソウル・フラワー・ユニオンというバンドになってるんです。ずっとライブも行ってるんですよ、子どもがちっちゃかったときを除いて。
――北村さんはロック好き？
北村　はい、ダンナともそれが縁で。ソウル・フラワー・ユニオンのボーカルとも、ちょっとだけ知ってるんです。そんな親しくはないですけど、こないだボーカルにも「アメリカの試合、動画で観たで」とか言われて。
――ファンとしてはうれしいですね！
北村　そうですね(笑)。ちゃんとツイッター上でもやりとりがあったりとか。で、その人たちの入場曲を使わせてもらって。
――ダンナさんとは、格闘技よりもロックのほうが共通項なんですね。

きたむら・ひろこ■1972年生まれの38歳。空手道禅道会小金井道場所属。167cm、54kg。二人の娘を持つ主婦です。

Hiroko Kitamura

北村　あぁ、そうかもしれないです。ロックつながりですね。付き合ってみたら凄い格闘技好きだったという。「なんだ、このオッサン？」みたいな。フフフ(笑)。
――格闘技の舞台で好きなロックを流せたわけですね。
北村　そうですね。だから2006年の段階で、私はプロになって入場したら、冗談話であの曲かけるからって言ってたんですよ、3～4年前に。
――それが実現しちゃって。
北村　そうそうそう。そんなこと、まさかあるとは思わなくて。人生、どうなるかわからないですよねぇ。
――ほかの選手から人生経験豊富な先輩として相談されたりはするんですか？
北村　相談？　でも、いろいろみんなで話してたら、男方面の話も含めおもしろいですよ(笑)。
――「アタイも昔はね」みたいな？
北村　なんで三原じゅん子的に(笑)。まあ、いろいろとありますね。そういえば、このあいだ「結婚しようと思うんですけどね」っていう話をされて。聞き側で充分なんじゃないですか、それは。聞いてあげれば。
――実際は女子格の選手で結婚してる人ってそんないないですもんね。
北村　そうですね。しかも私は一応、結婚2回してますからね。
――えっ？
北村　いまのダンナは再婚で。二人とも私の連れ子なので。
――あ、そうなんですか。それだけ人生経験が豊富だと女子格のビッグママみたいな感じですね(笑)。
北村　でも、年齢だけで言うと、ほかに同年代の方もいるので(笑)。まあ、結婚してる、子どももいるというのはないと思うんですよね。
――10代や20代前半だといろいろと目移りしちゃって格闘技どころじゃないかもしれませんよね。
北村　うん、そうですね。それはちょっとわかる気はします。私自身が若いときからやってるわけではないので実感としてはわかんないけど。やっぱり若い子だったら、彼氏がほしいとか、いろいろ遊びたいだろうし、「なんで練習ばっかしないといけないの？」という気持ちに、私が二十歳だったらなってますね(笑)。私はもういろいろ終わってるから、できるんだとは思うような気がするけど。
――そういう意味では、北村さんを見てやりたいと思うママさんもいるかもしれませんね。
北村　競技人口がもっと増えてほしいなとは思いますね。でも、やっぱり女子は打撃って難しいのかな？　「打撃はちょっと……」っていうママさんもいますからね。
――そのあとはPTAの役員になるとか。
北村　それは絶対にない！　やりたくない！
――アハハハ(笑)。道場の指導員ならいいけど。
北村　そうですね。あんなPTAのおばちゃんはやだな、面倒くさい。面倒くさいんですよ、ああいう。ナアナアのなかで、「ねぇ、どう思う？　どう思う？」とか聞かれながら、「めんどくせーなあ」と思うんですよ。
――生き様や口ぶりがロックですよね(笑)。これからもその調子で頑張ってください！

【10年6月23日／都内・DEEP道場にて収録】

6.28『SB&ジュエルス“ツヨカワ祭り”』レポート

夏だ! 女子格だ! リングに恋せよ乙女!!

暑い夏には熱い女の闘いがよく似合う!

6月28日、渋谷J-POP CAFEにて『SB&ジュエルス〝ツヨカワ祭り〟in渋谷』が開催され、人気女子格ファイターによるトークイベントが3部構成で繰り広げられた。

実力と人気を兼ね備えた〝ツヨカワ〟ファイターたちの熱いトークはもちろん、司会を務めた佐伯繁DEEP代表お得意の下ネタも飛び出し、イベントは大盛り上がり。

まず、第1部に登場したのはRENAと藤井惠。8月31日に開催される『Girl's S-cup』に参戦予定のRENAは、「去年の優勝賞金は母との旅行とジムにミットを買って寄贈しました。今年も優勝目指して頑張りたいですね」と笑顔で必勝宣言。また、6月のベラトールFCでサラ・シュナイダーから見事にTKO勝利を収めた藤井は、「会場のファンが凄く盛り上がっていたので楽しめました。次のトーナメントも頑張ります」と米国での闘いを振り返った。

質問は試合以外のことにもおよび、「好きな男性のタイプは?」と聞かれたRENAは「古風な人がいいです。最近流行の草食系はダメ。でもかっこよすぎる人も好きじゃない」と告白。これに対して「じゃあ、俺はかっこいいからだめだな」と微妙なボケをかます佐伯代表にも、優しくほほえみかけるRENAであった。また、6月29日に19歳のバースデーを迎えるRENAには、サプライズとしてケーキが贈られ、出席者とファンが誕生日を祝った。

続いて行なわれた第2部では杉山しずか、アミバ、湯浅麗歌子が登場。DEEPジムでの練習仲間でもある3人からは、「女だけの練習はエグい。でも、男がいないので練習中ウェアがはだけても気にしない」と、ファンがドキドキするような発言も!

「好きな男性格闘家は?」との質問に、杉山は「プロレスラーの杉浦(貴)選手。あとは、見た目だったらミノワマン。なんか変わった人が好きなんです」と、あいかわらずの〝じぃやんワールド〟を披露。また、杉山は7・31『ジュエルス』で初のSBルールでの試合に臨むことも発表され、「体重を活かして頑張りたいです(笑)」と意気込みを語った。

第3部では長野美香、HIROKO、富田里奈、富松恵美の4選手がトークを披露。長野は好きなタイプとして「優しくてなんでも受け入れてくれる人。有名人だったらキムタクとか魔裟斗さんとかNEWSの山下」とイケメンばかりの名を挙げ、佐伯DEEP代表から「結局は顔じゃん! それじゃ夢がないわ~」と、ファンの気持ちを代弁するようなツッコミが入る一幕も観られた。

ほかにも選手の得意技の体験コーナーやサイン会&写真撮影会も実施、リング上の姿とは違う面を見せるツヨカワファイターたちに、ファンも大満足のイベントとなった。

『ジュエルス 9th RING』

東京・新宿FACE
7月31日(土) 開始18:00 (予定)

対戦カード
瀧本美咲 vs リサ・ニュートン

出場予定選手
【ジュエルス初代ライト級女王決定トーナメント1回戦】
石岡沙織、長野美香、ハム・ソヒ、市井舞、能村さくら、セリーナ、浜崎朱加
【ワンマッチ】
杉山しずか

チケット料金
VIP席(最前列) 10,000円/カウンター席10,000円/RS席7,000円/A席5,000円/B席4,000円

お問い合わせ
マーヴェラスジャパン TEL.03-5458-2536

『SHOOT BOXING WORLD TOURNAMENT Girl's S-cup 2010』

東京・グランドプリンスホテル赤坂
8月29日(日) 開始15:00 (予定)

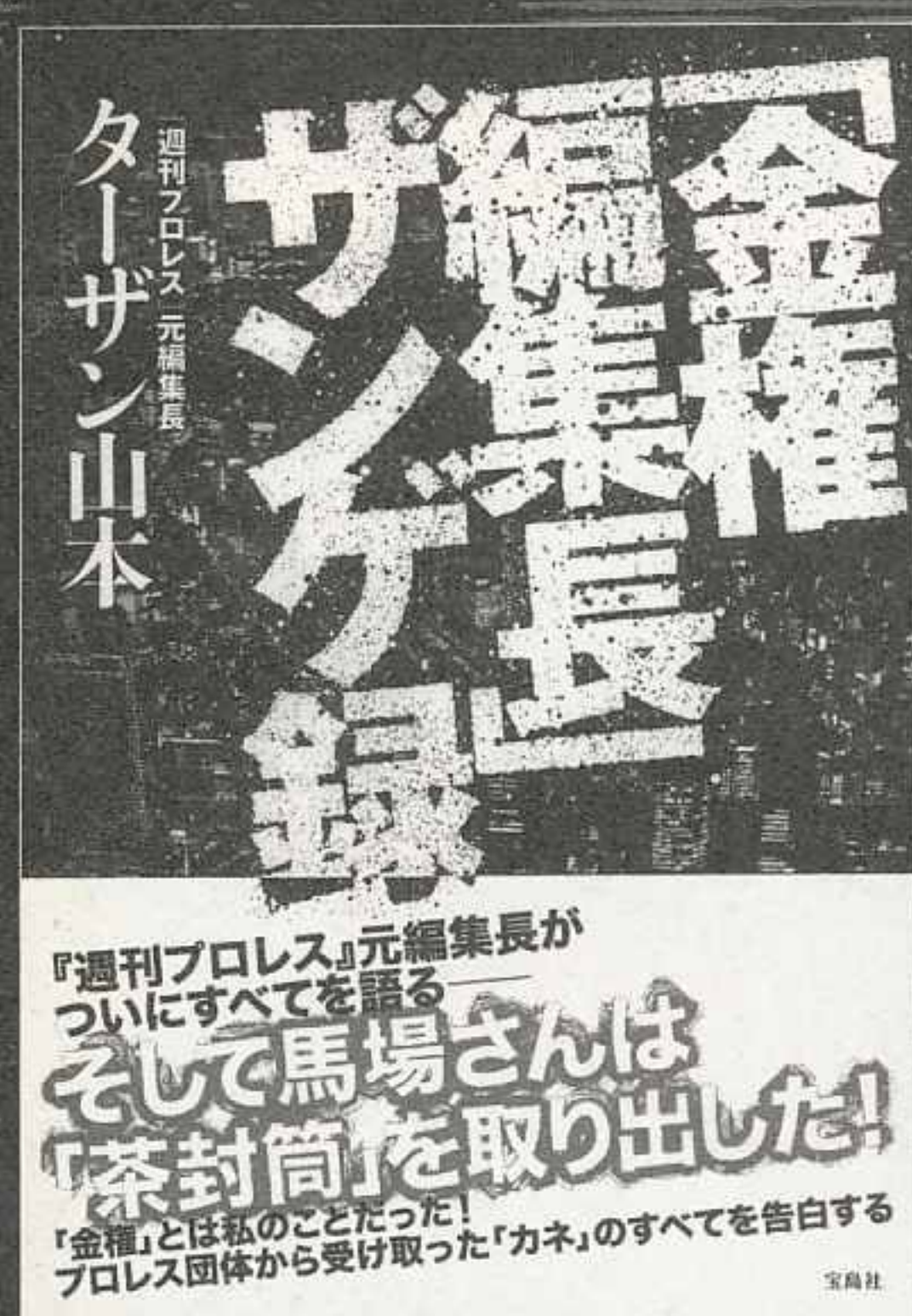
出場予定選手
RENA、V一、渡辺久江、髙橋藍

チケット料金
調整中

お問い合わせ
シュートボクシング協会 TEL.03-3843-1212

ターザン山本の暴露本『「金権編集長」ザンゲ録』から考える

プロレスマスコミと金

「金権編集長」ザンゲ録
週刊プロレス 元編集長
ターザン山本
『週刊プロレス』元編集長がついにすべてを語る――
そして馬場さんは「茶封筒」を取り出した!
「金権」とは私のことだった! プロレス団体から受け取った「カネ」のすべてを告白する
宝島社

プロレスファンのためというターザンの発言はすべて綺麗事だった

G・馬場から金をもらいSWSを叩いていた男

語ろう！“金権編集長”ターザン山本

なぜ、この暴露本は出版されたのか？

kamipro USTREAMで全世界へ配信！

あのターザン山本がついに暴露本を出版！ 自宅を競売にかけられた金銭苦からか、これまで語ってこなかった“金”の話をついにカミングアウト！ ジャイアント馬場夫妻から金をもらいSWSを叩き、さらにSWS田中社長からも多額の口止め料をもらい、大仁田厚からは賄賂を受け取り表紙にしていたという。このマット界に糞をぶっかける行為を受けて、19日、「kamipro USTREAM」で「ターザン山本の暴露本『金権編集長』を暴く」を緊急配信！ 本誌編集長・ジャン斉藤と、近年最もターザンを取材している堀江ガンツ、ターザン編集長時代に『週プロ』でのバイト経験を持つペールワンズ総帥・井上崇宏の3人が『金権編集長』を語りまくったので、誌面でも再掲載させていただきます。

構成／堀江ガンツ

斉藤 どうも、『kamipro』編集部の斉藤です。今日はターザン山本の暴露本『「金権編集長」ザンゲ録』について、徹底的に語りたいと思います。ゲストはターザンを語らせたら右に出る者はいないと言われる、この二人です！

ガンツ どうも堀江ガンツです。

井上 ペールワンズの井上でございます。

斉藤 今日は3人で『金権編集長』を語っていこうと思いますが、早くも話題になってるみたいですね。

ガンツ というか、ひさびさに発売日が待ち遠しかったよ（笑）。

井上 そうそう、早売りで買いたいぞっていう。

ガンツ 実際、待ちきれなくて発売の3日前に水道橋の山下書店に行ったんですけど、さすがに売ってませんでした。

井上 3日前であるわけねーだろ！（笑）。

斉藤 お二人はもう読まれたんですか？

井上 読みました。昨日さらりと。

ガンツ 「さらりと」っていうわりには、もの凄い数の付箋つけてますね（笑）。

井上 パラッと読んだだけなんで、逆に付箋を貼っておかないとね。

斉藤 読んだ感想はいかがでした？

井上 単刀直入に言いますと、ターザン山本ってもっとひどい男だと思ってたけど、意外となんかかわいいなっていう。

斉藤 感想が「かわいい」ですか!?

井上 読んだ人はわかると思うけど、馬場さんから50万円もらったと

プロレスマスコミと金

か、FMWに「表紙にしてくれ」って言われてもらったのが30万円とか。なんか、そのへんの数字が想像していたよりしょぼいというか。

ガンツ あれだけ売れた『週刊プロレス』なのに、金額にスケール感がないですよね。

井上 そこらの不良サラリーマンもこのくらいのことはやってるんじゃないかっていう。裏技で年収の倍稼いでる人とかいるでしょ?

斉藤 あの当時の『週プロ』編集長の立場を利用すれば、もっと金をもらいまくってても驚かなかったって感じですか?

井上 だって『週プロ』の影響力って当時絶大だったからね。

斉藤 公称実売50万部と言われ、業界外でも注目されていた時代ですよね。

井上 だから当時は広告代もけっこうな額してたと思うんですよ。それこそ1ページ30万円はくだらないでしょ。だから大会告知の広告入れる額を編集長に直で払うと表紙にしてくれるんだったら、そりゃ団体としてはみんなそっちにやるよね(笑)。

ガンツ 「表1」が30万円で買えるってありえないですよね(笑)。だから、ホントはもっと悪いことできたのに、〝ワル〟としては小物だなって。「いや、それはターザンが嘘をついているだけど、ホントはもっともらってるんだ」っていう人もいるかもしれないけど、俺はこの本読んで「正直に書いてるな」って感じた。

斉藤 「これは嘘だろ」っていう箇所があまりなかった?

ガンツ うん。俺は何度もターザンと話して、ある程度はお金の話とかもオフレコで聞いてたけど「俺が知ってることと違う」っていうところが少なかった。

井上 そうだよね。この本には俺たちが知ってたこともかなり載ってるけど、その答え合わせをすると意外と間違ってない。だから逆に違和感も意外性もなくて「あれ?」みたいな。

ガンツ でも、そんな俺やきびさん(井上)にも、「馬場さんと元子さんから金をもらった」という、そこだけは一度も言わなかったんだよね。

井上 そう。

斉藤 なんで言わなかったんですか?

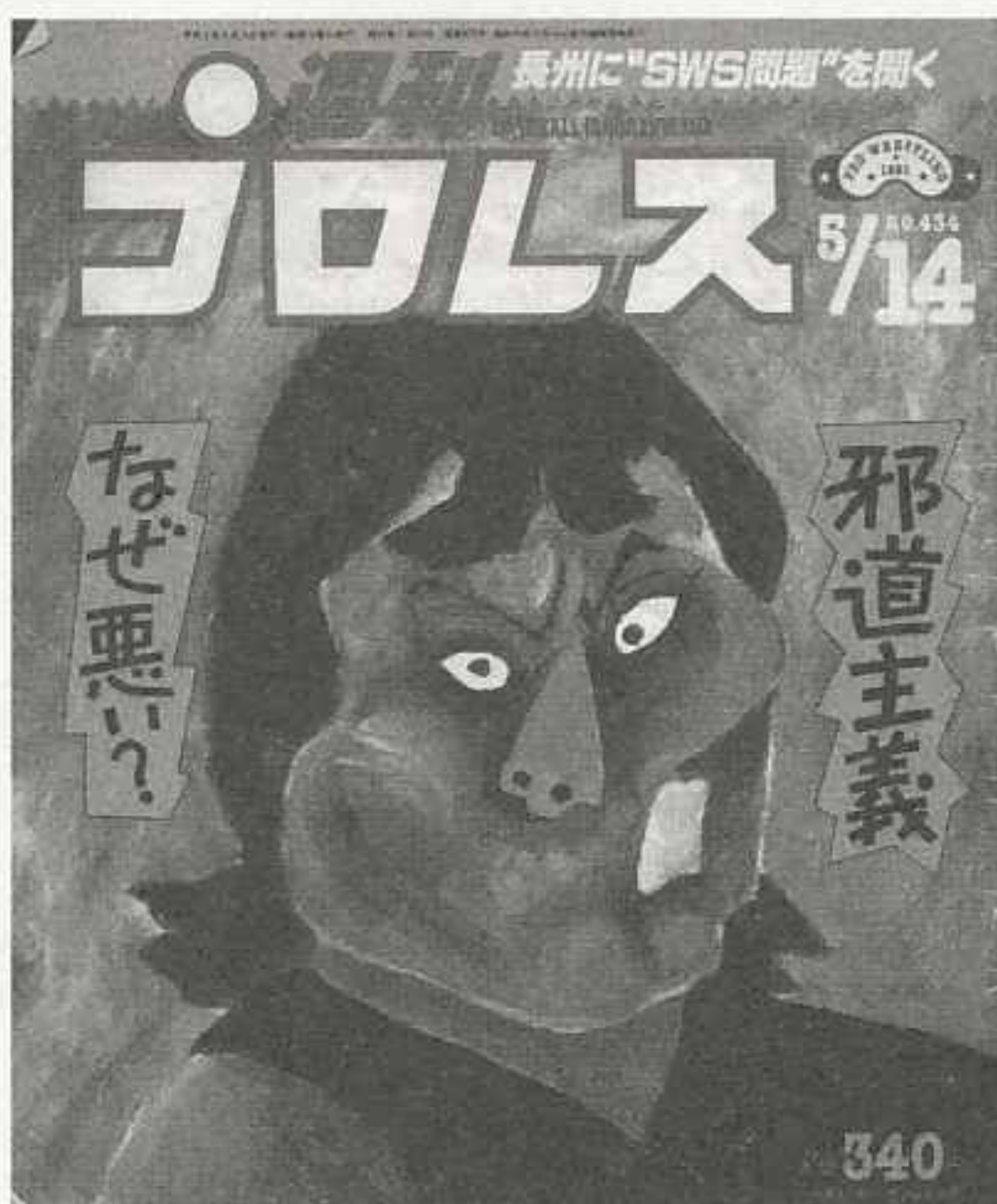
ガンツ わからないけど、ターザンのなかでタブーだったんだろうね。じつは昨日、ターザン山本さんに電話したんだけど、ついに暴露本の発売日を迎えてしまったことに、凄くビビってたんだよ(笑)。

井上 出すことにビビってたんだ(笑)。

斉藤 ウェブ日記『ターザンカフェ』にも、ほとんどこの本のことは書いてなかったんですよね?

ガンツ 宝島社からの告知は発売1カ月前からされてるのに『ターザンカフェ』では、ホントに発売前日まで1行も書いてなかったからね。どんだけ出るのが怖かったんだっていう。

井上 おそらく編集者から「山本さん、告知してくださいよ。何やってんですか」って言われただろうね。でも「相撲界は凄いことになってるな」とか書いてて、アンタもたいがい凄いだろっていう(笑)。

ガンツ で、電話したときの作戦として「怖がらなくてもいいですよ」「ボクは味方ですよ。山本さん大丈夫」っていう感じで安心させて、いろいろしゃべらせました(笑)。

これがFMWから30万円の賄賂を受け取って作ったという『週プロ』の表紙。「邪道主義 なぜ悪い?」のコピーも、その事実を知ってしまうと「金で表紙を買ってなぜ悪い?」というふうにも取れてしまうから不思議だ。

斉藤 電話もおそるおそる出たんでしょうね。

ガンツ で、安心させたあと、ターザンが「どうしたらいいんだろうね」っ弱音を吐き(笑)、「もう俺は外歩けないよ! ずっと家にいますよ」って言ってました。

井上 でも、それはターザンの認識も間違ってて、これは全然普通に外を歩ける本ですよ。だっていまさらこの本にマジでブチ切れて、ターザンを襲ってやろうっていう熱い人が思い浮かばないもん(笑)。

ターザンはこの本が発売されることにビビって「もう外歩けない」と言ってた

ガンツ でも、「元子さんに土下座せにゃいかん」って言ってましたよ。

井上 なんか俺の聞いた情報によると、元子さんに関する記述は「やっぱカットしてくれ」って直前まで頼んでたらしいね。

ガンツ あ、それは電話でも言ってました。ボクが「この編集者はやり手ですね」って話したら「俺が『これ書いちゃいかんよ』って言うと、その話ばっか聞いてくるんだよ」って。

斉藤 そもそもターザンは、どういうつもりでこの本のオファーを受けたんですかね?

ガンツ 弱みにつけこまれたんだろうね。

井上 「お金に困ってるんでしょ?」っていうことだよね。「馬場さんのことはまだ語ってないですよね。それをやったらお金になりますよ」と。

斉藤 なるほど。それでホイホイしゃべっちゃったってことですか?

ガンツ さっきの俺の電話じゃないけど、編集者に安心させられたんじゃないの?「出しちゃっても大丈夫ですよ」って。だからこの「ザンゲ録」っていうのはアングルなんだよね。きっと「〝懺悔〟というかたちで出せば大丈夫」って言われたんだと思う。で、編集者にとったら、懺悔だろうがなんだろうが、馬場さんに関係することの暴露さえしてくれればいい、という。

斉藤 でも、さすがにターザンも危険予知ぐらいあるわけじゃないですか。出したら大変なことになるっていう。それがわかっていても、お金がほしかったってことですか?

ガンツ そういうことでしょう。考えないようにしたというかね。

井上 だから、この本は構成のトーンが全部、懺悔っぽくなってるよね。ローテンションで「皆さんご迷惑おかけしました」って感じで。でも、俺らが知ってるターザンって、気が弱い面はあるけど、そんなに罪の意識がない人だよね?

ガンツ きわめて贖罪意識がない人ですよね(笑)。

井上 だから、あとがきでホントに取ってつけたように「天龍さん、長州さん、ごめんなさい」みたいに書いてあるのが凄く引っかかる。あと、まえがきなんかで、編集者のほうから「論ではなく事実によって語らしめるプロレス記者生活の総括」っていうのを要求されたって書いてあったけど、編集者としての総括にはなってないよね。お金についての言質を取ったのは凄いとは思うけど、まだまだほかに聞きたいことはたくさんある。「前田となんでおかしいんだ?」とか、「長州とも本当はなんでダメになったのか?」っていう部分が一切語られてないっていう。

斉藤 なんで語られなかったんですかね?

ガンツ おそらく、編集者が聞き出

したかった〝本丸〟が、ジャイアント馬場の裏金暴露だったんだと思う。だって、それ以外のお金の話って、ほとんど『kamipro』のインタビューですでに語られた話だもん。だから、ウチの誌面が参考資料というか、下敷きになってるんだよ。

斉藤　あ、やっぱりそういうの感じます？

ガンツ　読んでて凄く感じた。

井上　バリバリ感じるよね（笑）。

ガンツ　やっぱり自分で書いた記事は覚えてるからさ。「あ、これウチで書いたやつ、これもウチで書いたやつ。これは井上さんが座談会で言ってた話じゃん」とか（笑）。

井上　百瀬（博教）さんに対して「腹減った」って言ったなんて、絶対にターザンの自白じゃ出てこないもんね（笑）。

斉藤　となると、馬場さんネタ以外は、ウチのインタビューの総集編的ですよね。

ガンツ　そうだろうね。俺がなんで「ウチのインタビューを下敷きにしてる」って思ったかというと、俺がターザンから聞き出したお金の話で、ターザンから「これはカットしてくれ」って言われてカットしたネタがあったんだけど、それはやっぱりこの本に載ってないからね。

斉藤　へぇー、なるほど。

ガンツ　それは、馬場さんの暴露に比べたら、べつに出してもいい話だよ。でも、そのネタって、ターザンに対して「○○○○の話をしてください」って言わないと出てこないネタなんだよ。で、『kamipro』誌上にもそれは載ってなかったから、編集者はその質問ができなかったから載ってないんだろうね。

斉藤　なるほど。馬場さんのお金の話は、逆に以前から業界内で噂としてはあったから、質問としてぶつけられて、聞き出せたという。

井上　だから、思ったほど新ネタが出てきてないよ。

斉藤　ただ、ターザンとよく話をするお二人はそうかもしれませんけど、一般のファンからしたらSWSの田中八郎社長（当時）の記述とか、ビックリしたと思いますよ。「口止め料として月50万円を1年間もらった」とか。「税金のかからないかたちでお願いします」とか。「お車代が最初は50万円だったけど、最後は5万円だった」とか（笑）。

井上　そのときのターザンの顔色を見た田中八郎が「ヤバい」と思って、あわてて5万円突っ込んだっていうね（笑）。

今月もSuicaを換金!!

月刊ターザン

ターザンとお金

この取材で義理人情より「ターザンはお金である」ことが、はっきり証明された。これは一つの歴史的転換である。

本誌No.136で掲載した「ターザンと金」と題したインタビュー。ここには馬場夫妻からの裏金こそ載っていないものの、それ以外の金の話はほとんど網羅。今回の『「金権編集長」ザンゲ録』は、こういった本誌の企画が下敷きとなってしまったか。

斉藤　そこは世代によってショックの度合いが違うんじゃないかと思いますよ。

ガンツ　でもやっぱりね、宝島社の編集者もジャイアント馬場のお金の話はもっと出てくると思ってたはずですよ。

斉藤　自分もそこはもっと書いてあると思った。

井上　だから、馬場さんから直でもらったのが実質、最初の50万円。それと、全日本プロレスがターザンの故郷である山口県の岩国市で興行を打ったとき、「お父さんに」ってことで30万円もらって、半分ターザンがもらった15万円だけだもんね。

ガンツ　俺は馬場さんがターザンのお父さんにお金を出した話は聞いてたんですよ。ターザンが半分くすねたことも（笑）。でも、元子さんに競馬代をせびってたのは知らなかった。

斉藤　あれ、最高ですね（笑）。

井上　逆に俺は、元子さんにせびってた話は昔から知ってたのよ。

ガンツ　あ、そうなんですか！

斉藤　あれ読むと昔のプロレスはホント儲かってたんだなって感じはしますよね。競馬をやるために、30万円を何度かもらって、最後は150万円もらったんでしたっけ？「凄いなあ、プロレス界」って思いました。

井上　でも、当時の『週プロ』全盛期を知ってる者としては、もっと取れたんじゃないかって思うよ。馬場夫妻から、それぐらいは小遣いとしてもらって当然でしょ。だって、当時の『週プロ』ってもう反吐が出るくらい「馬場さん、馬場さん」だったよ。ふざけんなっていうくらい。

ガンツ　アンチ馬場には耐えられない状況（笑）。

井上　「馬場さんのことを〝さん付け〟でしか呼べないのだ」みたいな。もうふざけんなと思って（笑）。

ガンツ　とてつもないイメージアップ作戦でしたよね。全日本のプッシュも凄かったし。

斉藤　それによってお客が入るようになった、当時の全日本の売り上げを考えたら、ターザンにあげた額は〝はした金〟になっちゃいますね。

井上　SWSによる選手大量離脱後の全日本を救ったのは、ターザンだからね。

ガンツ　それだけは間違いないですよね。『週プロ』を読んで、当時のプロレスファンは〝一致団結して全日本を応援しよう〟ってなったんだから。

井上　で、マッチメイクまで介入してね。あの、タイガーマスクを脱いだばかりの三沢を武道館ですぐ鶴

SWSバッシング 『週刊プロレス』表紙ギャラリー

『「金権編集長」ザンゲ録』にて、G・馬場から金を受け取り、SWSを叩いていたことを告白したターザン。その当時の『週刊プロレス』の表紙をここで一挙に紹介。よくも悪くも、えげつなく刺激的な表紙ばかりなのは確かだ。

あまりにも有名な「天龍、全日本離脱」を報じる表紙。コピーがじつに強烈。この号が出たあと、ターザンは馬場から50万円の入った茶封筒を渡されたという。

SWSが旗揚げ会見を行なうと「資金60億円」「これが夢やロマンといえるのか」とさらに〝金権〟をアピール。どさくさにまぎれて鶴田戦をぶち上げるドラゴンも最高。

他団体で『週プロ』の報道姿勢に真っ先に噛みついたのは我らが破壊王。師であるドン荒川イズムで、お金を出してくれるスポンサーを叩く『週プロ』を批判した。

馬場はターザンに裏金を渡していても『夢の懸け橋』でちゃんと回収してる

田とぶつけて、勝たせなきゃダメだとかさ。冴えまくってるんだよね。

ガンツ　馬場さんに「鶴田vs三沢」を進言する前に、ジャンボと親しいジミー鈴木に意見求めるところとか、リアリティありましたよね。

井上　そうそうそう。

斉藤　なるほどなー。

井上　だから、全日本はターザンにいくらか金払ったとしても、そんな額をはるかに上回る利益を得てるわけなんだよ。それにベースボール・マガジン社主催の東京ドーム大会『夢の懸け橋』でさ、13団体参加だけど、試合順は旗揚げ順ということで、一番古い新日本がメイン、全日本はその下のセミでやることになった。で、全日本にセミ出場を納得させるため、新日本のギャラは2000万円なのに、全日本には1000万円上乗せして3000万円だったって書いてあったじゃん？

ガンツ　そうですね。

井上　この1000万円で、もう〝行って来い〟になってるんだよ。山本に金渡して、いくらメシ食わせても、総額1000万円はいってないだろうから、『夢の懸け橋』だけで、馬場さんはもう回収してるんだよ。

ガンツ　さすがですね（笑）。

斉藤　そこでちょっと気になるのは、ターザン以外にも当時のプロレスマスコミって、どこもお金もらってたんですかね？

井上　どうなんだろうね。

ガンツ　ターザンが言うには「昔からプロレス界は、担当記者に小遣いをあげる伝統みたいなものがあったらしい」って。ほかの人がもらってるかどうかは知らないけど、「みんな同じような感じじゃない？」って言ってた。

斉藤　自分なんかもらったことないから、どういう感じで団体からお金をもらうのかって気になりますよね（笑）。

井上　だから、俺らはこうやってネタにするけどさ、気まずい人たちっているんだろうね（笑）。

ガンツ　嘘発見機にかけられたら一発な人はいそうですよね。

井上　なんでそんな大がかりな企画になるんだよ（笑）。べつに誰がもらってようがどうでもいいけど、「もらってそうだな」って、頭に浮かぶ人が何人かいる（笑）。「あの猛プッシュはおかしいでしょ」みたいなね。

斉藤　へぇー、たとえば？

井上　知らねーよ！（笑）。

斉藤　じゃあ、お二人けっこう拍子抜けですか？　暴露っていうことに関しては。

井上　ネタに関しては拍子抜けっていう感は否めないけども、やっぱターザンがこれを出して、いまどんな気持ちなんだろうとかっていうのは興味があるよ。で、これが出たことによって気まずい世代の人たちがいるんだろうって、そのへんはウォッチングしていきたいですね（笑）。

斉藤　ダハハハハ！　監視していきますか（笑）。

井上　ウォッチングしていきたいよ。だからね、たぶん宝島社がこの本を「懺悔」「編集者人生総括」というふうに設定したのはさ、もしこれが売れたとき、前作『遺言』をうっかり出しちゃったような、わけのわかってない出版社が「じゃあ山本さん、もう一冊出しましょう」って、改訂版を出そうとするのをストップさせたかったんじゃない？　だから、おそらくこの本がオーラスになると思うんだけど。となると、いよいよ山本の今後はどうなるんだという。

ガンツ　おそらくターザンのなかでは、「もう自分にはプロレスの仕事はほとんど来ないだろう」ってことで、暴露本を出そうとしたんでしょうね。

井上　だからワンルームに越したっていうのも、ちょっとあるんだよね。

斉藤　ワンルームへの引っ越し代がほしかったっていうことですか？

井上　いや、「もうワンルームに引っ越したんで、プロレス関連の仕事を受けなくても、『ターザンカフェ』だけで生活はできます」と。暴露本の印税という〝プロレス界からの退職金〟をもらって、プロレス界を捨てたっていうことでしょう。

ガンツ　俺ね、この本を出すって聞いたとき「情けないな」って思ったのは、きっとはした金で暴露本出しちゃったんだろうなって。

斉藤　なんか印税じゃない気もしますよね。

ガンツ　出版のお金としてはある程度ちゃんとした額だとは思うんだけど、これまでプロレスで稼いできた額、もらってきた額を考えると、

プロレスマスコミと金

90年代、マット界の天皇のごとく、全日本系のファンから神聖な存在と思われていた故ジャイアント馬場。もちろん、これはターザンによるペンの力が大きかったのだが、一方では裏金を渡していたという事実も今回初めてあきらかにされた。

強烈な天龍SWSネガティブキャンペーン表紙第2弾。今度は「SWSは引き抜きをしないと言っていたのに、金で引き抜き始めた」と、金を出す＝悪のイメージを強調。

そしてここでついに御大・ジャイアント馬場が登場！「馬場、ついに怒る」のコピーとともに、いよいよ馬場の口からSWSを徹底批判させ、さらにSWS＝悪を印象づけた。

「天龍、全日本離脱」から半年後、SWSが旗揚げ戦を迎えると、今度は「これがはたして理想のプロレスなのか？」と試合内容を徹底的にこき下ろしていった。

SWS旗揚げから2年弱。ついにSWSが崩壊危機を迎えると、この勝利宣言のような表紙。その裏でターザンは田中社長からも多額の口止め料をもらっていたのだ。ひどい！

プロレスマスコミと金

その世界を捨てるには、はした金だろうなって。

斉藤 でも、暴露本でもらう金が〝はした金〟って思えるぐらいだから、ターザンの時代って、本当にうらやましいですよね。

ガンツ いや、だからターザンに電話したとき皮肉で「プロレス記者ってこんないろんなことができて、こんなにお金もらえるんだって思ったら、ボクもちょっとやる気出てきましたよ」言ったらさ、「これを読んでガンツがやる気になってくれたっていうのはいい話だな！」とか言って。全然皮肉がわかってないんだよ（笑）。

斉藤 ホントふざけんなって話だなあ。この本は現役のプロレス記者や編集者にとっては、いい迷惑ですよね。

井上 でも、現役の記者は絶対お金もらってないだろうなとも思われている、この悲しさね。だいたいいま、どっからその金、団体が捻出するんだっていう（笑）。そんな金どこにもねえぞ。

斉藤 まあ、それでも「もらってんだろ」って思う人もいるのかもしれないけど。ところで、この本に載ってない部分で、お二人がご存知のお金の話ってありますか？

井上 確証はないんだけど、『SRS・DX』時代に似たようなことがあったんだよ。これは、ある格闘技団体にとってあまり有益じゃないというか、批判的な記事をターザンが書きました、と。

斉藤 なんかもの凄く限定されます（笑）。

井上 それで、その某格闘技団体の社長さんに「ちょっと会おう」と呼び出されたんだよ。それで、ターザンとその同行者として、いわゆる〝金権伝書鳩〟。その三者がホテルで会ったんです。

斉藤 金権伝書鳩ですか（笑）。

井上 で、ターザンたちがテーブルに着くなり、某格闘技団体社長が「おい、ちょっと金権伝書鳩くん、悪いけどタバコ買ってきてくれない？」って言って、「ヒャッ！」ってなったらしいんだよ。

ガンツ 「ヒャッ！」って言ってないでしょ！（笑）。

井上 ここは憶測だけど（笑）。で、その金権伝書鳩がタバコを買いに行って戻ってきたら、もう二人はにこやかに談笑してて、「わかりました。もう書きません！」ってターザンは即答という。もうあとは茶飲み話に終始して「じゃあ帰ろう」ってなったらしい。だから、タバコを買いに行かせてる時間に何かしら、あったのかなっていう。

ガンツ いかにもあやしいですね。

斉藤 まあ、ターザンは脅されてたりしたら、にこやかに話すような人じゃなく、固まる人じゃないですか。ターザンにとって悪いことがあったとは考えられませんね。

ガンツ きっとね、その某格闘技団体社長からお金をもらってたとしたら、それが初めてじゃないだろうね。

斉藤 あ、何かご存知ですか？

ガンツ いや、よく知らないけど、旗揚げした頃からいろいろあったとか、なかったとか（笑）。そういう話も、この本に書いてあるだろうなって思ったら書いてなかったんで、それはターザンが黙っていたというより、編集者に聞かれなかったんだろうなって。

井上 だから、ホントにもっといろんな話が出てきていいはずだよね。だいたい、前田日明の〝ま〟の字も出てこないのがおかしい。編集人生の総括でいったら、絶対に避けては

ターザンを頂点とした全盛期の『週プロ』軍団集合写真。現『週プロ』編集長の佐藤ちゃんやサダハルンバの顔も見える。これは89年11月のUWF東京ドーム大会のときのもの。ターザンはこの翌年、馬場夫妻から金をもらう"金権編集長"となっていったのだ……。

暴露本の印税という〝退職金〟を受け取りプロレス界を捨てたってことでしょう

通れないというか、欠かせない登場人物だから。

斉藤 前田日明が出てこないのに、後半はどうでもいい取り巻きの話が延々と出てきますからね（笑）。

井上 （元弟子の）歌枕よりよっぽど重要だろって（笑）。

ガンツ だから総括よりも、ジャイアント馬場の暴露を書かせたかったという感じなんでしょうね。

井上 でも、あと出しになっちゃうかもしれないけど、「馬場さんと元子さんからお金をもらってた」っていうネタ一本で、「これは売れるぞ」という感じだったのかな？

ガンツ それを幹にして、プロレス界の金の話を網羅したらイケるって感じだったんじゃないですか？『別冊宝島』からは以前「プロレスと金」みたいなムックが出たんですよね。で、絶対にターザンには金にまつわる話が山ほどあるだろうと思ったら、若干スケールが小さかったという感じなんじゃないかな。

斉藤 ターザンにまだネタがあるとしたら、『金権編集長』の第二弾みたいなものは出ると思います？

ガンツ 第二弾は難しいんじゃないかな。きっと『別冊宝島』の暴露ムックで「その後のターザン」みたいな企画が4ページぐらい載る程度じゃない？

井上 マンガにはならないのかな？

ガンツ 『別冊宝島』で恒例になってる原田久仁信先生のマンガですか（笑）。

斉藤 それは凄く読みたい！（笑）。

ガンツ あのゴマシオ（永島勝司）主人公のマンガで、ターザンが登場するシーンは最高でしたからね（笑）。

井上 俺、ひっくり返ったよ。漫画家って本当に凄いと思ったもん。

ガンツ あの一コマでゲラゲラ笑いましたからね。

井上 ちょっとさ、ターザンに電話してみない？

斉藤 いいですね！ 生電話（笑）。

ガンツ ボクは昨日電話しちゃったんで、井上さん電話してくださいよ。そのあとボクが代わりますから。

井上 じゃあ、ちょっとかけてみるわ。（電話をかける）……あ、もしもし。山本さん、おひさしぶりです。井上です。

（しばし話したあと、ガンツもターザンと電話）

ガンツ じゃあ、山本さんまたご連絡します（電話を切る）。

斉藤 なんて言ってました？

ガンツ 「インターネット生ライブでやる座談会に出てください」って言ったら「公開懺悔しますよぉぉぉ！」だそうです（笑）。

斉藤 ダハハハハ！ では、急きょ次回のUSTREAMゲストが決まりました。次回はターザン山本さんをゲストに迎えてお届けします。お楽しみに！

【10年6月19日／都内・kami-pro編集部にて収録】

ザンゲの値打ちもない男

ターザン山本 公開ザンゲ

~本日も反省の色なし~

というわけで、前ページのUSTREAM配信中の生電話により、ターザン山本本人の出演が決定!
「ターザン山本の公開懺悔録」と題して、6月21日に配信された。
はたしてこの暴露本に対して、ターザンはどんな弁解をしたのか?

構成/堀江ガンツ

斉藤　どうも『kamipro』編集部の斉藤です。今日は、前回のUSTREAM（ストリーミング動画配信）で生電話したターザン山本さんのゲスト出演が急きょ決定しました。

ガンツ　リアル・テレホンショッキングだよね（笑）。

斉藤　ひさしぶりの生ターザンは楽しみですね。いまツイッターでリスナーのコメントも続々と届いてるんですけど、「今日はガチでターザンを潰してください」とか辛らつなものがありますね（笑）。

ガンツ　まあ、質問をいただけたら、それをそのままぶつけますから。ただ、こちらのテクニックとしては、ターザンを気持ちよくさせて、うっかりいろんなことをしゃべらせちゃおう、と思ってます（笑）。

斉藤　イソップ童話の『北風と太陽』を思い出してください。北風ビュンビュン吹かせたら、人間って硬くなりますからねぇ（苦笑）。

ガンツ　だから気持ちよく放言させておいて、暴露本にも書いてないことを語らせてしまう、と（笑）。

斉藤　では、聞き手は堀江さんとともに、フリーライターの高崎計三さんにお願いします。

高崎　よろしくお願いします！

斉藤　高崎さんはターザンの弟子なんですか？（笑）。

高崎　弟子というか、ターザンはボクの恩人です（笑）。

斉藤　恩人！

高崎　ボクはベースボール・マガジン社に新卒で入ったんですけど、ターザンがプロレス出版部というところに引っぱってくれたんで。それがなければ、いまこの仕事してないな、と。

斉藤　今日はその恩人を葬っていただけたらと思います（笑）。では、登場していただきましょう！　本日のゲスト、ターザン山本さんです！

（ターザン山本登場）

斉藤　山本さん、まずはお車代をどうぞ！（と、"茶封筒"を手渡す）。

ターザン　えっ！　お車代出るの!?

ガンツ　出ますよ。「君もこれからいろいろ大変だろうから」（笑）。

ターザン　……あ！　茶封筒ね。馬場さんの言葉か！

ガンツ　それぐらいすぐに気づいてくださいよ！（笑）。この本、語り下ろしで自分で書いてないから、覚えてないんじゃないですか？

ターザン　覚えてないよ（アッサリ）。ていうか、もう忘れるしかないもんね。

冒頭、本誌編集長ジャン斉藤から"茶封筒"を渡されるターザン。20年前に馬場さんから受け取ったときと同様、すぐさまポケットのなかにねじ込んだ。さすが！

ガンツ　自ら犯した罪を忘れたい、と。その公開懺悔を今日はUSTREAMを通じて全世界に向けて放送してますので。

ターザン　地球を網羅してるわけ？

ガンツ　全世界に山本さんの姿が晒されていますよ。あと、リアルタイムでファンの声も届きますので、その都度、紹介していきたいと思います。

ターザン　俺、ファンの人に聞きたいんだよね。「年収いくらなの？」って。なんか俺がいまの収入を本に書いたら「もらいすぎだ！」ってショックを受けた人が多いらしいんだよ。

ガンツ　年金込みの月収が43万円って、ボクより多いですからね。

ターザン　43万っていうのはオーバーだけどね。

ガンツ　オーバーって、この本に書いてありますよ！（笑）。

ターザン　もらってる実感がないんだよ。

高崎　それは競馬で負けるからでしょ？

ターザン　うん。すぐ競馬やって手元からなくなっちゃうから。このパターンは30年以上変わってないな。

ガンツ　では、そろそろ本について聞いていきますけど、反響はどうですか？

ターザン　最近、会ってない人たちから「読みましたよ」っていう連絡が凄く来るんだよね。

ガンツ　前作や『遺言』ではなかった反応ですか？（笑）。

ターザン　まっっっったく違うね！

一同　ダハハハハ！

ターザン　ビシバシ来るんだよ。でも、「読みました」だけなんだよね。

高崎　そのあとの感想がない、と。

ターザン　「けしからん！」とか「買収されてたのか！」とか、言われるかと思ったら、そのあとの言葉がないんですよ。

ガンツ　だからこそ感想を聞くのが怖い、と。

ターザン　外歩けないもんな！

ガンツ　実際、この本出すとき「えらいことしてしまった」と思いました？

ターザン　作ってる途中から思ってたよ！

ガンツ　ビビりながら作ってましたか（笑）。

ターザン　ビビりまくりですよぉ！　だって刷り出しでタイトル見た時点でビックリしたもんね。

高崎　その時点でタイトルを知ったんですか？

ターザン　うすうすは知ってたんだけど、一番ビックリしたのは帯文に「金権とは私のことだった」って書いてあることだよ。これ俺、言ってないよ！

ガンツ　ダハハハ！　まあ、編集者がつけてくれたんでしょうね。

ターザン　向こうもこれを出すからには売らなきゃいけないってことなんだろうけど、ここまでえげつないタイトルにすると思わなかったもんね。

ガンツ　これまで僕も山本さんのお金に関する話は、取材でもプライベートのオフレコでも何度か聞いてきたじゃないですか。でも、馬場夫妻からもらったお金の話は聞いてなかったんですけど、なぜそれだけは黙ってたんですか？

ターザン　それはボクはいまでも馬場さんと元子さんが好きなんだよ。だからそこは、ボクのなかで永遠のタブーであり、アンタッチャブルな部分だったんですよぉ！

ガンツ　「ジャイアント馬場がターザン山本を買収していた」なんて言えなかった、と。

ターザン　だいたい、馬場さんがお金をくれるわけがないじゃないですか！

ガンツ　あのケチな馬場さんが（笑）。

ターザン　逆にその馬場さんにお金を出させてしまったことに、もの凄い罪悪感があったわけですよ。「えらいことをしてしまった」という。ボクはそういうつもりはなかったのに、そういう状況設定になってしまったことに、申し訳なかったと思ってるわけですよ。

ガンツ　申し訳なかったけれど、元子さんにはお金をせびる（笑）。

ターザン　そう。申し訳なかったけれど、「はい、いただきます」というね（笑）。

高崎　しかも、何回も（笑）。

ターザン　馬場さんからは一回だけだよ。

高崎　でも、元子さんからは何回ももらってたんですよね？

ターザン　もらったねえ。俺、元子さんによくあんなことできたよね？

ガンツ　そりゃそうですよ（笑）。

ターザン　元子さんって、ある意味では怖い人でしょ？　ボクも新米記

俺はホモじゃないですよぉお！馬場さんはそれを超越しているね

プロレスマスコミと金

者のときは怖かったわけですよ。馬場さんをガードする関所みたいな人だったし。その元子さんによく「競馬やりたいからお金ください」って言ったなあと思って。いま考えると、頭狂ってたね！

ターザン　狂ってますよ！

ガンツ　普通ね、「生活に困りました」とか、「どうしてもお金が必要なのでください」っていうならわかるよ。それが「競馬やりたいからください」って、よく言えたなあ。ホントに悪いことしたなあって思って。でも、当時はまったく罪悪感なかったね。しかも最後は150万円でしょ？　大変なお金ですよ！　ボーナスでもそんなにもらったことないもん！

ガンツ　ちょっとした恐喝事件ですよ（笑）。

ターザン　恐ろしいことですよ！

ガンツ　山本さんは軽い気持ちで言ってるのに、元子さんにしてみたら「もし、ここでお金を出さなかったら、全日本をよく書いてもらえなくなる」っていう、危機感を覚えたわけですよね？

ターザン　それはないと思う。お金がある人だから。友情のような気持ちで出したんだと思うよ。

ガンツ　絶対に違うと思います（笑）。

高崎　友情につけ込んだ、と（笑）。

ガンツ　しかも、そんな美しい友情物語だったら、もっと早く言えばよかったじゃないですか。「元子さんから友情の証として、競馬するお金を無心してました」って（笑）。

ターザン　それは言えないもんな！　150万円なんて大変なお金だもん。いまあったら大喜びだよ！　すぐに鶯谷にいる韓国の女の人をすぐに呼ぶよ！

高崎　いまあっても無駄使い（笑）。

ガンツ　でも、山本さんが昔からよく言われてた「ジャイアント馬場からマンションを買ってもらった」っていうのは、あれは事実じゃないんですか？

ターザン　馬場さんがお金出すわけないじゃない。マンション買ってくれたら大喜びよ。それを売って、すぐに勝負ですよ！

ガンツ　それ、ホントに売っちゃったんじゃないですか？

ターザン　もらってないよ。当時『噂の真相』でさ、「マンション買ってもらった」とか「馬場さんとホモ関係だった」とか、そればっかり書かれてたんだよね。困ったよ、あのホモ疑惑には。

ガンツ　じゃあ、山本さんはホモじゃないんですか？

ターザン　ホモじゃないよ！　俺はこっち（女）が好きですよぉ！

ガンツ　ちなみに馬場さんは？

ターザン　……馬場さん？　……馬場さんは、そういうこと超越してますよ。

ガンツ　超越って、そこは否定してくださいよ！（笑）。馬場さんのホモ疑惑だけは謎として残っちゃったじゃないですか。

ターザン　ガッハッハッハ。

ガンツ　まさか、次の暴露本で書くつもりじゃないでしょうね？

ターザン　次はもうないでしょ。だいたい、この本も暴露本じゃないんだよね。ブラックユーモアなんだよね。

高崎　ブラックユーモアではないですよ！（笑）。

ターザン　これは暴露じゃなくて、懺悔本だからさ。

ガンツ　でも、ホントに懺悔の気持ちはあったんですか？

ターザン　ありますよぉ！　お金をもらったら、罪悪感凄いもん。自分のなかで処理できないもん。

ガンツ　ただ、もらうのはともかく、それをバラすほうが問題ですよ。

高崎　しかも、もらったことをバラして、またお金を得るわけですよね。懺悔商売じゃないですか。

ターザン　違いますよ！　これはもうほとんどお金ないですよ！　印税前借りしちゃって。

ガンツ　いま手元にすでにないからいいわけないでしょ！（笑）。

高崎　前借りしたんですか？

ターザン　要するに家を取られたじゃない？　しかも、引っ越さなきゃいけないし。膨大なお金がかかるわけだよね。そのちょうど隙を突かれて、この本を出しちゃったというか。

ガンツ　ついつい暴露しちゃった。

ターザン　ついついフラ～っとね。

ガンツ　フラ～っと軽く大変なことを暴露しちゃってますよ！

ターザン　そうかね？　この本の編集者がゲンナマ主義でくるもんな。打ち合わせの段階でさ、まず「山本さんのここ最近出した本、まったく売れてませんよね？」って言ってくるんだよ。

ガンツ　ダハハハハ！　やっぱり売れてませんでしたか（笑）。

ターザン　数字見てビックリしたよ！（笑）。

ガンツ　実売数を見せられて（笑）。

ターザン　その数字を見せたうえで、「山本さんはまだいろんなことを隠している。それを全部吐き出してほしい」って言うんだよ。

ガンツ　この際、洗いざらい全部暴露しろ、と。

ターザン「そんなことできないよ」って言ったんだけどさ、「山本さん、お金に困ってませんか？」って言うんだよ。そりゃ困ってるよね。

ガンツ　困ってますね（笑）。

ターザン　そしたら、その場でコンビニでお金をおろしてきて、お金を渡すんだよ。俺はそれにやられたよね。

ガンツ　ダハハハ！　簡単にやられちゃった（笑）。

ターザン　パッとお金を見せるわけですよ。こっちは「えっ!?」と思いながら、パッと握っちゃうというね。

ガンツ　握っちゃいましたか！（笑）。暴露本出すのにこんなに簡単に陥落する人いないですよ！

ターザン　俺は金に弱いね。

ガンツ　ちなみにいくらもらったんですか？

ターザン　そんときは10万円ですよ。

ガンツ　たった10万円の手付金で馬場さんと元子さんのタブーを暴露しちゃったんですか！（笑）。

ターザン　ちょうどこの10万円あれば、引っ越し時の問題が解決するな、みたいな。だって粗大ゴミを全部片

『週プロ』編集長辞任後、フリーの立場となってハワイでG・馬場をインタビューするターザン。しかし、編集長の肩書きのなくなったターザンに対し、馬場はかつてのように食事をご馳走することもなかったという。これまたさすが！

づけるのに20万円近くかかったもん。

ガンツ 粗大ゴミを片づけるために暴露本書かないでくださいよ（笑）。

ターザン ボク自身、いまの生活は隠居生活みたいなもんじゃない。ターザン山本はもう死に体でしょ？　だからそれを見たもう一人の自分が「もう昔のことだからいいだろ」と。

ガンツ 悪魔がささやいた、と。

ターザン だから、もうボクは「ターザン山本」じゃないわけですよ。

ガンツ どっからどう見てもターザン山本ですよ！

高崎 シャツの胸に「ターザン山本」って書いてあるじゃないですか（笑）。

ターザン これ、もう消さにゃあかんね（笑）。もう、ボクの存在意義がないもんね。自分で自分を介錯したんですよぉ！

高崎 ただ、その返り血がいろんな人に飛び散ってるじゃないですか。

ターザン だから、これは書かれた人、迷惑だろうね。

ガンツ いま頃、何を言ってるんですか！　大迷惑ですよ！

高崎 書かれた人から反応はないですか？

ターザン ないね。でも、全部事実だからね。

ガンツ この本を読んで一番不思議に思ったのは、メガネスーパーという大企業の社長の相談役になぜ剛竜馬がついてたかってことなんですけど。

ターザン それはさ、ほかのレスラーはみんなプロレスがコレ（シュートサインをしながら）じゃないことを隠してたんですよ。真実を。田中社長はなんとかプロレス界の真実を知りたいんだ、と。それで剛さんがレクチャーしてたんですよ。

ガンツ 剛竜馬と田中社長の接点というのは、どうやってできたんですか？

ターザン 剛竜馬はSWSに入ろうとしたんだけど、ほかのレスラーに大反対されたんですよ。田中社長は「じゃあ、私が剛さん個人を面倒見ましょう」ということで、個人スポンサーになったわけ。そこから親しくなったんですよ。だから『冴夢来プロジェクト』っていうのは、田中社長がスポンサーなんですよ。

ガンツ そうなんですか！　『冴夢来プロジェクト』には大きなスポンサーがいたって聞いてましたけど、田中社長だったんですね。

ターザン そこで二人だけの話ができるようになったんですよ。剛さんからその話は聞いた。

高崎 ただ、そういういろんな話っていうのは、馬場さんにしろ、田中社長にしろ「墓まで持っていけよ」というメッセージもお金のなかに含まれていたんじゃないですか？

ターザン そこは信頼されてたんだろうね。

高崎 その信頼をおもいっきり裏切ってるじゃないですか（笑）。

ターザン ボクはこの本で、「人間とはしょせんこういうものであり、世の中とは綺麗事だけじゃない」ということを出したほうがいいと思ったんですよ。自分を正当化するために（笑）。

ガンツ 勝手に自分のなかで正統化ですか（笑）。

ターザン そうじゃなきゃ、もちませんよぉ！

ガンツ やっぱり悪いことやってる自覚があるんじゃないですか！（笑）。

ターザン もの凄く悪いことしてますよ！　お金をもらってることが悪いことですよ。断ったら野暮になるし。「おまえ何様だ！」ってね。

電流爆破デスマッチにより、人気急上昇中だった頃の大仁田厚。のし上がるためには、ターザン山本に袖の下を渡すことも辞さない。その下品なバイタリティは、これまたさすがが大仁田なのであった。

FMWに30万円で表紙を売ったことがバレたらクビでしたよ！

ガンツ 当時はお金を払う価値もありましたしね。

ターザン あったねえ。いまはもうないけどね（アッサリ）。

ガンツ ありませんね（笑）。当時は山本さん以外のマスコミもお金をもらってたんですかね？

ターザン ボクはほかの人はわからないけど、プロレスは昔から村社会だから。担当記者に小遣いのようなかたちで渡すっていうのは、あったんじゃないの。

ガンツ そういう話は聞いていた、と。

ターザン でも、ボクのはちょっと度がすぎたよね。

ガンツ 自覚してますか（笑）。でも、ボクなんかは逆に「この程度の額なんだ」って思いましたけどね。

ターザン それがこの世界のかわいいところだよね。普通ね、『週プロ』の表紙を買おうと思ったら、何百万の世界ですよ！

ガンツ それを勝手に30万でFMWに売ったのは誰ですか！（笑）。

ターザン 当時、この事実を広告部が知ったら、ボクはクビですよ！

高崎 そりゃそうです（笑）。

ターザン だって表紙ですよ！　ギャグだよね。たった30万だもん。

ガンツ しかも、それは1円も会社には入らず、ターザン山本の懐に入ってたわけですよね？

ターザン いや、ボクの懐ではなく、そのままJRAに入って、税金として橋とか道路になってるわけですよ。

ガンツ 何を言ってるんですか！

ターザン 間接的に世の中に貢献してるですよぉぉ！

ガンツ ふざけたこと言ってますね（笑）。では、こんなふざけた男にファンの方から、質問や罵詈雑言をいただきましょうか。

斉藤 わかりました。すでに、いろいろと届いてるので紹介していきます。

Q　ターザン山本さんはツイッターをやっていますが、ホントに本人がやっているのでしょうか？

ターザン 最初はボクも面倒くさくて、メールも打てなかったから、ボクがしゃべったことを誰かが打ってくれたんですよ。

ガンツ 誰かというのは、"ターザン山本事務所代表"ですね。

ターザン （無視して）でも、それじゃダメだということで、メールの打ち方とツイッターのやり方の特訓を受けたわけですよ。それでまずメールが打てるようになって、ツイッターも設定してもらって、いまは全部自分でやってるんですよ。

ガンツ おお、そうなんですか。

ターザン いまはメールもできるんですよ。それにしてもメールって便利だね！

ガンツ 何をいま頃そんなこと言っ

てるんですか！

ターザン　こんな便利なものないよ。メールがあったら、電話で話す必要ないんですよ。待ち合わせで「あと何分で着く」とか、全部メールでできるんですよ！

高崎　みんな知ってますよ（笑）。

ターザン　こんなに便利なものが世の中にあるとはね……。

ガンツ　では、次の質問。

Q　『週プロ』の表紙コピーを自分で考えてなかったってホントですか？

ターザン　いや、自分で考えましたよ！　あたりまえじゃないか。なんでそんなこと言うんだろうね？

高崎　ホントはブレーンが考えてたんじゃないかってことですよ。

ターザン　いや、ブレーンの人たちは直接考えてくれるわけじゃないんですよ。深夜に彼らと電話で雑談しながらヒントをもらって、それをボクがコピー化していたというね。

高崎　でも、そのヒントを与えたほうは、それが表紙になるとうれしいんで、当時「今回のコピー俺が考えたんだぜ」とか言う人がいたんですよ。

ターザン　ああ、一番わかりやすい例で言うと、ベースボール・マガジン社の販売部にいた彼ですよ。

プロレスマスコミと金

第一次UWFの頃、藤原喜明に関節技を極められる若き日のターザン。今回の本で組長が田中社長から5000万円受け取ったことを暴露しているだけに、今度会ったら、こんなものじゃ済まないだろう。

高崎　Wさんですね。

ターザン　そう。彼は『日米レスリングサミット』のときの「陽はまた昇る」っていうコピーは、ヘミングウェイの言葉だけど、あれはWくんが言ったことを表紙にしたんですよ。それぐらいかな。

高崎　でも、Wさんは自慢げに言いふらしてたんですけどね（笑）。

Q　前田さんがらみの話を聞きたいです。

ガンツ　そういえば、本にも前田さんの話はあまり出てきませんね。

ターザン　だって前田さんって、ヤバい人じゃない？

ガンツ　ダハハハハ！　ヤバいから書かない（笑）。

ターザン　触らぬ神に祟りなし、ですよ！

高崎　逆に言うと、書いた人は怖くないわけですか？

ターザン　怖くないんじゃなくて、前田さんが特別なんですよ！　非常に特殊な行動パターンを持ってるのが、みんなもわかってるでしょ？

ガンツ　特殊な行動パターン（笑）。直接被害ってことですか？

ターザン　うん。その被害を受けた人がほかにもいろいろいるからさ、やっぱり特別だよね。

Q　谷川さんからはお金はもらってないんですか？

ターザン　一回もないね。『SRS・DX』で月50万円もらってたけど、それは仕事だからね。なんでくれないんだろう？

高崎　でも、ラスベガスとかパリには連れていってもらったんですよね？

ターザン　あれは谷川個人じゃなく、会社のお金じゃない。ラスベガスに連れていったら「このお金でカジノやってください」って、何百ドルかくれるべきだよね。

ガンツ　連れていくだけじゃなく、そこまで必要でしたか！

ターザン　必要ですよ！　それがなかったもんね。石井館長も。

Q　ターザン山本事務所の塩田代表を罷免してください。

ターザン　そんな事務所はないよ！

ガンツ　でも、ボクは名刺もらいましたよ。自称ですか（笑）。

ターザン　自称ですよぉ！

ガンツ　皆さん、自称だそうです。次はまた取り巻き系の質問ですが。

Q　歌枕さん（ターザンの元弟子）との復縁はないんでしょうか？

ターザン　歌さんとはいいかたちで別れられなかったからね。お金がなかったから。やっぱり金だね。申し訳なかったと思っているよ。

ガンツ　歌さんは彼女ができて離れたって言われてますけど、結婚してないんですかね？

ターザン　それはわからないけどね。

ガンツ　結婚することになって、ご報告が来たらどうします？

ターザン　そのときは「おめでとう」って言いたいし、それが一番いいよね。

高崎　ご祝儀は？

ターザン　俺、ご祝儀出したことないんだよね。

ガンツ　とんでもないですね（笑）。結婚式に行ってタダ飯食ってるんですか？

ターザン　結婚式って日曜日あるじゃない？　途中で行くのやめて競馬場に行ったことあるもんな。

ガンツ　人間失格です！

ターザン　そうだね。ご祝儀で用意してた3万円、競馬で使っちゃったからな〜。

ガンツ　ホントに次から次へと犯罪行為が発覚しますね。では、キリがないのでそろそろお開きにしますけど、最後にカメラに向かって、全世界の人に懺悔してください。

ターザン　よし、懺悔しますよぉ！　「この本に関しては、いろんなこと書いてあるけど、どう解釈しようが、ご想像にお任せします。自由にお読みになって結構です。これが私です」。こんな感じかな。

ガンツ　山本さん、ちっとも懺悔になってないです。ちゃんと懺悔してください。

ターザン　（帽子を取って）元子さん、すいませんでした。

ガンツ　元子さん、いまハワイあたりでこのUSTREAM観てるかもしれませんよ（笑）。

ターザン　……やばいなあ。

斉藤　では、元子さんご覧になってましたら、書き込みお願いしま〜す（笑）。

ターザン　こりゃ元子さんに土下座せにゃいかんよ！

ガンツ　かつて和民の店長を土下座させた男が、一番土下座しなきゃいけない男だったわけですね。

斉藤　というわけで、A級戦犯のターザン山本さんがゲストでした！

【10年6月21日／都内・kamipro編集部にて収録】

たーざん・やまもと■1946年4月26日、山口県岩国市出身。本名・山本隆司。立命館大学中退ののち、77年に新大阪新聞社に入社。『週刊ファイト』の記者となる。80年にベースボール・マガジン社に移籍。87年には『週刊プロレス』編集長として絶大な影響力を持つが、96年に『週プロ』編集長を辞任。近著に『62歳のボクに28歳と年下の彼女ができたのだ！』がある。

『「金権編集長」ザンゲ録』だけじゃない!

プロレス暴露ムック“仕掛人”が登場!

宝島社編集者“X氏”独占インタビュー

「G・馬場の裏金を語らせるつもりではなかった」

『週刊プロレス』編集長時代にジャイアント馬場をはじめとして、
各所から現金を受け取っていたことを告白したターザン山本の暴露本『「金権編集長」ザンゲ録』。
この本が出版された経緯について、ターザン本人は「編集者の執念だよ!」と言う。
『別冊宝島』シリーズでもWJの崩壊劇を劇画化した企画などで話題をさらったこの編集者X氏は、
いったいどのようにして今回の本を作り上げたのか?
「匿名でなら」という条件で、ついに接触することに成功した!

聞き手／高崎計三　構成／堀江ガンツ

――ターザンの『「金権編集長」ザンゲ録』が業界内外で凄く話題になってますね！

X うちの社内でも、プロレス好きな社員が何人か、見本ができた段階で「くれ」って言ってきましたね。普段はそんなこと、ほとんどないんですけど。

――社内でも話題ですか。この本、ターザンは「3年越しで口説かれた」って言ってましたが。

X 3年って言ってました？

――あれ？ 違うんですか？

X うーん、いつ頃からか正確には覚えてませんが、水を向けてたのは確かなんですけど、3年も前ではなかったと思います。去年くらいの話じゃないですかね。

――さっそく話が食い違いますね（笑）。一昨年、『別冊宝島』にターザンのインタビューが掲載されましたよね。あのときには、いずれ単行本をという話ではなかったんですか？

X ああ、あのYって女性と付き合ってた頃ですね。あの頃は、まだ単行本の話はしてないです。僕の頭にもまだなかったですから。

――あ、構想すらなかった、と。

X そうですね。あのときはムックをやってて、ターザン山本が女性と付き合いだしておかしくなってるというんで、話を聞いたと。

――確かにおかしくなってました（笑）。

X いや、本人が勝手にそういうムードを感じてたのかもしれないけど（笑）。今回の本を作るときには密に話しましたけど、もともと私は仕事のないときに雑談するような

関係ではないですから。プロレス関係のムックを年2回ぐらいやってたので、そのときに取材するぐらいですよね。

——『別冊宝島』での一連のムックは、Xさんが全部手がけられてたんですか？

X　5年くらい前からの、いわゆる「暴露本」シリーズは私です。本来、私は別の雑誌で経済とかを担当してるんですが、副業みたいな感じでやってるんですよ。これ以外にも事件ものなどを手がけています。プロレス関係は、仕事全体の20パーセントぐらいですよ。

——プロレス関係のものをやるきっかけは何だったんですか？

X　手堅く粗利が出るということと、本当の大手はこういうものはやらないし、やっぱり専門誌を出してる会社は出せないじゃないですか。そのなかで、ウチとしてはうまくハマったというか。でも一番の理由は、安定して売れるからってことですね。

——このご時世でも売れてますか。

X　最近は1万部ぐらい減りましたけど、昔は実売で4万部いったこともありましたからね。

——それは凄い数ですね！　もともとプロレスに関心は？

X　観てたのは中学生ぐらいまでですね。だから、これをやるようになって、あとからビデオを観たりして勉強してますね。むしろPRIDEとか観てましたよ。

——スキャンダラスなネタはどうやって？

X　やっぱりお金を使って取るっていうのと、もともとみんな知ってるけどただ出せないだけってことがありますから。そういう意味では、一般企業のスキャンダルなんかに比べたらかなりユルいですから（笑）。

——ユルユルマット界（笑）。そこでターザンを取り上げるなら、お金の話だと思ったわけですか。

X　今回の本に関しては、山本さんのほうから「やりたい」という話があって実現した企画なんですよ。

——あれ!?　ターザン自身は、「口説かれて仕方なく」っていうニュアンスでしたよ。

X　そう言ってました？　本人はそういうことにしときたいんでしょうね。確かに去年、「そういうものをやろうと思ったらできるんですか？」ということを一、二度、電話で話したら「それはできない」と言われて、「ああ、できないんだな」と理解してました。そしたらある日突然、「やりたい」と言ってきて、「じゃあやってみますか」ということで実現に至ったという経緯ですね。

——そろそろお金が必要になったから、暴露本を書きたい、と（笑）。

X　うーん……それもあったでしょうけど、まあ山本さんには言ってないんですが、企画が通るかどうかという問題があったんですよ。最初は通るわけがないと思ってましたからね。やっぱり直近の本のデータがありますから。

『「金権編集長」ザンゲ録』だけでなく、一連の『別冊宝島』のプロレス&格闘技暴露ムックもすべて手がけているX氏。"業界外"だからこそできる刺激的な企画を連発する切れ者編集者だ。

——売れてませんでしたからね（笑）。

X　今回の『「金権編集長」ザンゲ録』は山本さんの編集者人生も振り返ってるわけですけど、同じく自伝的な内容で三才ブックスから出た『活字プロレス血風録』は●●●部ぐらいでしたからね。

——それは厳しい（笑）。

X　それと同じことをやってても

今回の本は山本さんのほうから話があって実現した企画なんですよ

ダメですよ、と。ウチは他社に比べて初版の部数が高めなものですから、それに見合うものじゃないとダメなわけです。それで企画書を書いたら通ったもので、山本さんには覚悟を決めてください、と。

——なるほど。「書きたい」と言ってきながら、最初は及び腰だったんじゃないですか。

X　いや、表面的にはそういう感じは受けなかったんですが、取材のなかでは「ここは書かないでくれ」というふうに言う箇所はけっこうありましたね。実際、出さなかったこともけっこうあるんです。たとえば、最初の●●●が●●●●したときに●●●●●●したという話もあったり。そこまで出したらもっと売れたかもしれないですけど（笑）、最終的には話してもらえるわけですから。いまはどん底だけども、最後には少しイメージが上がるような終わらせ方をしたいというのがあったんです。それに、ここまでえげつなくやるかっていうのはギリギリのところまで悩んでましたね。

——それで「ザンゲ」という体裁をとったということですか。

X　タイトルは最初からあったわけではないんですよね。いつもなら、「●●なんですよぉぉ！」ってテンション高く言うわけですよ。そういうのはやめてください、と。

——制しましたか（笑）。

X　大人が読んで耐えうる「人間の本当の姿」を出したいから、本当のことと、そのときの気持ちだけしゃべってくればいいから、と。プロレスを論じたり、UWFの方向性がどうとかはいりませんから、と。やってるうちに、最終的に贖罪の言葉が多く出てきたものですから、これが結論でもいいのかな、と。

——なるほど。

X　当然、結果を残さないとまったく意味がないということでは一致してますから、「隠してたスキャンダルを全部話してください」と。前に同じようなものを出して売れてないんだから。それにあなたが書いても売れないから、全部こっちでやらせてもらいます、と。やり方も変える、覚悟も変える。それで、大目標は数字。売れなきゃまったく意味がないですから。そのうえで、山本さんのイメージなり作品の完成度を考えましょう。話はそこからですね、と。だから全部引き出させるというのが95パーセントですね。

——洗いざらい吐き出せ、と。

X　というのも、この5年ぐらい、出しても意味のないようなことばっかりやってるわけですよ、あの人は。

——バッサリですね（笑）。まあ実際そうなんですけど。

X　でも、お金というのは目的の50パーセントぐらいだったんじゃないかと思いますよ。あとはなんという

か、反響があったり話題になる仕事をしたい、そういうところに身を置きたいという気持ちが強かったと思うんです。ずっとそういうのがなかったから。こっちも部数は勝負してるんだから、舵取りはやらせてもらいますよ、ということですね。そしたらテンションが上がって、「よし、わかった」と。それでずいぶん、いろんなことを話してくれましたよ。

——覚悟を決めてくれたわけですか。

X でも馬場元子さんの話は「書かないでくれ」って言ってきたんですよ。それで取材が全部終わったときに、「元子さんの話は出さないとどうしようもないですよ」と言ったんです。けっこう抵抗してきて、このまま押すとちょっとよくないかな、と。それで、「この件はまたあとで話しましょう」ということにしたんです。それで翌日にあらためて話すとかじゃなくて、もう全部原稿に入れちゃって、かたちにしてから見せたらおそらくもう何も言わないだろう、と。そしたら最後は何も言わなくて。だから削ったところはあんまりないですね。

——操縦法を心得てますねえ（笑）。この本のキモは、やっぱりジャイアント馬場がらみのスキャンダルですか？

X 私個人的にはちょっと違うんですが、セールス的にはそこになるという認識はありましたね。かなり親しい人にしか言ってない話というのは聞いてましたから。本人は、2～3人には話したと言ってましたね。

——そうらしいですよね。

X ただ、当時『週刊プロレス』で山本さんの下にいた記者の方が、どこからか、山本さんが元子さんからお金をもらったっていうのを聞いて落胆したという話もあるんですよ。そうなると、当時の部下もそこそこ知ってたのかな、と。会社に持ってきたって話でしたからね。

——あきらかに怪しいですからね、箱に入ってて（笑）。

X そこもちょっと微妙なんですが、馬場さんのことを暴露しなかったら本を出さなかったかというと、そういうことでもないんですよ。

——そうなんですか？

X 取材を始める前までは、馬場さんからもらってたっていうことは僕も知りませんでしたからね。それで企画が通ってましたから。途中からそれを聞いて、ちょっとビックリしたってところですね。

じつは「馬場の金銭スキャンダル」ではなく、四天王時代の全日本プロレスの裏側をターザンに語らせようとしていたというX氏。はたして『「金権編集長」ザンゲ録』の続編として、全日本版“ミスター高橋本”は出版されるのか？

プロレス業界関係者のなかで山本さんはそんなに金に汚いタイプじゃなかった

——てっきり最初からそこに鉱脈があると睨んで、もっといろんなところからもらっているに違いないと思って始まったのかと思いましたよ。

X いやいや、やっぱり馬場さんとホモだったのかなとか、女子プロレスラーと関係を持ってたのかなというのはありましたけど、そうじゃなかったという。

——では、企画書段階でのキモはなんだったんですか？

X 金よりも、全日本のマッチメイクを作ってたという話ですね。そこに関与しているっていうのは前から聞いていて、『週プロ』がストーリーラインを作ってたっていうのは近年、いろんなインタビューでもしゃべってましたから、そういう話がもっといろいろあるだろうと。そこを詳細に出したかったですね。

——ああ、そういうことだったんですね。

X ただ、馬場から金もらってたんだったら「金権」になっちゃうよね、と。天龍も当然知ってたと思うって言うから、じゃあそこは前面に出さないとね、と。

——じゃあ当初は、ミスター高橋本の全日本版みたいなイメージだったんですか。

X そうですね。あと小島和宏（元『週プロ』記者）さんの本で、FMWとかインディー系の団体でも相当やってたというのが出てたので、それを山本さんが直接指揮していたのか、してなかったとしてもどれだけ認識してたのか、とか。結論から言うと、ほとんど知らなかったみたいですけど（笑）。

——結果的には、それよりもお金の話のほうがわかりやすいということで？

X まあわかりやすいですし、マッチメイクのことなんかは細かいところをよく覚えてないんですよ。「全部、市瀬がやったんだ」と言うけど、具体的な試合はもう覚えてないですから。プロレスの年表を見ながら「ここはどうですか」とか、マニアを同席させて質問させたりとか、いろいろやりましたよ。でも、「キミぃ、よく覚えてるねえ！」とかそんな調子で、かなり忘れてるんですよね。

——そうみたいですねえ。最近のことも忘れてますから（笑）。そもそも口説いたときは、Xさんがコンビニに走って、10万円をおろしてきて渡したんですよね？

X それ、山本さんが言ってたんですか？

——はい。もしかしてそれすらも違うんですか？

X 渡したのは確かですけど、それは作業の本当に最後のほうですよ。

——えぇっ⁉ 全然話が違う！（笑）

X 僕がおろして、「印税が出たら引きますからね」ということで渡しましたけど、それは原稿を渡しに行っ

プロレスマスコミと金

たときですからね。べつに「このお金で書いてね」ってわけではないです。

―気持ちが揺れてたのを説得するとかでもないんですか？

X　いや、作業は長期間にわたったから、チョコチョコお金がいるわけですよ。立石の居酒屋とかで会ってたら、「ちょっと粗大ゴミが……」とかゴニョゴニョ言いだすんです。

―ダハハハ！　ゴニョゴニョ！

X　「20万円が……」とかね。でも、それもポツッと言うだけで。こちらも「足りなかったらハガミ（前借り）していいですよ」って言ってあったんですけど、明確に言われたのは終わる2週間前ぐらいの10万円だけでしたね。こっちもその時期にテンション落とされても困るし、もうこっちも原稿料の担保がありますからね。その範囲内であれば貸しますよ、と。それが実情ですね。

―だいぶ話が違いましたね（笑）。

X　まあ、おもしろおかしく言ってるのかもしれないし、本人的にはそういう感触で理解してるのかもしれないですけどね。ウソということじゃないと思います。僕は業界関係者にいろいろ取材したり接触してきましたけど、山本さんはそのなかでもあまり「金を貸してくれ」とかは言わないほうですよ。

―そうなんですか!?

X　もっとひどい人はたくさんいますから。マスコミ関係の人でも。そんなに高飛車には言わないですけど、お金がないから先に現金でくれないかとか。先にちょっと貸しといてくれと言って、返さないとか。

―聞いてて恥ずかしくなってきますね。ダメな業界ですみません（笑）。

X　今回、マニアの人に協力を頼んだりしたもので、初版の印税から1パーセントはそっちに回しますよと言ったんです。そしたらもっとあげてくれ、と。2パーセントでも3パーセントでも、もっと振り分けてくれていいから、と言ってましたね。それを太っ腹と言うとしょっぱい話なのかもしれないですけど（笑）、ケチではないですね。

―金に汚いわけではないんですよね。

X　そうそう、くれるならもらうというだけで。ちょっとでも多くもらおうとか、そういうのはないですね。対人関係の部分では、ちょっとおかしいなというのはありましたけど、お金に関してはないですね。

―〝金権編集長〟よりよっぽど金に汚い人を何人も見てきた、と（笑）。

X　いますねえ。皆さんの凄く身近な方にもいるはずですよ。具体名は言えませんけど。

―聞くのが怖いので、遠慮しときます（笑）。

X　包み隠さず話す人に対して、人はそんなに悪く思わないものなんですよね。そういう意味では、これだけ自分のイメージダウンになることを話したわけだから、「本当のことを言ってる」ということで、イメージはよくはならないにしろ、これ以上悪くなることはない、と。それでも「クソ野郎！」みたいなのも来ましたけど、思ったほどではなかったです。

―なるほど。これまでに、元『週刊ファイト』の井上譲二さんの本なんかも担当されたんですよね？

X　そうですね。1冊目（『プロレス暗黒の10年』）はこちらからお願いしましたけど、2冊目の『つくりごとの世界に生きて』は、向こうから「またやらせてほしい」ということで。あとは、GK金沢さんの『子殺し』もやってます。たくさんやってるように見えるんですけど、ほとんどは持ち込みですね。向こうから「こういうのがやりたい」と。もちろん、持ち込みといっても今回みたいにテーマとかはこっちで決めさせてもらうこともありますけどね。

―みんな自分から売り込んでくるんですねえ……。

X　ほかにもプロレス関係の売り込みはけっこうあって、個人的に読みたいものとかはあるんですけど、ウチはプロレス専門の出版社じゃないですから、数字の出ないものはやる意味がないんですね。だからずいぶん断ってますよ。とくに最近は（笑）。

―プロレスの本自体が売れていないですからね。

X　山本さんにも、近著の数字を見せてショック療法でやりましたからね。昔は毎週、数字を睨んでやってたはずなのに、この10年で忘れちゃったのかなあ（笑）。今回の本なんて、先行予約分だけでYさんと一緒に出した本の10倍は売れましたからね（笑）。

―そりゃ凄いですね。

X　Yさんとの本は、取次ではもう数字として認識されてなかったですからね。ちょっと、普段見ない数字でした。プロレスのことをしっかりスキャンダルチックにやれば売れるのに、なんか女とか、ほかのことをやりたがっちゃうんですよね。そんなこと誰も興味ないのに。

―確かに！（笑）。

X　でも今回、最後に校了の作業をしているところに来てもらって、一日だけ徹夜で仕事してもらったんですけど、ひさびさにそういう現場作業をして楽しそうでしたね。終わって、昼食にうなぎをご馳走したんですけど。ああそうだ、元子さんについてはこう言ってましたよ。

―なんですか？

X　「馬場さんの人間としての実像を語らないままでいると、馬場さんがみんなから忘れられてしまって、この世からなくなってしまう」と。そう言って何度か、元子さんに出版を進言していたらしいんですよ。でも、元子さんが一切「うん」と言わなかったと。そう言ってましたね。まあ、暴露したんでフォローしたかったのかもしれないですけど。

―ダハハハ！

X　ただ、たとえ数年であっても馬場さんとああいうかたちで接していた人って、ほかにいないわけじゃないですか。それを伝えられないというのは痛恨だ、と。僕もそう思って、まあ今回、死者にムチ打つという批判もあるでしょうけど、墓まで持っていくというのが必ずしも正しいのかというのは言えないなと思って。

―なるほど。

X　今回、山本さんがどれぐらいお金に困っていたのかは知りませんけど、印税額はある程度ちゃんとした額ですよ。でも金だけではないと、僕は思ってますけどね。

―ちなみに第二弾はなさそうですか？

X　いや、これは仕事なので、売れれば第二弾というのはあるかもしれないですよ。でも前作と同じ方向性ではやれないので、山本さんが残すべきことがなんなのか。ちょっと思ったのは、試合のことについても時間をかけて掘り起こせば、もっといいものができたのかな、と。これで他社の人でも、ターザンに何かやらせてみるかと思ってくれるなら、もっとファンに寄与するものができるんじゃないかと思いますけどね。

―なるほど。ありがとうございました！

【10年6月22日／都内・宝島社にて収録】

元『週刊ファイト』編集長 井上譲二
「つくりごと」の世界に生きて
プロレスはなぜこうなったのか
私は問い続ける
誰もが「それ」を知っていた――
専門紙元編集長による「真実の告白」
宝島社

『「金権編集長」ザンゲ録』の前にも、元『週刊ファイト』編集長・井上譲二氏の暴露本『「つくりごと」の世界に生きて～プロレス記者という人生～』も手がけたX氏。この本は井上氏からの売り込みだったという。

これは暴露本じゃない 単なる“自慢本”だ！

元『週刊ゴング』編集長 “GK”金沢克彦

「団体から金をもらっていた」と告白したターザンの暴露本『「金権編集長」ザンゲ録』。これを読んでかつてのライバル誌『週刊ゴング』編集長はどう思ったのか？ GK金沢氏にこの本のレビューをお願いした。

聞き手／鈴木佑

―ターザンの〝暴露本〟『「金権編集長」ザンゲ録』は読まれました？

GK　一応、読みましたよ。最近はほとんどプロレス書籍や雑誌は読まなくなってたんですけどね。『東スポ』だけは癖で読んでるけど（笑）。

―あ、そうなんですか。

GK　このあいだ、『週プロ』を1年ぶりに買ったくらいで。しかも2週続けてね。佐久間くんが突然辞めちゃって、そのあと〝不思議な人〟が編集長に戻ってきちゃったんで、「何を書いてるんだろ？」と思ってね（笑）。

―因縁のある方が（笑）。

GK　べつに因縁もないし、あんまりおもしろくなかったけどね（笑）。ただ、今回の山本さんの本は買って読んだんだよね。ネットで表紙を見ると、画像が小さいから「金権編集長」が「金沢編集長」に見えてイヤだったけど（苦笑）。

―GKザンゲ録（笑）。

GK　俺、懺悔すること何もないのに。でも、これは〝ザンゲ録〟というより〝自慢話〟だよね。

―自慢話ですか！

GK　山本さんって結局、全部自慢なんですよ。この本だって「プロレス界の大物と日々食事をして、マッチメイクに関わり、お金までもらってました」という自慢話ですよ。だから、これを本人が書いたとしたら、もっと鼻につくほど自慢になってたと思う。

―なるほど。金沢さんはターザンが馬場さんからお金をもらってたってことは知ってました？

GK　噂で「マンションを買ってもらった」とか、そういうのはみんな聞いてたと思うけど、実際にどうだったかは知らなかった。本人の口からオフレコの雑談でも聞いたことなかったしね。だから、あの人のなかで馬場さんご夫妻の話は、最後まで守ってた一線なんだけど、その最後の一線を越えちゃったんだろうね。

―噂レベルでも知らなかった？

GK　知らなかった。「へえ、そんなことあるんだ」という感じだね。だって、ほかの『週プロ』の記者も他社の記者ももらってないと思うんだよね。

―もちろん、『週刊ゴング』編集長だった金沢さんももらったことはない。

GK　新日本の記者会見のお車代5000円はもらったことありますよ。あれは取材記者、カメラマンみんなに配られるものだから。あと東京ドーム大会の大入り袋は出たよね。他団体では、全日本は後楽園ホールが満員になるとワンコインとバッヂがついてくるという、かわいい大入り袋が出てた。

―それぐらいですか？

GK　あと反選手会同盟の公開練習で凄く遠くまで行ったとき、新日本から「こんな遠くまですみません」と、ホントのお車代として1万円出たことがあったかな。

―一番大きな額が反選手会同盟の公開練習ですか（笑）。

GK　下田かどっかの防波堤で公開練習やったんだよ（笑）。

―しかも、個人的にもらったわけじゃなくて、みんながもらったものだったわけですね。

GK　だから、当時の感覚からすると「このお車代があるから、よく書いてくれ」っていうのはなかったよね。団体側にも記者側にもそういう感覚はなかったと思う。新人記者のころ、取材に行って、小さい額でもお車代があるとラッキーだなっていうのはあったけど。

―ターザンとは意味合いが違う、と。

GK　全然違うね。

―フランク井上、ターザン山本！と元プロレス誌（紙）編集長の暴露本が続いてますけど、そのことについてどう思いますか？

GK　中途半端なものはダメなんじゃないかなって思ってるんですよ。踏み込むなら胸張って、自分のなかの正義を信じて書くならいいけど。中途半端が一番ダメだよね。

―そういう意味で、今回の本はどうでした？

GK　だから懺悔じゃなくて自慢本！　山本さんが懺悔してるのは、愛想つかして出ていっちゃった前の奥さんに対してだけですよ。

―プロレス界は懺悔してない。

GK　最後のあとがきで付け足しのように懺悔してたけど、本当に心から天龍さんや長州力に謝ってるとは思えないし。なぜ、いまさら『週プロ』の部下に謝るのか、それもまったく意味不明。何も謝ることはないじゃない。ターザン山本がいたから、『週プロ』は上がったんだから。俺なんて部下に対して「申し訳ない」なんて、1ミリも思ったことないよ。むしろ「感謝しろ！」と言いたいもん。

―立派です！　金沢さん自身は将来的に暴露本を書く可能性はあったりしますか？

GK　自分は暴露じゃないと思って書いても、暴露本かどうかは周りが決めちゃうことだからね。暴露本じゃなくて、ドキュメントを書きたいということは、前から思ってるから。やっぱり「いまだから書けること」ってあるじゃないですか。そういうものは書きたいなって思いますけどね。プロレス界にマイナスになることやってもしょうがないから。

―ちなみに『子殺し』を出版したとき、版元から暴露的な内容は要求されませんでした？

GK　それはちゃんと話し合ってますから。編集者もボクに対しては、そういったことは求めてないと最初から言ってくれたし。そこは一致してたから。でも、この『金権編集長』を読むと、山本さんは記者とか編集者じゃなくて、ブローカーだね（笑）。

―では、最後にこの本を読んで、同じ時代を生きたターザン山本さんについてどう思いますか？

GK　そうだなあ。「俺にも感謝しなさい！」って言いたいね（笑）。『SRS・DX』がなくなって、山本さんを『ゴング』の連載で使ったのは俺だし。サムライTVも問題起こして出られなくなっていたけど、『週刊ゴングTV』のレギュラーとして呼んだのも俺だし。あれもギャラは4万円だからね。

―ちゃんとお金になる仕事を振っていた、と（笑）。

GK　だから、ちゃんと仕事しなさいってことですよ。競馬のせいにするなって。あと、今度は自分でちゃんと書きなさいって。やっぱり俺自身、かつては「打倒・ターザン山本」が一番のモチベーションだったからね。ちゃんと仕事して、もっと自慢してみろ！　って言いたいですね。

【10年6月23日／電話取材にて収録】

真騎士、Yasubei、マルロン・サンドロ!

雷電候補、続々登場!

最強の男

SRC13

2010.6.20 両国国技館

つ、強い……! 思わずそうつぶやきたくなる、インパクトある試合の連続だった6.20『SRC13』両国大会。ホドリゴ・ダムをKOした真騎士、菊田さんをボコボコにしたYasubei榎本、そして金原正徳をわずか28秒でKOし、SRCフェザー級新王者となったマルロン・サンドロ。次々と“雷電候補”が現われた『SRC13』を特集する。

構成/堀江ガンツ　試合写真/小林靖

強くて凄くておもしろい!
ベネズエラタイフーン

黄金のライト級に
またしても新星現わる!

大物柔術家ホドリゴ・ダムを完全KO!
SRCの秘密兵器がついに覚醒!!

真騎士

Maximo Blanco

「SRCの王者になって大晦日は川尻選手と闘いたい!」

ベネズエラ出身の"SRC育成選手"真騎士がついに覚醒!
6.20『SRC13』で大物ホドリゴ・ダムに2ラウンドTKOで完勝。
あらためて、その急成長ぶりと実力を証明してみせた。
強くて、陽気で、日本語ペラペラ。人気爆発要素をたっぷり持った
SRCの秘密兵器が、黄金のライト級をさらに熱くする!

聞き手/堀江ガンツ　試合写真/小林靖

真騎士

ボクは本来、"育成選手"じゃなくてトップファイターなんですよ

――真騎士選手、今日はよろしくお願いします。

真騎士 もう、取材待ってましたよ。ワタシ、あんまり載ってないから。

――あ、やっぱり雑誌の扱いとかも気にしますか？

真騎士 気にしますね～。『kamipro』見ると、いつも青木選手、川尻選手、山本KID選手はたくさん出てるのに、ワタシどこにもいない。さみしいよ～。わけわかんない人も載ってるのに、なんでワタシいい勝ち方してるのに載ってないのか。「もう見ない！」って思った（笑）。

――すいません（笑）。

真騎士 青木選手や川尻選手みたいに前のほうのページに出たいですね。いつかは表紙も。SRCのチャンピオンになったら出たい！

――でも、今回のホドリゴ・ダム戦の勝ち方は、近い将来そうなる可能性を感じさせるインパクトがありましたよ。

真騎士 それはよかったです。じゃあ、ワタシもたくさんページ載るかな～（笑）。

――前のほうかどうかはともかく、大きくは載る予定ですから（笑）。でも、今回の試合を観て、あらためて「凄い選手が出てきたな」って思った人は多いと思いますよ。

真騎士 それはみんながボクを"育成選手"だと思ってるからでしょ？ でも、ホントはずっと前から"育成選手"じゃなくてトップファイターなんですよ。ホントならオリンピック出たら、すぐ上からスタートするはずだった。それもPRIDEの。

――当初はレスリングで北京オリンピックに出たあと、PRIDEでデビューするはずだったんですよね。

真騎士 でも、オリンピックがダメになって、PRIDEもなくなって、『戦極』の一番下からやることになった。もう大変だった。いまでも大変だけど。生活も大変だし、つらい。

――でも、真騎士選手がデビュー後に急成長したのは、やはりSRCの"育成選手"という環境があったから、ということもあるんじゃないですか？

真騎士 それはあると思います。

――育成選手というのは、生活面と練習環境でサポートがあるわけですか？

真騎士 そうですね。そういったものすべてです。住んでるところとか。

――では、ほかの若いファイターよりは恵まれているわけですね。

真騎士 でも、ワタシはベネズエラのオリンピック代表。ほかの人はバックボーンない。ただ、ジムで練習してるだけの人ばかり。ワタシは高校、大学ずっとレスリングやってるし、全日本の学生チャンピオンだし、ベネズエラのチャンピオン。ほかの選手と比べないでほしい、レベルが違う。

――どちらかといえば、石井慧選手とか、そっちと比べてほしいわけですか。

真騎士 ワタシ、石井慧選手より上かもしれないよ。MMAと柔道違う。柔道チャンピオンでMMAで強くなるのは時間がかかる。でも、ワタシはすぐにMMAで強くなったから。

――確かにMMAの対応能力としては、驚くべきものがありますよね。

真騎士 だから、ホントならすぐに上のほうで試合して、お金も稼ぐはずだった。でも、いろんなことが重なって下から一つ一つ上がっていかなきゃならなかったね。いま生活は大変だけど、なるべく楽しめるように努力してる。今回の試合だって、みんな「よかった」と言ってくれるけど、ワタシは「まあまあかな」と思ってるから。

――あれで「まあまあ」ですか。

真騎士 だって、スタンドで完勝したかったのに、1ラウンドはずいぶん打撃もらった。ホントは一発ももらわずにKOしたかった。「くそ～」って思ったよ。

――ローキックやミドルキックをかなり蹴られてましたよね。

真騎士 そう。だから次は自分の思いどおりの試合ができるようにしたい。ワタシはそんなに時間がないから。（マルロン・）サンドロ選手に負けないぐらいの勝ち方したいな。

――サンドロvs金原戦ぐらいの時間で勝ちたい、と。

真騎士 あれ、たいしたことないよ。38秒でしょ？ ワタシ、もっと早く勝ったことあるから。その前は9秒だったか……。でも、サンドロ選手は楽しんでないと思う。ただ勝つだけ。ワタシはちゃんと楽しんで、魅せて、それで勝ちたい。

――だからバックスピンキックも見せるわけですか。

真騎士 そう。自分も楽しんで、お客さんも楽しませて勝つ。ワタシ、あのキックで勝てると思ってた。でも、届かなかったみたい。逆にキックもらっちゃった（笑）。ビックリした。初めて試合中に痛み感じたから。いつもは蹴られても殴られても痛み感じない。でも、今回は「ウッ」って痛み感じた。でも、我慢して痛くないふりしてた。

――でも、いままで痛みを感じずにきたっていうのも凄いですね。

真騎士 痛み感じても我慢して殺す！ それができてよかったです。

――最後のスタンドで距離を詰めるスピードとか、段違いでしたね。

真騎士 それは練習のおかげだと思います。ワタシ、試合前に（ホルヘ・）マスヴィダル選手とホドリゴ選手の試合を観ました。

――ホドリゴ選手がKOで勝った試合ですね。

09年9月の『戦極～第十陣～』では、戦極フェザー級GPにも出場した山田哲也に完勝。ここ4試合は圧倒的な勝利が続いており、この勢いはしばらく止まりそうにない。

［10.6.20『SRC13』］
東京・両国国技館
○真騎士 vs ホドリゴ・ダム×
（2R 0分45秒 TKO）
あのギルバート・メレンデスとストライクフォースのタイトルを争ったこともあるホドリゴ・ダムを相手に、真騎士は序盤から積極的に攻めていく。1ラウンドこそ蹴りを何発か受けたが、2ラウンドに入るとコーナーに追い詰め、右フック一発で粉砕! 見事な完勝だった。

真騎士 なぜ、マスヴィダル選手が負けたのか、それは足の動きが悪かった。そこをワタシは気をつけて闘った。同じ動きをしないで、違う動きでパンチを入れる。でも意識したのに、キックもらって悔しい。

――格闘技ファンの多くは、ホドリゴ・ダムはMMAのトップクラスで、真騎士選手はルーキーだと思ってましたけど、真騎士選手自身はそんな気持ちはなかったわけですね。

真騎士 ホントはワタシもう〝育成選手〟になるような選手じゃないもん。トップ選手はみんなブランド物とか持ってるでしょ? でも、ワタシはブランド物持ってないからトップクラスに見えない。それだけ。しょうがないね。生まれたときに貧乏だったから、それはすぐに変えられない。でも、実力では全然負けてないと思ってる。

――それに、この世界は勝ってトップになれば、まったく違う生活ができる世界でもありますからね。

真騎士 早くそうならないかな。待ちきれないね。

――待ちきれない（笑）。

真騎士 早くお金持ちになって、ベネズエラにいる家族を楽させたいから。いま家族もみんなお金ないし、だからお母さんリウマチだけど、スーパーで働いてる。ワタシはそういう仕事しないでほしい。でも、「働くの辞めたら、どうやって生活する?」って言われたら、ワタシ何も言えない。それがつらい。お父さんも脳梗塞で倒れた。だからお母さん、身体悪いのに働かなきゃいけない。

――家族を楽させるために、稼げるようになりたい、と。

真騎士 早くそうなりたい。だからワタシ時間がない。いまはまだ家族に連絡するのもつらいヨ。「お金ない」と言いにくい。だから、なるべくお金使わないようにするため、いろんな人と縁切ってる。ワタシが勝つと「おごってくれ」とか言う人いたけど、そんなお金ない。いまは、自分だけ信じて頑張るしかない。

――早くトップファイターにならなきゃいけない理由があるわけですね。

真騎士 でも、それぱっかり考えるのもつらいから。厳しい練習しながら、自分の人生を楽しむ。いま、試合が終わったばかりの休み時間だから、いまは一生懸命休む。でも、試合前に凄い厳しい練習してたから、夜9時になると眠くなっちゃう（笑）。

――身体が闘うための身体になっちゃってるわけですね。

真騎士 でも、休ませないと次のステップにいけないから。しっかり休ませて、痛いところなくして、また練習再開したい。休まないと強くなれないからね。ワタシ、試合後に「2～3週間寝ないで遊ぶ」って言ったでしょ?

――言ってましたね。

真騎士 でも、夜遊びに行こうとしても、眠くなっちゃう（笑）。だから、遊んでないよ。試合後も友だちがパーティしてくれて、みんなでごはん食べに行ったけど、もう眠くて、みんなに申し訳なかったけど、すぐに帰っちゃった。

――それだけのエネルギーを使ったんでしょうね。

真騎士 身体も痛かったしね。蹴りがあんなに痛いって初めて知った。もらったパンチは見えなかったし、ミドルキックも最初は見えなかった。早くホドリゴ戦のビデオが観たいね。

――ホドリゴ選手も今回は打撃に自信があったのに打撃で負けたのが悔しかった

みたいですよ。

真騎士　ワタシはホドリゴ・ダム選手の彼女（奥さん）見て悔しかった（笑）。

――なぜだ（笑）。

真騎士　だって、きれいなんだも～ん。凄い美人なんですよ。モデルさんみたい。うらやましいですよ～。

――それもチャンピオンになれば違ってくるんでしょうね。

真騎士　待てない（笑）。「プロは勝てばお金も女の人もみんなついてくる」ってよく言われる。早く来てほしいよ（苦笑）。でも、そういうことは何も考えずに頑張ろう。

――そういった意味でも、今回のホドリゴ・ダム戦は大事な試合だという認識はありましたか？

真騎士　いや全然。試合前、同じパンクラスのチャンピオンの和田（拓也）選手が「勝てば人生が変わる」って言ってたけど、ワタシも早く〝勝てば人生変わる試合〟したい。ホドリゴ選手に勝っても何も変わらなかった。次の日も同じ朝ごはん。同じ納豆食べてた（笑）。

――納豆食べてましたか（笑）。

真騎士　早く人生変わる試合来てほしい。それが早く来るためにも、練習する。そして組まれた試合は全部勝つ。そうすれば、そういう試合めぐってくる。

――でもホント、今回の試合で近々タイトルマッチをやらせたいっていうムードは出てきてますよ。

真騎士　そしたらいいね。

――いまタイトルマッチやっても自信ありますか？

真騎士　あります（キッパリ）。

――たとえば、これまでのチャンピオンである北岡（悟）選手、廣田（瑞人）選手と闘っても自信がある？

真騎士　あります。次は横田（一則）選手とタイトルマッチやらせてほしい。いまSRCライト級で一番強いのは横田選手だと思う。

――ほう、横田選手が一番ですか。

真騎士　で、横田選手に勝ったら、大晦日に川尻選手とやりたい。それがワタシの望み。

――青木選手ではなく、川尻選手ですか？

真騎士　だって川尻選手一番強い。計算してみて？　青木選手はメレンデスに完敗だった。川尻選手もメレンデスに負けてるけど、ほとんど互角の判定だった。だから川尻選手のほうが強いんじゃないかな。

――なるほど。

真騎士　そして川尻選手は横田選手に勝ってる。横田選手は廣田選手に勝ってるし、廣田選手は北岡選手に勝ってて、北岡選手は光岡（映二）選手に勝ってる。それ全部考えれば、選手の順番がわかるじゃない。数学は間違いない。

――だからこそ、次は横田選手とやりたい、と。

真騎士　それが一番おもしろいと思うよ。いまケガしてるから8月は無理だけど、10月にやりたいね。

――横田選手は打撃が強くて、テイクダウンディフェンスも強いですよね。

真騎士　全部強いよ。

――その選手とどう闘いますか？

真騎士　考えてない。リングに上がってから考える。ワタシ、作戦作りすぎるの好きじゃない。リングに上がって自由に動く、それが一番幸せ。ワタシはフルラウンド闘うつもりだし、相手がどんなことやってきても対応できるようにしてる。だから作戦は何も考えない。考えるのは「彼女できないかな～？」ぐらい（笑）。

09年8月、デビューからわずか1年で、北岡悟を二度破った王者・井上克也を破りライト級キング・オブ・パンクラシストとなった真騎士。MMAへの順応性は抜群。まだデビュー2年弱なのだから末恐ろしい。

早く〝勝てば人生が変わる試合〟やってお母さんに楽してもらいたい

真騎士

――そういうことは考えますか（笑）。

真騎士　あとは「いいとこ住みたいな～」とかね（笑）。ちょうどこのへん、原宿の表参道とかいいね。代々木公園も近いし。

――ちなみに女性はどんなタイプが好きなんですか？

真騎士　歯がきれいな人。ツメがきれいな人。

――タレントや女優でいうと誰が好きですか？

真騎士　森泉！　このあいだテレビで見て「ワオ！」って思った。

――「ワオ！」って思いましたか（笑）。

真騎士　ただ、友だちからは「森泉は痩せすぎ」って言われた。でも、大丈夫。ワタシが稼いでごはんたくさん食べさせる。

――さらに自分好みの女性に変えますか（笑）。

真騎士　そう。そういう彼女できるためにも、頑張ります。まあ、彼女より家族ですけどね。お金稼いで助けたいから。やっぱり、なんでもそうですけど、お金がないとやりたいことがなかなかできない。よく野球選手とか「お金じゃない」とか、「お金で買えないものがある」とか言うけど、何千万円とか何億円ももらってるから、そんなこと言える（笑）。ワタシ、もらってないから、お金ほしい。だから頑張る、強くなる。

――そういうモチベーションは男として正しいですよ。

真騎士　今年は大晦日に試合したいね。チャンピオンとして。だから10月にタイトルマッチやりたい。

――その相手は、横田選手じゃなくて、北岡選手や廣田選手でもいいですか？

真騎士　誰でもいいよ。でも、ワタシとやったら、大ケガしても知らないよ。ワタシちょっと怒ってる。このあいだ、ホドリゴ選手にけっこう蹴られたから、次の試合は大変なことになる。知らないよ。

――ホドリゴ選手も大変な目に遭いましたけど、あれ以上になる覚悟をしてこい、と。

真騎士　うん、大変なことになるよ。覚悟してきてほしい。

――では、最後に将来的な目標を聞かせてもらえますか？

真騎士　目標は映画に出る！　アクション映画。UFCの（ランペイジ・）ジャクソンが映画に出てるけど、そういう感じになりたい。トップファイターになって、映画スターになったら、お金も入ってくるし、ね。そしたらフェラーリを乗り回したいし、BMWで海にも行きたいし、ポルシェ

まきし■本名・MAXIMO BLANCO。1983年10月16日、ベネズエラ出身。14歳からレスリングを始め、15歳のときに仙台育英高校に留学。日本大学では全日本学生レスリング二冠王となり、06年にPRIDEと契約。しかし、PRIDE活動休止により08年に戦極育成選手となる。同年パンクラスでMMAデビュー。09年8月には井上克也を破り、ライト級キング・オブ・パンクラシストとなった。175cm、70kg。

で六本木に行ったりもしたい（笑）。

――いいですね〜。欲望に忠実で（笑）。

真騎士　あと、いろんな人を助けたい。ベネズエラではお金がないせいで、いろんな問題が起きてる。若い人が、お金がないから悪いことしちゃう。それはもったいない。そういう悩みを消すことができたらいいな。

――社会貢献も考えているんですね。

真騎士　でも、それはホントに将来の話。まずは家族を助けたい。お母さんに幸せな生活してもらいたい。仕事をしないで、リウマチの治療してもらって、いいところに住ませたいね。

――では、タイトルマッチが組まれたら、家族を呼んだりしたいんじゃないですか？

真騎士　まだ呼べないですね。お母さん、スーパーの仕事休めないし、家族はみんな仕事で忙しい。休んだらごはん食べられなくなる。だから、自分に任せてほしい。いつか、別の姿のワタシを見てほしい、と。

――チャンピオンになった姿を見てほしい、と。

真騎士　このあいだベネズエラに帰ったときは、まだ胸張って帰れなかった。次に帰るときは、ブランド物着て、全然違うマキシモになって胸張って帰りたいです。

――でも、それが実現するのもそれほど遠くない将来だと思いますから。これからの活躍に期待してます！

真騎士　ありがとうございます。ワタシも頑張るから、ちょくちょく雑誌に出してください。いつも一緒の人じゃなくて、ワタシも出てたほうが楽しいでしょ？（笑）。

――確かにそうですね（笑）。これからもよろしくお願いします！

【10年6月23日／都内・表参道沿いの某喫茶店にて収録】

本誌初登場!!

「社会貢献!! 儲からなくてもいいんです」

柔道三段！ 相撲四段!!

向井 徹 SRC代表

今年に入ってから『SRC』の代表に就任した向井氏だが、
あまりメディアに露出していない。いったい何者なのだ、何を考えているんだ!?
……ということで、本誌初登場！ シャキーン!!

聞き手／ジャン斉藤

それでは皆さん、ご一緒に！　イチ、ジュウ、ヒャク、センゴクセンゴク!!（トリビュート阿修羅チョロ）。

2008年3月5日に『戦極』として産声を上げ、2010年3月7日の大会より『SRC』（センゴク・ライデン・チャンピオンシップ）にイベント名を変更。同大会より新代表に就任したのが、このたび本誌に初登場する向井徹氏だ。これからマット界で「ムカイ」といえば、「アキ」じゃなくて「トオル」で！

そんな話はともかく！『戦極』時代のスポークスマンといえば、國保尊保氏の顔を思い浮かべる読者が多いと思われるが、國保氏は吉田道場をマネージメントする立場や個性的な言動もあいまってファンに強い印象を残していた。

一方、生まれ変わったSRCはどうなのだろうか？

イベント名変更から早くも3ヵ月近く経過し、吉田道場勢の離脱という事件はあったものの、ファイターに目を向ければ、"怪物"マルロン・サンドロや真騎士の台頭でリング上はおおいに活気づいている。海外で修行中の石井慧の参戦機運も高まっている。

そしてSRCをバックアップする安田隆夫ドンキ・ホーテ会長はとにかく最高！……なんだか、正直、団体の指針やイメージがファンに伝わってないのが現状ではないだろうか。

「だったらおまえが取材に行けよ！」……というわけで、行ってまいりましたよ、ドン・キホーテ本部に！

はたしてSRCを束ねる向井氏は何者なのか、何を考えているのか？

ドンドンドン、ドンキ〜♪　ドン・キホ〜テ〜♪

——ファンの方からよく聞かれるのは「SRC代表の向井徹とは何者なんだ？」ということなんですね。

向井　ハハハハ（笑）。私はですね、ドン・キホーテの役員なんですよ。

——あ、そうなんですか。

向井　はい（笑）。オペレーション統括本部というところを担当してましてね、情報システムや物流を担当しています。このドン・キホーテグループのインフラを支える堅い仕事をやっているんです。

——いいんですか？　SRCの業務とかけ持ちされても。

向井　大丈夫です。そこは組織的に非常にしっかりしていますから。たとえば一日の簡単なスケジュールを説明すると、朝8時半に葛西の事業所に行って、午後には目黒の本部に入って夜中まで仕事をしているんです。

——まさかそんな大物だとは思いもしませんでした（笑）。向井さんがドンキに入社されたのはいつ頃なんですか？

向井　ドンキはもう5年くらい前なんですが、ドン・キホーテには情報システムを扱うリアリットという子会社があるんですよ。私はそのリアリットの副社長だったんです。それで去年のドンキグループの組織再編があったんですが、リアリットのなかにあった情報システム部や物流関係がドンキのオペレーション統括本部というかたちで組織的に合併したんです。それからいまに至ることになりますね。

——そういう方がなぜSRCの代表に就任されたんでしょうか？

向井　じつは私、日体大の相撲部出身なんですよ。

——ドスコイ！　どうりで体型がガッチリされてますね（笑）。

向井　それで高校まで柔道と相撲と掛け持ちでやっておりまして、柔道三段、相撲四段なんですけど。

——団体の代表で一番強い!!　向井さんならダナ・ホワイトにも勝てます（笑）。

向井　ハハハハ（笑）。だからもともと格闘技が大好きだったんですね。で、今年で51歳になったんですけど、このまま老化してくのはダメだと思って近くの柔術の道場に通うようになったんです。

——それが八隅（孝平）さんのロータスパラエストラ世田谷なんですよね。

向井　でも、最近は忙しくて通ってないですけど（笑）。それで『戦極』の立ち上げの頃からかならず観戦には行っていたし、それからパンクラスや修斗も自分でチケットを買って観に行っていたんですよ。そうやって横から応援はしていたんですけど、今年の1月になってですね、安田（隆夫）会長から「『戦極』の体制が変わるので担当しろ」と言われてですね、「マジですか？」と（笑）。

——直々の指名だったんですか（笑）。でも、自分の好きなものをビジネスでやるって難しい面もありますよね。

向井　そうですねぇ。それに興行の世界は初めてですし、そこはまだ全然慣れないですけどね。

——向井さんはSRCでは主にどういうお仕事をされてるんですか？

向井　マッチメイクもやっています。まあ私一人でやっているわけじゃないんですけど。私が中心になってですね、コミッションの先生たちに相談しながら決めたりしています。それから当然資金繰り方面の仕事もやっていますし、SRCに関わるいろんな企画を組み立てているというか。

——いま一番ファンが心配しているのは、格闘技人気が下がってビジネス面でのほころびがイベントに悪影響を与えているということなんですね。向井さんは現在の格闘技ビジネスの現状をSRCを通してどうとらえてるんですか？

向井　正直言って、いまはビジネスとして昔は成立してないですね。イベント単体で考えると成立してないと思います。でも、成立していた時期もあるわけですし、

プロ野球の球団やプロサッカーチームを持っているようなイメージです。

これは現在もUFCなんかを見ると、我々もできないことはないと思うんですね。だから「どうやって工夫してやっていくか」というところなんです。で、ドンキからすれば、極端なことを申せば格闘技のイベントだけで儲からなくてもいいと考えているんです。

――そうなんですか!

向井 トントンでできればいい、と。ドンキが格闘技イベントをやるということは、プロ野球の球団やプロサッカーチームを持っているようなイメージでもあるんです。楽天が東北楽天ゴールデンイーグルスを持っている、ドンキはSRCを持っているというようなものですね。そして直接的に社会貢献になるかどうかはわかりませんけども、格闘技は素晴らしいジャンルだと思っているので、この競技を盛り立てて、普及させていくということには貢献できると思っています。そこを株主さんの理解をいただきながらやっていますし、私もドンキ役員の一員として、徹底的に貢献していきたいなと思っていますね。

――目的は社会貢献ですか。プロ興行を始めて、いろいろビックリするようなことがあったと思うんですよ。

向井 一番驚いたことはですね、なんていうんですかね、何事にも統一ルールがないということですね。たとえばボクシングはコミッションが非常にしっかりされていて、コミッションルールに基づいて運営されているというところがありますよね。

――最近はその裁量について騒がれてるところはありますが、格闘技とは比較にならないほど、しっかりしてますね。

向井 プロモーターしかり、マネージャー、選手、セコンド、オフィシャルドクターまで、基準がしっかりしていると思うんですね。UFCなんかも州ごとでコミッションがいらっしゃって、しっかりとした発言力を持っている。それからインスペクターがいて、不正とか疑わしきものは排除できるようになっているんですけれども。この日本のMMAの世界では、まだそれがですね、充分に確立されていないじゃないですか。確立されてないとやっぱり、みんながその利害だとか、好き勝手なことばかり言いますので。そういうことがあるとトラブルも起きますしね。それからいつまで経っても選手の地位も向上しないだろうし。

――そのコミッション設立や競技統括にお金がもの凄くかかることもあって、どこの団体も手が出せない現状がありますが、そこはどうお考えでしょうか。

向井 確かにドーピング問題なんかを徹

旗揚げ以来イベントの顔だった吉田道場勢が離脱したSRCだが、マルロン・サンドロや泉浩などSRCカラーを持った選手が生まれている。あとは彼らをどうプロデュースしていくかが問われる。

SRCコミッションのルールを作って ライセンス制を導入します

底的にやるとお金は非常にかかりますよね。自分たちの周辺の医者の方がドーピングチェックをできるわけじゃないので、専門の委員を海外から招聘したりしないといけない。そうすると、お金はベラボウにかかりますね。

――アメリカでは第三者機関がその業務を行なってますよね。SRCとしてはどんなイメージをもってこの問題に取り組んでいくのでしょうか?

向井 いまのSRCにはコミッション委員会があり、非常に立派な先生方にお務めいただいています。それで、大会のときはけっこう顔を合わせて話したり、年に2回ぐらいはミーティングを持たせてもらっているんですけど、まだその程度なんですよね。それで、もう一つのコミッション委員会が運営するルールということでいえば、試合ルールがあって、それからあとは選手と我々とが決めるという、それぐらいしかないんですね、決まりごとというのは。だから、それをもう全部統括して、SRCC(SRCコミッション)ルールというのを作って、ライセンス制を導入しようと思っています。

――選手にライセンスを発行するんですか?

向井 選手だけではありません。プロモーター、マネージャー、選手、セコンド、ジムマネージャー、オフィシャルドクター、審判、アナウンサー……各自ライセンスを申請してもらって運営していこうとしているんですよ。

――その制度はいつくらいから実行されるんですか?

向井 できれば、この秋ぐらいから実行したいですね。

――なるほど。一番懸念されるのは、SRCの内部機関でやることによって、お手盛り感が出ちゃうんじゃないかということなんです。やるのであれば、ほかの団体、修斗とかパンクラスとかDREAMも含めて業界全体を巻き込んで統一管理していくのが理想的ですよね。

向井 最終的にはそうしたいですよね。修斗さんとかパンクラスさんの選手はS

挨拶のため『SRC13』のリングに登場した石井慧。海外のローカルイベントで連戦している彼の日本復帰戦はいつになる？　SRCとの契約は残り1試合。

RCにかなり上がってもらっています。そういう意味では行き来があるんでライセンスは広まっていくと思っています。DREAMさんは……。

――そこまでの関係ではないと？

向井　DREAMさんもまだそこまでお考えになってないと思うんですよ。ちょっと我々とは考え方が違う部分があるので「一緒にやりましょうよ」と言っても、非常に調整が難しいかと思います。

――そのコミッション自体はSRCが資金を出して運営するというかたちになるんですか？

向井　そうですね。そんなに資金がかかるとも思ってなくて、選手の負担にしてもライセンスの申請に関していえば、カードの発行料は1000円くらいを想定しているんですけど。資金面でひっかかるとしたらドーピングや医療面ですよね。これは徐々にですけど、日本格闘競技連盟のほうが補助をしてくれるような感じになってきているんですよ。

――いずれは第三者機関に移行したいお考えにはありますか？

向井　まあ、レフェリーの方もSRC専属で所属しているわけではないので。

――ほかのイベントとかけ持ちされてる方が多いですよね。

向井　そうなんですよね。だから、とりあえずSRCがライセンスを出させてもらうというかっこうになります。そのお手盛り感みたいなものが若干あるとしたら、インスペクションの機能ですね。監査をしてもらう人。そこはまず、コミッション委員の先生たちに、アクティブに活動していただくということをお願いすると思うんです。

――なるほど。お話を聞くかぎり、半年一年で成就するプロジェクトではないということですね。

向井　ないと思いますよね。でも、そこは我々が熱心にやっていきたいと思っています。

――SRCでちょっともの足りないと思うのはそういった活動の詳しい説明もそうなんですが、何かに取り組んでいることがなかなかファンに伝わってない、イベントのカラーがいまいち伝わっていないんじゃないかなということなんです。それはマスコミの力不足でもあるのですが。

向井　う～ん、そうですね。

――そこは向井代表も感じるところではあるんですか？

向井　まだまだ発信が弱いと思っていまして、我々には決まった地上波番組があるわけではないですし。そのへんも含めて努力している最中なんですよね。それでテレビ局さんなんかともいろいろお話ししても、我々の業界をクリーンに見ていただくというようなところも示していかないとなかなかコンプライアンスの厳しい世界ですから。それと野蛮で血が流れることもテレビの障害の一つにはなっているわけですけど、もう一つはそういう反社会勢力との関わり、接触というようなことも審査や企画の段階ではもの凄く重要視されるので。その関わりを徹底的に「我々はありませんよ」というようなことも、言葉だけではなくて、さっきのコミッションルールだとか、いろんなことを通して、提示していくという作業が必要になるでしょうね。そういうものをやりつつ、どうやって格闘技人気を高めていくかなという最中なんですけど。

――テレビの重要性は肌身で感じていらっしゃるんですか？

SRC代表初登場!!

向井　もの凄く感じますね。我々は圧倒的に露出がないんで。いま我々が露出しているのはスカパー！さんと、韓国のＭＢＣと、アメリカのＨＤネット、それだけです。ネットの動画サイトなんかも取り扱っていきたいなって思っているんですけども、そこはまだ我々も具体的には手をつけられていないので。露出があまりにも少ない。そうなるとＳＲＣとしてもいい循環を作れないんですよ。選手たちには幅広くですね、自分が世間に認められたいだとか、もっともっと有名になりたいという思いは当然あるわけじゃないですか。

――選手からしても、モチベーションがが出てこないですよね。

向井　ですよね。それにスポンサーさんが我々を協賛しようと思ってもですね、露出機会がないと難しい話になってくるんですね。だから我々がスポンサー営業すると「ＳＲＣさんが露出される媒体はなんですか？」と真っ先に聞いてくるわけですよ。そういう意味でビジネスにしていくためにはやっぱりテレビは必要だと思うんですよね。

――地上波の影響力も弱まり、放映権料も下がっている現状もありますが、向井さんはたとえば『ＹｏｕＴｕｂｅ』やツイッターなど、双方向性メディアの展開をどうお考えなんですか？

向井　そうですね。そこはまだ全然手がつかなかったという段階で、これから考えようと思っています。これはやっぱり、手順とかもあっていろいろな調整もありますし、そのへんをちょっとバランスを見ながらですね、やっていこう、と。ただボクは、極力本当に『ＹｏｕＴｕｂｅ』さんだとか、ニコ動さんに映像は出していきたいとは思っているんですけどね。ですが、実際いまのところは、手が回らないというのも事実です（笑）。

『SRC13』のPPV解説は秋山成勲！　チームメイトが出陣の際はスーツ姿でセコンドに。解説時と変わらぬ"アドバイス"を送るのであった。

格闘技環境の整備を唱えるSRCは、大活躍中の真騎士と写真の大澤茂樹を「SRC育成選手」としてバックアップしている。安田会長バンザイ！

…………SRCの会場に青木真也！　戸井田カツヤのセコンドでした。谷川さんのツイッターによれば安田会長にも挨拶したそうな。

ドン・キホーテは修斗もバックアップ！　これまた安田会長バンザイなのだ。みんなドンキで買い物だ！

――たとえば、向井さんがツイッターでファンとやり取りをされることはお考えじゃないですか？

向井　いや、すぐには考えてはないですけど。けっこう言われるんですけど、中途半端にはできないでしょ。

――やるんだったら徹底的に（笑）。

向井　そうなんですよ。一日に何回もつぶやくようにしなきゃ、それはそれで困るんですよ、中途半端にやるのは。

――だいぶファンにイメージが伝わるのでオススメしたいなとは思ってるんで。

【この取材後、向井代表がツイッターを開始！　アカウントは「SRCbyWVR」です。みんなでフォローだ!!】

――まあ、ツイッターよりも先にやらなきゃいけないことは多いですよね（苦笑）。

向井　そうなんですよね。我々は『戦極の乱』を入れて今度で14回目ですけれども、まだ東京でしかやってないんですよ。大阪や名古屋で来年あたりやる必要があるんじゃないかな、と。「ＳＲＣっていわゆる東京でやってるイベントね」というような話も地方に行くと聞こえてくるんです。

――お話を簡単にまとめると、いまのＳＲＣはイメージをどう確立していくか、どう露出していくが今後のポイントになりますね。

向井　そうなんですよ。そして繰り返しになっちゃいますけど、格闘技をちゃんと認知させたいんです。野蛮なスポーツだと思われたくないんですね。そこはどうしたらいいと思います？

――うーん、格闘技って競技の性質上、「野

反社会勢力とのつながりを連想させる入れ墨を禁止したいと思います

SRC代表初登場!!

蛮」と呼ばれることは避けられないと思うんですよね。で、その野蛮性が格闘技の魅力だったりしますし、野蛮じゃない格闘技ってつまらないですからそこは難しいですよね。それはご存知だと思いますけど。

向井　私が気にしているのは選手の質といいますか、マインドといいますか、それが私はまだ少しギャップがあるように感じているんですよ。

――ギャップというのは？

向井　たとえば、ジョルジ・サンエールなんかは本当の紳士なアスリートに見えるし、UFCはそういう選手が多いと思うんですよ、わりと。もう少しそのへんも目指していかないと、一歩間違うと年末の……。

――青木真也みたいな騒動になるってことですか？

向井　みたいになってですね、荒くれ者の喧嘩みたいな話になっちゃうんですよ。そこを微妙にですね、襟を正していかないと、野蛮な人たちが喧嘩をしているというイメージなんです。だから、ここは伝え方が難しいんですけど、私はそれを感じているんですよ。

――なるほど。イメージを追求されるなら、たとえば入れ墨を入れている選手の扱いはどうお考えなんですか？　ボクは気にならないですけど、世間からはどう見えてると思いますか？

向井　それはですね、今度のオフィシャルルールのなかで、「反社会的勢力とのつながりを連想させるような入れ墨はダメ」というように規定しようと思っています。日本のいまの社会的通念だと、いわゆる洋風系のタトゥーというより、和彫りの竜が入ったような入れ墨はそういうイメージを持ってしまいますので。和掘りは公衆浴場や海水浴場では禁止していますよね。それはやっぱり格闘技でもダメだろうなとは思っています。

――そこはファッションの問題じゃないんですか？　たとえば洋系のタトゥーはギャングを連想させるという人もいらっしゃいます。そこの表現はどう判断されるおつもりですか？

向井　そういう意見も出てくると思うんで難しいですねぇ。

――いや、ボクはどちらでもいいんですけど（笑）。表面を取り繕うだけのガイドラインだとファンが失望しかねないですから難しいですよね。

向井　まあ、暴力団的な入れ墨、これはJBCでも一切禁止していますよね。それは私はやったほうがいいと思っています。そのルールはコミッションの先生方が作っている段階で、そういう議論にはなっていますね。それと、これは我々だけじゃないんですけど、MMAの厳しくて難しいところは、選手寿命が短いことだとボクは思っているんですよ。

――ああ、それはありますね。

向井　ええ。だから選手が引退したあとも社会で通用するようにしたいですし、そのためにはバックアップは惜しみません。昼間に練習して、たとえば夜はドン・キホーテで働くことも可能なんです。

――24時間営業ですし。

向井　我々は格闘技界をちゃんと整備したいんですよ。それは競技面、生活面、世間へのイメージ、そこを重点的にやっていきます。

――なるほど。となると、SRCはイベント運営が逆に足かせになってるよう気がするんですけど。

向井　といいますと？

――まず、SRCさんの基準はSRCさんの興行においてだけ有効なわけですよね。いまの興行ペースですと、選手は出場機会を求めてほかのイベントに出ちゃうケースも出てきます。

向井　そうですね。そこは我々が興行数を増やしていく必要は凄く感じています。

――そうしましたらSRCさんは競技面を統括する上層機関として、DREAM、修斗、DEEP等をチェックしていくかたちが理想なんじゃないかって気がするんですけど。まあ、それが日本格闘競技連盟の役割なのかもしれませんが（笑）。

向井　まさにそうなんですけど（笑）。

――もしくはSRCさんが競技面の整備を担って、パンクラスや修斗がイベントを運営するというかたちもおもしろいですよね。パンクラスや修斗は興行数が多いですし、システムを浸透させるためには有効のような気がします。

向井　う〜ん、でもやはり地上波やスポンサーを誘導させるためにはビッグマッチを組んで、両国国技館クラスでやらないといけないですし。

――そこは多少冒険してもやらざるをえないということなんですね。

向井　そうですね。べつに儲からなくてもいいです。我々の目的は社会貢献であり、格闘技の未来を考えることですのでぜひ応援していただければと思います。

【10年6月16日／都内ドン・キホーテ本部にて収録】

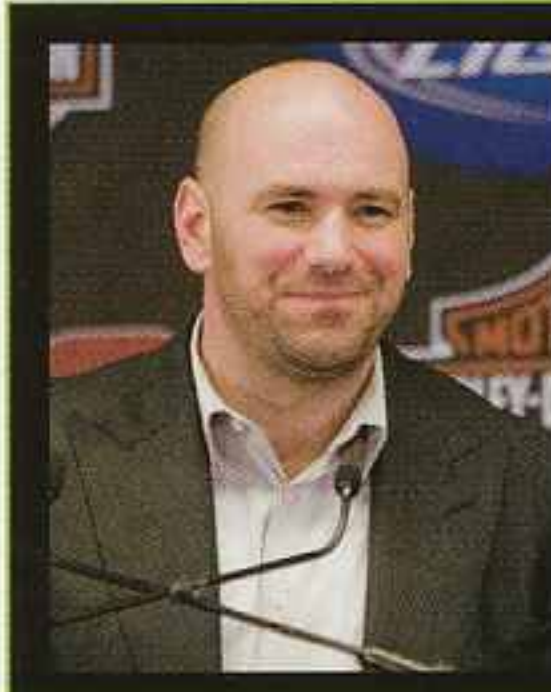
kamiproMove カミプロムーブ

サービス利用料 月額315円(税込)

アクセス方法

iモード	iメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技/大相撲
EZweb	EZトップメニュー	スポーツ・レジャー	格闘技	
Yahoo!ケータイ	メニューリスト	スポーツ	格闘技	

主要3キャリア全端末対応(※端末により一部非対応コンテンツあり)

不定期コラム
『週刊!? ワオ木真也』
"DREAMの大黒柱"青木真也が最低でも週1回、勝手気ままに書きまくる不定期更新コラム。常に反響がデカいです!!

北米MMAの最新情報を毎日お届け!
『日刊ワールドMMA』
世界は常に動いている! というわけで、北米MMAの最新情報を、大人気ブロガー・ジーニアスさんに毎日届けてもらってます!

新連載
ツヨカワ女子の毎日ブログ!
『RENAのSBダイアリー』
『kamiproムーブ』でおなじみ、選手の毎日ブログ新連載は、SBで活躍する19歳のツヨカワガールRENA! 女子格ファイターの日常を要チェック!!

週刊コラム絶賛配信中!

月 高崎計三の『kamiのワイドショー』
その週に話題になった人物や事件を追う格闘ワイドショー。ライターは個人情報流出事件の被害に遭った高崎計三だ!!

火 金沢"GK"克彦の『こちらプロレス村役場』
『kamiproドットコム』大人気連載が携帯サイトに帰ってきた!! その週のプロレス界を元『週刊ゴング』編集長が斬る!!

水 橋本宗洋の『格闘裏グルメ』
ツイッターでも絶賛つぶやき中の重量級ライター・橋本宗洋がその週の格闘技界の見どころを鋭くえぐってズバリ解説!!

木 高橋ターヤンの『This Week MMA』
最先端と言われる北米MMAを中心に、日本の目線で読み解きます!! 海の向こうの気になる話題を掘り下げてます!!

金 音声コンテンツ『mimipro』 新連載
コラム枠に大好評企画『mimipro』が登場! マット界の気になる話題を編集部やときには大物ゲストを招いて斬りまくります。

土 大川義之の『韓流MMAニュース』
日本のお隣でMMAの強豪選手を多く輩出している韓国の最新情報や話題になった記事などをいち早くご紹介してます!!

日 ニュース特選『kamiの一週間』
その週に起こった出来事をヨタ話で振り返るいろんな意味で反響が大きい爆弾企画。これを読まずにマット界は語れない!?

eb! enterbrain
おかげさまで10周年 エンターブレイン
ANNIVERSARY 10th

株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555(代表)
[エンターブレイン総合サイト] http://www.enterbrain.co.jp/

プロレス&MMAの総合WEBサイト
kamipro.com カミプロドットコム
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
無料です!

レッツ毎日アクセス
➡ http://www.kamipro.com/

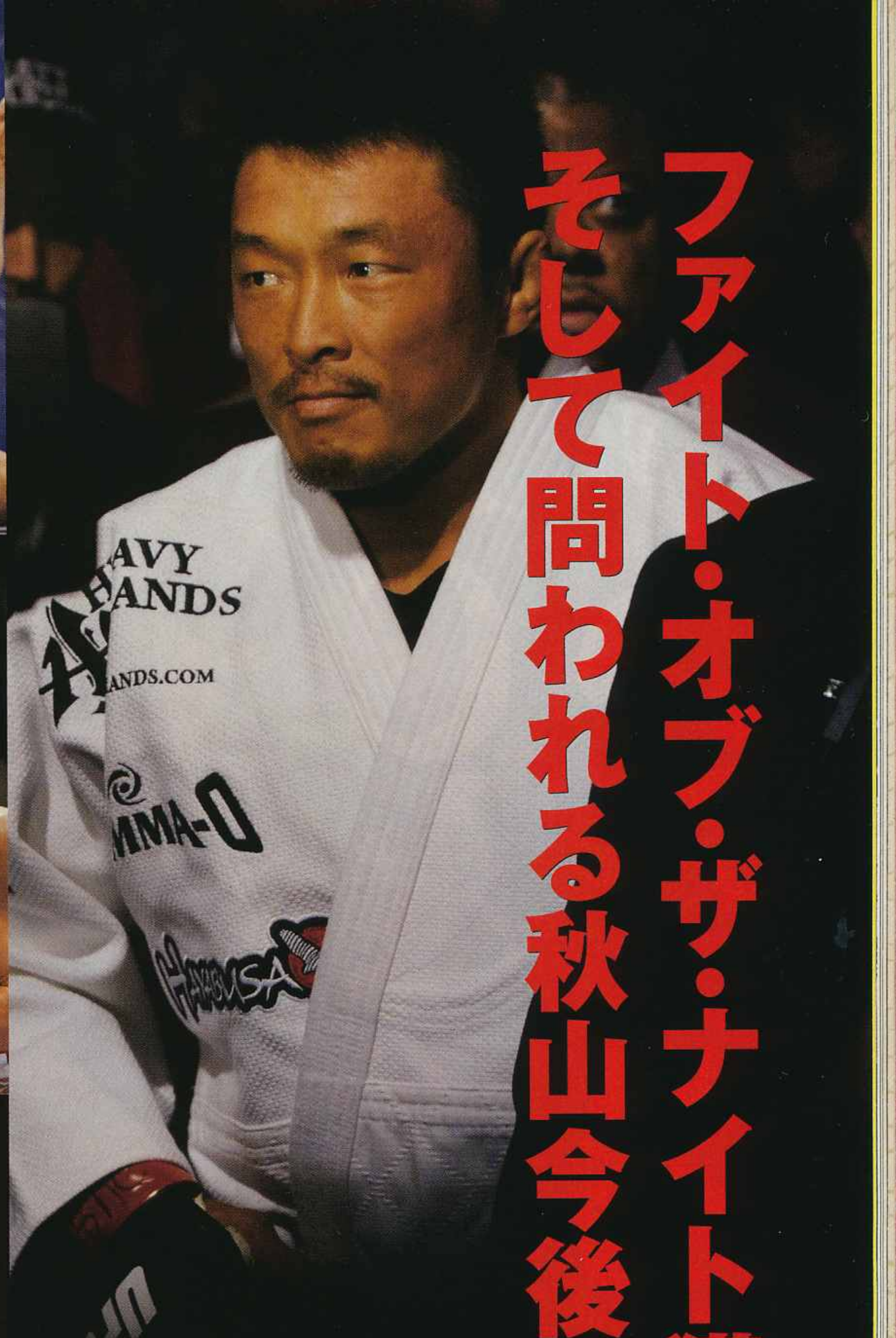
ニュース
カード発表や重大発表など、規模の大小にかかわらず記者会見の模様を素早くお伝えします。最新情報はここで読もう!!

試合速報
注目の試合の内容をいち早く速報します。試合の写真はもちろん、試合後のコメントなども細かくレポート!! 生観戦後も必読ですよ。

最新号情報
次号の表紙は? 内容は? そんな疑問にいち早くお答えします。雑誌『kamipro』およびkamipro booksシリーズの発売情報はこちらで!!

秋山成勲敗戦

UFCとはこういう場なのだ

ファイト・オブ・ザ・ナイト獲得!!
そして問われる秋山今後の方向性——!!

[10.7.3 UFC116 LESNER vs CARWIN]
米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランド・ガーデンアリーナ

○クリス・リーベン vs 秋山成勲×
(3R 4分40秒 三角絞め)

ポイントでは確実にリードしていた秋山だったが、日本では未知の領域だった3ラウンド目に陥落。前戦に続いてベストバウトのボーナスはゲットしたものの、リーベンはミドル級でとくにフィジカルや寝技に秀でているわけでもない。この結果を受けて階級転向の可能性は高いか……。

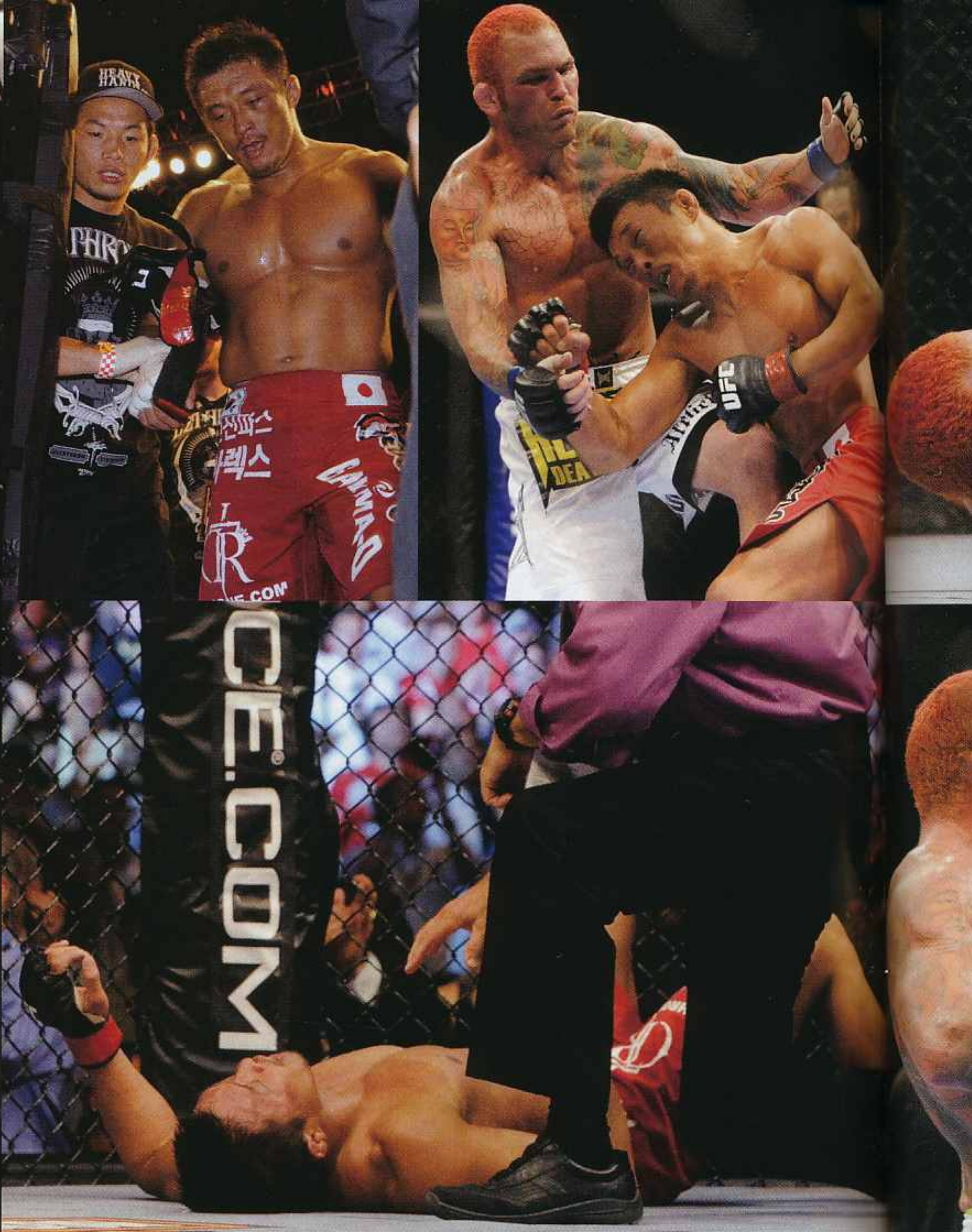
秋山成勲と対戦予定だったヴァンダレイ・シウバが、『UFC116』を欠場するというニュースは、衝撃をもって世界を駆けめぐった。

もともとヴァンダレイvs秋山は、オーストラリアで開催された『UFC110』での対戦が発表されていたが、諸般の事情で急きょヴァンダレイvsマイケル・ビスピンに差し替えになったといういわく付きのカード。ヴァンダレイとの対戦にこだわる秋山は、代替えのカードをすべて拒否してまでヴァンダレイとの試合に固執し、あらためて『UFC116』という今年最大のメガイベントで実現することとなったのだった。

ところが試合を約2週間後に控えた6月23日。ヴァンダレイが練習中に肋骨3本骨折の重傷を負ってしまい、試合をすることは困難であることが発覚。UFCは素早く動き、代替えの選手としてクリス・リーベンを秋山陣営に提示した。

しかし、クラウド秋山道場の川端社長は「リーベンでは役不足であり、もっと強くて著名な相手と闘いたい」旨をUFC側に打診。同様に日本のMMAファンも「ヴァンダレイの代役がリーベンでは……」と思ったことだろう。

だが、リーベンは全米が熱狂した『ジ・アルティメット・ファイター(TUF)』の第1シーズンで大暴れし、現SRC王者のジョルジ・サンチアゴやパトリック・コーテにも勝っている強豪である。日本のファンにはなじみが薄いかもしれないが、人気・実力ともに有する「闘うに足る」選手であったのだ。

しかもリーベンにとっても、この試合は受ける価値のあるものだった。じつはリーベン、このオファーを受ける3日前に試合をしたばかりだった。ハワイに住むリーベンは、試合から帰宅した翌日にこのオファーを受けている。試合は2週間後。ケガはとくにない。『UFC116』

は今年最大のビッグイベントであり、試合はその大会のコ・メインイベントである。さらにこの試合を受けることによって、連敗したときもリリースせずにいてくれたダナ・ホワイトやUFC首脳陣への恩も返せる。

こうしてリーベンはあらためて試合の受諾を伝え、再びトレーニングを開始したのだ。この時点では、コンディション的には試合をしたばかりのリーベンが不利だが、1年ぶりの復帰戦で試合感覚が鈍っている秋山も決して有利とは言えない状況であった。

しかし選手の「格」としては秋山のほうが評価が高く、スポーツベッティングのオッズでは秋山が圧倒的に有利な賭け率となっていた。試合は秋山がテイクダウンを奪うものの、そこからは何もできずにリーベンの攻撃を防ぐという展開が続く。さらにスタンドではリーベンの左はおもしろいように秋山の顔を腫らしていった。ポイント的には秋山が取っているように思えたが、決して楽な試合展開ではない。

そして3ラウンド開始時にはリーベンが観客を煽りまくり、これ以上ないほどの笑顔で秋山を挑発。これには秋山も苦笑するしかなかったが、両者の疲労はピークに達しているように見えた。秋山はこのラウンドでもテイクダウンを奪うことに成功するが、トップポジションから何もできない。反対にリーベンはどこかに隠しておいた第二エンジンが火を噴いたかのように、驚異的なスタミナで下から殴りまくる。秋山が一発のパウンドを打つあいだにリーベンが10発返すのだから、秋山もたまらず顔を下げてしまう。そしてそのタイミングを待っていたかのようにリーベンが三角絞めをガッチリ極め、ついに秋山がタップしたのだった。

この試合から見えたものは、秋山は同レベルのファイターとの苦しいつばぜり合いの経験値が決定的に足りないのではないかと思わせる内容だった。

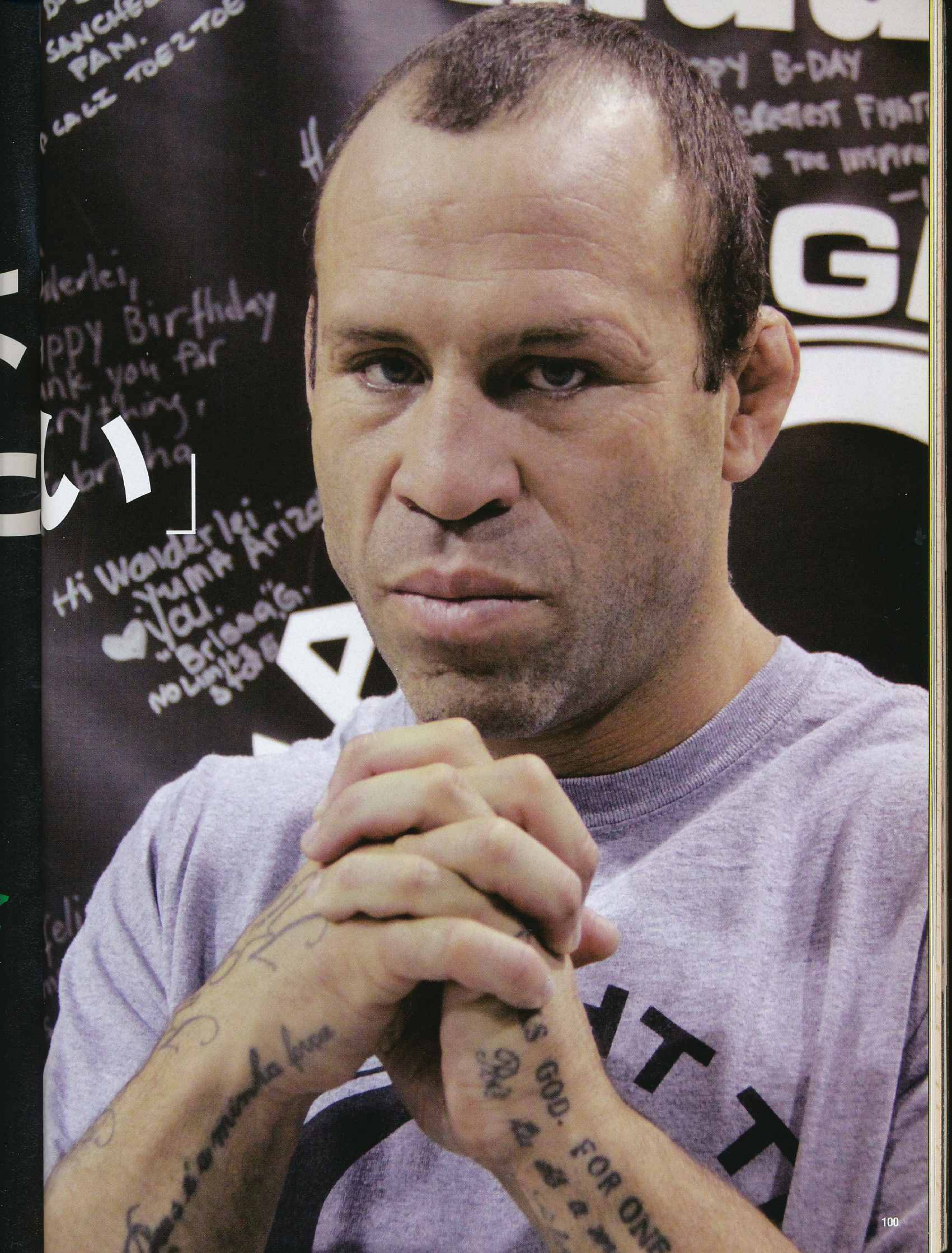
しかしUFCとはまさにそういう場なのだ。

1試合で数千万円のギャラを手にする一部のレジェンドファイターは、ファイターとファンの双方が意味を見い出せる試合を行なっているが、その他の選手は厳しいマッチアップのなかで生き残り、頂点を目指し続ける日々をひたすらすごしている。

もう一度言おう。UFCとはそういう場なのだ。腐すつもりはまったくないが、リーベンですらそんな生存競争のなかで何度も敗北と挫折を経験し、現王者のアンデウソン・シウバには49秒でKO負けを喫するなど、チャンピオンシップからは一歩離れたポジションでの闘いを強いられている選手なのだ。自分がランクアップするためのわずかなチャンスも見逃さない嗅覚と、決してそれを逃しはしない貪欲さを併わせ持たなければ、いつまでもPPVマッチの序盤で勝ったり負けたりを繰り返す選手で終わってしまうのだ。

現在、ダナや多くの関係者が秋山にウェルター級への転向を勧めてはいるが、そこはUFCの全階級のなかで最も熾烈な生存競争が行なわれている世界最激戦区。もし秋山が階級を落としても、はたしてそこで通用するかはまったく保証のない世界であることは事実だ。しかし、だからこそこの敗戦をもとに、秋山がどのような方針転換をはかるのか、目が離せなくなってきたことも事実なのだ。

（高橋ターヤン）

い」

秋山戦消滅、ヒョードル敗戦を語る!!

「アキヤマとは日本で闘いたい

ヴァンダレイ・シウバ

WANDERLEI SILVA

7月3日がバースデー!!

なんてこったい! 日本からも熱視線が注がれていた秋山戦は直前で消滅!
いったいシウバに何が起こったのか。ジムに潜入、独占直撃!
ヒョードル敗戦等、慌ただしいアメリカMMAシーンを語ってくれた!

聞き手／石井史彦

―シウバ選手は本日7月3日が誕生日だそうで。おめでとうございます！

シウバ　アリガトウ！（日本語）。

―シウバ選手のバースデーを祝うために、たくさんのファンがジムに詰めかけてるんですか？

シウバ　そのとおり（笑）。自分の誕生日パーティと称して、いつも自分の試合を応援してくれるファンを招待したんだ。楽しい一時を一緒にすごそうっていう企画なんだよ。

―へぇ～。この企画は毎年行なっているんですか？

シウバ　いや、今年が初めてだけど、ファンたちも楽しいでくれてるから、今後はできるかぎり毎年行なおうと思っているんだ。やっぱり俺たちファイターはファンがいるから闘えるわけだし、ファンサービスは欠かしちゃいけないと思ってる。それに今回のアキヤマ戦はケガでなくなってしまったからな……。

―今回のケガはどんな状況で負ってしまったんですか？　詳しく教えてください。

シウバ　最初に右ヒザの靭帯を切ってしまったんだ。医者に診てもらったら、昔からの古傷だったんだよ。ヒザがそんな状態だったから、それ以降はしばらくボクシング練習だけにフォーカスしたんだけどボクシング練習をしてる際に、パートナーのパンチが肋骨に入ってしまって、マイケル・ビスピン戦でケガした箇所をまた折ってしまったということさ。

―そ、そうだったんですか……。

シウバ　それでトレーニングはもちろんのこと、動くことや呼吸をすることすらも苦しくなってしまった。そのため俺の選択としては試合を断念するしかなかったんだ。やっぱりアキヤマはタフな相手だし、エキサイティングなファイトを行なうコンディションを作れなくなってしまったわけだからね。

―最初にヒザの靭帯を断裂したそうですが、肋骨が折れなければ、秋山選手と闘うつもりだったのでしょうか？

シウバ　もちろんさ。だからこそヒザをケガしても、ボクシングのトレーニングは続けていたんだからね。しかし、本当に残念だよ。アキヤマ戦に向けてハードな練習を4カ月間も続けていたわけだから。ハイレベルな練習にはある程度ケガがつきものとはいえ……。

―日本のファンも同じ気持ちです。

シウバ　そうだよな……。とくに日本のファンは楽しみなカードだと思うし、本当に本当に残念だ。一刻も早くケガを治してオクタゴンにカムバックできるように祈ってるところだよ。

左ヒザの靭帯の移植手術をしなければならない。復帰は来年の春頃になるだろう

―秋山選手に対して、何かかける言葉はありますか？

シウバ　自分もアキヤマと試合をしたかったので凄く落胆している。今度は自分が次の対戦相手としてアキヤマをリクエストするよ。

―これからの治療の日程を教えてください。手術はいつ頃になりますか？

シウバ　ヒザの手術はいまのところ8月に予定している。

―復帰戦はいつ頃になりそうですか？

シウバ　リハビリがどのぐらいかかるかはわからないけど、ヒザの靭帯を移植しないといけないんだ。おそらくショーグンのケガと同じくらいの時間はかかるだろうから、復帰は来年2～3月頃になってしまうだろうね。

―ヒザの靭帯損傷はファイターにとって致命傷にもなりかねませんが、そのことについてどう考えていますか？

シウバ　左ヒザの靭帯も昔ケガしたんだけど、ちゃんと手術をしてリハビリすれば問題ないはずだよ。それにどうあろうと俺はオクタゴンに戻らないといけない。ファイターだからね。

―復帰したあかつきには、あらためて秋山選手と対戦したいですか？

ハッピーバースデー、ヴァンダレイ～♪ ラスベガスにあるヴァンダレイのメガジムで催されたファン参加型誕生日会。スポーツ紙によると、この光景を見た秋山陣営が激怒したらしい。なぜだ!?

数年前と比べてMMAは異なったものへと進化していることは間違いないよ

シウバ　答えは先ほどのとおり「イエス」だよ。もしUFCが日本に行くプランがあれば、日本でアキヤマ戦を実現させたいね。そうなったら日本のファンはこのカードをもっと楽しむことができるよな（ニヤリ）。

——たいへんな騒ぎになりますね（笑）。ところで秋山vsクリス・リーベンはどんな試合になると思いますか？（このインタビューは大会前に収録）。

シウバ　エキサイティングなファイトになると予想しているよ。で、アキヤマが勝つと思う。

——もう一つ。ヒョードルvsファブリシオ戦の感想を聞かせてください。

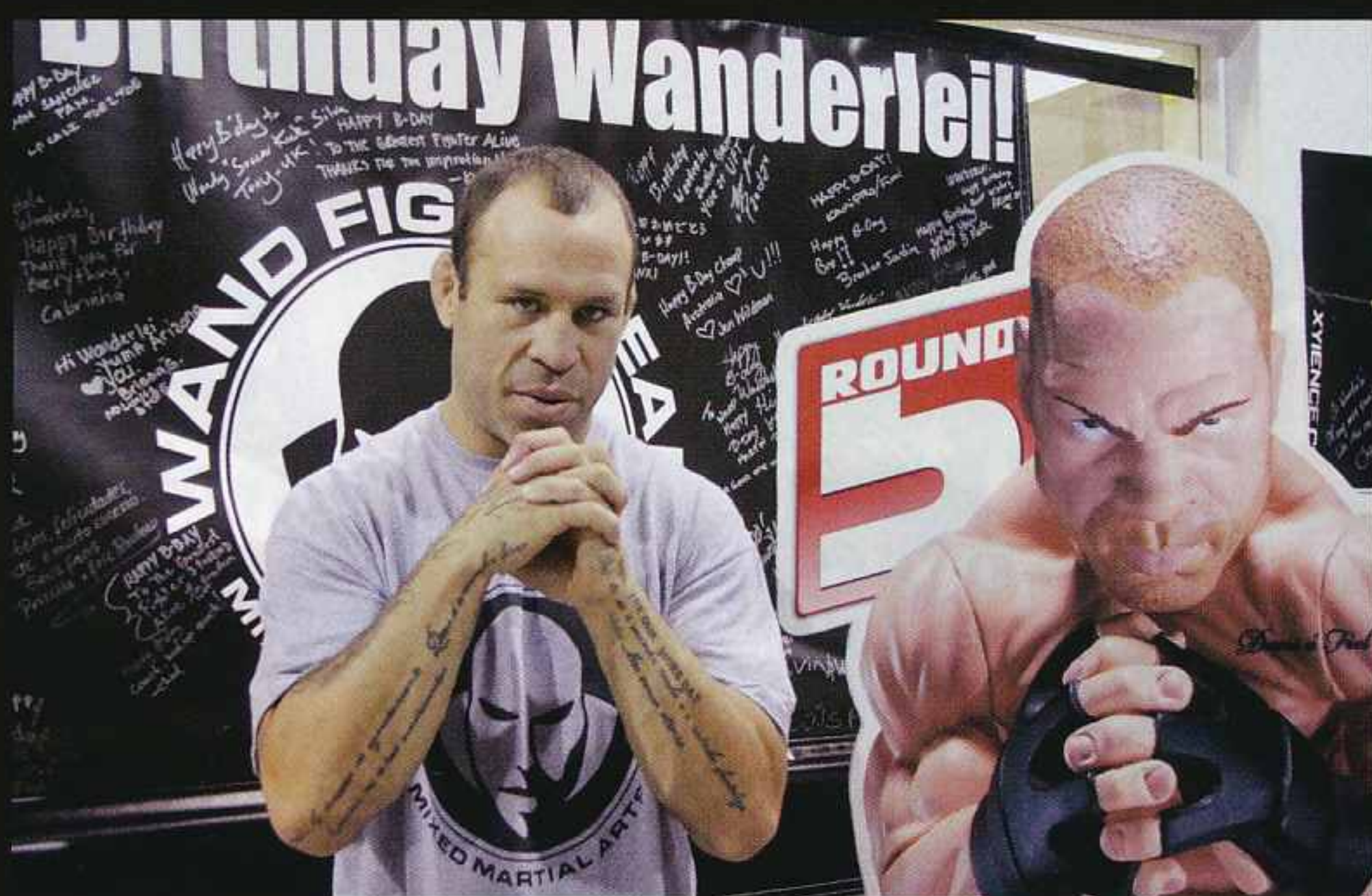
シウバ　ファブリシオの動きはとても素晴らしかった。あのヒョードルをいとも簡単にトライアングルチョークで極めてしまったんだからね。ファブリシオとは一緒にトレーニングをしていたから、彼が勝つとは思っていたんだけど、まさかあんなにも簡単にヒョードルからタップアウトで勝つとは思いもよらなかった。本当にビックリしたよ。

——ヒョードルの敗因はなんでしょう。

シウバ　ヒョードルの敗因？　「テクニック」の一言だね。

——「テクニック」ですか。シウバ選手はファブリシオのトレーニングパートナーですが、こういう展開を予想されていましたか？

シウバ　というか、ファブリシオは自分の得意なグラウンドゲームに持ち込むためには、相当タフな攻防が展開されると予想していたんだ。実際、試合開始の打ち合いではヒョードルが先手を取ったし、ファブリシオはパウンドアウトされる可能性もあった。でも、ファブリシオはヒョードルのあらゆる攻撃を想定していたんだよ。だからこそ勝てたんだ。

——今回のヒョードルの敗戦には、年齢からくる体力の衰えも関係していると思いますか？

WANDERLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル出身。PRIDEではミドル級王者として君臨、同イベントを象徴する選手の一人として活躍していた。UFC移籍後、戦績は奮わないが、アグレッシブなファイトスタイルがアメリカのMMAファンに受け入れられ、日本同様人気を博す。ダナ・ホワイトが「連敗してもリリースはしない」と公言するファイター。現在はミドル級に階級を転向している。

シウバ　どうなんだろう………ま、ファイトはファイトだからな。今回はあのような結果になってしまったということだと思うよ。

——いまトップファイターのほとんどはアメリカでトレーニングをしていますが、ヒョードルはロシアだけでしかトレーニングをしていません。それも敗戦に関係したと思いますか？

シウバ　それはまったく関係していないと思う。ただし、数年前と比べてMMAは異なったものと進化していることは間違いない。とくにヘビー級は身体の大きい選手が次々に現われてるし、テクニックも向上してきている。いまのMMAは新しい時代に入ったという事実を受け入れてアジャストメントする必要は確実にあると思うな。

——ヒョードルは再び世界のトップに返り咲けると思いますか？

シウバ　新しい時代のMMAで要求されることを理解し、それらのトレーニングを積めばトップに返り咲けると思う。彼はずっとトップファイターだったわけだから、今回の敗戦だけで才能を否定することはできないよ。

——ヒョードルはUFCに来るべきだと思いますか？

シウバ　UFCに来たがっているんじゃないかい？（笑）。ただし、今回の敗戦でそのチャンスを逃してしまったんじゃないかな？　そうだとしたら残念なことだね。

——ヒョードルがUFCに来たら、レスナー、カーウィン、ヴェラスケスらに勝てると思いますか？

シウバ　勝てると思うよ。ただし、ヒョードルに勝てるチャンスがあると同様に、レスナー、カーウィン、ヴェラスケスらにもヒョードルに勝てるチャンスがあるということだよ。格闘技に絶対はないし、いまは選手の実力が伯仲している。何が起きても不思議じゃないんだ。

——では、現在の世界ナンバーワンのヘビー級ファイターは誰だと思いますか？

シウバ　わからないな。今日もレスナーとカーウィンの試合もあるし、その結果で変動するだろう。試合に負けたらランキングはダウンする、勝ったらアップするというのが常識じゃないのかい。これほど簡単なルールはないだろう？（笑）。

——最後の質問になりますが、8月1日の五味隆典vsタイソン・グリフィンはどんな試合になると思いますか？

シウバ　グリフィンはテイクダウンからグラウンド&パウンドを狙ってくると思う。そこがポイントになるんじゃないか。ゴミにとってはタフな試合になると思うよ。

——五味選手復活のポイントはどこにあると思いますか？

シウバ　そうだな……。タイソン・グリフィンは重い右のパンチを持っているから、ゴミはそれを警戒し、ボクシング、レスリング、またスタンドアップに戻るためグラウンド&パウンドの充分なトレーニングを積むことが必要なんじゃないかな。ゴミはできるはずだ。俺は信じているよ。

——では、秋山戦を楽しみにしていた日本のファンにメッセージをお願いします。

シウバ　今回は自分のケガでみんなが楽しみにしていた秋山戦を欠場することになってゴメンナサイ！　これまでも、そしてこれからもサポートしてくれてるみんなに感謝してます！　俺はかならず戻ってくるぜ！

【10年7月3日（現地時間）／米国ネバダ州ラスベガス・ヴァンダレイ・シウバのジムにてバースデー収録】

WANDARLEI SILVA

8.18『WEC50』で大一番
ユライヤ・フェイバー戦が決定!

裸一貫 WEC立身記

水垣偉弥

以前、『kamipro』の「○○らしい」特集でインタビューした水垣偉弥を覚えているだろうか。「WECで活躍している選手がいるらしい」という見出しで紹介していたが、もうそんなことは言ってられない! 8.18『WEC50』でユライヤ・フェイバー戦が決定した水垣は、なんと二日で15媒体の取材を受けたというほど注目されている。唯一日本のメジャー団体を通らずに成功をつかもうとしている水垣とはどんな選手なのか。一から十まで聞いてみた。

聞き手/高橋ターヤン、ジャン斉藤　試合写真/Josh Hedges(UFC)

おもいっきり人を殴れるって普通はできないから楽しかったです

――今日は、アメリカを中心にご活躍されている水垣選手にいろいろなお話を聞きたいと思います。……が、アメリカといえば大事件が起きてしまいましたね。

水垣　なんですか、大事件って。

――この取材の直前に行なわれたストライクフォースで、なんとヒョードルが一本負けしまして……。

水垣　えーっ！　マジですか？　一本負け？　なんでやられたんですか？

――三角絞めですけど、まだご覧になってなかったですか？

水垣　僕、このインタビューで家を出てきちゃったんでまだ観てなかったんですよ。でも、僕がPRIDEをファンとして観てたときに出てた選手なんで、僕のなかではスター的な選手だったんですけど……。やっぱり勝つときもあれば負けるときもあるし、いつかこういう日が来るとは思ってたんですけどねえ。

――選手目線で見ると、やっぱりそういうふうに思えるもんなんですかね。

水垣　ヒクソンみたいに負けないで引退しちゃう人もいますけど、でもいつかは負けるんだろうっていうのはありますよ。

――なるほど。そんな水垣選手はいまやWECの常連ファイターですが、どうして格闘技を始めようと思ったんですか？

水垣　PRIDEもそうなんですけど、僕はやっぱ修斗を観て、ただ単に「どんなもんだろう」ってやってみたかったんですよね。佐藤ルミナ選手が好きだったというか。それでいまの八景ジムに入りましたし。

――ルミナ選手は八景ジムに来てたんですか？

水垣　僕が入った当時はルミナさんも八景ジムに教えに来てたんですよ。でもなんか凄く不思議な感じでしたね……（しみじみと）。いまいち実感はないんですけど「ああ、僕も頑張ってきたんだなあ」って浸っちゃいましたね（笑）。

――ワハハハハ！　始めたばっかりなのに。ちなみに当時は何歳でした？

水垣　18歳です。高校3年生で、ちょうど部活が一区切りついた時期で。受験勉強しなきゃいけなかったんですけど、ちょっとなんかやろうかなって。だから最初の1年は受験勉強しながらやってましたね。その段階ではまだプロとかは全然で、プロになると思ってなかったですけど。

――じゃあ、プロを意識するようになったのは？

水垣　どのくらいだろう？　始めてからちょっとして自分で「動けるな」と思ったんですよ。で、僕がスパーリングしてるときに、秋本じんさんとうちの会長としゃべってるのが聞こえてしまったんですけど、「あの子、プロになれるんじゃない？」みたいな話は耳に入って。だから「あれっ、俺いけるのかな？」って。

――それを聞いて確信した、と。

水垣　それでやる気になっちゃった、みたいな。でも当時はもう18歳だったから、プロとしてやるのは遅いかなって思ってたんですけどね。それにみんなデカかったじゃないですか。ルミナさんも当時ウェルター級で70キロでしたし、PRIDEもみんなデカい選手ばかりで。自分は全然身体がちっちゃかったんで、まさかそういうふうになるとは思えなかったです。

――そう思いつつも実際にプロテストを受けて、修斗でデビューされました。

水垣　なんか、楽しかったですね。おもいっきり人を殴るって普段はないじゃないですか。

――そこですか！

水垣　「あ、こういうことできるんだ、俺」と思いました。それまで僕剣道をずっとやってて、剣道も一対一で闘うからそれに近い感覚なのかなと思ってたんですけど、本気で人を殴るというのはなかったので新鮮でした。

6月27日に水垣は、『kamipro』のUSTREAMに登場。ツイッターでのファンからの質問では「ロッカールームマネーはもらっているのか？」などなど、お金の話が多いこと。でも、やっぱりそっちの話が気になるのはしょうがない!?

――それでプロになられて、修斗からケージフォースに出場するようになりましたが、最初から次のステップはケージフォースにしようと考えてたんですか？

水垣　いや当時、修斗のクラスAの壁に当たったというか、引き分け→負け→負け→引き分けみたいな戦績で、勝ちから遠ざかってたんですよ。だからすぐにでも試合がしたかったんですけど、そのときちょうどケージフォースの話があったんで「出ます！」って。

――そのトーナメントでWECへの道が開けたわけですから、凄くいいステップでしたよね。当時からWECってご存知でした？

水垣　知ってました。ケージフォースで試合しだしたくらいからWECがけっこう日本にも伝わってきてたんで、軽量級でUFCみたいな大会があるという感じで認識してました。だから出てみたいとはうっすら思ってて。

――そのときは日本でもメジャーイベントが軽い階級に進出してましたが。

水垣　うーん、僕もDREAMは63キロができるという話をうっすら聞いてたんですけど、そのときはまだ何キロになるかもわからなかったんですよね。64だったら無理でしたし。でも、やっぱりもともとWECに出たかったんですよ。

――というと、日本で人気者になったり、テレビ放映のある大会に出るというのはあんまり意識はしない、と。

水垣　そうですねえ。PRIDEがあった頃はPRIDEに出てチヤホヤされたいなとは思ってたんですけど、最近は僕のなかでそういうのが全然なくなっちゃって。べつに、日本で全然知名度なくてもいいなって。

—えー、ホントですか?(疑いの目で)。

水垣　いや、あるに越したことはないと思うんですけど、ホントに自分が目指すところを目指して頑張りたいなという気持ちが最近強いんですよ。

—もうそっちに目標がシフトしちゃってるんですね。ちなみに、ケージフォースにいた頃は、専業格闘家ではなかったんですよね。

水垣　バイトしてました。でもなんとか格闘技だけで食べていけることを目標にしてましたね。

—当時、ご両親にはどんな話を?

水垣　……お父さんはたぶん普通の会社勤めに戻ってもらいたいというか、いまもそういう思いはあると思うんですけど。

—お住まいはご実家ですか?

水垣　実家です。だから申し訳ないなと思ってます。……まあ、大丈夫です。

—大丈夫じゃないんですね(笑)。

水垣　いや、僕も最初はお父さんに内緒だったんです。ジムに入った時点でも「身体を動かしたいから」って言ってただけで。「でも、おまえ打撃はやるなよ」って言われてました。

—ほう。

水垣　もう打撃はやってたんですけどね。でも「寝技の練習をちょっとやってるぐらいで、柔道みたいなことだよ」って言ってて。アマチュアの試合に出てるときとかも、お父さんには試合出てるとは一切言ってなくて、プロのデビュー戦までは内緒でしたね。でも、試合に出るとやっぱり殴られるから顔が……。

—そりゃバレますね(笑)。

水垣　そろそろごまかしが効かないな、と。それでもう「じつはそっちの道でちょっとやっていきたいと思います」って言いましたね。そしたら「そうか……」みたいな反応でしたけど。

—お父さんは複雑ですよね。

水垣　で、じつは僕、工学部の大学院を出てるんですけど、大学卒業したときに「バイトしながらやりたいです」って言ったら、「大学院行かせてやるからそのあいだに進路を考えろ」って言われたんですよ。でも2年間スネかじって、「やっぱり格闘技やります」って言って。だから本当に申し訳ないんですよ。

—ちなみに、お母さんは大丈夫だったんですか?

水垣　父に内緒にしてた時点で、お母さんには言ってたんですけど、お母さんはもう「ガンガンやれ!」って。

—ワハハハハ!

水垣　だから、その点はうまく隠せてたんですよね。

08年6月からスタートしたケージフォースのバンタム級トーナメントで見事優勝し、初代ケージフォース王者に輝いた水垣。この肩書きのおかげでWECとナイスな契約ができたというから、素晴らしいステップアップである。

Mizugaki Takeya

ケージフォースのベルトを獲ったんで WECとの契約はうまくいきました

—じゃあ実際、バイトをしながら格闘技をやってた、と。

水垣　そうですね。家のそばのスポーツクラブで、トレーナー……というほど大それたことはしてないですけど。でも、WECと契約して、それもパッと辞めちゃいました。

—ということは、WECとの契約はうまくいったということですね。

水垣　まあ、ケージフォースのチャンピオンという実績があったんで、比較的うまくいきましたね。でもいま考えたら不安ですよ。そのときは何も考えてなかったし、そのうち軽量級にも目が向くと勝手に思ってましたけど、やっぱり無謀すぎるなって(笑)。

—ホントに水垣選手は軽量級の先駆者ですよ。いまやもうWECにどっぷりですし、けっこう稼いでらっしゃるでしょうしねえ。

水垣　いやいやいや。アメリカで稼ぐと凄い税金取られますからね。税金で3割をいきなり取られちゃうし、そっからまたマネージメント料とかあるんで、もうやっと普通の生活ができるかなというぐらいですよ。

—またまたぁ~。いまアフリクションのTシャツを着てますけど、スポンサーだってけっこうついてるでしょ?

水垣　まあ、こういうTシャツなんかは送ってもらってますけど。でもそれよりWECに上がってよかったのは、じつは僕、それまで海外に一回も行ったことなくて。最初はホントそれが楽しみで、ワクワクしてました。

—でも長時間の飛行機移動はかなりキツいと聞きますよ。

水垣　最初は全然。何回も行ったりしてると退屈で嫌になっちゃうかもしれないけど、最初はホントに旅行じゃないですけど、ワクワクしながら行ってたんで全然苦痛じゃなかったですね。

—じゃあ、英語なんかもある程度準備してたんですか?

水垣　いや……。僕は英語の受験から逃げようと思って理系に行ったくらいで、英語できないんですよ。最近は英会話教室に通うようになって、頑張ってしゃべれるようになろうとしてますけど。

—そういうのも含めて、海外で試合するのって、ちょっと面倒じゃないですか?

水垣　いや、楽しいですよ。日常じゃないところに出るんで、最近はそれが試合のスイッチになってるというか、「出かけるときが試合しに行くときだな」って切り替えられるんで。日本にいるときは、ホントに計量前日までは普通の生活じゃないですか。それと比べるとスイッチが入れやすいですよね。

—なるほど。それでWEC初戦がいきなりタイトルマッチで王者ミゲール・トーレスとの対戦でした。

水垣　あのときは誰も俺が勝つと思ってないし、凄い気楽でしたね。もう好き勝手やろうと思って。だから、ラッキーだなっ

09年4月に行なわれた『WEC40』ミゲール・トーレス戦はバンタム級タイトルマッチとして行なわれた。当初、これはブライアン・ボウルズが挑戦者となっていたが負傷欠場したため、水垣が大抜擢されたという経緯がある。水垣はこのチャンスを活かすべく、凄まじい気迫でミゲール戦に臨み、敗れはしたものの、なんと初参戦でファイト・オブ・ザ・ナイトに決定! なんたるラッキーボーイ!

て思いましたよ。

—そういう意味では、アメリカに着いたときはまだほとんど水垣さんのことは知らなかったと思うんですけど、あの好試合が終わったあとの反応はかなり違ったんじゃないですか？

水垣　僕は試合終わってすぐに帰ってきちゃうんで、向こうの反応というのが全然わかんないんですけど、話によるとテレビで再放送を何度もやってて、あの試合で顔を売れたみたいなことを言われましたね。結果は出なかったですけど、まあ悪くないなと思いました。

—いまアメリカに行くと、知名度が上がってきてるって肌で感じたりします？

水垣　ベガスとか歩いてたりすると、たま〜に「あっ……」って言われたり。

—「あっ……」って、それもちょっと寂しいですね（笑）。

水垣　でもベガスとか知らない国に来て声かけられるって凄い感動しました。もうだいぶ慣れましたし、ベガスは。

—どっかに遊びに行ったりも？

水垣　いや僕、日本でもパチンコとかやらないですし、カジノとかはあんまり。せっかくだし、セコンドに来てくれた修斗のBJ選手と最初はやってみたんですけど、まあ、負けるんで……。

—そのときは、何を？

水垣　スロットですね。対人のゲームは英語じゃないですか。だからキツいなと思って、とりあえずマシーンのやつでやったんですけど全然勝てないです。サッとやられましたね（笑）。

—じゃあ、ほかに楽しみにしてることなんかは？

水垣　なんですかね、食べ物かな。試合前は減量中じゃないですか。なるべくこっちで落としていって、向こうにいるあいだは一日一回ぐらいはみんなでごはんを楽しく食べたいなというのがあるんですよね。

—ちなみに、おすすめはなんですか？

水垣　カリフォルニアロールとかかなあ。

—まるっきり観光客ですね（笑）。

水垣　なんか、えげつない寿司があるじゃないですか。最初は「そんなのうまいわけないだろ！」って思ってたんですけど、行くたんびに食ってますね（笑）。

—一方、試合をする環境としてはいかがでした？　UFCの会場とはまたWECは違いますか？

水垣　WECはやっぱ会場規模は若干ちっちゃいですね。ケージも一回りちっちゃいですし。ただ、全体的な雰囲気はホントにUFCと一緒です。最初の試合なんて誰も僕のこと知らないと思うのに、凄いブーイングだったんですけど、ブーイングでも歓声でも、自分が出ていくと反応してくれるんでうれしいですしね。やっぱり向こうのファンにはMMAはもう根づいてますし。

—そういうのを肌で感じるんですね。

水垣　日本で総合格闘技って言ってもパッと伝わらないときがあるじゃないですか。でも向こうだとだいたい、空港で入国審査みたいなときも、「ファイターだ、MMAの」って言うとパッとわかってくれたりするんで。

—日本だと、絶対「K―1か？」って言われますもんね。

水垣　で、『WEC48』はちょっとまたUFCに雰囲気が近い大会になってましたね。PPV大会だったからかもしれないですけど、ブルース・バッファーが来たりとか、ダナ社長がミーティングに来たりとかしましたし。いままでは別の人がや

ってたんですけど、『WEC48』はダナ社長が来て「おまえらがいいファイターということは、ここにいる時点でわかってる。だから、明日はもっともっといい試合見せろ」とか演説してました。

――へぇ～、そうやって士気を高めるわけですね。

水垣　で、そのあとにはボーナスの発表もあるんですよ。今回PPV大会でいつもよりボーナスがよかったんで、みんなも大ハシャギしてましたけど（笑）。

――え？　選手がはしゃぐんですか？

水垣　大はしゃぎですよ！　急にテンションが変わるんですよ。でも、僕は通訳者に通訳してもらったあとなんで、ワンテンポ遅れて「オーッ！」ってはしゃぎました（笑）。

――ワハハハハ！　でも、そんなに違いましたか？　2倍ぐらい？

水垣　2倍どころじゃなかったです。5～6倍じゃないですか？

――凄い！　それは興奮しますね。

水垣　ファイトマネーの何倍もボーナスが出ちゃう感じですから。

――ちなみに、ダナに会ったのはそのくらいですか？

水垣　あと、一回だけしゃべったことがありますね。最初にジェフ・カランと試合したときにラスベガスに来たんですけど、観光がてら2～3日残っててウロウロしてたんですよ。そしたらズッファの日本人社員の方がズッファ本社を案内してくれて、そこにたまたまダナさんが社長室にいるってことで。

――どんなお話をされたんですか？

水垣　とくにたあいもない話で。「おまえ、ストリップ行ったのか？」みたいな。

――くだらない（笑）。

水垣　「いや、まだ行ってないです」って言ったら、「今度、一緒に行こう」って言ってくれました。

――ダナって口が悪いみたいなことを言われてますけど、接してみてどうでした？

水垣　メチャメチャいい人ですよ！　僕も怖いイメージがあったんで「どうしよう」って思ってたんですけど、凄いフレンドリーだし、いちファイターとして尊敬して見てくれているような感じがありましたね。話したのは5～10分くらいでしたけど、凄く貴重な時間でした。あとは、一度UFC・WECミーティングみたいなのがあったときにダナ社長がいました。それは「減量は無茶するな」とか「ステロイド使っちゃダメだ」とか、講習会的な感じのミーティングだったんですけど。

――そんなのがあるんですか。

水垣　全選手ですよ。交通費をもらって。「自分で自分をプロモーションしなさい」とか「税金対策はしなさい」とか。そのときにじつは秋山選手と一緒に行動させてもらったんですけど。

――ほう。そこで秋山選手と仲良くなった、と。

水垣　仲良くというか、完全に面倒見てもらった感じです。秋山選手はそのときちょうどランディ（クートゥアー）のジムでずっと練習してたらしくて、そこに一緒に練習に連れていってもらったり、メチャクチャ面倒見てもらいましたね。

――もともと秋山選手とは面識はあったんですか？

水垣　いや。だから秋山さんって怖い人……だと思ってたし、秋山さんと同じと言われたときに「どうやって接したらいいんだろう」って。

――ワハハハハハ！

“ラッキーボーイ”のラッキー度はまだまだ止まらない。8月18日に行なわれる『WEC50』では、なんと“カリフォルニア・キッド”ことユライヤ・フェイバーと対戦が決定! なんたる引きの強さ!

Mizugaki Takeya

秋山さんって怖い人だと思ってたし どうやって接したらいいんだろうって

水垣　向こうは超有名なスーパースターだし、僕のことなんて知ってるかもわかんないし。でもそしたら向こうから「今日練習、一緒に行く？」みたいな感じで言ってきてくれて、凄い助かりました。

――けっこう話しかけてくれそうな感じはしますよね、秋山さんって。

水垣　それに本もいただきましたし。

――秋山さんの自伝ですか！

水垣　いや……（笑）。帰り飛行機なんで「読む本とかあるの？」と言われて、「持ってきたのは読んじゃいました」って言ったら、「これオススメだから」って東野圭吾さんの本をもらって。それで、ちょっといま東野圭吾さんにはまってるんですよ。

――秋山さんが東野圭吾！

水垣　メチャクチャ読書家ですね。泊まってたホテルにも本がいっぱい積んでありました。

――意外な一面ですね。じつは諸事情で僕ら秋山選手に近寄れないので、今後は水垣選手からちょくちょく秋山さん情報をいただこうかな。

水垣　い、いや……怒られちゃうんで（笑）。

――あ、ダメですか。話は戻りますが、PPVマッチになってから、やっぱりだいぶWECは変わりつつありますか。

水垣　まだPPV大会は1試合しかやってないんですけど、そのときはUFCと

だんだん近づいて規模的にも大きくなっていくのかなというのは思いました。
—視聴者数だけでもケタ違いに増えてくるわけじゃないですか。そういうので、アメリカで有名になってやろうと思う気持ちは、出てきたりするんですか？
水垣　いや、最近は有名になってやろうよりも、ホントにWECチャンピオンになりたいっていうのが強いんですよ。ただまあ次はユライヤ（・フェイバー）なんで、またラッキーと思いましたけど（笑）。知名度的にもそうですけど、やっぱりユライヤは元チャンピオンですし、勝てば次につながる試合ですから。
—ユライヤに対する印象は、どんな感じですか？
水垣　まずは身体ですよね。フィジカルが強いっていうことと、技術とかそういうところよりも、格闘技の勘が優れてるなって。当て勘だとか動き一つにしても、ちょっとトリッキーなこともやったりとか、そういう勘が凄いなって思います。それに色男なんで、また完全に僕は悪者でしょうねえ。
—でも水垣選手からしてみれば、ここでいい試合をして注目されてると、ますます儲けちゃいますよね。
水垣　またソッチの話ですか（笑）。
—それにファイトマネーだって上がるでしょうし。
水垣　ただ極端には上がらないですよ。「勝ったら次これで、負けたら据え置きで」とかは最初の契約で全部決まってますから。だから目指すはボーナスですよね。
—ボーナスといえば、初戦のミゲール・トーレス戦がファイト・オブ・ザ・ナイトで、2戦目のスコット・ジョルゲンセン戦もセコンド・ファイト・オブ・ザ・ナイトだったんですよね。
水垣　勝って取ってないんですけどね（苦笑）。
—でも、専業でアメリカ進出している軽量級日本人ファイターって水垣選手ぐらいじゃないですか。そのあたりほかの日本人選手にいろいろ聞かれたりとかはないんですか？

みずがき・たけや■1983年12月16日、神奈川県出身。05年修斗でプロデビューし、07年からケージフォースに参戦。08年に行なわれたバンタム級トーナメントで中原太陽、大石真丈らを破り、初代バンタム級王者に君臨。その後はWECをホームリングとし、現在戦績は2勝2敗。8月にはユライヤ・フェイバーとの大勝負が決定している。171cm、61kg。

連敗したらパッと切られますけど「出直してこい」と言われたほうがいい

水垣　いやもう、やってる人は個々の目標がありますからね。格闘家って自己中ですし、自分の目標を立ててたら人が何を言ってももう変わらないんで。「アメリカってどんな感じ？」って聞かれたら会話はしますけど、「こっち来なよ」という話にはならないです。
—そんななかでも水垣選手は専業でできるアメリカ格闘技界へ行く軽量級の選手は増えていくと思います？
水垣　やっぱお金というのは一つのモチベーションになると思うんで、あるんじゃないですかね。自分が成功していい感じになっていけば、うしろもついてくるだろうし。ただ連敗したりいらないとなったら、パッと切られますから。
—そこがシビアですよね。
水垣　でも逆にいいですよ。そうじゃないとトップリーグではなくなっちゃうんで。「出直してこい」と言ってもらったほうがいいですね。
—そんなWECでチャンピオンになりたいというのは、やっぱりWECが一番強いという思いからなんですか？
水垣　やっぱなんの競技やっててもそうですけど、一番になりたいんですよね。運動会のかけっこにしてもなんでも。僕がWECに出た一つの目的としては、完全に自分目線なんですけど、WECがいま僕の階級では世界で一番トップだなって感じたのがWECに行きたいと思った大きな要因なんで。そこでチャンピオンになるということは、もう自分のなかでは、その階級では一番ということなんですよね。
—その水垣選手から見て、日本の軽量級はどう見えてますか？
水垣　僕は自分の周りしか見えてないんですよねえ。でも、対戦したことがある選手とかがDREAMとか出てると、やっぱ観たりしますけど。
—では、レベル的にはどうでしょう。
水垣　僕、いまWECで2勝2敗ですけど、修斗のクラスAでは僕じつは一回も勝ってないんですよ。もちろん自分が強くなったというのもちょっとはあると思うんですけど、でも強い選手は強いし、それは日本でも変わらないことなんで。極端に差があるとかは全然ないと思いますね。
—ちなみに、まだずいぶん先だと思いますが、いつか引退する時期がくると思うんですけど、将来的なことはどう考えてたりするんですか？
水垣　う〜ん、引退するときに自分がどれくらいお金があってとか、どのくらいの知名度で、どのくらいの歳で引退するのかとかがまだちょっとわかってないんで。それによりますね。
—一番の理想で言うと？
水垣　やっぱ自分のジムを持って、自分でローカル大会みたいなのを開きたいなって。そのためには日本での知名度も上げといたほうがいいともちょっと思うんですけど、それよりもやっぱりいまは目の前のユライヤ戦でいい結果を残して、ベルトを目指すことかなあと思ってます。
—ではまずはユライヤ戦ですね。いや、ホントにどんどん活躍してほしいです。
水垣　そうですね。まずはユライヤで、そっからどんどん稼ぎたいなって。
—あ、やっぱり稼いでるんですね。
水垣　まあ両親を安心させるためにも、稼がないといけないですから（笑）。
—ハハハハ！　遠慮せずにどんどん稼いでください！
水垣　頑張ってきます！
【10年6月27日／都内・kamipro編集部にて収録】

「シャーーーーー!」な読者プレゼント

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記のうえ、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2010年8月26日(木)頃発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望賞品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦好きな"闘う映画"といえば?⑧あなたがkamiproに望むことは?

【宛先】〒162-0805
東京都新宿区矢来町41-1 ザ・フタガミハウスNo.1
(株)ツー・スリー内『kamipro』編集部
「茶封筒を取り出した」係まで

※応募締切は2010年8月12日(木)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

デストロイヤーが歌う『赤鼻のトナカイ』レコード

[闘道館]

今回の闘道館からの読プレはデストロイヤーが1974年に発売した激レアレコード! 白覆面の魔王が『ジングル・ベル』と『赤鼻のトナカイ』を歌ってます♪

闘道館■http://www.toudoukan.com/

PRESENT*02

2名様

7.31ジュエルス新宿FACE大会 石岡沙織サイン入りポスター

サイン入り

[非売品]

DEEPジムで女子練後の石岡沙織からサイン入り大会ポスターをゲット! 「いま、顔がキマってないんで……」とポスターで顔を隠す石岡。いえいえ、スッピンもキュートっす!

ジュエルス■http://w-jewels.jp/

PRESENT*03

1名様

FRONT / BACK

ブラック・シャドーTシャツ

[NO NEED NEW／¥3,675(税込)]

リアルジャパンプロレスで活躍中のブラック・シャドーのTシャツ! フロントには本人を賞金首としたイラスト、背中と袖にはNNNのロゴ入り。サイズはM。

PRESENT*04

1名様

FRONT / BACK

NNNプリントTシャツ

[NO NEED NEW／¥3,675(税込)]

胸に迫力ある龍と虎が2色でプリントされたNO NEED NEWの激シブな新作Tシャツ! 背中にはNNNのロゴが大きく入ってます。サイズはM。

NO NEED NEW■http://www.no-need-new.com/

PRESENT*05

1名様

単行本『伝説になった男 〜三沢光晴という人〜』

[幻冬舎／¥1,260(税込)]

徳光和夫氏の次男である正幸氏が、約20年の歳月をともにすごした三沢光晴について激筆! 男が憧れ、女が惚れた三沢さんの男気が詰まった一冊です。

幻冬舎■http://www.gentosha.co.jp/

PRESENT*06

5名様

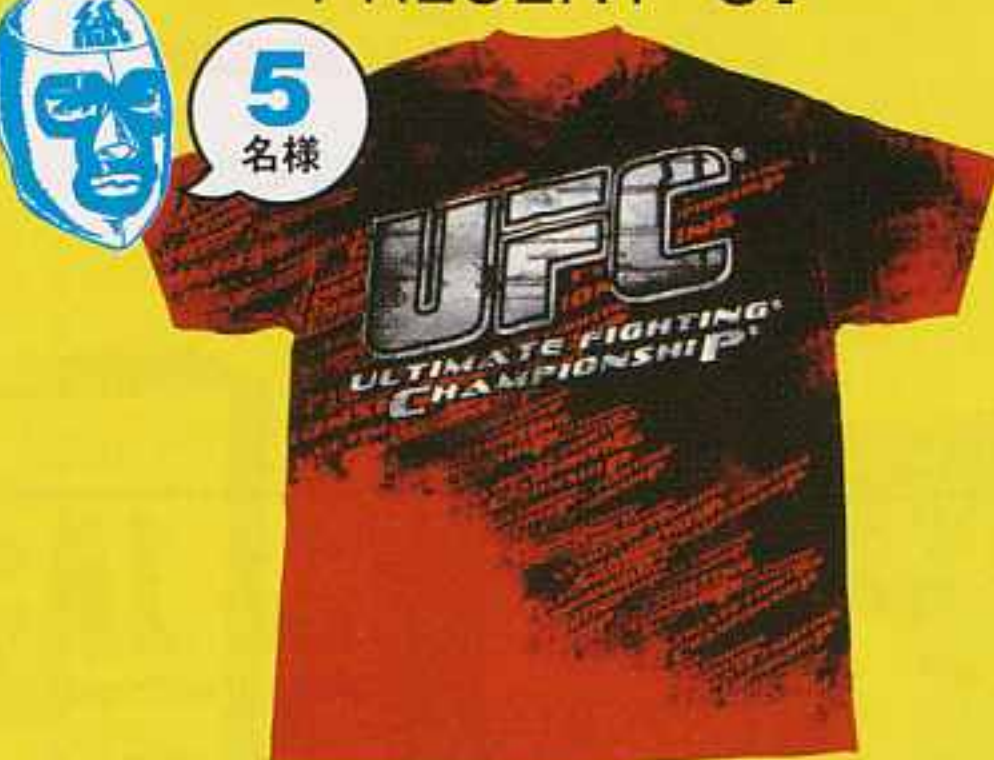
FRONT / BACK

UFC Tシャツ①

[UFC]

本誌・堀江ガンツがダナ・ホワイトのインタビューを行なったところ、太っ腹なUFCからお土産として大量のTシャツをゲット! サイズはL。

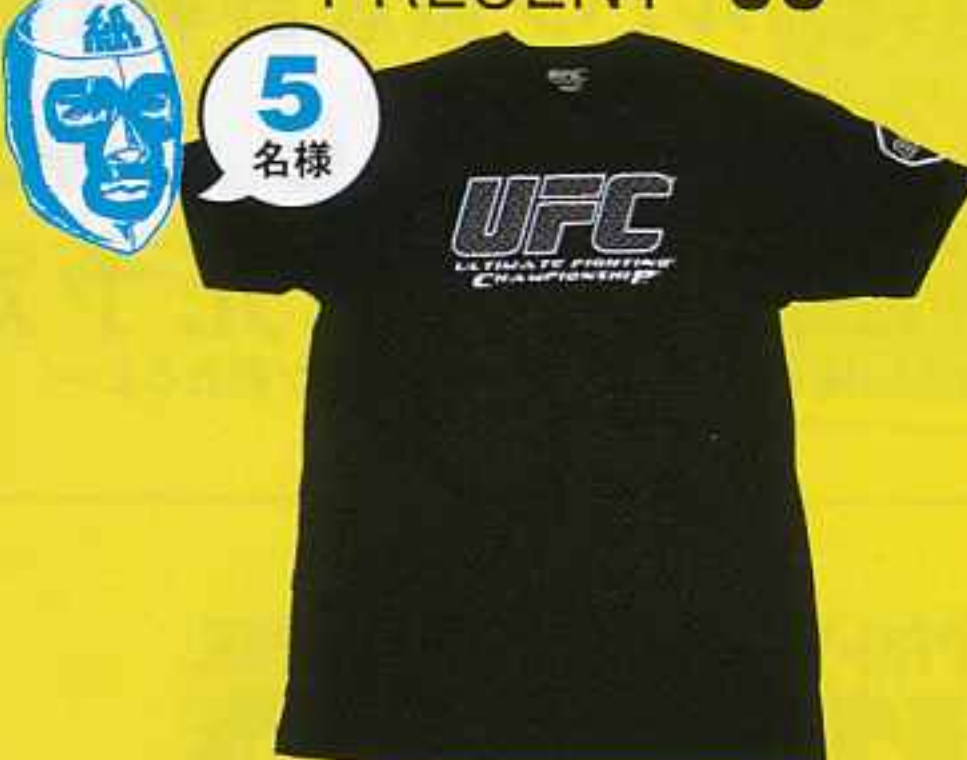
PRESENT*07

5名様

UFC Tシャツ②

[UFC]

こちらは夏らしく燃えるようなレッド! サイズはXLと日本人からするとかなり大きめだが、ダボっと着こなしてダナのように我が物顔で街を闊歩しよう!

PRESENT*08

5名様

UFC Tシャツ③

[UFC]

黒地のTシャツにUFCの正調ロゴをあしらったシブい1枚。袖にもさりげなくオクタゴンのロゴをプリント。さぁ、これを着ればキミも北米野郎だ!

UFC■http://www.ufc.com/index.cfm

PRESENT*09

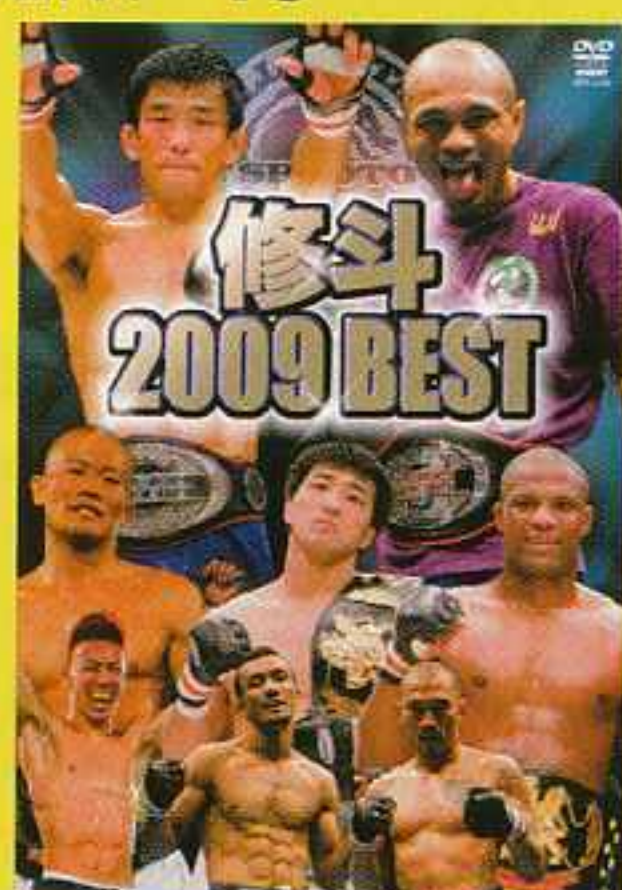
1名様

DVD 長南 亮『最先端MMAテクニック』

[クエスト／¥5,880(税込)]

アメリカMMAマットで最先端の技術を身につけた長南が、打撃やテイクダウンの攻防などテーマ別にチーム・クエスト仕込みのテクニックを大公開!

PRESENT*10

1名様

DVD『修斗 2009 BEST』

[クエスト／¥5,880(税込)]

プロ化20周年の記念イヤーの激戦総集編。タイトルマッチはもちろん、朴光哲vs坂口征夫、山下志功vs和田拓也などパンクラスとの対抗戦も収録。

PRESENT*11

1名様

DVD 内田康弘 キックボクシング パーフェクトテクニック『勝つ為の方程式』

[クエスト／¥5,040(税込)]

「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」。さまざまなリングでチャンピオンを生んでいる名伯楽、内田康弘が勝つための方程式を解き明かす!

クエスト■http://www.queststation.com/

kamipro SP 応募券 ボヨヨン

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!!

http://kamipro.com/

NEXT ISSUE

7.10『DREAM.15』青木真也vs川尻達也、
菊野vsカルバン徹底詳報!!

kamipro No.149は
7月23日（金）発売予定!

※うわ〜ん！ 地域によっては多少発売日が遅れるよ〜！

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro Special
2010 AUGUST
2010年7月27日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一
青柳昌行

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
スズキィ
八木賢太郎（恒例夏合宿準備のため非番）

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長（夏競馬絶不調!?）
松林 貴

デザインGM
出田さん（TwoThree）

デザイニングマネージャー
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
鐺田やっちゃん（以上、TwoThree）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
金山フヒト
丸山剛史

暴力営業
ニック入江（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
樽本"中川食品"義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

編集チアガール
金川"ナツコ"奈津子
安部"クリン"悠子

夏待ちマダム
廣橋久美子

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

発売元
株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3

印刷
大日本印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

kamipro Special 2010 AUGUST

60億分の1、ついに陥落! 何が起きたんだ!?
ヒョードルよウソだろ……!?

2010年7月27日

発行人/浜村弘一　編集人/斉藤慎一、青柳昌行
発行所/株式会社エンターブレイン　〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555(代表)
発売元/株式会社角川グループパブリッシング　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3

enterbrain

9784047267152

定価:本体838円+税

雑誌61972-05 Ⓗ2011.08

ISBN978-4-04-726715-2
C9476 ¥838E

1929476008381

Printed in Japan 大日本印刷株式会社